

建築物の言語描写の擬態語表現における即物と具体の様相からみる
建築の感性的思考

Sensible Cognition in Architecture through Mimetic Word Expression of
Material and Embodied Architecture in Textual Descriptions of Buildings

2019 年

篠 原 寛 之

概要

【背景と目的】 本論文は、建築物の設計者による言説を通して、建築物の言語描写の擬態語表現における即物の様相と具体の様相の分析及び考察から、建築における感性的な思考について論じたものである。

絶えず変動する外界から身を守り人の安全欲求を満たすものとしての建築は、通常強固で動かない。しかし内在する人の意識に触れるとき、壁はぴんっと緊張し、床はのびのびと緩み、そして建築の外観はぐるぐると動き出す。そのような建築の部分や全体の振る舞いは、さっと差し込む光やゆっくり流れる風の振る舞いと融解しながら、単にそれが有するものとしての性質を示すことを超え、人の感覚や感情に働きかける作用となって空間に表出し、建築に多様な体験や意味を生み出す。

ものであり、そして意味をもつ建築の認識や解釈は、建築物を設計する設計者やそれを体験する利用者の感性によって媒介される。設計者は、建築物の肌触りや見え方、実空間における印象や心理作用といった人の受ける感覚を考慮しながら建築物を設計する。また、建築の創作の過程には、設計概念や論理による思考に加え、直観やひらめき、そして設計者の洗練された建築や空間への感覚による発想や発見が含まれており、それらが錯綜しながら思考されひとつの作品が誕生する。したがって、建築の創作や設計において感性は、概念的な思考や論理とともに建築的思考の重要な一部をなしていると考えられる。

設計者の建築に対する感性は、設計者が建築作品を説明する際に用いる、感覚印象語である擬態語による表現などの中にみてとることができる。擬態語の音韻が示す感覚に則って描写される建築物や空間の表現は曖昧さがあり、客観的で確固たる建築の概念を表明しているとは言い難いが、読み手に強い印象を与え、設計者がひとつの概念として言い表せなかった建築のある様子に込めた意図や思いを映し出していると考えられる。

本論文は、感性という観点から、擬態語の語感の感覚にのせて語られる建築物や空間を題材として、多数の建築家の言説を考察することにより建築の創作や設計における建築的思考を総じて論じるものである。これまで建築家の言説のある論理や概念に着目し建築的思考を総体的に論じた創作論・設計論は多くあるが、感性という主観的で漠然とした人の側面に焦点を当てた建築の論考は、特定の建築空間の利用者の心理実験による研究などに限られている。したがって、本研究の成果は、建築の思考の枠組みを捉える新たな知見を示すものとなり有意義であると考えられる。

【研究の構成】 本論文は、「建築物の言語描写の擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考」と題し、以下の6章により構成される。

序章（第1章）、研究の理論と進め方（第2章）、建築の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相（第3章）、建築の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相（第4章）、建築物の言語描写の擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考（第5章）、結論（第6章）

【各章の概要】 以下に各章の概要を示す。

第1章では、本研究の目的と意義を示した。また、関連する既往の研究を整理した。

第2章では、研究の論理として、分析を進めるうえで基盤となる感性、擬態語表現、即物と具体の考え方を説明した。そして、分析対象とその選定基準を定め、分析方法を決定し、各章の位置づけを明確にし、研究の流れと構成を示した。

第3章では、建築のものとしての側面を主眼に、設計者が自身による建築物を解説した記述文の中から、建築空間を描写する際に用いた擬態語表現に着目し、建築の即物の様相を考察した。そこで、擬態語によって表現される建築の即物の様相が文章中で表す意味内容を特定するために、擬態語の語義として基本義、また擬態語を取り巻く周辺用語として主体・規定語を定義し、それぞれの語句の相関をコレスポンド分析を用いて模式化することで傾向を把握し、傾向の組合せを比較考察することで擬態語表現における建築の即物の様相を導出した。

第4章では、建築の意味としての側面を主眼に、設計者が自身による建築物を解説した記述文の中から、建築空間を描写する際に用いた擬態語表現に着目し、建築の具体の様相を考察した。そこで、擬態語によって表現される建築の具体の様相の文章中の意味内容を特定するために、擬態語の語義として基本義、擬態語を取り巻く周辺用語として主体・表出概念を定義し、それぞれの語句の相関をコレスポンド分析を用いて模式化することで傾向を把握し、傾向の組合せを比較考察することで擬態語表現における建築の具体の様相を導出した。

第5章では、第3章と第4章で導出した擬態語表現における建築の即物の様相と具体の様相とを合わせて総合的に考察した上、それらを横断的に比較考察することで、擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考に対する論考をした。

第6章では、各章の流れと第3章から第5章で得られた結果を整理し、総括を述べた。また、今後の課題と展望を述べた。

目次

| | | |
|-------|---------------------------------|----|
| 1 | 序論..... | 1 |
| 1-1 | 研究の背景と目的..... | 1 |
| 1-2 | 関連研究..... | 2 |
| 2 | 研究の論理と進め方..... | 7 |
| 2-1 | 研究の論理..... | 7 |
| 2-1-1 | 感性についての考え方..... | 7 |
| 2-1-2 | 擬態語表現についての考え方..... | 8 |
| 2-1-3 | 即物と具体についての考え方..... | 9 |
| 2-1-4 | 分析対象についての考え方..... | 9 |
| 2-1-5 | 分析方法についての考え方..... | 10 |
| 2-2 | 研究の構成..... | 11 |
| 3 | 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相..... | 12 |
| 3-1 | 分析の背景と目的..... | 12 |
| 3-1-1 | 分析の背景..... | 12 |
| 3-1-2 | 分析の目的..... | 13 |
| 3-1-3 | 既往の研究..... | 13 |
| 3-1-4 | 分析の手順..... | 14 |
| 3-1-5 | 分析対象の選定..... | 14 |
| 3-2 | 用語の定義と抽出・分類..... | 16 |
| 3-2-1 | 用語の定義..... | 16 |
| 3-2-2 | 基本義の分類..... | 17 |
| 3-2-3 | 主体の分類..... | 18 |
| 3-2-4 | 規定語の分類..... | 19 |
| 3-3 | 語句間の相関の整理..... | 21 |
| 3-3-1 | 基本義と主体のコレスポンド分析..... | 21 |
| 3-3-2 | 基本義と規定語のコレスポンド分析..... | 23 |
| 3-4 | 基本義・主体・規定語からみる建築の即物の様相の類型..... | 27 |
| 3-5 | 小結..... | 35 |
| 4 | 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相..... | 39 |
| 4-1 | 分析の背景と目的..... | 39 |
| 4-1-1 | 分析の背景..... | 39 |
| 4-1-2 | 分析の目的..... | 40 |
| 4-1-3 | 既往の研究..... | 40 |
| 4-1-4 | 分析の手順..... | 40 |
| 4-1-5 | 分析対象の選定..... | 41 |
| 4-2 | 用語の定義と抽出・分類..... | 42 |
| 4-2-1 | 用語の定義..... | 42 |
| 4-2-2 | 主体の分類..... | 43 |
| 4-2-3 | 基本義の分類..... | 43 |
| 4-2-4 | 表出概念の分類..... | 44 |
| 4-3 | 語句間の相関の整理..... | 46 |
| 4-3-1 | 主体と基本義のコレスポンド分析..... | 46 |
| 4-3-2 | 主体と表出概念のコレスポンド分析..... | 49 |

| | |
|--|------------|
| 4-4 主体・基本義・表出概念からみる建築の具体の様相の類型..... | 52 |
| 4-5 小結..... | 61 |
| 5 建築物の言語描写の擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考..... | 67 |
| 5-1 背景と目的..... | 67 |
| 5-1-1 背景と目的..... | 67 |
| 5-1-2 擬態語表現における建築の即物と具体の様相..... | 68 |
| 5-2 擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考..... | 70 |
| 5-2-1 集積から融解へ..... | 70 |
| 5-2-2 自立から存在連鎖へ..... | 72 |
| 5-2-3 静物から時間へ..... | 74 |
| 5-2-4 人工物から生態系へ..... | 75 |
| 5-2-5 標準空間寸法から活動へ..... | 76 |
| 5-2-6 容器から親和性へ..... | 78 |
| 5-2-7 規則性から原理へ..... | 80 |
| 5-2-8 構造から規範性へ..... | 81 |
| 5-2-9 形状から拍子へ..... | 82 |
| 5-2-10 記号から記憶へ..... | 84 |
| 5-2-11 際から美意識へ..... | 85 |
| 5-2-12 形式から能動性へ..... | 87 |
| 5-2-13 外皮から批評性へ..... | 89 |
| 5-2-14 条件から臨界性へ..... | 90 |
| 5-3 小結..... | 92 |
| 6 結論..... | 96 |
| 6-1 各章のまとめ..... | 96 |
| 6-2 総括と展望..... | 98 |
| 7 謝辞..... | 100 |
| 8 付録資料..... | 102 |

表目次

| | |
|--|----|
| 表 3-1 年別研究対象数..... | 15 |
| 表 3-2 基本義の分類..... | 17 |
| 表 3-3 主体の分類..... | 18 |
| 表 3-4 規定語の分類..... | 19 |
| 表 3-5 基本義と主体のクロス集計表..... | 22 |
| 表 3-6 基本義と規定語のクロス集計表..... | 25 |
| 表 4-1 年別研究対象数..... | 41 |
| 表 4-2 主体の分類..... | 43 |
| 表 4-3 基本義の分類..... | 44 |
| 表 4-4 表出概念の分類..... | 45 |
| 表 4-5 主体と基本義のクロス集計表..... | 47 |
| 表 4-6 主体と表出概念のクロス集計表..... | 50 |
| 表 5-1 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相と具体の様相の類型一覧..... | 67 |

図目次

| | |
|---|----|
| 図 2-1 研究の構成..... | 11 |
| 図 3-1 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相の流れ..... | 16 |
| 図 3-2 キーコンテキストと基本義・主体・規定語の抽出例..... | 16 |
| 図 3-3 基本義と主体のコレスポネンス分析散布図..... | 23 |
| 図 3-4 基本義と規定語のコレスポネンス分析散布図..... | 26 |
| 図 3-5 基本義・主体・規定語からみる擬態語表現における建築の即物の様相..... | 34 |
| 図 4-1 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相の流れ..... | 42 |
| 図 4-2 キーコンテキストと主体・基本義・表出概念の抽出例..... | 42 |
| 図 4-3 主体と基本義のコレスポネンス分析散布図..... | 48 |
| 図 4-4 主体と表出概念のコレスポネンス分析散布図..... | 51 |
| 図 4-5 主体・基本義・表出概念からみる擬態語表現における建築の具体の様相..... | 60 |
| 図 5-1 擬態語表現における建築の即物と具体の様相..... | 68 |
| 図 5-2-1-1 感性による空間要素の融合..... | 71 |
| 図 5-2-1-2 集積から融解へ..... | 72 |
| 図 5-2-2-1 感性による存在の相対化..... | 73 |
| 図 5-2-2-2 自立から存在連鎖へ..... | 73 |
| 図 5-2-3-1 感性による時間認識..... | 74 |
| 図 5-2-3-2 静物から時間へ..... | 75 |
| 図 5-2-4-1 感性による自然への近親..... | 76 |
| 図 5-2-4-2 人工物から生態系へ..... | 76 |
| 図 5-2-5-1 感性による心理的な空間の広がり..... | 77 |
| 図 5-2-5-2 標準空間寸法から活動へ..... | 78 |
| 図 5-2-6-1 感性による空間の親和..... | 79 |
| 図 5-2-6-2 容器から親和性へ..... | 79 |
| 図 5-2-7-1 感性による空間構成の概括..... | 80 |
| 図 5-2-7-2 規則性から原理へ..... | 81 |
| 図 5-2-8-1 感性による相対的な価値判断..... | 82 |
| 図 5-2-8-2 構造から規範性へ..... | 82 |
| 図 5-2-9-1 感性による視覚印象の抑揚..... | 83 |
| 図 5-2-9-2 形状から拍子へ..... | 84 |
| 図 5-2-10-1 感性による触覚的意味伝達..... | 85 |
| 図 5-2-10-2 記号から記憶へ..... | 85 |
| 図 5-2-11-1 感性による美意識..... | 86 |
| 図 5-2-11-2 際から美意識へ..... | 87 |
| 図 5-2-12-1 感性による主体的融合関係..... | 88 |
| 図 5-2-12-2 形式から能動性へ..... | 88 |
| 図 5-2-13-1 感性による生命感のメタファー..... | 89 |
| 図 5-2-13-2 外皮から批評性へ..... | 90 |
| 図 5-2-14-1 感性による限界への挑戦..... | 91 |
| 図 5-2-14-2 条件から臨界性へ..... | 91 |

1 序章

1-1 研究の背景と目的

建築には響きがある。空間に響く実の音によるものだけでなく、わくわくと心臓の鼓動を高鳴らせ、しっとりと観る目を魅了し、ほっと心を安らげるような、人間の身体のリズムや感覚と共鳴し心へ反響を及ぼすような響きだ。

絶えず変動する外界から身を守り人の安全欲求を満たすものとしての建築は、通常強固で動かない。しかし内在する人の意識に触れるとき、壁はぴんっと緊張し、床はのびのびと緩み、そして建築の外観はぐるぐると動き出す。そのような建築の部分や全体の振る舞いは、さっと差し込む光やゆっくり流れる風の振る舞いと融解しながら、単にそれが有するものとしての性質を示すことを超え、人の感覚や感情に働きかける作用となって空間に表出し、建築に多様な体験や意味を生み出す。

ものであり、そして意味をもつ建築の認識や解釈は、建築物を設計する設計者やそれを体験する利用者の感性によって媒介される。設計者は、建築物の肌触りや見え方、実空間における印象や心理作用といった人が受ける感覚を考慮しながら建築物を設計する。また、建築の創作の過程には、設計概念や論理による思考に加え、直観やひらめき、そして設計者の洗練された建築や空間への感覚による発想や発見が含まれており、それらが錯綜しながら思考されひとつの作品が誕生する。したがって、建築の創作や設計において感性は、概念的な思考や論理とともに建築的思考の重要な一部をなしていると考えられる。

そのような設計者の建築に対する感性は、設計者が建築作品を説明する際に用いる、感覚印象語である擬態語による表現などの中にみとることができる。擬態語の音韻が示す感覚に則って描写される建築物や空間の表現は曖昧さがあり、客観的で確固たる建築の概念を表明しているとは言い難いが、読み手に強い印象を与えるため、設計者がひとつの概念として言い表せなかった建築のある様子を込めた意図や思いを映し出していると考えられる。

本論文は、感性という観点から、擬態語の語感の感覚にのせて語られる建築物や空間を題材として、多数の建築家の言説を考察することにより建築の創作や設計における建築的思考を総じて論じるものである。これまで建築家の言説のある論理や概念に着目し建築的思考を総体的に論じた創作論・設計論は多くあるが、感性という主観的で漠然とした人の側面に焦点を当てた建築の論考は、特定の建築空間の利用者の心理実験による研究などに限られている。したがって、本研究の成果は、建築の思考の枠組みを捉える新たな知見を示すものとなり有意義であると考えられる。

1-2 関連研究

既往の研究とともに、関連性や相違点を示しながら本研究の位置づけをする。

建築設計の概念や論理などを言葉によって表明した設計者の言語活動に関する研究は、これまで数多く行われている。その一方で、擬態語をテーマにした建築分野での研究は数少ない。ここでは、本研究の研究対象または分析方法と関連がみられる研究論文を研究テーマ毎に大別し、その傾向を概観する。また、関連研究論文リストを節末に記す。

【建築家の言説における創作論や設計論の研究】

これまで、建築家の創作論や設計論に関する研究としては、まず、現代日本の建築家の言説を分析することで建築家の創作論や設計論について考察した、奥山信一らによる一連の研究^{1~5)}が挙げられる。これらの研究では、多くの建築家によって著述された住宅論・都市論を、住宅観・都市観という観念的水準から分析し、また創作の主題や空間モデルといった具体的な設計の水準への分析と引き合わせて総体的に考察することで、概念的に構築された建築の創作対象に対する言説と実体としての建築作品の創出を相応させ、建築の思考の枠組みを明らかにしている。現代日本の建築家の言説における創作論や設計論に関する研究は、横山天心や塩崎太伸らにより主題を拡大し継続的に研究されている。設計意図と構築の手法との関係を分析した横山天心らの一連の研究^{6~8)}では、内部と外部のインターフェイスとしてデザインが重要なオフィスビルのファサード、空間の構成から仕上げにまで関わり意匠と密接な関係をもつ住宅の構法、内外環境を調整すると同時に公共性や公開性を表象するアトリウムに着目し、設計の意図と「技術」と「意匠」に対する建築家の思考を明らかにしている。また、塩崎太伸らによる一連の研究^{9~12)}は、建築家が設計論を展開する上で用いた対概念、幾何図形、空間、スケールという概念の分析から、背景となる建築の「文脈」と論理展開の思考の形式を明らかにしている。

その他、内山一晃らの研究¹³⁾では、設計者の考え方や抽象的な概念を示す言葉と建築形態として具体化・実体化する言葉に着目し、それらの関係性を分析することで建築設計プロセスにおける言葉の役割を構造的に考察している。さらに、北川啓介らの一連の研究^{14~21)}では、設計者自身の建築物の作品解説文中に出てくるある特定の表現や言葉が関連語句との関わり合いの中で変幻する建築の意味の様相を生み出していることを分析している。能動的言語描写により建築物自身が振る舞うことで、設計者が建築物に内在させた概念的対象の様態を考察した研究¹⁴⁾、消去の表現により建築物や概念などが実際には存在しないあるいは存在が確認できないことで、付加価値が生まれる性質を明らかにした研究¹⁵⁾、また、光、透明、間、面、白、線というあるひとつの言葉とその言葉と関わりのある語句による描写内容に着目し、意味内容の分析からそれらの言葉に生成される多義の性質を考察した研究^{16~21)}を通して、設計者の多様な建築的思考過程を明らかにしている。

このように、建築家の言説における創作論や設計論の研究は多様な展開をみせている。本研究は、設計者自身による建築物の言語描写にみられる特定の表現に着目し、その意味内容を総体的

かつ相対的に分析することで建築思考の枠組みの一端を明らかにすることを目的にしていることから、これらの研究の流れの一部として位置づけられる。

【建築家の言説における修辞の研究】

これまで、建築家の言説における修辞に関する研究としては、成瀬徳行による、建築家による多彩な言説の内容を修辞表現という観点から構造的に分析した一連の研究^{22~24)}が挙げられる。これらの研究は、言語学的なアプローチから建築家の言説に出現する受動態、自動詞、補助動詞に着目し、多彩な内容をもつ言説の構造的な分析から建築家の語り口・文章表現や表現に対する建築家の認識や読み手の印象を考察している。本研究は、建築家の言語描写に出てくる比喩性のある言葉を取り上げ、修辞表現に着目して分析を行う点で既往の研究と類似するが、建築家の表現技法やレトリックの手法による記述の多様さを生成する構造を分析するのではなく、擬態語を用いて描写される建築空間の意味内容の分析から建築的思考を明らかにすることを目的としている。

【空間、建築・都市を表現する擬態語に関する研究】

これまで、空間や建築・都市を構成する要素を表現する擬態語に関する研究としては、秋田剛らによる擬態語や擬音語を用いた環境表現に関する研究²⁵⁾が挙げられる。この研究は、擬態語を用いた光、音、風などの環境要素の表現が、人々に強弱などの異なる環境条件を想起させるのに有効であることを、アンケート形式の調査により明らかにしている。また、若山麻衣らの研究^{26) 27)}では、建築や空間の雰囲気や伝達するオノマトペや、快・不快情動を想起するオノマトペを考察し、オノマトペ表現が環境を伝達する手段として有用であることを指摘している。これらはいずれも建築環境工学分野における研究である。

続いて、デワンカー・バートらによる空間を表現する擬態語に関する研究²⁸⁾が挙げられる。この研究は、空間の認識条件となる物体の大きさや形状、状態を表す意味をもつ擬態語から想起されるイメージを、SD法を用いて設計経験者と非経験者とで比較分析することで、擬態語のもつ複数のイメージを設計経験者が区別して認識することを明らかにしている。本研究は、建築分野の中で言語描写における擬態語の感覚的な伝達能力に関わる知見を得ようとする点でこれらの研究と同調する部分があるが、特定の環境要素や空間一般に関して扱うのではなく、建築空間を構成する物理的な事象全体を扱う点、また、心理実験やアンケートといった定量的な分析を行うのではなく、擬態語の描写内容を擬態語とその周辺の語句の語義に着目し、分析することによって設計者が建築物に込めた意味を考察する点において異なる立場をとるものである。

さらに、今枝良輔らによる建築物の設計説明に使用されている擬態語に着目し、建築設計の思考過程を明らかにすることを目的とした研究²⁹⁾が挙げられる。この研究では音象徴的に分類した擬態語の意味と建築設計全般に係わる描写の内容との関係を分析し、擬態語によって指示される建築物のみでなく設計過程や文脈を含め、設計の概念的特性としてその思考形式をまとめている。本研究は、建築物の言語描写において擬態語表現に着目し、その描写の内容から建築設計の思考過程を分析する点で既往の研究と同様だが、建築空間を構成する事物や現象のみを扱い、感

覚を着眼点として建築物の即物的な意味と観念的な意味の形成のされ方を分析することから建築家の感性による空間認識と建築の思考の枠組みを探る点で異なる立場をとっている。

【言語学分野における擬態語の研究】

これまで、言語学の分野における擬態語の研究としては、Hamano Shoko や田島毓堂らによる擬態語の意味の発生を考察した研究^{30) 31)}などが挙げられる。これらの研究では、擬態語の語義が語句を形成する音要素や語形と関係することを構造的に分析することで、擬態語の音と意味の間の有縁性を明らかにしている。また、竹本江梨による擬音語・擬態語の意味構造における複合感覚に関する研究³²⁾がある。この研究は、複合感覚を観点とし、擬音語・擬態語の意味構造、特にその多義性と意味拡張の性質を分析している。これら言語学における擬態語の研究の成果は、擬態語という感覚的で曖昧な言葉を要素とする本研究において、擬態語の語彙の意味を定義する上での論理的な背景となっている。

関連研究リスト

【建築家の言説における設計論や創作論の研究】

- 1) 奥山信一, 坂本一成: 戦後「新建築」誌にみられた建築家の住宅観 建築家の住宅論に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 428 号, pp. 125-135, 1991. 10
- 2) 奥山信一, 斉藤千尋, 坂本一成: 戦後「新建築」誌にみられた建築家の都市観 建築家の住宅論・都市論に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 444 号, pp. 49-59, 1993. 2
- 3) 奥山信一, 持田英明, 坂本一成: 戦後「新建築」誌にみられた建築家の創作の主題 建築家の創作論に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 454 号, pp. 77-86, 1993. 12
- 4) 奥山信一, 山田深, 坂本一成: 建築家の言説にみられる現代住宅作品の空間モデル 建築家の創作論に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 456 号, pp. 123-134, 1994. 2
- 5) 奥山信一, 坂本一成: 戦後「新建築」誌における建築家の創作論 建築家の住宅観・都市観・創作の主題・空間モデル, 日本建築学会計画系論文集, 第 477 号, pp. 101-108, 1995. 11
- 6) 横山天心, 奥山信一: オフィスビルのファサードにおける建築家の設計意図と実現手法 現代日本の建築における技術と意匠の関係に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 600 号, pp. 65-72, 2006. 2
- 7) 横山天心, 山根美紀, 奥山信一: 建築家による構法をテーマとした住宅の設計論にみられる設計意図と構築モデル 現代日本の建築における技術と意匠の関係に関する研究(2), 日本建築学会計画系論文集, 第 610 号, pp. 71-77, 2006. 12
- 8) 横山天心, 遠田博史, 奥山信一: アトリウムにおける建築家の設計意図とその領域的拡がり 現代日本の建築における技術と意匠の関係に関する研究(3), 日本建築学会計画系論文集, 第 621 号, pp. 21-28, 2007. 11
- 9) 塩崎太伸, 奥山信一: 現代日本の建築家の設計論にみられる対概念 対照性を利用した建築的思考の文脈と形式に関する研究, 第 610 号, pp. 79-86, 2006. 12
- 10) 塩崎太伸, 中島俊明, 奥山信一: 現代日本の建築家の設計論にみられる幾何図形 幾何図形による建築的思考の文脈と形式に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 615 号, pp. 53-60, 2007. 5
- 11) 塩崎太伸, 奥山信一: 現代日本の建築家の設計論にみられる空間をもちいた創作言語 空間という語を利用した建築的思考の文脈と形式に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 633 号, pp. 2333-2340, 2008. 11
- 12) 塩崎太伸, 山本洋一郎, 奥山信一: 現代日本の建築家の設計論にみられるスケール言語 スケールに着目した建築的思考の文脈と形式に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 651 号, pp. 1087-1095, 2010. 5
- 13) 山内一晃, 吉田勝行: 建築形態構成における「概念語」と「形態語」の関係性について, 日本建築学会計画系論文集, 第 559 号, pp. 137-144, 2002. 9
- 14) 北川啓介, 出屋敷嘉亮, 上間鉄平, 倉田駿, 野上将央: 能動的言語描写からみる建築物の様態, 日本建築学会計画系論文集, 第 722 号, pp. 879-888, 2016. 4
- 15) 北川啓介, 上間鉄平, 加藤正都: 建築物の言語描写における消去の表現からみる建築の反在性, 日本建築学会計画系論文集, 第 736 号, pp. 1435-1444, 2017. 6
- 16) 北川啓介, 内藤拓也, 寺田享平: 建築物の言語描写における光の多義性, 日本建築学会計画系論文集, 第 680 号, pp. 2345-2353, 2012. 10
- 17) 北川啓介, 米澤隆, 大井亮: 建築物の言語描写における透明性の多義性, 日本建築学会計画系論文集, 第 686 号, pp. 791-799, 2013. 4
- 18) 北川啓介, 米澤隆, 加藤聖仁, 山梨岳美: 建築物の言語描写における<間>の多義性, 日本建築学会計画系論文集, 第 692 号, pp. 2119-2126, 2013. 10
- 19) 北川啓介, 黒田祐五, 鳥居智之: 建築物の言語描写における面の多義性, 日本建築学会計画系論文集, 第 697 号, pp. 669-676, 2014. 3

- 20) 北川啓介, 米澤隆, 山梨岳美: 建築物の言語描写における〈白〉の多義性, 日本建築学会計画系論文集, 第 698 号, pp. 923-932, 2014. 4
- 21) 北川啓介, 黒田祐五, 水野翔太: 建築物の言語描写における〈線〉の多義性, 日本建築学会計画系論文集, 第 735 号, pp. 1297-1307, 2017. 5

【建築家の言説における修辞の研究】

- 22) 成瀬徳行: 建築家の言説における受動態の研究 SD REVIEW に見られる建築家のレトリック(その 1), 日本建築学会計画系論文集, 第 538 号, pp. 277-284, 2000. 12
- 23) 成瀬徳行: 建築家の言説における自動詞の研究 SD REVIEW に見られる建築家のレトリック(その 2), 日本建築学会計画系論文集, 第 553 号, pp. 325-332, 2002. 3
- 24) 成瀬徳行: 建築家の言説における補助動詞の研究 SD REVIEW に見られる建築家のレトリック(その 3), 日本建築学会計画系論文集, 第 577 号, pp. 217-224, 2004. 3

【空間、建築・都市を表現する擬態語に関する研究】

- 25) 秋田剛, 古賀誉章, 佐野奈緒子, 辻村壮平, 石黒恭平: 擬態語・擬音語を用いた環境表現に関する基礎的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集(環境工学 I), pp. 183-184, 2011. 7
- 26) 若山麻衣, 石橋優貴, 馬淵大宇, 小林恵吾, 渡辺仁史, オノマトペ表現が想起させる快・不快情動に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集(環境工学 I), pp. 75-76, 2012. 9
- 27) 若山麻衣, 石橋優貴, 馬淵大宇, 小林恵吾, 渡辺仁史: 建築空間の要素からみたオノマトペによる表現, 日本建築学会大会学術講演梗概集(建築計画), pp. 613-614, 2015. 9
- 28) 宇野真明, デワンカー・パート: 空間を表現する擬態語に関する研究 設計経験者と非経験者の比較, 日本建築学会九州支部研究報告集, 第 50 号, pp. 133-136, 2011. 3
- 29) 今枝良輔, 北川啓介: 建築物の言語描写におけるオノマトペからみる主体特性, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第 50 号, pp. 585-588, 2012. 2

【言語学分野における擬態語の研究】

- 30) Shoko, S. H. : The Sound-Symbolic System of Japanese, Thesis (Ph.D.) University of Florida, 1986. 5
- 31) 田島航堂, 丹羽一弥編: 日本語論究 3 現代日本語の研究, 和泉書院, 1992. 12
- 32) 竹本江梨: 日本語の擬音語・擬態語の意味構造における複合感覚 脳科学的所見およびアリストテレスの共通感覚に照らして, 名古屋外国語大学外国語学部紀要, 第 42 号, pp. 187-206, 2012. 2

2 研究の論理と進め方

2-1 研究の論理

2-1-1 感性についての考え方

本論は、建築の感性的な側面に着目し、建築的思考を論ずることを目的としている。

感性は、「時間と空間に本質的に制約されている物質の対象からの刺激を、感官を媒介として受入れる精神の認識能力で、これと対置される知的認識能力に素材を提供する。またはこのような作用の総体をいう。」と辞書により定義されている¹⁾。つまり、感性とは、「理性（完全なものを構想する能力）」や「悟性（概念を把握する能力）」²⁾と区別される、身体的な感覚、対象物の性質などの認知、心の中に起こる感情や情感、美の観賞などの人の感ずるはたらきであるといえる。

建築は、論理的で概念的な理解や解釈とともに直観や感覚的な認識とが入り混じり合いながら思考される。設計者は、設計のコンセプトなどを通して自身の設計論や建築論を展開する一方で、実空間における物の見え方、建築物が人に及ぼす心理作用、空間に現れる情緒などを想定しながら建築空間を具現化している。また、無から有を生み出す設計作業では、直観やひらめきにより明確な概念を示す言葉を必ずしも持たないまま設計のアイデアが生まれることが多々あり、感性は建築創作の源泉を成しているといえる。

概念として対象化され言葉によって言い当てられる物事は、人が実際に感覚を通して認識する物事のごく一部でしかない。色彩をとってみると、赤や青といった色の概念で示される色の間には、赤と青の中間的な色が連続的に存在しており、人はそれを具体的な色の名称によって指示することができなくても実際にはそれらの色を知覚しており、認識の範囲は人それぞれ異なるであろうが、感覚的にそれらを識別している。このように考えると、建築物の設計者は、建築設計の経験を積んだ専門家として、あるいは個人の才能をもってして、建築や空間に対する洗練された感覚を発揮しながら既製の概念では言い表し難い未分化なイメージの中に新規性を見出し、建築作品として表現しているであろうといえる。

カントによれば感性は、人の認識構造において理性や悟性の前段階に位置づけられる。依って、感性的な思考は、建築のより原初的な部分に関係してくると考えられ、建築の創造において根源的な役割を担っているといえる。以上のことから、本研究は、建築の創作過程において感性による建築や空間の認識が、論理や抽象的な思考とともに建築的思考の重要な部分を形成していると考え、設計者が言説中で用いる感覚的な言葉に着目し分析する。

2-1-2 擬態語表現についての考え方

本論文は、擬態語に着目し、その語感から得られる感覚に則って建築のある特徴を解釈したと考えられる描写を分析することで、感性による建築的思考を論じる。擬態語は、言葉の意味と表記とが恣意的な関係にある一般的な概念語と異なり、参照する物事の動きや状態を音に擬えた、人の身体感覚に寄り添った共感しやすい言葉である。また、言葉自体に多義を含み、イメージ喚起性が強く、物事の複合的な意味のニュアンスを伝達しやすいため、漫画から医者問診まで日常的に幅広く普及している日本語の一種である。

建築物の設計者が自身の作品について専門誌等で説明する際にも広く使用され、図面や写真からは伝達されにくい設計者が意図した建築や空間のニュアンスを伝えている。例えば、「しっとり潤った木肌」や「じっとり湿った空間」などのような建築物を湿度感により触覚的に捉えた描写は、「しっとり」と「じっとり」とで微妙な湿度感の違いとそれに付帯するイメージや印象を読み手に与える。「しっとり潤った木肌」という描写は、程よい保水感による木質表面の柔らかい印象を与え、素材感による優しく居心地の良いさまなどを想起させるが、「じっとり湿った空間」という描写は、過剰に含まれた水分による湿りきった室環境のべたついた印象を与え、空間の不快で居心地の悪いさまなどを想起させる。また、「外観はしっとりと村落にとけ込む」という描写は、あたかも水を弾くことなく程よく保水しているかのように建築外観が周辺の風景と馴染むように一体となっている様子を表現し、印象深く、落ち着いた風情や安らぎといった情緒なども喚起させ、さらに、「コンクリートブロックは、ざらざらしているために汚れ易い、時間の重みを確実に受け止めることができる」という描写は、「ざらざら」と描写された建築材料の滑らかさを欠いた性状などの物質的特徴を介して、時間の経過を感じさせ、伝統性をも喚起させている。

擬態語を用いた建築物の表現は、物性に即した佇まいや動きの様相があたかも事物や現象の内面的な性格が空間の様相となって現れてくるような強い印象を与え、さらに、イメージ喚起性が強い複合的な様相として美観、社会性、歴史性などのより拡張された概念までを表出させる。したがって、擬態語は、設計者の感覚的なフィルターを通して解釈された建築物の性質や現象の様相、概念的に漠然とした未分化なイメージ、さらにそれらから得られる印象や価値などをより直接的に表現し、建築家が建築空間に込めた思いや意図を映し出していると考えられる。

以上のことを前提とし、言葉自体に多義を有する擬態語による描写の意味内容は構文中の擬態語とその周辺の語句とによる一連の表現として把握されることを考慮した上で、本論における擬態語表現とは、第3章の建築物の言語描写における建築物の即物の様相においては、空間を構成する事物や物質的現象が擬態語と動作や状態を表す動詞によって描写されている表現とし、第4章の建築物の言語描写における建築物の具体的様相においては、空間を構成する事物や物理的現象が、擬態語と、擬態語によって修飾されることにより付帯した概念によって描写される表現として定義する。

2-1-3 即物と具体についての考え方

建築物は、それ自体が材料の集積したものである。ものとしての材料は、選別されその物理特性が活かされ加工・組み上げられることにより、おかれる気象や地理的条件の下で外力に耐えうるだけの強固さを発揮するようになる。また、材料の組合せや並べ方が工夫されることで機能性が生まれ人の活動を支える有用な空間になり、材料のもつ色や質感が精巧に調整され、さらに開口が設けられ外部の光を導入することで空間の演出性が高まり、建築物に人の情感に共鳴する美や親しみの感覚を与える。さらに、集積された材料がある形状を示す全体に仕立て上げられることで、建築物は社会や歴史を表象するシンボリックな建築としての意味を担う。

建築の価値は、建築物それ自体とそれを取り巻く周辺の即物的なものの形状や性状の操作を通して、要求される建築物の機能や構造の安定性を担保し、ものの集積としての構築物に社会や歴史的な意味を織りなす設計行為を通して複合的に生み出されるといえる。そして、建築物に吹き込まれる安全性や機能性、社会性や歴史性といった意味は、目に留まる建築物の形質の様子や知覚される光や風などの動き、視覚化される風景、人への心理的な作用の様子などを通して建築空間に具現化される。

本論は、擬態語を用いた言語描写により感覚を介して表現される、建築空間に関わる事物の物性に即した佇まいや動きの様子とそれらから喚起されるイメージや想起されるより抽象的な概念を含め、建築のものとしての側面と意味としての側面の双方を合わせて建築の感性的な思考を論じる。そこで、擬態語表現による建築物の言語描写において、建築空間を構成する建築物自体、建築構成部位、物質的現象などの知覚可能な実体的要素を即物、建築空間を構成するそれらの事物や現象が擬態語によって描写されることで表出する概念が建築物自体の形状や物理的性質に付帯することを具体と定義し、建築の即物と具体の様相を分析する。

2-1-4 分析対象についての考え方

本論は、感性に着目し、建築のものと意味の側面に焦点を当てながら建築的思考の枠組み形成の把握に寄与する建築のいち知見を得ようとするものである。したがって、実空間を経験する利用者の感想を分析したり、ひとりあるいは少数の設計者の建築における感じ方を論じるのではなく、複数の設計者を対象とした総体的な論考とする。また、対象とする各々の設計者が感じる内容そのものではなく、感性的な建築の捉え方をしていると考えられる、複数の設計者による言説を対象にしそれらを相対的に分析することで、その思考の在り方を明らかにする試みである。以上のことを考慮し、感性を表していると考えられる言葉として、感覚印象語である擬態語に着目し、擬態語によって描写される設計者自身の作品解説文を分析することで、インタビューや心理実験などの方法をとらなくても上記の目的に必要な考察が十分可能であると考ええる。また、擬態語という感覚的で曖昧な言葉を論考の要素とするうえで、客観性に対する懸念もあるが、以降分

析の章で詳細を説明する擬態語の言葉の特徴の理解の上、擬態語の語義を確定し整理することで一定の客観性を担保できると考える。

具体的な分析対象としては、実際の建築空間について描写されている言説として、時代に対して文献の量に偏りがなく、設計者の言説として十分な資料を得ることができる点を考慮して、現代まで継続的に建築作品及びその解説文を掲載している建築専門誌である『新建築』を研究資料とする。その上で、第3章では擬態語表現における建築の即物の様相、第4章では擬態語表現における建築の具体の様相について記述された箇所を抽出し、分析・考察する。また、対象期間は、より一般性をもった言語描写の研究になるように1950年から2010年とし、より多くの分析対象を抽出する。

2-1-5 分析方法についての考え方

本論は、記述文の意味内容から建築家の建築および空間に対する認識や解釈を分析する。文は要素（語句）の集合から成り立っており、構文中の語句自体の意味と語句間の修辞関係によりその意味内容が把握されると考えられる。また、同様の意味を示す語句であっても記述者により言葉の選択に違いが出たり、構文化のされ方により語形に変化が生していると考えられる。そこで本論では、まず、着目する擬態語表現を含む記述の中から、分析目的に応じた語句を客観的な基準と方法を設定した上で分解された要素として抽出し、意味の類似性から分類することにより分析可能なデータとして整理する。そして、分類した要素の修辞関係に基づく組合せの相関を把握することで集合構造の傾向を整理し、特定の意味形成の枠組みを導く。

本研究では、分類した要素の組み合わせの相関から記述内容の傾向を把握するに際し、コレスポンデンス分析を用いる。本研究が、必ずしもその重要性が量的な多さにより決定づけることができない記述文の意味内容を分析の対象にしていること、コレスポンデンス分析は多次元の質的データの相関構造を調べる上で有効であること、また、これまで同様の言説の研究において採用されておりある程度確立された方法であることを考慮し、この方法を採用する。

より詳細な分析方法については、該当各章において説明する。

参考文献

- 1) フランク・B・ギブニー編：ブリタニカ国際大百科事典 22 小項目事典 2, TBS ブリタニカ, 1973
- 2) イマヌエル・カント著, 熊野純彦訳：純粋理性批判, 作品社, 2012.1

2-2 研究の構成

本論文は、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相と具体の様相を分析し、設計者の感性に基づく建築の思考について考察するものであり、以下の全6章により構成される。

- 1 章 序章
- 2 章 研究の論理と進め方
- 3 章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相
- 4 章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相
- 5 章 建築物の言語描写の擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考
- 6 章 結論

研究の構成を図 2-1 に示す。

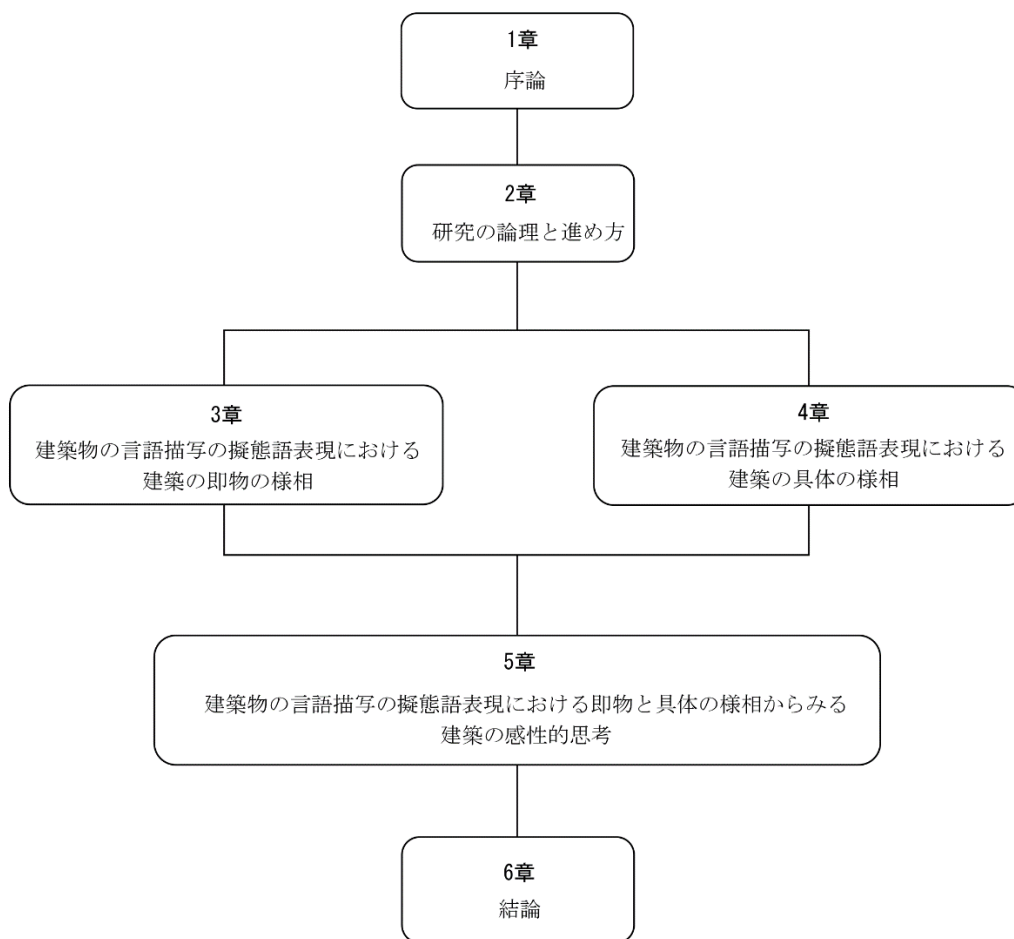


図 2-1 研究の構成

3 建築物の言語描写の擬態語表現における 建築の即物の様相

3-1 分析の背景と目的

3-1-1 分析の背景

設計者による建築物の言語描写において、「しっとり潤った木肌」や「じつとりと湿った空間」と建築物が描写される場合、いずれも湿度に関する触覚的な表現であるが、「しっとり」と「じつとり」とでは、微妙な湿度感の違いとそれに付帯するイメージや印象を読み手に与える。擬態語を用いたこれらの表現により、前者は水分が程よく行き渡った木質表面の柔らかい印象を与え、その素材感による優しく居心地が良い様などを想起させるが、後者は空気中に水分が過剰に含まれる湿りきった室環境のべたついた印象を与え、そのような環境にある空間は不快で居心地が悪い様などを想起させる。また、建築物と外部環境の関係を視覚描写した「外観はしっとり村落にとけ込む」という表現では、擬態語を用いることであたかも水を弾くことなく程よく保水しているかのように建築物の外観を捉えている。そのような外観は周辺の風景と馴染むように一体となり、より身体に訴えかけ、印象深く、また、落ち着いた風情や安らぎといった情緒なども想起させる情景となっている。このように、設計者は僅かな色合いや素材感の違い、人や自然現象の移ろいによる空間様相の変化、周辺と建築物の相対的な成立状況など、差異のある事物や複雑に絡みあった事象を擬態語により描写する。擬態語は、一般的な概念語と異なり、参照するものごとの動きや状態を音象徴的^{注 1)}に再現し、人々の身体感覚に寄り添った、より共感しやすい空間認識を促す。したがって、イメージ喚起性が強く物事の複合的意味のニュアンスを伝達しやすいため、設計者が自身の建築物を解説する際に、意図する建築物の性質、概念的に漠然とした未分化なイメージ、現象の様相から受ける印象や価値判断などを直接的に表現することができる。以上のことから、擬態語は、物性に即した佇まいや動きの様相を建築物自らがもちあわせているかのように客観的に描き出し、感覚的なフィルターを通して、あたかも事物や事象の内面的な性格が空間の様相となって現れてくるような強い印象を読み手に与えることで、設計者が建築空間に込めた主観的な意図や思いを暗示しているといえる。

3-1-2 分析の目的

本論は、感性による建築的思考を論じるうえで、感性を表現する言葉として設計者の建築作品の解説文に出てくる擬態語に着目し、設計者が擬態語の語感の感覚に則って解釈した建築のある様子について分析する。擬態語は、物性に即した佇まいや動きの様子をあたかも事物がもちあわせたかのように描写し、その強い印象づけにより設計者の意図を暗示する。本章では、まず、建築空間を構成する建築物自体や建築物の部位だけでなく、室内外環境に影響を及ぼす光や空気による物質的現象、家具などの調度品、建築物の周辺に存在し風景として空間内に取り入れられる緑などの知覚可能な要素を即物と定義する。そして、擬態語と関連語句によって描写された即物としての事物や物理的現象の建築空間内での状態や動きの様子を分析し、それらに複合的に介在された設計者の主観的な感覚や未分化なイメージを読み解く。擬態語によって表現される建築の即物の様相の分析は、建築のものとしての側面における感性に基づく建築的思考を明らかにする手掛かりとなる。そこで、本章では建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相を明らかにする。

3-1-3 既往の研究

空間や建築・都市を構成する要素を表現する擬態語に関する研究として、デワンカー・バートらによる空間を表現する擬態語に関する研究¹⁾、秋田剛らの擬態語や擬音語を用いた環境表現に関する研究²⁾が挙げられる。ひとつ目は、空間の認識条件となる物体の大きさや形状、状態を表す意味をもつ擬態語を、擬態語を取り扱った辞典から選定し、研究対象とした擬態語から想起されるイメージを、SD法を用いて設計経験者と非経験者とで比較分析することで、設計経験者が、擬態語のもつ複数のイメージを区別して認識することを明らかにしている。ふたつ目は、擬態語を用いた光、音、風などの環境要素の表現が、人々に強弱などの異なる環境条件を想起させるのに有効であることを、アンケート形式の調査により明らかにしている。本章は、建築領域の中で言語描写における擬態語の感覚的な伝達能力に関わる知見を得ようとする点でこれらふたつの研究と同調するが、空間一般や特定の環境要素に関して扱うのではなく、建築空間を構成する事象全般に関して扱う点、また、心理実験やアンケートといった定量的な分析を行うのではなく、擬態語の描写内容を擬態語とその周辺の語句の語義に着目し、分析することによって設計者が建築物に込めた意味を考察する点において異なる立場をとるものである。

本章では、設計者が自身による建築物を解説した文中で、建築空間を言語描写する際に用いた擬態語表現に着目している。そして、建築空間を構成する知覚可能な要素を示す語句、建築構成要素の動きや状態を示す語句、建築構成要素のより子細な様子を特定する擬態語の相関を分析することにより、建築空間に複合された印象を捉え、擬態語により言語描写される際の、建築の即物の様相を明らかにする。

3-1-4 分析の手順

以下に、本章における分析の手順を段階的に記す。

3-1) 本章では、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の意味の一側面を決定づけるための要素として、基本義・主体・規定語を定義する。本章における擬態語表現とは、空間を構成する事物や物質的現象が擬態語と動作や状態を表す動詞によって描写されている表現とする。

3-2) 建築専門誌『新建築』に掲載された設計者自身の作品に対する解説文の中で、建築空間を構成する事物及び現象の動きや状態が擬態語によって描写された記述箇所を研究対象として選出する。擬態語の語義は、擬態語を取り巻く語句や文脈によって特定されるため、研究対象とした記述から、本章の分析資料となる擬態語表現が用いられている文章をキーコンテキスト^{注 2)}として抽出する。

3-3) 抽出したキーコンテキストから基本義・主体・規定語に該当する語句を抽出し、意味内容を考慮し、カテゴリー分けを行う。カテゴリー分けを行うことにより、日本語表記における漢字表現、平仮名表現、送り仮名の差異を解消することで、表記の違いに関らず建築領域における擬態語表現を考察できるようにする。カテゴリー分けは、個人による独断や恣意を避けるため、著者を含む複数人により妥当な分類基準を定め、合議に基づき決定する。

3-4) 語句毎に分類し統計化することでみえにくくなった様々な語句の相互関係を総体的に把握するために、基本義と主体、基本義と規定語のそれぞれの組合せのコレスポンド分析^{注 3)}を行い、分類間の相関の傾向を整理する。

3-5) それぞれのコレスポンド分析で得られた傾向の組合せを基に、資料としたすべての記述内容を考慮しながら比較考察することにより意味のまとまりを捉え、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相を考察する。

3-1-5 分析対象の選定

本章では、擬態語表現における建築の即物の様相を考察する上で、設計者自身の思考や思想を分析できることを考慮して、研究対象を実際の建築空間の言語描写がされている設計者自身による作品解説文とした。そこで、時代に対して文献の量に偏りがなく、設計者の言説として十分な資料を得ることができる点を考慮して、現代まで継続的に建築作品及びその解説文を掲載している建築専門誌『新建築』³⁾を研究資料とする。そして、執筆者の文責が明らかである 1950 年から 2010 年までを対象期間とし、掲載された設計者自身の作品に対する解説文の中で、建築空間を構成する事物及び現象の動きや状態が擬態語によって描写された 538 の建築物における延べ 659 事例を研究対象とする。(表 3-1)

表 3-1 年別研究対象数

| 年 | 対象数 | 年 | 対象数 |
|-----------|-----|-----------|-----|
| 1950～1954 | 26 | 1980～1984 | 76 |
| 1955～1959 | 14 | 1985～1989 | 87 |
| 1960～1964 | 25 | 1990～1994 | 60 |
| 1965～1969 | 21 | 1995～1999 | 66 |
| 1970～1974 | 26 | 2000～2004 | 67 |
| 1975～1979 | 48 | 2005～2009 | 130 |
| | | 2010 | 13 |
| | | 計 | 659 |

3-2 用語の定義と抽出・分類

3-2-1 用語の定義

建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の意味の一側面を決定づけるための要素として、基本義・主体・規定語を定義する。基本義とは、擬態語のもつ基本的な意味合いのカテゴリーと音韻^{注4)}による程度の大小の組み合わせにより決定される擬態語の語義を表す。主体とは、擬態語により修飾され、意味づけされる建築物や構成部位、人などの建築空間を構成する物体だけでなく水や光、時間などの物質的現象なども含む、建築空間を構成する知覚可能な要素を表す。規定語とは、擬態語と修飾関係にあり、かつ主体と主述の関係にある主体の動作や状態を表す動詞句を表す。

キーコンテキスト内において、擬態語の基本義が事物や物質的現象としての主体と、動作や状態を表す規定語と組み合わせられることにより、あたかも事物や現象の内面的な性格が空間の様相となって現れてくるような一連の表現を分析することで建築の即物の意味の一側面を捉えることができる（図 3-1）。そこで、キーコンテキスト内において、基本義・主体・規定語に該当する語句を抽出し、分類する。（図 3-2）

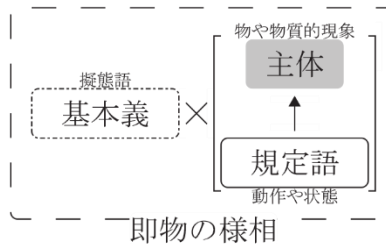


図 3-1 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相の流れ

| | | | |
|--|-----|---------|----------|
| 『新建築』1991年3月号 p.270 ウイングハウス（大阪営林局箕面自然休養林休憩舎）／新田正樹建築設計工房 | | | |
| 「その大きく点を突くような躍動感と、 それでいて、なんとなく清楚なたたずまいが、緑の風景の中にしっとりと溶け込 んでいる。」 | | 抽出語句 | 分類 |
| | 基本義 | しっとりと | 【湿潤度(小)】 |
| | 注1) | たたずまい | [建築外観] |
| | 規定語 | 溶け込んでいる | 〈溶込〉 |

図 3-2 キーコンテキストと基本義・主体・規定語の抽出例

3-2-2 基本義の分類

基本義は、主体と組み合わさることで、事象の性質や性状を特定し、擬態語表現により描写される建築空間の一側面を決定づけるものである。擬態語は、音象徴を用いて事象の動きや状態を表現する語句であり、音韻によって語義が大別されるため、音韻を考慮した上で、物体間の関係を表す状態性、物体の運動の様子を表す運動性、物体の量や大きさを表す量的属性、物体の性質を表す質的属性、物体の発する刺激の鋭さを表す鋭鈍性に注目することで基本義のカテゴリーを大別し、さらに、有声・無声といった特徴に着目することで程度の大小も考慮し、47種のカテゴリーに分類した（表 3-2）。

表 3-2 基本義の分類

| 分類 | 擬態語 | 簡数 |
|------|---|-----|
| 状態性 | 【弛緩性(小)】くねくね / のびのび / のんびり / ふにふにや / まったり / ゆったり | 86 |
| | 【巻き方(大)】ぐるぐる / ぐるっ / ぐるり | 41 |
| | 【散在性(大)】ばらばら | 37 |
| | 【固定度(小)】しっかり | 36 |
| | 【整然性(小)】きちん / すっきり | 32 |
| | 【臨界性(大)】ぎりぎり | 29 |
| | 【明瞭性(鋭)】くっきり / すっきり / そっくり / ぽっ | 28 |
| | 【付着度(小)】びたっ / びたり / びったり | 18 |
| | 【不明瞭性(大)】ぼっ / ぼやっ / ぼんやり | 14 |
| | 【沈着性(小)】しっくり / とっぷり | 13 |
| | 【過剰性(小)】たっぷり | 11 |
| | 【密集度(大)】ぎっしり / ぎっちり / ぎゅっ / びっしり | 11 |
| | 【折れ方(強)】じぐざぐ | 9 |
| | 【裂け方(弱)】ほかっ / ほかかり | 9 |
| | 【固定度(大)】がっしり / がっちり / じっ | 7 |
| | 【膨張性(小)】こんもり / ふくっ | 6 |
| | 【緊張度(小)】びしっ / びん | 4 |
| | 【臨界性(小)】すれすれ | 4 |
| | 【巻き方(小)】くるっ / くるり | 3 |
| | 【擦れ方(弱)】ひらひら / ひらり | 3 |
| | 【凹凸(大)】がたがた / でこぼこ | 2 |
| | 【散在性(小)】めちゃくちゃ | 2 |
| | 【湿度(小)】しっとり | 2 |
| | 【弛緩性(大)】ぐにより / ぶよぶよ | 2 |
| | 【粘性(強)】どろどろ / べったり | 2 |
| | 【密集度(小)】みっちり | 1 |
| | 【変化量(小)】のったり / ゆっくり | 43 |
| 運動性 | 【抵抗(小)】さくさく / すかっ / すっぽり / すぽっ / するする / すんなり | 39 |
| | 【衝撃(小)】しん / しんしん / そっ / ちょこん / ちょん / ひっそり / ぼん / ぼんぼん | 38 |
| | 【加速度(大)】ぐんぐん / だんだん / どんどん | 13 |
| | 【衝撃(大)】ぐっ / びゅんびゅん | 9 |
| | 【振幅(小)】ふらふら / ふらり / ゆらゆら | 6 |
| | 【加速度(小)】さあーっ | 2 |
| | 【浸潤性(大)】じんわり | 1 |
| | 【抵抗(大)】ずるずる | 1 |
| 量的属性 | 【量(少)】ちまちま / ちらちら / ちらっ / ちらり / ひよっこり / ほんのり | 17 |
| | 【量(多)】どっ / どっかり / どっさり / ぼこぼこ | 10 |
| | 【太さ(細)】によつきり | 1 |
| | 【質量(軽)】ふっ / ふわっ / ふわっ / ふわり / ふんわり | 18 |
| 質的属性 | 【質量(重)】ごろごろ / ごろり / どっしり | 8 |
| | 【粗さ(粗)】ざっくり / ざらざら | 3 |
| | 【軟度(小)】むっくり / やんわり | 2 |
| | 【硬度(大)】がちがち | 1 |
| 鋭鈍性 | 【硬度(小)】かちんかちん | 1 |
| | 【明度(鋭)】かんかん / きらきら / きらり / きらりきらり / ちかちか / びかびか | 27 |
| | 【明度(鮮)】さんさん / はんなり | 5 |
| | 【明度(強力)】ざらざら | 2 |
| 小計 | | 659 |

※擬態語が複数の描写主体を描写する場合は各描写主体を区別して数え、総数を簡数に記す。

【散在性(大)】・【散在性(小)】・【集密度(大)】・【集密度(小)】・【過剰性(小)】など複数事象を示す状態性や【固定度(大)】・【固定度(小)】・【整然性(小)】・【臨界性(大)】・【付着度(小)】・【沈着性(小)】・【臨界性(小)】・などの他を要する状態性を表す基本義の分類が多く抽出できることから、設計者は空間を構成するある事物をほかの事物あるいは空間全体と関係づける中で空間に偏差を見い出しているが推測できる。また、語義別にみると【弛緩性(小)】や【変化量(小)】が多く抽出できることから、設計者が空間の様相を微妙に伸びたり動いたりするものとして認識していることがうかがえる。

3-2-3 主体の分類

主体は、擬態語と組み合わせることで設計者が着目した建築空間の一側面を表すものである。抽出した語句の意味内容を判断しながら、建築空間における役割といった観点から、43種のカテゴリーに分類した(表3-3)。

表 3-3 主体の分類

| 分類 | 分類の説明 | 記述例 | 箇数 |
|----------|-----------------------|-----------|-----|
| 【建築全体】 | 建築物の全体 | 建物/美術館 | 93 |
| 【人】 | 子供や大人を含む全ての人間 | 子供/客 | 48 |
| 【室空間】 | 建築物の中の区切られた単位空間 | 温室/寝室 | 42 |
| 【壁】 | 空間を分離している垂直の構造物 | 壁/外壁/壁面 | 40 |
| 【屋根】 | 外部に面して空間の上部を覆うもの | 屋根/陸屋根 | 32 |
| 【調度品】 | 日常什器や家具などの道具 | カウンター/本 | 31 |
| 【光】 | 太陽や照明などの発光体からでる光線 | 光/太陽/照明 | 26 |
| 【ヴォリューム】 | 塊としての建築物やその大きさ | ボリューム | 25 |
| 【動線空間】 | 廊下や通路など、移動を目的とした空間 | 廊下/階段 | 23 |
| 【建築外観】 | 建築物を外側からみた様子 | ファサード/外観 | 21 |
| 【領域】 | 用途や事物がかわりをもつ範囲 | 場所/窓際 | 19 |
| 【開口部】 | 採光や通風の為に建築物の切り抜かれた部分 | 開口/窓 | 17 |
| 【外部空間】 | 機能に関わらず、建築物の外部 | 中庭/広場 | 17 |
| 【構造】 | 建築物の骨格となるもの | 構造/木造架構 | 17 |
| 【周辺環境】 | 敷地周辺の自然物及び建物群 | 周辺環境/隣家 | 16 |
| 【材料】 | 建築物を構成する素材の総称 | 材料/素材 | 15 |
| 【ディテール】 | 複数の部材が接合された部分 | 接合部/ディテール | 14 |
| 【内部空間】 | 機能に関わらず、建築物の内部 | 内部空間 | 14 |
| 【水】 | 状態に関わらず水素と酸素の化合物 | 水/しずく | 14 |
| 【風景】 | 景色などある地点における可視的な場の様子 | 風景/景観 | 12 |
| 【植物】 | 樹木や草木など場所を固定して生きるもの | ケヤキ/マツ | 10 |
| 【平面形】 | 平面計画の結果生まれた平面形状 | 平面形/プラン | 10 |
| 【金属】 | 建築材料としての金属 | コールドレン鋼 | 9 |
| 【材木】 | 建築材料として加工された木材 | 木材/焼杉 | 9 |
| 【色彩】 | 彩りや色合いなど色に関わるもの | 色彩/青 | 9 |
| 【天井】 | 室内空間の上限を構成する面 | 天井 | 9 |
| 【輪郭】 | 視覚により捉えられる物体の外形 | 輪郭/シルエット | 9 |
| 【空気】 | 空間内の無視可能な混合気体及びその流れ | 空気/風 | 8 |
| 【地形】 | 地面の形態的特徴 | 平地/坂 | 7 |
| 【床】 | 室内空間の下限を構成する面 | 床/スラブ | 6 |
| 【柱】 | 建築物を支える垂直の部材 | 柱列/柱 | 5 |
| 【石】 | 鉱物のかたまり | 大理石の小片/石 | 4 |
| 【時間】 | 時の流れの中の一定の長さ | 時間/時 | 4 |
| 【軒】 | 屋根の下端で、建築の外壁から張り出した部分 | 軒 | 4 |
| 【陰影】 | 光の当たらない暗い部分 | 影 | 3 |
| 【ガラス】 | 建築部材としてのガラス | ガラス/ガラス箱 | 3 |
| 【敷地】 | 建築物が占める一定区画の土地 | 敷地/土地 | 2 |
| 【自然】 | 山などの人間の手が加わっていないもの | 山/谷間 | 2 |
| 【寸法】 | 設計者により定められた部位の位置 | 窓高さ/天井高 | 2 |
| 【面材】 | 外的環境を遮断し内部環境を保つ材料 | 外防水/断熱材 | 2 |
| 【熱】 | 物体の粒子の運動により生まれるエネルギー | 熱/太陽熱 | 2 |
| 【梁】 | 建築物を支える水平の部材 | 梁 | 2 |
| 【塀】 | 建築物や敷地の境界に設ける囲い | 木柵/土塁 | 2 |
| 小計 | | | 659 |

建築物を構成する部位や材料、それら事物の集合として具現化される空間、光や水などの物理的現象、風景や周辺環境など、建築物それ自体に関する主体と周辺物を表す主体が抽出できることから、建築物が有する内的な要因と建築物の周辺物による外的な要因とにより建築空間の様相が認識されるといえる。また、[建築全体]が最も多く抽出できたことから、部分としてではなく建築物全体としての働きが周辺環境などの外的事象と関係づけられ建築空間が捉えられることが、擬態語表現におけるひとつの特徴と推測される。さらに、[人]が多く抽出できることから、人に経験される空間として建築空間が認識されることがみえてくる。

3-2-4 規定語の分類

規定語は、擬態語と組み合わせることで、擬態語が示す音象徴からくる語義を補完し、擬態語の意味の属性を決定づけ、建築空間内での主体の動作や状態を特定する語句である。抽出した語句の記述中での意味内容を判断しながら、59 種のカテゴリーに分類した（表 3-4）。

表 3-4 規定語の分類

| 分類 | 記述例 | 箇数 | 分類 | 記述例 | 箇数 |
|------|---------------|----|------|-----------------|-----|
| 〈包容〉 | ぐるっと包み込む… | 58 | 〈浮遊〉 | 「ふわーっ」と浮かせる… | 8 |
| 〈視認〉 | ゆっくりとした視線をもつ | 38 | 〈分解〉 | バラバラに分化させて… | 8 |
| 〈形成〉 | 温室はきちんとつくって… | 34 | 〈使用〉 | たっぷり使う… | 7 |
| 〈配置〉 | きちんと設置する… | 31 | 〈自立〉 | ばらばらに自立し… | 7 |
| 〈進入〉 | ぐるぐると奥まってい… | 29 | 〈対抗〉 | キラキラ反射し… | 7 |
| 〈流動〉 | ゆっくりと風が流れる… | 27 | 〈引張〉 | びしりと張ったり… | 6 |
| 〈存在〉 | そっと存在… | 26 | 〈接近〉 | すれすれはすれさせる… | 6 |
| 〈発信〉 | キラキラ光って… | 26 | 〈娯楽〉 | ゆっくりプレーを楽しめる… | 5 |
| 〈溶込〉 | しっくり溶け合って… | 19 | 〈縮小〉 | ぎりぎりに切りつめられた… | 5 |
| 〈変容〉 | がらりと変化した… | 19 | 〈成熟〉 | のびのびと発育していく… | 5 |
| 〈開放〉 | スッポリ開ける… | 18 | 〈切取〉 | きっちりと切り取られた… | 5 |
| 〈安定〉 | ぎりぎりの均衡を保って… | 16 | 〈滞在〉 | のんびりと過ごせる… | 5 |
| 〈拡張〉 | のびのびとひろがる… | 14 | 〈適合〉 | ピッタリあった… | 5 |
| 〈行動〉 | ぐるぐる走り回ったり… | 14 | 〈安息〉 | すっきり落ち着いてきている… | 4 |
| 〈突出〉 | ギリギリまで押し出す… | 13 | 〈受容〉 | しっかりと受け止め… | 4 |
| 〈回転〉 | 壁をぐるぐるに巻き… | 11 | 〈周回〉 | ぐるぐる回って… | 4 |
| 〈確保〉 | たっぷりとする… | 11 | 〈静寂〉 | ひっそりと静まりかえり… | 4 |
| 〈建設〉 | ひっそりとたてられる… | 11 | 〈整理〉 | きちんと整理された… | 4 |
| 〈降下〉 | ヒラリと舞い降りた… | 11 | 〈騒然〉 | しつくりと落着かぬ… | 4 |
| 〈上昇〉 | ぐるぐる登っていく… | 11 | 〈排出〉 | ゆっくりと排出される… | 4 |
| 〈湾曲〉 | ゆっくりカーブして… | 11 | 〈閉鎖〉 | しっかりと閉じられ… | 4 |
| 〈加工〉 | ザラザラに仕上げて… | 10 | 〈隠蔽〉 | すっきり隠蔽する… | 3 |
| 〈結合〉 | ぎりぎりの絡み合い… | 10 | 〈伸張〉 | ギリギリまで伸びている… | 3 |
| 〈連続〉 | くねくねと連続した空間… | 10 | 〈生活〉 | バラバラに生活し… | 3 |
| 〈充填〉 | ギッシリ詰った商店街… | 9 | 〈積層〉 | びったりと重なった… | 3 |
| 〈配列〉 | ぐるっとレイアウトした… | 9 | 〈計画〉 | すっきりとしたデザインとした… | 2 |
| 〈構成〉 | ジグザグに構成されている… | 8 | 〈後退〉 | ジグザグと…セッバックは… | 2 |
| 〈出現〉 | こんこんと湧き出る… | 8 | 〈集合〉 | チマチマと集まって… | 2 |
| 〈制御〉 | しつくりと抑えている… | 8 | 〈消失〉 | どんどん人体を失って… | 2 |
| 〈付着〉 | ピタッと吸い付く… | 8 | 小計 | | 659 |

※下線部は規定語の抽出箇所

※擬態語が複数の描写主体を描写する場合は各描写主体を区別して数え、総数を箇数に記す。

※記述例の引用元『新建築』（左上から右下に）p.129,2009.9/p.160,1980.10/p.160,2009.5/p.158,1998.1/p.76,2010.7/p.63,2007.3/p.169,1999.6/p.263,1987.12/p.240,1977.2/p.160,1980.10/p.121,2003.5/p.193,1997.9/p.172,1971.4/p.199,1979.9/p.229,1974.4/p.226,1983.4/p.185,2004.12/p.217,1971.12/p.152,1997.4/p.185,2004.6/p.82,2008.12/p.230,1977.2/p.188,1983.12/p.71,2003.8/p.40,1957.12/p.88,2007.3/p.149,1983.9/p.232,1987.8/p.157,1952.4/p.158,1983.10/p.222,1999.3/p.216,1977.6/p.10,1957.2/p.184,1979.10/p.278,1991.7/p.117,2009.3/p.167,1975.4/p.35,1961.8/p.262,1976.2/p.267,1989.3/p.181,1994.10/p.175,2002.3/p.265,1993.3/p.126,1962.10/p.109,2003.7/p.173,1987.2/p.240,1985.9/p.310,1984.8/p.16,1950.10/p.126,2007.4/p.211,1980.4/p.152,1977.4/p.192,1952.4/p.45,1961.9/p.97,1999.7/p.118,2004.10/p.201,1992.12/p.254,1980.8/p.105,2004.1

〈存在〉・〈出現〉・〈静寂〉などによる建築物や空間を構成する事物の佇まい，〈湾曲〉・〈形成〉・〈配列〉などによる部位形状や空間の構成，〈連続〉・〈進入〉などによる空間の動きや現象，〈分解〉・〈集合〉・〈結合〉などによる事物間の関係，〈視認〉・〈生活〉・〈安息〉などによる人の知覚や行動と，様々な建築空間の様相を生み出す主体の様態を特定しているといえる。また，〈包容〉が多く抽出できたことから，取り込んだり取り込まれたりする事物間の規定関係により生み出される建築空間の様相が多いことがわかる。

3-3 語句間の相関の整理

3-3-1 基本義と主体のコレスポンド分析

基本義と主体の相関の傾向を把握するため、コレスポンド分析を行う。まず、キーコンテキスト内の基本義と主体をクロス集計した結果、組合せ総数として延べ 659 の組合せが得られた（表 3-5）。これを基にコレスポンド分析を行い、基本義と主体の関係の強さを散布図上の距離に転換して模式化することで傾向を整理した（図 3-3）。そして、得られた散布図をゾーニングし、原点からの距離に比例して比重を置いて解釈した結果、潜在性による環境計画事象、空間を演出する流動体、拡張により捉えられる肌理、形状による建築の主要部位の振る舞いの 4 つの傾向に整理することができた。以下に、それらの傾向を構成する組み合わせとそれぞれの傾向の特徴について述べる。

潜在性による環境計画事象では、[植物]は【膨張性（小）】などと強い相関を示し、「コンもり繁った庭のケヤキやモミジ」^{注 5)}の描写のように、人の手が加わっていない自然物の様子を表現している。また、[人]は【巻き方（大）】などと強い相関を示し、「子供たちはぐるぐる走り回ったり」^{注 6)}の描写のように、束縛されない子供の自由な動きを表現している。以上より、これらは環境を構成する自然物や人に潜在する性質を顕在化させることで、快適で生き生きとした空間の様相を表現しているといえる。

空間を演出する流動体では、[光]は【明度（鮮）】などと強い相関を示し、「光は四方からさんさんと降り注ぎ」^{注 7)}などの描写のように、鮮明な光線の情景を捉えており、光量が多く鮮やかな光の様態を表現している。また、[熱]は【変化量（小）】などと強く相関を示し、「熱は外壁のスリットからゆっくり排出される」^{注 8)}の描写のように、不定形な流動体を捉えており、触覚への影響を考慮した熱の流量が調整されている様子を表現している。以上より、これらは空間内に存在し体感される流動体の緩急を調整することで、微細な空間の動きを印象的に表現しているといえる。

拡張により捉えられる肌理では、[ヴォリューム]は【臨界性（大）】などと強い相関を示し、「周囲の建物は隣地境界ギリギリに建っており」^{注 9)}の描写のように、計画された建築物が高密度な都市スケール的一部分に位置づけられることを表現している。また、[ディテール]は【粗さ（粗）】などと強い相関を示し、「（タイル貼りや石貼りは）手作りの温もりが伝わるように、ザックリと仕上げる」^{注 10)}の描写のように、建築物の表面に焦点を当てた際、顕在化する素材表面の粗さを表現している。以上より、これらは巨視的な視点から微視的な視点までの縮尺を越えた認知により事物の状態を捉えることで、建築物の存在感を表現しているといえる。

形状による建築の主要部位の振る舞いでは、[柱]は【太さ（細）】などと強い相関を示し、「地中からニョッキリと立ち上がった片持のコンクリート列柱」^{注 11)}の描写のように、自身のプロポーションを細く長く整え端正に直立する佇まいを表現している。また、[建築外観]は【硬度（大）】などと強い相関を示し、「セキュリティの要請でガチガチに角質化してしまった建築

の皮膚」^{注12)}の描写のように、壁の極端な硬さによる表情で建築物を内向させる身振りを表現している。以上より、これらは建築を構成する主要部位の形状や質感によって、建築に動的な様相を付加することで生命をもたない建築に表情をもたせ、性格づけをしているといえる。

表 3-5 基本義と主体のクロス集計表

[illegible]

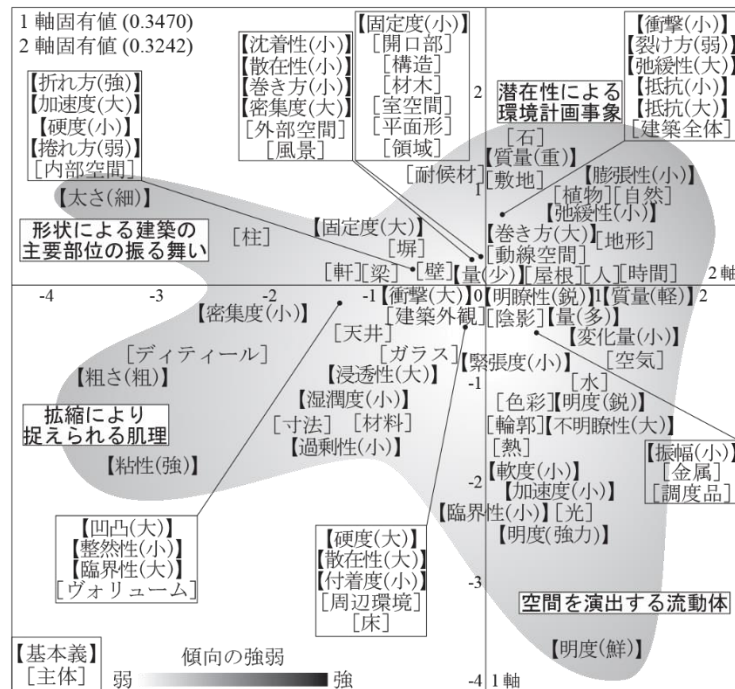


図 3-3 基本義と主体のコレスポネンス分析散布図

3-3-2 基本義と規定語のコレスポネンス分析

基本義と規定語の相関の傾向を把握するため、コレスポネンス分析を行う。まず、基本義と規定語をクロス集計した結果、組合せ総数として延べ 659 の組合せが得られた(表 3-6)。これを基にコレスポネンス分析を行い、基本義と規定語の関係の強さを散布図上の距離に転換して模式化することで、傾向を整理した(図 3-4)。そして、得られた散布図をゾーニングし、原点からの距離に比例して比重を置いて解釈した結果、主体と規定語の組合せは、微調整された動向、定常状態の逸脱、形成される取合いの差異、鋭鈍により顕在化する相関の 4 つの傾向として捉えることができた。以下に、それらの傾向を構成する組合せとそれぞれの傾向の特徴について述べる。

微調整された動向では、〈回転〉は【巻き方(大)】などと強い相関を示し、「長さ 300m の壁をぐるぐるに巻き」^{注 13)}の描写のように、大きく何重にも巻かれることで、力強い様子を表現している。また、〈回転〉は【巻き方(小)】とも強い相関を示し、「風のあるとき風車がクルクル回り」^{注 14)}の描写のように、小回りに回転する動きから軽快さが付加され主体のもつ趣きを表現している。以上より、これらは、方向性のある動きに対して微妙な程度の違いを認識することで主体の存在感を暗示し、情緒を付与しているといえる。

定常状態の逸脱では、〈突出〉は【膨張性(小)】などと強い相関を示し、「ぶくっと押し出されたかたちの階段室を、隣の住戸が日常的に親しめる風景となるように」^{注 15)}の描写のように、

自身の機能性を保ったまま主体が環境の一部となるべく適応している様子を表現している。また、〈変容〉は【弛緩性（小）】などと強い相関を示し、「温度によって形状がフニャフニャと変わる建築」^{注 16)}の描写のように、主体と主体を取り巻く環境の関係が偏り、主体が受動的に存在している様子を表現している。以上より、これらは、事象同士の関係が安定しておらず不均衡である状況を形成することにより、他律的に変容する建築の様相を表現しているといえる。

形成される取合いの差異では、〈接近〉は【臨界性（大）】などと強い相関を示し、「ぎりぎりの均衡を保って境界面が確定される」^{注 17)}の描写のように、均衡した事象が共存している様子を表現している。また、〈存在〉は【衝撃（小）】などと強い相関を示し、「（大自然の中に）ひっそりとたたずむ建築」^{注 18)}の描写のように、主体の存在感を抑え対象と一体化する様子を表現している。以上より、これらは事象間の境界で発生する取合いの微細な差異により、建築を構成する事象同士の繊細な関係性を表現しているといえる。

鋭鈍により顕在化する相関では、〈発信〉は【明度（鋭）】などと強い相関を示し、「樹木の間からガラスの屋根だけがキラキラ光って見える」^{注 19)}の描写のように、強い明るさを帯びた主体の存在が周辺から突出している様子を表現している。また、〈進入〉は【不明瞭性（大）】などと強い相関を示し、「半透明のスクリーンには、時間や天候によって、空の青や樹々の緑や岩壁の黒がぼんやりと映り込む」^{注 20)}の描写のように、主体である前景と置かれる背景間で一方が他方に取り込まれることにより曖昧に融合している様子を表現している。以上より、これらは主体が鋭鈍性を帯びた挙動を起こすことで、主体と主体を取り巻く事象の間に序列が形成され、ふたつの事象の相関を顕在化しているといえる。

表 3-6 基本義と規定語のクロス集計表

| 分類 | 〔凹〕 〔凸〕 〔大〕 | 〔加〕 〔速〕 〔度〕 〔小〕 | 〔過〕 〔剩〕 〔性〕 〔小〕 | 〔巻〕 〔き〕 〔方〕 〔大〕 | 〔緊〕 〔銀〕 〔度〕 〔小〕 | 〔捲〕 〔れ〕 〔方〕 〔弱〕 | 〔固〕 〔定〕 〔度〕 〔小〕 | 〔硬〕 〔度〕 〔大〕 | 〔硬〕 〔度〕 〔小〕 | 〔散〕 〔在〕 〔性〕 〔大〕 | 〔漏〕 〔満〕 〔度〕 〔小〕 | 〔質〕 〔量〕 〔輕〕 | 〔質〕 〔量〕 〔重〕 | 〔衝〕 〔撃〕 〔小〕 | 〔衝〕 〔撃〕 〔大〕 | 〔振〕 〔幅〕 〔小〕 | 〔浸〕 〔透〕 〔性〕 〔大〕 | 〔整〕 〔齊〕 〔性〕 〔小〕 | 〔折〕 〔れ〕 〔方〕 〔強〕 | 〔太〕 〔さ〕 〔細〕 | 〔弛〕 〔緩〕 〔性〕 〔小〕 | 〔弛〕 〔緩〕 〔性〕 〔大〕 | 〔沈〕 〔着〕 〔性〕 〔小〕 | 〔抵〕 〔抗〕 〔小〕 | 〔抵〕 〔抗〕 〔大〕 | 〔軟〕 〔度〕 〔小〕 | 〔粘〕 〔性〕 〔強〕 | 〔不〕 〔明〕 〔瞭〕 〔性〕 〔大〕 | 〔付〕 〔着〕 〔度〕 〔小〕 | 〔変〕 〔化〕 〔量〕 〔小〕 | 〔膨〕 〔張〕 〔性〕 〔小〕 | 〔密〕 〔集〕 〔度〕 〔大〕 | 〔明〕 〔度〕 〔強〕 | 〔明〕 〔度〕 〔強〕 | 〔明〕 〔瞭〕 〔性〕 〔鋭〕 | 〔量〕 〔多〕 | 〔量〕 〔少〕 | 〔臨〕 〔界〕 〔性〕 〔小〕 | 〔臨〕 〔界〕 〔性〕 〔大〕 | 〔裂〕 〔れ〕 〔方〕 〔弱〕 | 総計 | | | | | | | |
|------|-------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|--------------------------|------------|------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|----|----|----|----|---|----|---|-----|
| 〔安定〕 | | | | | | 8 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | 2 | | | | | 4 | | | | | | |
| 〔安定〕 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 16 | | | | | | |
| 〔隠蔽〕 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | | | |
| 〔加工〕 | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 3 | | | | | | | |
| 〔回轉〕 | | | | | 1 | 5 | | | | | | | | 3 | | | | | 2 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 10 | | | | | | | | |
| 〔開放〕 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | 2 | | | | | 2 | | | | | | | | | | 4 | | | | 11 | | | | | | | | |
| 〔拡張〕 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 18 | | | | | | | | | |
| 〔確保〕 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 14 | | | | | | | | | |
| 〔形成〕 | 2 | | | | | | 4 | | | 1 | 4 | 1 | 1 | | | | 1 | 10 | 3 | | 2 | | | | | | | | | | 2 | | | | 1 | | | | | 34 | | | | | | | | |
| 〔計画〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | |
| 〔結合〕 | | | | | | 5 | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 10 | | | | | | | | | |
| 〔建設〕 | | | | | | 1 | | | | | | | | 2 | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | | | | | | | | | |
| 〔娛樂〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | 5 | | | | | | | | | |
| 〔退後〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 5 | | | | | | | | | |
| 〔構成〕 | | | | | | | 2 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | |
| 〔行動〕 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 5 | | | 1 | | | | | | | | 4 | | | | | | 8 | | | | | | | | | |
| 〔降下〕 | | | | | | | 1 | | | | | 3 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | 14 | | | | | | | | | |
| 〔使用〕 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | 11 | | | | | | | | |
| 〔視認〕 | | 1 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 11 | | 1 | | | | | | | | | | 5 | 2 | | | 1 | 3 | 9 | | | 1 | 38 | | | | | | | |
| 〔自立〕 | | | | | | | 2 | 1 | | 5 | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | | | | | |
| 〔周回〕 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | |
| 〔集合〕 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | |
| 〔充填〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 4 | | | | 2 | | | | | | | | |
| 〔縮小〕 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | | | | | | | | |
| 〔出現〕 | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | |
| 〔消失〕 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | | | | | | |
| 〔上昇〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | |
| 〔伸張〕 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | | | | | | | | |
| 〔進入〕 | | | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | |
| 〔制御〕 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | | | | 3 | | | | | | 4 | | | | 1 | 8 | | | | 29 | | | | | | | | |
| 〔成熟〕 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 8 | | | | | | | | |
| 〔整理〕 | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | | | 5 | | | | | | | | |
| 〔生活〕 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 4 | | | | | | | | |
| 〔静寂〕 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | |
| 〔積層〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | |
| 〔切取〕 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | 3 | | | | | | | | |
| 〔接近〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | |
| 〔騒然〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | | | | | |
| 〔存在〕 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | |
| 〔対抗〕 | | | | | | | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | 26 | | | | | | | | |
| 〔滞在〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | | | | | |
| 〔適合〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | |
| 〔突出〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | | | | | |
| 〔排出〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | |
| 〔配置〕 | | | | | 5 | | 3 | | | | 7 | 1 | | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | 13 | | | | | | | | |
| 〔配列〕 | | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | |
| 〔発信〕 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 31 | | | | | | | | |
| 〔付着〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | | | | | | | | |
| 〔浮遊〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 26 | | | | | | | | |
| 〔分解〕 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | | | | | | |
| 〔閉鎖〕 | | | 1 | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | | | | | | |
| 〔変容〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | |
| 〔包容〕 | | | 7 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 19 | | | | | | | | |
| 〔溶込〕 | | | | | | | | | | | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 58 | | | | | | | | |
| 〔流動〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 19 | | | | | | | | |
| 〔連続〕 | | | | | 3 | | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | | | | | | | | |
| 〔湾曲〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | | | | | | | | |
| 総計 | 2 | 2 | 13 | 11 | 3 | 41 | 4 | 3 | 36 | 7 | 1 | 1 | 2 | 37 | 2 | 18 | 8 | 38 | 9 | 6 | 1 | 32 | 9 | 3 | 1 | 86 | 2 | 13 | 39 | 1 | 2 | 2 | 14 | 18 | 43 | 6 | 1 | 11 | 27 | 2 | 5 | 28 | 17 | 10 | 4 | 29 | 9 | 659 |

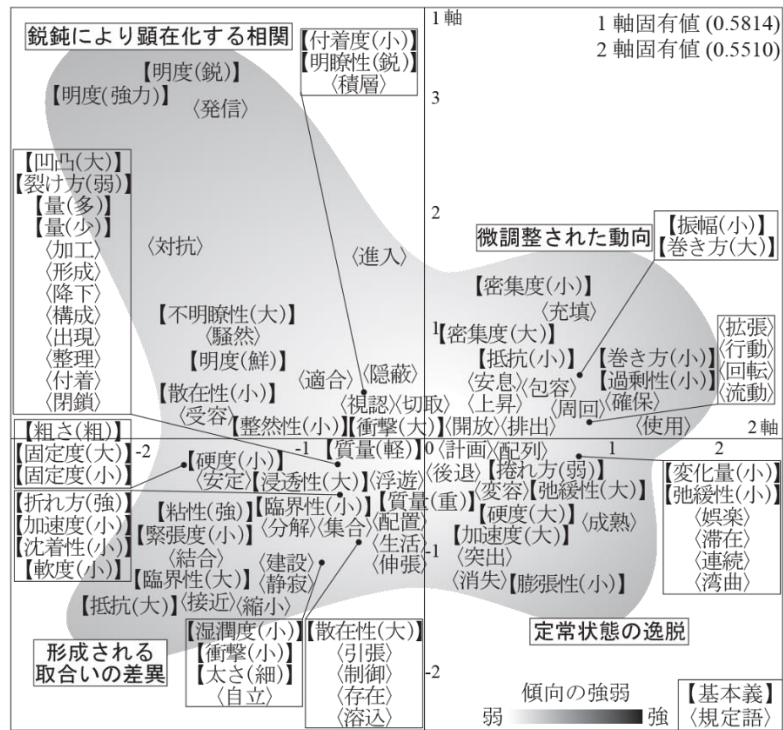


図 3-4 基本義と規定語のコレスポネンス分析散布図

3-4 基本義・主体・規定語からみる建築の即物の様相の類型

本章では、擬態語表現における建築の即物の様相を決定づける3つの要素として基本義、主体、規定語を位置づけている。これらの要素間のコレスポンド分析散布図から得られたそれぞれの傾向を重ね合わせ、語義により類型を導出し、擬態語表現における建築の即物の様相を考察する。そのため、キーコンテキストに含まれる基本義、主体、規定語の組合せを、本章3節1項の基本義と主体のコレスポンド分析により得られた傾向と本章3節2項の基本義と規定語のコレスポンド分析により得られた傾向の違いとその強弱を判断の手がかりとして全ての事例を比較考察し、原文の記述内容も考慮した上でいくつかの意味のまとまりとして位置づけた。その上で、意味のまとまりの枠組みをもっとも端的に表せるよう、本章3節1項で得られた傾向を横軸、本章3節2項で得られた傾向を縦軸として、二次元上に位置づけた図を作成した^{注21)}。その結果、擬態語表現における建築の即物の様相として少なくともA～Xの24種の類型が認められた^{注22)} (図3-5)。以下に、各類型の考察を述べる。

類型A：重力から解放される建築

この類型は、「天に向かってぐるぐる登っていく壁」^{注23)}などの描写のように、[壁]，【巻き方(大)】，〈上昇〉などの組合せにより、部位が地面から上方へ向かって強い円弧を繰り返し描きながら構成されることから、建築物の重さを感じさせず浮上感が生まれる様子を表している。また、「地上からだんだん空中に上昇していく庭園的建築である」^{注24)}などの描写のように、[建築全体]，【加度(大)】，〈上昇〉などの組合せにより、上方に向かって段階的に変化する上昇感のある建築物の様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、建築物が方向性や勢いのある運動性を示すことにより、万物が逃れられない重力から解放されている様子表現しているといえる。

類型B：求心性により序列化される空間

この類型は、「その空間は主棟の大きな壁からぐると囲む山の傾面までの拡がり…」^{注25)}などの描写のように、[地形]，【巻き方(大)】，〈包容〉などの組合せにより、建築物のある部分に着目し、包んだり包み込まれたりする建築物のほかの部分や周辺の事物までの広がりにより規定される、内外を含む空間の様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、包みこんでいる範囲の大きさにより、包囲包含関係を明確化し、空間を構成する要素の間に序列を見出しているといえる。

類型C：微細な移ろいによる現象の実感

この類型は、「この空間に溜まる熱は端の機械室を介し外壁のスリットからゆっくりと排出される」^{注8)}などの描写のように、[熱]，【変化量(小)】，〈排出〉などの組合せにより、温度

差を利用し室内から室外に自然に放出されるドラフトを感じさせない空気の流れの様子を表している。また、「毎正時には、プリズムのように光が青から赤にゆっくりと変化して時間を知らせる」^{注 26)}などの描写のように、[光]，【変化量(小)】，〈変容〉などの組合せにより、光などが僅かながら変化してゆく現象を認知する様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、微細な挙動や変質により、身の回りに存在する事象が変化していることを実感させているといえる。

類型 D：円滑な包囲による安心感

この類型は、「あたたかい、患者をすっぽりつつむような高くない天井…」^{注 27)}などの描写のように、[天井]，【抵抗(小)】，〈包容〉などの組合せにより、空間を経験する人の周りを規定する境界面までの程よい距離感による空間の包み具合を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、抵抗が少なく全体が包まれることにより、建築部位や素材が空間を包んでいる様子に違和感がなく、人に安心感を感じさせているといえる。

類型 E：緊密な個の集合による存在感

この類型は、「この段状の下にはコンピュータの機器がぎっしりと詰っている」^{注 28)}などの描写のように、[調度品]，【密集度(大)】，〈充填〉などの組合せにより、空間の機能を支える設備などが一つ一つではあまり気にならない存在であるが、高密度に集合することにより空間において意識されるようになることを表している。また、「…吉野の 6 寸核のムクのスギ材をびっしりと並べ、端正ながら温もりのある迎え庇とした」^{注 29)}などの描写のように、[材木]，【密集度(大)】，〈配列〉などの組合せにより、個々の材料を集積させることで集合体として存在感を示し、建築物へのアプローチ空間の目印をつくっている様子を表している。さらに、「スケールの小さな空間が、チマチマと集まってできている家のほうが、住みやすそうな気もしてくる」^{注 30)}などの描写のように、[空間]，【量(少)】，〈集合〉などの組合せにより、それぞれの室空間の規模が小さく不便そうであるが、それらが緊密に纏まって集合することで利便性のある建築物になる様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、集合体を構成する要素の間隔が詰まっている様子や小さくまとまっている様子により、身体単位から空間単位までの集合体が密に集まり、かつ個々の状態を確実に認識することで、多様な要素の集合体である建築の存在を強く感じさせているといえる。

類型 F：角の創出により律動する壁面

この類型は、「歩行者の尺度に対応して日本の風のような、ジグザグ状の連続した壁面が設けられる」^{注 31)}などの描写のように、[壁]，【折れ方(強)】，〈連続〉などの組合せにより、連続した長い壁面上に繰り返し角がつけられることで人の動きに呼応した壁面になる様子を表している。また、「室内の側壁は…ジグザグ型とし、…意匠的な構想を練ってみた」^{注 32)}などの描写

のように，[壁]，【折れ方(強)】，〈形成〉などの組合せにより，壁面を強い折り曲げにより角が立った状態にすることで空間を印象的にする様子を表している。

つまり，この類型における建築の即物の様相は，鋭く折れた角が連続していることにより，壁が細かく分節され，空間に動きを演出しているといえる。

類型 G：排他的な建築物の表情

この類型は，「…メンテナンスとセキュリティの要請でガチガチに角質化してしまった建築の皮膚…」^{注 12)}などの描写のように，[建築外観]，【硬度(大)】，〈変容〉などの組合せにより，生物の皮膚の隠喩を用いながら，建築外観から親しみやすさが消失してしまった表情の硬さを印象づけている。また，「…カチンカチンに打上がった壁面は被膜をおけることがしばしばめらわれる…」^{注 33)}などの描写のように，[壁]，【硬度(小)】，〈加工〉などの組合せにより，壁の仕上げ面の特異な硬さの状態に，仕上げ処理の対応を躊躇する様子を表している。

つまり，この類型における建築の即物の様相は，硬さをもつ状態が形成されることにより，建築物の表層が硬さを帯びており，他者を寄せつけない印象を与えているといえる。

類型 H：落ち着きをもたらす安定性

この類型は，「居間堂は家でゆっくり楽しめるようハイバックチェア，ディベットなどを置いています」^{注 34)}などの描写のように，[人]，【変化量(小)】，〈娯楽〉などの組合せにより，長い時間腰掛けたり寝そべったりでき，人の動作を遅延させる家具などの設置から引き出される余剰のある人の行動の様子を表している。

つまり，この類型における建築の即物の様相は，動きの変化が少なく安定していることにより，静穏な人の活動に余裕が生まれ，落ち着きのある空間をもたらしているといえる。

類型 I：適度な余剰による空間の豊かさ

この類型は，「…漆喰はまた，外装のジョイントにもたっぷりと用いられる．風の威力を考慮した，伝統的な構法…」^{注 35)}などの描写のように，[ディテール]，【過剰性(小)】，〈使用〉などの組合せにより，材料などが最低限ではなく十二分に用いられることで，その性能や性質が増幅される様子を表している。

つまり，この類型における建築の即物の様相は，必要量より少し多い量を考慮していることで，量や規模に若干の余裕をもたせ，機能性の向上した空間を形成しているといえる。

類型 J：内力を想起させる外観

この類型は，「コンモリと盛り上がった屋根の 3 つの保育室は直径 3m のドームに，中央の遊戯室の盛り上がりは 4m のドームに…」^{注 36)}などの描写のように，[屋根]，【膨張性(小)】，〈突出〉などの組合せにより，内部空間の役割に応じて隆起の仕方の特徴がある形状をした屋根の様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、膨らんで盛り上がった形状が内部の人の活動を示しており、外観が内在する活動や現象を暗示しているといえる。

類型 K：親和をもたらす弛緩性

この類型は、「…温度によって形状がフニャフニャと変わる建築はできないだろうか。ボキッと変わるのではなく、フニャフニャと変わるのが『負ける建築』らしくて好ましく感じられた」^{注 16)}などの描写のように、[建築全体]，【弛緩性(小)】，〈変容〉などの組合せにより、温度という外的要因に対して、建築物がその変化に追従して変容する様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、建築物自身もしくは建築構成要素を弛緩させ軟化させることで、他者を受け容れやすい状態が形成されているといえる。

類型 L：微気候により促される居住性

この類型は、「…水面を流れる風が室の中をゆっくりと通り抜けていく」^{注 37)}などの描写のように、[空気]，【変化量(小)】，〈流動〉などの組合せにより、水面上を通ることで冷気を含んだ外気が室内に低速度で進入しそして出て行く、自然な空気の循環の様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、微細かつ軽く流れている様子を示し、室内気候が微細に移ろい、快適な環境を形成しているといえる。

類型 M：端正な形態による建築美

この類型は、「…すっきりとしたディテールに整理することによって…」^{注 38)}などの描写のように、[ディテール]，【整然性(小)】，〈整理〉などの組合せにより、細部におけるもの同士の取り合いの中で余計な部材やむやみな形状が排除されてすべての部分が整合し、ひとつの洗練された全体になる様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、整った状態が形成される様子を示し、単純化された細部により、美しい構築物としての建築が構成されているといえる。

類型 N：均衡した境面の顕在化

この類型は、「…フィールドに近く、限界までぎりぎりの勾配で座席がせまっております…」^{注 39)}などの描写のように、[調度品]，【臨界性(大)】，〈接近〉などの組合せにより、視覚的条件などによりある範囲内に収められなければならない家具などの配列が、物理的に超えてはならない限界線いっぱい成立しているために際立っている様子を表している。また、「建物の東側の線…、北側の線はこの種の案として…ぎりぎりのところまで追い込んである」^{注 40)}などの描写のように、[輪郭]，【臨界性(大)】，〈接近〉などの組合せにより、建物の輪郭線が境界条件の限界に挑戦した結果として導き出れたことを表している。さらに、「…ギリギリいっぱい…の建築面積で建てることになった」^{注 41)}などの描写のように、[ヴォリューム]，【臨界性(大)】，〈建設〉などの組合せにより、建築物の設計規則の上限の現れとして建築物の外形が決定されていることを表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、限界まで近づいている様子を示し、境界に構成要素が限りなく近づくことで、境界が視覚的に輪郭づけられているといえる。

類型O：印象を付加する粗雑な建築表面

この類型は、「建物外壁は陶器質の吹付け材で汚れにくいザラザラに仕上げて…」^{注 42)}などの描写のように、[壁]，【粗さ(粗)】，〈加工〉などの組合せにより、素材のもつ粗さのある質感をそのまま建築外観の表現としていることを表してる。また、「タイル貼りや石貼りについては、…手作りの温もりが伝わるように、ザックリと仕上げる」^{注 10)}などの描写のように、[ディテール]，【粗さ(粗)】，〈加工〉などの組合せにより、ばらつきのある素材を端正に加工し均一に調整することなく、そのまま見せることで、反って建築物に印象深さを与える様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、表面が粗く仕上げられている様子を示し、細部を美しく整えるのではなく、粗い状態に仕上げることで触覚的に印象づけているといえる。

類型P：融和による印象の調整

この類型は、「空間の物理的変化はないのだが、住み手と建物とがしっくり溶け合って、最初の時とは別の迫力をかもしだしている…」^{注 43)}などの描写のように、[建築全体]，【沈着性(小)】，〈溶込〉などの組合せにより、建築物がもっているものとしての独自の印象が、人に住み込まれることなどにより、独特の定着感のある雰囲気代わる様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、一体化して落ち着いている様子を示し、建築物が周囲とほどよく融合し、落ち着いた情景を形成しているといえる。

類型Q：万全な建物機能の発揮

この類型は、「同じ坪数の建物の3倍の木材量を使ってがっしりと軸を組み…」^{注 44)}などの描写のように、[材木]，【固定度(大)】，〈構成〉などの組合せにより、必要以上の物質質量を用いることで強度を確保し、建築物の構造的な安定性を確実なものにしている様子を表している。また、「…雨仕舞、断熱処置をきっちりとしておく必要がある」^{注 45)}などの描写のように、[ディテール]，【整然性(小)】，〈形成〉などの組合せにより、部材の層や間を抜かりなく形成することで、建築物に防水性能や断熱性能を施す様子を描写している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、確固たる秩序立てのある状態を形成している様子を示し、細部に不備がないようにすることで、建築の機能を最大限発揮しているといえる。

類型R：部位の独立による建築体系の顕在化

この類型は、「その柱梁と壁と開口はそれぞればらばらに自立しながらお互いに干渉させるように構成してある」^{注 46)}などの描写のように、[柱]，【散在性(大)】，〈自立〉などの組合せにより、建築物の各構成部位を、共通要素を導き出してまとめたり軸線などの構成手法により統

合したりすることなく、それぞれの部位の自立性を保ったまま関係づけた群として形成する様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、個々が分散し、独立している様子を示し、建築構成部位が独立して並置されることにより、建築を構成する部位の体系を顕在化しているといえる。

類型 S：地域との安定した結束

この類型は、「コンクリートの表面の色も定着し、周辺の風物になじみ…国際見本市の事務館としてしっかりと根を下ろしてくれる」^{注 47)}などの描写のように、[建築全体]，【固定度(小)】，〈安定〉などの組合せにより、建築物の色調や素材感の周辺建築物との同調性の高さから、建築が地域と固く結びついている様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、十分に結びつき安定している様子を示し、建築物が地域社会に根づいているといえる。

類型 T：環境と一体化する建築物

この類型は、「自然と対立するのではなく…、ひっそりとたたずむ建物でありたい」^{注 18)}などの描写のように、[建築全体]，【衝撃(小)】，〈存在〉などの組合せにより、建築物が周辺の自然環境などにおいて突出し対峙するのではなく、そこに埋もれたかのようにその存在感を消している様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、周囲への影響を最小限に抑え、同化している様子を示し、建築物が自らの存在を希薄化し、主張しないように周囲と一体化しているといえる。

類型 U：躍動する自然のある空間

この類型は、「ボコボコと絶え間なく湧き上がる水は、夜暗くなると水中照明で白く光って…」^{注 48)}などの描写のように、[水]，【量(多)】，〈出現〉などの組合せにより、湧き上がる水の量感による存在感のある様子を表している。また、「ゴッホの絵のような真紅の太陽がギラギラ輝く外気温 36℃の熊本の気候も…」^{注 49)}などの描写のように、[光]，【明度(強力)】，〈発信〉などの組合せにより、その強い光の輝きが顕著である太陽の様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、力強く存在を示している様子を示し、強い存在感を示す自然物により空間が規定されているといえる。

類型 V：現象により生じる建築物の存在感

この類型は、「この作品は光を受ける曇り空の雲のようにきらきらと輝いて揺らいでいる」^{注 50)}などの描写のように、[建築全体]，【明度(鋭)】，〈発信〉などの組合せにより、建築物表面に照射された太陽光の反射により、建築物自らが鋭く輝きを放っているかのような状態になり、置かれた環境の中で建築物の存在が際立つ様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、鋭く光り輝いている様子を示し、建築物が自然現象を活用して自らの存在を主張しているといえる。

類型 W：異物感のある接触状態

この類型は、「太陽熱集熱板も屋根いっぱいについたり張り付くのではなく、ユニット化され、東・西・北面はハイサイドライトになっており…」^{注 51)}などの描写のように、[ディテール]，【粘性(強)】，〈付着〉などの組合せにより、建築物本体とは関係ないものとして建築物の上部に置かれた設備が、群を成し隣接し、所狭しと屋根一面を占拠している様子を、好ましくない印象を表す付着の状態として否定している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、過度な付着を回避している様子を示し、細部と全体が一体化する状態に対して、付着具合により、複合体を構成する事物間の違和感を調整しているといえる。

類型 X：不鮮明さによる光景の抽象化

この類型は、「…空の青や樹々の緑や岩壁の黒がぼんやりと映り込む」^{注 20)}などの描写のように、[色彩]，【不明瞭性(大)】，〈進入〉などの組合せにより、建築物の外観に映り込む周りの風景を構成する事物の色や形が、壁面の半透明材料の性質や天候による光の状態により、不明瞭なひとつの情景を形成している様子を表している。

つまり、この類型における建築の即物の様相は、他者を介することで明確に認識できなくなる様子を示し、視覚情報が明瞭に認識されないために抽象化され、色彩のみにより光景が形成されているといえる。

| | 形状による 建築の主要部位の振る舞い | 潜在性による環境計画事象 | 空間を演出する流動体 | 拡張により 捉えられる肌理 | |
|--------------|---|--|---|--|---|
| 微調整された動向 | A: 重力から解放される建築 (7) [壁] 【巻き方(大)】 〈上昇〉 「天に向かってぐるぐる登って いく壁を実体験することで…」 注23) | [建築全体] 〈上昇〉 【加速度(大)】 「地上からだんだん 空中に上昇していく 庭園的建築であるこ とに気付く。」 注24) | B: 求心性により 序列化される空間 (12) [地形] 〈包容〉 【巻き方(大)】 「その空間は主棟の大きな 壁からぐるりと囲む山の傾 斜面までの拡がり…」 注25) E: 緊密な個の集合 による存在感 (9) [調度品] 〈充填〉 【密集度(大)】 「この段状の床下にはコン ピュータの機器がぎっ しりと詰っている。」 注26) | C: 微細な移ろいによる 現象の実感 (7) [熱] 〈排出〉 【変化量(小)】 「この空間に溜まる熱は 両端の機械室を介し外壁 のスリットからゆっくり と排出される。」 注28) | D: 円滑な包圍 による安心感 (2) [天井] 〈包容〉 【抵抗(小)】 「あたたかい、患者 をすっぽりつつむよ うな高くない天井と …」 注27) |
| 定常状態の逸脱 | F: 角の削出により 律動する壁面 (4) [壁] 〈連続〉 【折れ方(強)】 「歩行者の尺度に対 応して日本の屏風の ような、ジグザグ状 の連続した壁面が設 けられる。」 注31) | G: 排他的な 建築物の表情 (2) [建築外観] 〈変容〉 【硬度(大)】 「…メンテナンスと セキュリティの要請 でガチガチに角質化 してしまった建築の 皮膚を…」 注32) | H: 落着きをもたらす安定性 (4) [人] 【変化量(小)】 〈娯楽〉 「居間食堂は家族でゆっくり楽しめる よう…置いています。」 注34) J: 内力を想起 させる外観 (5) [屋根] 〈突出〉 【膨張性(小)】 「コンモリと盛り上 がった屋根の3つの 保育室は…」 注36) K: 親和をもたらす 弛緩性 (15) [建築全体] 〈変容〉 【弛緩性(小)】 「…ならば温度によ って形状がフニャフニャと 変わる建築はできないだ ろうか、…好ましく感じ られた。」 注38) L: 微気候により 促される居住性 (4) [空気] 〈流動〉 【変化量(小)】 「…水面を流れる風が室 の中をゆっくりと通り抜 けていく。」 注37) | I: 適度な余剰による 空間の豊かさ (4) [光] 〈変容〉 【変化量(小)】 「毎正時には、プリズム のように光が青から赤に ゆっくりと変化して時間 を知らせる。」 注29) | [ディテール] 〈使用〉 【過剰性(小)】 「…漆喰はまた、外装 のジョイントにもたっ ぷりと用いられる。風 の威圧を考慮した、伝 統的な構法…」 注35) |
| 形成される取合いの差異 | [壁] 〈形成〉 【折れ方(強)】 「室内の側壁…はジ グザグ型とし…」 注33) | [壁] 〈加工〉 【硬度(小)】 「…カチンカチン に打上がった壁面 は皮膜をおけるこ とがしばしばめら われる…」 注33) | [空間] 【量(少)】 〈集合〉 「スケールの小さな空間が、チマチマ と集まってできている家のほうが、住 みやすそうな気もしてくる。」 注30) | [輪郭] 〈接近〉 【臨界性(大)】 「建物の東側の線…、北 側の線はこの種の案として…ぎりぎり のところまで追いつき合っている。」 注40) | M: 端正な形態による 建築美 (3) [ディテール] 〈整理〉 【整然性(小)】 「…すっきりとしたデ ィテールに整理する ことによって…」 注38) |
| | O: 印象を付加する粗雑な建築表面 (4) [壁] 【粗さ(粗)】 〈加工〉 「建物外壁は陶器質の吹付け材で 汚れにくいザラザラに仕上げて…」 注42) | N: 均衡した境面の顕在化 (14) [調度品] 【臨界性(大)】 〈接近〉 「…フィールドに近く、限界までぎり ぎりの勾配で座席がせまってお…」 注39) | U: 躍動する自然 のある空間 (18) [水] 【量(多)】 〈出現〉 「ボコボコと絶え間なく 湧き上がる水は、夜暗く なると水中照明で白く光 って…」 注48) | [ヴォリューム] 〈建設〉 【臨界性(大)】 「…ギリギリいっぱい …の建築面積で建てる ことになった。」 注41) | |
| | P: 融和による印象の調整 (5) [建築全体] 【沈着性(小)】 〈溶込〉 「空間の物理的変化はないのだが、 住み手と建物とがしっくり溶け合っ て、最初の時とは別の迫力をもし だしている建物と出合う時がある。」 注43) | Q: 万全な建物機能の発揮 (8) [材木] 【固定度(大)】 〈構成〉 「…3倍の木材量を使っでがっしりと 軸を組み…」 注44) | S: 地域との安定した 結束 (10) [建築全体] 〈安定〉 【固定度(小)】 「…国際見本市の事務 館としてしっかりと根 を下ろしてくる。」 注47) | [ディテール] 〈加工〉 【粗さ(粗)】 「タイル貼りや石貼り については、…手作 りの温もりが伝わるよ うに、ザクザクと仕上 げる。」 注40) | |
| | R: 部位の独立による 建築体系の顕在化 (4) [柱] 【散在性(大)】 〈自立〉 「その柱梁と壁と開口はそれぞれば らばらに自立しながらお互いに干渉 させるように構成してある」 注46) | T: 環境と一体化する 建築物 (20) [建築全体] 〈存在〉 【衝撃(小)】 「自然と対立するの ではなく…、ひっそり とたたずむ建物であり たい」 注48) | [水] 【量(多)】 〈出現〉 「ボコボコと絶え間なく 湧き上がる水は、夜暗く なると水中照明で白く光 って…」 注48) | [ディテール] 〈形成〉 【整然性(小)】 「…雨仕舞、断熱処 置をきっちりとしてお く必要がある」 注45) | |
| 鋭鈍により顕在化する相関 | V: 現象により生じる建築物の存在感 (5) [建築全体] 【明度(鋭)】 〈発信〉 「この作品は光を受ける曇り空の雲の ようにきらきらと輝いて揺らいでいる」 注50) | | [光] 【明度(強力)】 〈発信〉 「ゴッホの絵のような真 紅の太陽がキラキラ輝く 外気温36℃の熊本の気 候も…」 注49) X: 不鮮明さによる 光景の抽象化 (5) [色彩] 〈進入〉 【不明瞭性(大)】 「…、空の青や樹々の 緑や岩壁の黒がぼんや りと映り込む」 注50) | W: 異物感のある 接触状態 (3) [ディテール] 〈付着〉 【粘性(強)】 「太陽熱集熱板も屋根 いっぱいべったり張り 付くのではなく、ユニ ット化され、東・西・ 北面はハイスайдライ トになっており…」 注51) | |

※図中、横軸は基本義と主体からみた傾向の軸、縦軸は基本義と規定語からみた傾向の軸、□は主体、■は基本義、◇は規定語、「」は記述例、()は事例数を示す。

図 3-5 基本義・主体・規定語からみる擬態語表現における建築の即物の様相

3-5 小結

本章では、設計者が自身の建築物を言語描写する際に擬態語を用いて表現した建築の即物の様相について、基本義、主体、規定語の組み合わせから考察を行った。まず、基本義と主体のカテゴリーを全体の用法として関連性を考察した結果、潜在性による環境計画事象、空間を演出する流動体、拡張により捉えられる肌理、形状による建築の主要部位の振る舞いの4つの傾向に整理することができた。また、基本義と規定語においても同様に、微調整された動向、定常状態の逸脱、形成される取合いの差異、鋭鈍により顕在化する相関の4つの傾向に整理することができた。これらを踏まえて、基本義、主体、規定語の特徴を重ね合わせることによって考察した結果、少なくとも24種の擬態語表現における建築の即物の様相が認められた。これら24種の類型は、基本義、主体、規定語により意味づけられているが、さらにその性質や役割により特徴づけることができる。A, C, H, L, U は、動かないことを前提としている建築物に対して、運動性を示す擬態語を用いることで時間の経過や場の移動、あるいは、光や空気などの環境構成要素の実存上の動きによる空間の変容の様子を捉えている。これらは、存在と消滅の間を移ろう建築の現象的な諸相を表現している。また、E, I, Q, R, W は、密集する事物の存在感、材料を余分に用いることによる空間の付加価値、緊結された部材の機能性、付着した事物の異物感などを捉えている。これらは、建築物を構成する事物の物量や密集度、結合度など全体を構成する要素を局所的に強調することで複合的な性質を帯びた空間の様相を表現している。D, F, G, J, K, M, O は、身体感覚を喚起する子細な建築の表層、人の動作や生活を示すことで空間の利用形態を想起させ強調された建築空間とその場所性、余裕のある空間が誘発する安堵の感情、装飾性の有無やプロポーションによる美観、建築外観が与える視覚印象による嫌悪感などの建築物による人への作用を暗示している。これらは人の知覚、体験、心理作用を促すものとしての建築を構成する物体やその性状、及び空間の様相を表現している。B, N, P, S, T, V, X は、建築物の振る舞いによる外部景観への指向性、位置や方向の指定による内包・外包関係、鋭鈍による前・背景化、形質の具合による合一化などの関係を示している。これらは、拮抗、並置、一体、融合により、建築物と周辺環境の物理的な間柄を繊細に取りもっている。

以上より、設計者は擬態語を用いて建築物を描写する際、自身の感性にもとづき、建築空間を構成する事物や現象に対して、その局部や側面を顕在化させることで、建築空間を構成する要素同士の関係を相対化し、建築空間を複合的かつ概括的に捉えている。また、建築空間内における人の物理的または心理的な挙動を暗示し、建築空間に対して直接的かつ経験的な視座を導入することで、人の知覚を介した建築物と人の関係を形成している。さらに、建築物の様相を弛緩や緊張、律動や静止をもって抑揚づけることにより、建築物とそれを取り巻く事象の間に相対関係を見出している。これは、建築物の部分から全体およびその周辺の事象までの建築構成要素を連続的な総体として捉えているといえる。つまり、一般概念を示す言葉による分節的な建築の思考とは異なり、感性により捉えられる即物間の関係の強弱に依拠したシームレスな思考によって、建築の価値が相対的に形成されていることが明らかになった。

注

- 注1) 言語音によって音や状態を表すことを言語学のうえで、音象徴という。擬声語や擬態語は、一般言語と比較して、音声と指示対象の恣意性が低く、音そのものがある特定のイメージを喚起させる（参考文献 4）。日本語においては、外界の音を客観的に模した語彙を擬声語（擬音語）、必ずしも音を伴わない事物の動きや状態を音声で象徴的に描写する語彙を擬態語とし区別している（参考文献 5）。本研究では、擬態語のみを扱っている。
- 注2) 本章では、基本義、主体、規定語をキーコンテキストから抽出し、これらの語句の描写内容が示す意味と照らし合わせて結論を導出している。そのため、本文中の考察や図中における「 」内の記述では、抽出元となったキーコンテキストを考察内容に合わせて品詞の活用の変換や文字の省略を行い例示しているが、文法上の表現を変えてもこれによる本章の結論に関しての影響はないものとする。
- 注3) コレスポネン分析とは、集計済みのクロス集計結果を使って、行の要素と列の要素とを使い、それらの相関関係が最大になるように数値化して行の要素と列の要素を多次元空間（散布図）に視覚化して表現する分析方法を指す。類似度・関係性の強い要素同士は近くに、弱い要素同士は遠くに配置される。ただし、相対的な位置関係であり、絶対的なものではない。このとき、軸がクロスする原点付近に配置される要素は比較的特徴が薄いと解釈できる。なお、原点付近に配置する要素の解釈には注意が必要である。原点付近の行は、原点付近の列に対する組合せの頻度が多いとは限らず、原点を離れた様々な方向に配置されている場合がある。そのため原点付近に配置された行・列を積極的に解釈することは、解釈の妥当性を低めることになり得る。
- 注4) 本研究では、擬態語という感覚的で曖昧な言葉を論考の要素とするうえで、客観性を高めるために、以下に説明する擬態語の言葉の特徴の理解のうえ擬態語の語義を確定し、整理している。擬態語は、言葉の恣意性によって成り立つ概念的意味を持つ一般概念語とは違い、音と意味との間に有縁性が認められる言葉であり、語基を構成する子音、その有声・無声、促音・流音・撥音・長音付きや語基の反復などの語形変化の特徴として、成立しているものの状態や運動の状態などの基本的な意味の傾向が表れる。例えば、「つるつる」や「さらさら」では、語基「つる」と「さら」に含まれる [t] と [s] という軽い弾きや摩擦によって起こる音と、[r] という横に滑る軽い摩擦音との組合せにより、軽やかで滑らかな接触感を表している。また、「ざらざら」では、軽いひっかかりや摩擦を表す [s] という音が [z] と濁ることで、滑らかでない接触を感じさせる（参考文献 6）。設計者が建物自体や建築空間を構成する要素の様相を伝達する際に用いた擬態語は、擬態語を構成するこのような音韻の特徴に基づいた意味の傾向を反映していることになり、それらを考慮して擬態語の意味を判別・分類することで、論考の客観性を高めるための一助になると考える。そこで、本研究では、擬態語の意味の判別と分類にあたり、擬態語の音韻の特徴から擬態語のもつ意味の傾向の概念を構造的に分析した Shouko Hamano や田島毓堂らの既往の言語学における研究の成果を中心に複数の文献（参考文献 4～10）を参考にし、擬態語の語基を構成する音韻の意味の傾向を考慮した上で、基本義を整理している。ただし、促音・流音・撥音・長音付きや語基の反復などの語形の変化の特徴にみられる意味の傾向は、語基の意味に運動の状態の長さや状態の連続性などのより些細なニュアンスの違いを付け加えるが、これらを分類することはサンプル数が分類数に比して極端に少なくなる分類が増えること、そして、本研究が設計者の思考を総体的に読み解く研究として位置づけていることを配慮し、基本義を分類する上で特に考慮していない。基本義を整理した表 3-2 の表記に使用した用語は、田島毓堂らの研究（参考文献 7）中に出てくる、音韻の特徴に基づく擬態語の基本的な意味傾向として、物体の状態性や運動の様子、物体の質・量的な属性、物体の有する刺激や鋭鈍の観点から分類し範疇化する際に用いている用語のうちで、本研究に出てくる擬態語の意味の範疇に当てはまる弛緩性、固定度、散在性、質量、量、薄さ、凹凸、衝撃、明度、硬度、軟度、乾燥度、粘性、鋭度、太さ、密集度を参照しており、必要に応じて湿潤度、粗さ、折れ方、

円滑性、温かさ、空隙度、不明瞭性、明瞭性、臨界性、過剰性は他文献を参考に補足している。また、表記語尾の括弧内の大小などは、有声か無声かによる音韻の特徴からくる相対的な程度の意味のニュアンスを表し、語基に付随し擬態語の意味を大別する意味要素として付記している。擬態語の音韻が有声音で濁音をもつ語句には、大きい、遅い、強い、重い、深い、厚い、堅い、粗い、鈍い、濁る、太い、力強いといった意味が表れるのに対して、無声音で濁音を持たない語句には、小さい、速い、弱い、軽い、浅い、薄い、柔らかい、細かい、鋭い、澄む、細い、鮮やかといった意味が表れる。分類に際し、必要な場合は、辞書に基づく用法も考慮している。

- 注5) 河原一郎：長田邸，新建築，p. 231，1979. 2
- 注6) 相田武文：P L 学園幼稚園，新建築，p. 229，1974. 1
- 注7) 横河健：新川電機広島工場，新建築，p. 189，1987. 4
- 注8) 清水建設：パラマウントベッド テクニカルセンター，新建築，p. 126，2007. 4
- 注9) 武井誠＋鍋島千恵／TNA：カタガラスの家，新建築，p. 99，2008. 11
- 注10) 木村誠之助：K 証券葉山研修センター，新建築，p. 226，1993. 3
- 注11) 渡辺豊和：龍神村民体育館，新建築，p. 212，1987. 6
- 注12) 隈研吾：オボジットハウス，新建築，p. 126，2009. 3
- 注13) 三菱地所設計：三菱未来館@ earth，新建築，p. 185，2004. 12
- 注14) 東孝光：さつき保育園，新建築，p. 243，1973. 8
- 注15) 石黒由紀建築設計：B 棟，新建築，p. 147，2006. 2
- 注16) 隈研吾：KRUG X KUMA = ∞ 〈無限大〉KXX，新建築，p. 148，2005. 9
- 注17) 槇文彦：横浜市篠原地区センター・横浜市篠原地域ケアプラザ，新建築，p. 193，1997. 9
- 注18) 竹中工務店：松蔭女子大学員大学大山ロッジ，新建築，p. 278，1992. 3
- 注19) 矢吹昭良建築設計＋佐藤商業建築研究所：グラスハウスうしかわ，新建築，p. 263，1987. 12
- 注20) 渡瀬正記＋永吉歩／設計室：くまもとアートポリス「モクバン R2」球磨のバンガロー，新建築，p. 185，2009. 9
- 注21) コレスポンド分析において，原点付近に布置された事例は，原点から離れた様々な方向の事例と組み合わせたり，その組合せ数が均衡した結果，原点付近に布置されている場合がある。そのため，原点付近に布置された事例は，他方のコレスポンド分析によって得られた傾向の強い影響のもと，類型を構成する場合がある。この場合，構成される類型は一方のコレスポンド分析の傾向の強い影響のもと，他方のコレスポンド分析のいずれの傾向にもまたがる可能性があるといえる。本論では，このような類型の中には類型 E、Q のように，隣接する傾向を越えて括られる類型も含まれる。
- 注22) 本章では，設計者の思考を総体的かつ相対的に読み解く研究として位置づけられることを考慮し，全体の中での特徴的な傾向のみられる事例を考察する。そのために，該当するサンプル数が著しく少ない，極めて特異な類型が生じないように，類型を導出する基準を設定し，24 種の類型を導出した。
- 注23) 三菱地所設計：2006 年日本国際博覧会 企業パビリオンゾーン A 三菱未来館@earth，新建築，p. 169，2005. 5
- 注24) 長谷川逸子：世界デザイン博覧会 インテリア館，新建築，p. 232，1989. 8
- 注25) アトリエ R＋アカデミア建築研究所：林間劇場，新建築，p. 178，1987. 4
- 注26) 近田玲子デザイン事務所＋TIS & PARTNERS：光のプリズム（川口公園エレベータシャフト上屋），新建築，p. 260，1994. 4
- 注27) 倉敷建築事務所：愛染橋病院，新建築，p. 153，1965. 3
- 注28) 鹿島建設：三洋証券本社別館，新建築，p. 252，1988. 7
- 注29) 渡辺明設計：千本松沼津倶楽部，新建築，p. 65，2008. 10
- 注30) 石井和紘：児玉邸，新建築，p. 264，1980. 8

- 注31) 磯崎新：ラ・コルーニャ人間科学館，新建築，p. 120，1995. 7
- 注32) 谷口吉郎：慶応義塾幼稚舎講堂，新建築，p. 147，1964. 7
- 注33) 山添建築設計：カトリック八戸塩町教会，新建築，p. 189，1984. 4
- 注34) 竹中工務店：勾配屋根とスキップフロアーの住宅，新建築，p. 127，1962. 5
- 注35) 渡辺明：二期倶楽部，新建築，p. 236，1987. 1
- 注36) 村山建築設計：東江幼稚園，新建築，p. 204，1995. 4
- 注37) 黒川紀章：吉備町役場，新建築，p. 125，1995. 12
- 注38) 前川建築設計：専修寺納骨堂，新建築，p. 166，1999. 2
- 注39) 黒川紀章：豊田スタジアム，新建築，p. 203，2001. 9
- 注40) 早大安藤研究室：第四大島小学校，新建築，p. 10，1958. 5
- 注41) 宮脇檀：グリーンボックスハウス # 2，新建築，p. 208，1973. 2
- 注42) 宮脇檀：BOX-A QUARTER CIRCLE，新建築，p. 230，1977. 2
- 注43) 深谷俊則：トラスの家，新建築，p. 240，1977. 2
- 注44) アトリエR：静照院，新建築，p. 181，1987. 4
- 注45) 創設計：北新在家の家，新建築，p. 298，1984. 8
- 注46) 長谷川逸子：徳丸小児科，新建築，p. 184，1979. 10
- 注47) 清水建設：東京国際見本市協会，新建築，p. 189，1966. 12
- 注48) 葉祥栄：ACT 6，新建築，p. 167，1985. 10
- 注49) 野中建築事務所：野中建築事務所，新建築，p. 177，1965. 9
- 注50) 隈研吾：宝積寺駅グリーンシェルター，新建築，p. 81，2006. 7
- 注51) 石井和紘：直島町民体育館・武道館，新建築，p. 266，1977. 1

参考文献

- 1) 宇野真明，デワンカー・パート：空間を表現する擬態語に関する研究 設計経験者と非経験者の比較，日本建築学会九州支部研究報告集，第 50 号，pp. 133-136，2011. 3
- 2) 秋田剛，古賀誉章，佐野奈緒子，辻村壮平，石黒恭平：擬態語・擬音語を用いた環境表現に関する基礎的研究，日本建築学会大会学術講演(環境工学 I)，pp. 183-184，2011. 7
- 3) 新建築社：新建築，1950. 1-2010. 12
- 4) Shoko Saito Hamano：The Sound-Symbolic System of Japanese, Thesis (Ph.D.) University of Florida, 1986. 5
- 5) 吉井宏：空間認識の方法と発達について その(2) オノマトペの発生と構造，美術教育学，美術科教育学会誌，第 5 号，pp. 89-99，1983. 12
- 6) 鷺田清一：「ぐずぐず」の理由，角川学芸出版，2011. 8
- 7) 田島毓堂，丹羽一弥編：日本語論究 3 現代日本語の研究，和泉書院，1992. 12
- 8) 柴田武：日本語はおもしろい，岩波書店，1995. 1
- 9) 阿力田稔子，星野和子：擬音語・擬態語使い方辞典 正しい意味と用法がすぐわかる，創拓社，第 2 版，1995. 10
- 10) 小野正弘：擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典，小学館，2007. 10

4 建築物の言語描写の擬態語表現における 建築の具体の様相

4-1 分析の背景と目的

4-1-1 分析の背景

建築物は、おかれた気象や地理的条件下でも壊れない強さ、人の活動を支える有用な空間、美や親しみなどの人の情感との共鳴などが求められ、また、社会や歴史を表象するシンボリックな建築としての意味をも担う。このような要求や概念といった建築物の内容は、建築物の形状や建築空間を流通する光や風などの動き、知覚される建築物による風景、空間によってもたらされる人への心理的な作用の様子などを通して表出する。したがって、建築の価値とは、即物的なものの形状や性状の操作を通して、要求される建築物の機能や構造の安定性を担保しながら、ものの集積としての構築物に派生する意味を織りなす設計行為を通して複合的に生み出されるといえる。

建築物の設計活動では、設計要件をまとめ上げ、建築物として実現し人に伝えるにあたり、図面や模型や写真による視覚化と合わせて、言葉による表現が欠かせない。設計に伴う思考が言葉によって伝達されるのは、言葉が視覚的なものを超えて人によって経験される物理的な存在としての建築物をより仔細に説明することに不可欠だからである。

擬態語は、一般的な概念語と異なり、参照するものの動きや状態を音象徴的^{注1)}に再現し、人の身体感覚に寄り添った、より共感しやすい空間認識を促すことで、ものの意味を拡張させる働きをもつ。例えば、「コンクリートブロックは、ざらざらしているために汚れやすいが、時間の重みを確実に受けとめてゆくことができる」という設計者の言説は、「ざらざら」と描写された建築材料の滑らかさを欠いた性状などの物理的特徴を介して、時間の経過を感じさせ、伝統性をも喚起させることを意図している。このように、設計者が自身の建築物を解説する際、擬態語を用いることで意図する建築物の性質、概念的に漠然とした未分化なイメージ、現象の様相から受ける印象や価値判断などを直接的に表現することができる。以上のことから、建築物の言説において擬態語は、物性に即した佇まいや動きの様相に加え、美観、社会性、歴史性などのより拡張された概念を表出させ、イメージ喚起性が強い複合的な様相として、設計者が建築空間に込めた意図を表現しているといえる。

4-1-2 分析の目的

前章では、感覚を表現する擬態語を用いた建築物の言語描写の分析として、建築空間を構成する建築物や要素の状態や動きを、それらを描写する擬態語と動詞を用いた表現から総体的に考察し、擬態語表現による建築の即物の様相を明らかにした。擬態語によって表現される建築の様相は、即物の様相に限られず、建築物についての事象が擬態語によって捉えられることで具現化する建築の概念的な意味まで喚起させる。そこで、本章では、前章で行った即物の様相の分析を補完し擬態語表現による建築の様相をより総合的に考察するために、建築空間を構成する事物や物質的現象が擬態語によって描写され感覚的に捉えられる際に、表出する概念としての側面が建築物自体の形状や物理的性質に付帯することを具体と定義し、擬態語表現における建築の具体の様相を明らかにする。

4-1-3 既往の研究

建築を仔細に表す構成要素や概念を示す言葉を分析した研究として、山内、吉田らによる建築形態構成における概念語と形態語の関係性に関する研究¹⁾、青木、稲毛らによる形容詞を用いた表現と建築の形状の操作に関する研究²⁾などが挙げられる。ひとつ目は、設計者自身が表現する言葉を設計者の考え方などを示す概念的な内容を表現する言葉と、建築形態などの実体的な内容を表現する言葉に分類し、その相関を明らかにしている。ふたつ目は、設計プロセスにおける言語表現を、建築形状の形成と関係づけ定式化しようと試みている。

本章は、設計者が自身による建築物を解説した文中で、建築空間を言語描写する際に用いた擬態語表現に着目している。そして、建築空間を構成する知覚可能な要素を示す語句、建築空間構成要素の様子を特定し空間の認識を促す擬態語の語義、擬態語によって描写された建築空間構成要素に表出する概念の相関を分析することにより、建築空間に複合された意味を捉え、擬態語により言語描写される際の建築の具体の様相を明らかにする。

4-1-4 分析の手順

以下に、本章における分析の手順を段階的に記す。

4-1) 本章では、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の意味の一側面を決定づけるための要素として、擬態語の主体・基本義・表出概念を定義する。本章における擬態語表現とは、空間を構成する事物や物理的現象が、擬態語と、擬態語によって修飾されることにより付帯した概念によって描写される表現とする。

4-2) 建築専門誌『新建築』に掲載された設計者自身の作品に対する解説文の中で、建築空間を構成する事物及びその現象が擬態語によって捉えられることで表出する性質、作用、効果を示す概念が描写された記述箇所を研究対象として選出する。擬態語の語義は、擬態語を取り巻く語句や文脈によって特定されるため、研究対象とした記述から、本章の分析資料となる擬態語表現が用いられている文章をキーコンテキスト^{注2)}として抽出する。

4-3) 抽出したキーコンテキストから主体・基本義・表出概念に該当する語句を抽出し、意味内容を考慮し、カテゴリー分けを行う。カテゴリー分けを行うことにより、日本語表記における漢字表現、平仮名表現、送り仮名の差異を解消することで、表記の違いに関わらず建築領域における擬態語表現を考察できるようにする。カテゴリー分けは、個人による独断や恣意を避けるため、著者を含む複数人により妥当な分類基準を定め、合議に基づき決定する。

4-4) 語句毎に分類し統計化することでみえにくくなった様々な語句の相互関係を総体的に把握するために、主体と基本義、主体と表出概念のそれぞれの組み合わせのコーレスポンドンス分析^{注3)}を行い、分類間の相関の傾向を整理する。

4-5) それぞれのコーレスポンドンス分析で得られた傾向の組み合わせを基に、資料としたすべての記述内容を考慮しながら比較考察することにより意味のまとまりを捉え、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相を考察する。

4-1-5 分析対象の選定

本章では、擬態語表現における建築の具体の様相を考察する上で、設計者自身の思考や思想を分析できることを考慮して、研究対象を実際の建築空間の言語描写がされている設計者自身による作品解説文とした。そこで、時代に対して文献の量に偏りがなく、設計者の言説として十分な資料を得ることができる点を考慮して、現代まで継続的に建築作品及びその解説文を掲載している建築専門誌『新建築』³⁾を研究資料とする。そして、執筆者の文責が明らかである1950年から2010年までを対象期間とし、掲載された設計者自身の作品に対する解説文の中で、建築空間を構成する事物及びその現象が擬態語によって捉えられることで表出する性質、作用、効果を示す概念を描写した259の建築物における延べ420事例を研究対象とする。(表4-1)

表 4-1 年別研究対象数

| 年 | 対象数 | 年 | 対象数 |
|-----------|-----|-----------|-----|
| 1950～1954 | 14 | 1980～1984 | 72 |
| 1955～1959 | 23 | 1985～1989 | 31 |
| 1960～1964 | 27 | 1990～1994 | 34 |
| 1965～1969 | 12 | 1995～1999 | 39 |
| 1970～1974 | 18 | 2000～2004 | 52 |
| 1975～1979 | 22 | 2005～2009 | 73 |
| | | 2010 | 3 |
| | | 計 | 420 |

4-2 用語の定義と抽出・分類

4-2-1 用語の定義

建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の意味の一側面を決定づけるための要素として、主体・基本義・表出概念を定義する。主体とは、擬態語により修飾され、意味づけされる建築物の構成部位や建築空間を実体化する人や光の現象などを含む、建築空間を構成する知覚可能な要素を表す。基本義とは、擬態語のもつ基本的な意味合いのカテゴリーと音韻^{注4)}による程度の大小の組合せにより決定される擬態語の語義を表す。表出概念とは、擬態語に修飾されることにより主体に付帯される意味を示す語句を表す。

キーコンテキスト内において、これらの基本義・主体・表出概念が組み合わせられることで、擬態語によって捉えられる主体が、建築に意味づけをする性質・作用・効果を示す概念を表出する一連の流れを表現しているため、建築の具体の意味の一側面を捉えることができる（図 4-1）。そこで、キーコンテキスト内において、主体・基本義・表出概念に該当する語句を抽出し、分類する。（図 4-2）

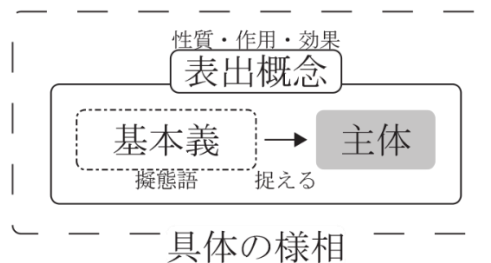


図 4-1 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相の流れ

| | | | |
|--|------|-----------|----------|
| 『新建築』1987年12月号 p.192 札幌豊平教会／北海道建築工房 | | | |
| 「より長く伝道の歴史を刻み込んだ窓 を見せ続けることのほうが豊かに思え た。そこで、セラミックブロックを選 び、 <u>がっしり</u> とした窓を選んだ。」 | | 抽出語句 | 分類 |
| | 主体 | 窓 | 〔開口部〕 |
| | 基本義 | がっしり | 【固定度(大)】 |
| | 表出概念 | 歴史を刻み込んだ窓 | 〈伝統性〉 |

図 4-2 キーコンテキストと主体・基本義・表出概念の抽出例

4-2-2 主体の分類

主体は、擬態語と組み合わせられることで設計者が着目した建築空間の一側面を示す。抽出した語句の意味内容を判断しながら、建築空間における役割の観点から、31 種のカテゴリーに分類した（表 4-2）。

表 4-2 主体の分類

| 分類 | 定義 | 記述例 | 箇数 |
|----------|-------------------|----------|-----|
| 〔建築全体〕 | 建築物の全体 | 建物 | 58 |
| 〔室空間〕 | 建築物の中で区切られた単位空間 | 居間/ロビー | 51 |
| 〔材料〕 | 建築物を構成する素材の総称 | 素材/レンガ | 49 |
| 〔内部空間〕 | 機能に関わらず、建築物の内部 | 内部空間 | 45 |
| 〔壁〕 | 空間を分離している垂直の構造物 | 壁面/内壁 | 33 |
| 〔建築外観〕 | 建築物を外側からみた様子 | 外観/おもて | 21 |
| 〔構造〕 | 建築物の骨格となるもの | 格子/壁構造 | 17 |
| 〔特定建築〕 | 特定の用途により定義される建築物 | 病院/ホテル/家 | 17 |
| 〔外部空間〕 | 機能に関わらず、建築物の外部 | 外部空間/屋上 | 12 |
| 〔風景〕 | ある地点における視覚的な場の様相 | 風景/街並み | 12 |
| 〔人〕 | 子供や大人を含む全ての人間 | 人/聴衆 | 11 |
| 〔ディテール〕 | 複数の部材が接合された部分 | ディテール/仕舞 | 9 |
| 〔屋根〕 | 外部に面して空間の上部を覆うもの | 屋根/大屋根 | 7 |
| 〔周辺環境〕 | 敷地周辺の自然物および住環境 | 環境 | 7 |
| 〔ヴォリューム〕 | 塊としての建築物やその大きさ | 立体/マッス | 6 |
| 〔開口部〕 | 建築物の切り抜かれた部分 | 窓/開口 | 6 |
| 〔活動〕 | 人のふるまい | 生活 | 6 |
| 〔地形〕 | 地表の形態的側面 | 丘/芝生面 | 6 |
| 〔調度品〕 | 日常什器や家具などの道具 | 家具/民芸品 | 6 |
| 〔天井〕 | 室内空間の上限を構成する面 | 天井 | 6 |
| 〔動線空間〕 | 廊下や通路など移動を目的とした空間 | 通路スペース | 6 |
| 〔領域〕 | 面によって規定される空間の広がり | 領域/書架間隔 | 5 |
| 〔環境要素〕 | 光や影などの自然に存在する現象 | 明るさ/影 | 4 |
| 〔色彩〕 | 彩りや色合いなど色に関わるもの | 色/単色 | 4 |
| 〔敷地〕 | 建築物の占める一定区画の土地 | 敷地 | 3 |
| 〔部材〕 | 建築物を部分的に構成する材料の総称 | 集成材 | 3 |
| 〔平面〕 | 平面計画の結果生まれた平面形状 | 枝分かれプラン | 3 |
| 〔床〕 | 室内空間の下限を構成する面 | 床 | 2 |
| 〔地域〕 | 建築物が建つ風土の総称 | 風土 | 2 |
| 〔塀〕 | 敷地内外を分離している垂直の構造物 | 石垣 | 2 |
| 〔柱〕 | 建築物を支える垂直の部材 | 柱 | 1 |
| 小計 | | | 420 |

4-2-3 基本義の分類

基本義は、主体と組み合わせられることで主体の形状や性状を特定し、擬態語表現により描写される建築空間の一側面を決定づけるものである。擬態語は、音象徴を用いて事象の動きや状態を表現する語句であり、音韻によって語義が大別されるため、音韻を考慮した上で、物体間の関係を示す状態性、物体の運動の様子を表す運動性、物体の性質を表す質的属性、物体の発する刺激

の鋭さを表す鋭鈍性に着目することで基本義のカテゴリーを決定する。さらに、有声・無声といった特徴に着目することで程度の大小も考慮し、36 種のカテゴリーに分類した（表 4-3）。

表 4-3 基本義の分類

| 分類 | 記述例 | 箇数 |
|-----------|-----------------|-----|
| 【弛緩性(小)】 | まったり／のびのび／のんびり | 126 |
| 【固定度(小)】 | しっかり | 30 |
| 【整然性(小)】 | きちん／きちっ／すっきり | 29 |
| 【湿潤度(小)】 | しっとり | 24 |
| 【粗さ(粗)】 | ざっくり／ざらっ／ざらざら | 21 |
| 【散在性(大)】 | ばらばら／ぼうぼう | 16 |
| 【質量(重)】 | どんより／どっしり | 15 |
| 【量(少)】 | からっ／こざっぱり／こちんまり | 15 |
| 【薄さ(薄)】 | のっぺり／ぺなぺな／ぺらり | 13 |
| 【凹凸(大)】 | べこべこ／でこぼこ／がたがた | 12 |
| 【折れ方(強)】 | じぐざぐ | 11 |
| 【固定度(大)】 | がっしり／がっちり | 10 |
| 【円滑性(軽)】 | つるん／つるつる | 9 |
| 【温かさ(小)】 | ほのぼの／ぬくぬく | 9 |
| 【空隙度(大)】 | がらん | 9 |
| 【不明瞭性(小)】 | もやもや／もぞもぞ／ほっ | 8 |
| 【衝撃(小)】 | ひっそり | 8 |
| 【不明瞭性(大)】 | ぼんやり／ぼやっ | 7 |
| 【明度(鮮)】 | ほんなり | 6 |
| 【明瞭性(鋭)】 | くっきり／そっくり | 6 |
| 【硬度(大)】 | ごつごつ | 5 |
| 【軟度(小)】 | ふかふか／ふっくら | 4 |
| 【臨界性(大)】 | ぎりぎり | 3 |
| 【過剰性(小)】 | たっぷり | 3 |
| 【乾燥度(大)】 | ぼそぼそ／ぼそっ | 3 |
| 【膨張性(小)】 | こんもり／もっこり | 3 |
| 【質量(軽)】 | ふわふわ | 3 |
| 【弛緩性(大)】 | だらだら | 2 |
| 【粘性(弱)】 | ぬめぬめ／ぬるぬる | 2 |
| 【鋭度(強)】 | ぎざぎざ | 2 |
| 【太さ(太)】 | ずんぐり | 1 |
| 【密集度(小)】 | みっちり | 1 |
| 【捲れ方(弱)】 | ひらひら | 1 |
| 【明度(強力)】 | きらきら | 1 |
| 【衝撃(大)】 | びく | 1 |
| 【量(多)】 | ごっ तरी | 1 |
| 小計 | | 420 |

4-2-4 表出概念の分類

表出概念は、設計者が擬態語によって修飾された主体に付帯すると捉え記述したもので、擬態語が示す語義によって拡張された概念を指し、建築物の複合的な様相を決定づける語句である。抽出した語句の意味内容を判断しながら、主体に派生する性質、作用、効果の観点から、45 種のカテゴリーに分類した（表 4-4）。

表 4-4 表出概念の分類

| 分類 | 記述例 | 箇数 | 分類 | 記述例 | 箇数 |
|----------|-----------|----|---------|------------|-----|
| 〈安心感〉 | 安堵／ゆとり | 40 | 〈包容〉 | 包み込む／包容 | 7 |
| 〈単純性〉 | 単純／平凡 | 29 | 〈落着〉 | 落ち着 | 7 |
| 〈生命感〉 | 人間的／自然 | 22 | 〈空虚感〉 | 泡／倉庫のような | 6 |
| 〈重厚さ〉 | 重量感／堂々と | 21 | 〈柔和〉 | 柔らかい | 6 |
| 〈親和性〉 | 調和／連続 | 21 | 〈自由〉 | 解放／自由 | 5 |
| 〈開放性〉 | 開放性／抜け | 18 | 〈疎外〉 | 弾き出された／閉鎖的 | 5 |
| 〈曖昧〉 | 抽象／曖昧 | 18 | 〈明快〉 | 明快さ／近代感 | 5 |
| 〈強固〉 | 丈夫／こわれない | 15 | 〈充足〉 | 最小限／凝縮 | 4 |
| 〈複雑〉 | 不均質／秩序なく | 14 | 〈親近感〉 | 親しみ | 4 |
| 〈豊穡〉 | 恵まれた／豊か | 14 | 〈清潔さ〉 | 白／すぐ拭きとれる | 4 |
| 〈伝統性〉 | 伝統／歴史 | 12 | 〈断片〉 | 断片／個別 | 4 |
| 〈一体〉 | 量塊／一体 | 11 | 〈賑わい〉 | 喧しい | 4 |
| 〈刺激〉 | 挑発／誘惑 | 11 | 〈平坦〉 | 平滑／平坦 | 4 |
| 〈質感〉 | 肌理／質感 | 10 | 〈湾曲〉 | ゆがんだ／湾曲 | 4 |
| 〈美しさ〉 | 美しい | 10 | 〈奥ゆかしさ〉 | 奥ゆかしさ | 3 |
| 〈印象(快適)〉 | 快適な | 9 | 〈遮断〉 | 間仕切り／遮られる | 3 |
| 〈印象(良)〉 | 可愛い／好ましい | 9 | 〈精巧〉 | 精巧な | 3 |
| 〈控目〉 | 静かな／厳肅性 | 8 | 〈不適〉 | 痛々しい | 3 |
| 〈柔軟性〉 | フレキシビリティ | 8 | 〈抑揚〉 | メリハリ | 3 |
| 〈小ささ〉 | 狭まった／極薄 | 8 | 〈異質〉 | 異次元 | 2 |
| 〈整合〉 | 秩序／整理 | 8 | 〈多様性〉 | さまざまな | 2 |
| 〈スケール感〉 | 奥行き／スケール感 | 7 | 〈明るさ〉 | 明るい | 2 |
| 〈大雑把〉 | いい加減さ | 7 | 小計 | | 420 |

4-3 語句間の相関の整理

4-3-1 主体と基本義のコレスポンド分析

主体と基本義の相関の傾向を把握するため、コレスポンド分析を行う。まず、主体と基本義をクロス集計した結果、組合せ総数として延べ 420 の組合せが得られた（表 4-5）。これを基にコレスポンド分析を行い、主体と基本義の関係の強さを散布図の距離に比例して比重を置いて解釈した結果、身体によって感知される物性の尺度、形質の増幅による建築物内外境界の規定、鋭鈍により顕在化される建築空間の体系、空間の余裕の様相の4つの傾向に整理することができた（図 4-3）。以下に、傾向を構成する組合せとそれぞれの傾向の特徴について述べる。

身体によって感知される物性の尺度では、〔材料〕と【乾燥度（大）】、【湿潤度（小）】などに相関がみられ、「大谷石の全体はスポンジのようにボソボソし」^{注 5)}や「（白壁のコンクリートは）土蔵のようにしっとり」と^{注 6)}などの描写により、微妙な乾湿の感触から材料の性質を特徴づけている。また、〔開口部〕と【質量（重）】、【固定度（大）】などに相関がみられ、「どっしりとした木枠の窓」^{注 7)}や「セラミックブロックを選び、…がっしりとした窓」^{注 8)}などの描写により、重量感や強靱さから強固な印象を特徴づけている。さらに、〔建築全体〕と【円滑性（軽）】、【粗さ（粗）】などに相関がみられ、「つるんとした表面を持つモノリシックな塔状の建物」^{注 9)}や「ざらっとした調子の環境」^{注 10)}などの描写により、建築全体の質感の精粗さを触覚的に印象づけている。以上より、これらの組合せは、感覚的な尺度により建築物の部分や全体の物性の些細な認識を表現しているといえる。

形質の増幅による建築物内外境界の規定では、〔構造〕と【質量（軽）】などに相関がみられ、「リングユニットを連結して球体を構成する…ふわふわした構造」^{注 11)}などの描写により、内外空間を浸透させるような、物理的にも視覚的にも存在感が希薄な構造体を表現している。また、〔天井〕と【臨界性（大）】などに相関がみられ、「スラブぎりぎりまでのヴォールト天井」^{注 12)}などの描写により、ヴォールト天井が内部空間を捻出している様子を表現している。さらに、〔建築外観〕と【折れ方（強）】などに相関がみられ、「ジグザグな外面」^{注 13)}などの描写により、建築物の外壁が鋭く曲折していることで特徴づけられている様子を表現している。以上より、これらの組合せは、形状を描写することにより建築内外空間の表面を構成する要素や、間に挟まれ内外境界の骨格となる構造の子細な構成を表現しているといえる。

鋭鈍により顕在化される建築空間の体系では、〔ヴォリューム〕と【明瞭性（鋭）】などに相関がみられ、「マッスは、緑の林と背景の金剛山の中にあってクッキリと」^{注 14)}などの描写により、立体としての建築物が自然の風景を背景として際立っている様子を表現している。また、〔人〕と【不明瞭性（小）】などに相関がみられ、「（人が）静かにほっとする空間」^{注 15)}などの描写により、人の不活性な状態によりそれを誘発させる空間の機能を表現している。さらに、〔風景〕と【不明瞭性（大）】などに相関がみられ、「その先の風景から、ぼんやりとした広さが感じられる」^{注 16)}などの描写により、明確な境界を示さないまま空間が内部から外部へと連続

している様子を表現している。以上より、これらの組合せは、それ自体を三次元的な領域として顕在化する建築物のヴォリュームや、内部空間を実体化する人、建築物と共に外部空間を構成する周辺の風景によって形成される、内部から外部にわたる建築空間の様々な立ち現れ方を表現しているといえる。

空間の余裕の様相では、〔内部空間〕と【弛緩性（小）】などに相関がみられ、「一般開架室は2層吹抜けのゆったりとしたスペース」^{注17)}などの描写により、機能上要求される以上の空間量を有することで空間が広がり、開放性を感じさせる様子を表現している。また、〔外部空間〕と【弛緩性（大）】などに相関がみられ、「建物に至る昔ながらの曲がりくねった道路はとても特徴的で、そのだらだらとした感じは」^{注18)}などの描写により、アプローチ空間の連続的な様相を描写し、その冗長性を表現している。さらに、〔室空間〕と【空隙度（大）】などに相関がみられ、「この家に大切な部屋としてガランとした広間をとりたい」^{注19)}などの描写により、広さ自体が示す存在感を表現している。以上より、これらの組合せは、量感による空間の存在感や、余剰性のある広がり価値を内包する空間を表現しているといえる。

表 4-5 主体と基本義のクロス集計表

| 分類 | ヴォリューム | ディテール | （屋根） | （開口部） | （外部空間） | （活動） | （環境要素） | （建築外観） | （建築全体） | （構造） | （材料） | （室空間） | （周辺環境） | （床） | （色彩） | （人） | （地域） | （地形） | （柱） | （調度品） | （天井） | （動線空間） | （特定建築） | （内部空間） | （敷地） | （部材） | （風景） | （塀） | （平面） | （領域） | 総計 | |
|-----------|--------|-------|------|-------|--------|------|--------|--------|--------|------|------|-------|--------|-----|------|-----|------|------|-----|-------|------|--------|--------|--------|------|------|------|-----|------|------|----|-----|
| 【鋭度（強力）】 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | |
| 【円滑性（軽）】 | | | | | | | | | 3 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | 9 | |
| 【凹凸（大）】 | | | | | | | | 3 | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | 12 | |
| 【暖かさ（小）】 | | | | | | | | | 3 | | 1 | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | 1 | 1 | | 9 |
| 【過剰性（小）】 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 3 |
| 【乾燥度（大）】 | | | | | | | | | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 【空隙度（大）】 | | | | | 1 | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | 9 |
| 【捲れ方（弱）】 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 【固定度（小）】 | | | | | | | | 4 | 1 | 4 | 10 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | 1 | | | 2 | 3 | | 30 |
| 【固定度（大）】 | | | | 2 | | | | | 3 | | 2 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | 1 | | 10 |
| 【硬度（大）】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | 5 |
| 【散在性（大）】 | | | 1 | | | | | | 1 | | 3 | 3 | 1 | | | | | | | 2 | | | | 1 | | | 1 | | | 4 | | 16 |
| 【湿潤度（小）】 | | | | | | 3 | | 4 | 1 | | 7 | 1 | | | 1 | | | | | | | | 3 | | | | 1 | | | 3 | | 24 |
| 【質量（軽）】 | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 【質量（重）】 | | | | 1 | | | | | 6 | | 1 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | 2 | | 1 | | 15 |
| 【衝撃（小）】 | | | | | | | | 1 | 4 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| 【衝撃（大）】 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 【整然性（小）】 | 9 | | 2 | | | | | 3 | 2 | 2 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 3 | | 1 | | | 3 | 1 | | 29 |
| 【折れ方（強）】 | | | | | | | | 2 | | 5 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | 2 | | | 11 |
| 【粗さ（粗）】 | | | | | | | | | 4 | | 5 | | | | | | | | 1 | | 3 | | 2 | | | 1 | 1 | | | 4 | | 21 |
| 【太さ（大）】 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 【弛緩性（小）】 | | | 1 | 1 | 7 | 3 | 2 | 2 | 18 | | | 37 | 1 | | | 5 | 2 | 4 | | | | 5 | 4 | 26 | 1 | | 4 | | | | 3 | 126 |
| 【弛緩性（大）】 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 【軟度（小）】 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | 4 |
| 【粘性（小）】 | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 【薄さ（薄）】 | 1 | | | | | | | | | 1 | 8 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | | | | | | 13 |
| 【不明瞭性（小）】 | 2 | | | | | 2 | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| 【不明瞭性（大）】 | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | 1 | | 7 |
| 【膨張性（小）】 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 【密集度（小）】 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 【明度（強力）】 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 【明度（鮮）】 | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 6 |
| 【明瞭性（鋭）】 | 2 | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 6 |
| 【量（少）】 | | | 2 | | | | | | 4 | | | 3 | | 1 | 2 | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | | | 15 |
| 【量（多）】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 【臨界性（大）】 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 3 |
| 総計 | 6 | 9 | 7 | 6 | 12 | 6 | 4 | 21 | 58 | 17 | 49 | 51 | 7 | 2 | 4 | 11 | 2 | 6 | 1 | 6 | 6 | 6 | 17 | 45 | 3 | 3 | 12 | 2 | 3 | 33 | 5 | 420 |



図 4-3 主体と基本義のコレスポネンス分析散布図

4-3-2 主体と表出概念のコレスポネンス分析

主体と表出概念の相関の傾向を把握するため、コレスポネンス分析を行う。まず、主体と表出概念をクロス集計した結果、組合せ総数として延べ 420 の組合せが得られた（表 4-6）。これを基にコレスポネンス分析を行い、主体と表出概念の関係の強さを散布図の距離に比例して比重を置いて解釈した結果、物性の洗練による機能の正当化、初源的構築要素の表象の獲得、周辺要素の情景化、感情への作用をもつ空間の 4 つの傾向に整理することができた（図 4-4）。以下に、傾向を構成する組み合わせとそれぞれの傾向の特徴について述べる。

物性の洗練による機能の正当化では、〔構造〕と〈強固〉などに相関がみられ、「しっかりとした構造にして…安定を保っている」^{注 20)}などの描写により、建築物の構造上の安定性を強調している。また、〔領域〕と〈充足〉などに相関がみられ、「車椅子の通行に支障のない、ゆったりした書架間隔」^{注 21)}などの描写により、広さを調整することにより交通機能が満たされた空間を計画している。さらに、〔ディテール〕と〈整合〉などに相関がみられ、「すっきりとしたディテールに整理することによって、そこに内と外とが融合する『透明な空間の秩序』が浮かび上がっていくことを期待」^{注 22)}などの描写により、無駄をなくした建築物細部の構成により空間の序列に明瞭性が増すことを予見している。以上より、これらの組合せは、建築物を構成する部分が精巧に形成されたり、または、全体が精緻に統合されることでその機能や働きにおける妥当性を主張しているといえる。

初源的構築要素の表象の獲得では、〔屋根〕と〈美しさ〉などに相関がみられ、「琉球松の林に映える赤瓦の稜線のくっきりとしたコントラストは…香り高い美しさ」^{注 23)}などの描写により、風土性に依拠した土着的建築の優雅さを象徴している。また、〔床〕と〈美しさ〉などに相関がみられ、「床のオークフローリングの浮造り加工は、はだしで歩き回りたくなるくらいのごつつ加減」^{注 24)}などの描写により、表面の仕上げ具合に、床の触覚的な魅力を見出している。さらに、〔地形〕と〈質感〉などに相関がみられ、「自然をそのままにして家を建てたいというところから出発し…地盤はみかけの地盤より 2～3 m ほど下にあり、ごつごつした岩盤で」^{注 25)}などの描写により、自然を感受するものとして捉えたうえで、超克するものとしてではなく、調停する存在としての眼差しを導入している。以上より、これらの組合せは、内部空間を生み出す最低限の構築要素である屋根、柱、床、さらに、それらの土台となる大地といった建築空間の存立に係わる根源的な要素へ構築上の役割を超えた意味や価値を付加しているといえる。

周辺要素の情景化では、〔周辺環境〕と〈賑わい〉などに相関がみられ、「旺盛に繁ったボウボウの庭もろとも 1 階を中心とした生活」^{注 26)}などの描写により、自然化した庭の風景を生活空間の中心として計画している。また、〔塀〕と〈豊穡〉などに相関がみられ、「ドッシリと重い間知石積みの石垣は…表情豊かに私たちに語りかけてきます」^{注 27)}などの描写により、敷地境界を規定する壁が観賞物となって作りだすひとつの趣きを表現している。さらに、〔開口部〕と〈単純性〉などに相関がみられ、「造作材の石数を減らすことを意図し…1 本溝引障子のディテールを活用し…スッキリした窓にする」^{注 28)}などの描写により、伝統的な内外境界部の細部の加工により、単純化された部位による煩いのない開口と外部の関係を暗示している。以上より、こ

これらの組合せは、建築物以外の要素が、賑わい、豊かさ、奥ゆかしさなどをもつことによってひとつの情景とみなされる様子を表現しているといえる。

感情への作用をもつ空間では、〔室空間〕と〈印象（快適）〉などに相関がみられ、「住戸は快適に暮せるように、ゆったりとした広さを持っている」^{注 29)}などの描写により、居住空間の快適性を提示している。また、〔人〕と〈安心感〉などに相関がみられ、「ほっとする安堵の気持ちを玄関ホールから各戸の入口に至る経路で感じとってほしい」^{注 30)}などの描写により、空間が人の精神にもたらす安堵の作用を目論んでいる。さらに、〔内部空間〕と〈スケール感〉などに相関がみられ、「予想したように人間的スケールを持った…のびのびとした空間」^{注 31)}などの描写により、空間から身体的な親和性を連想している。以上より、これらの組合せは、人が空間から受ける知覚的印象、快不快感などの生理に基づく印象、空間による心理的な作用を表現しているといえる。

表 4-6 主体と表出概念のクロス集計表

| 分類 | ヴォリューム | ディテール | （屋根） | （開口部） | （外部空間） | （活動） | （環境要素） | （建築外観） | （建築全体） | （構造） | （材料） | （室空間） | （周辺環境） | （色彩） | （人） | （地域） | （地形） | （柱） | （調度品） | （天井） | （動線空間） | （特定建築） | （内部空間） | （敷地） | （部材） | （風景） | （塙） | （平面） | （壁） | （領域） | 総計 | |
|----------|--------|-------|------|-------|--------|------|--------|--------|--------|------|------|-------|--------|------|-----|------|------|-----|-------|------|--------|--------|--------|------|------|------|-----|------|-----|------|----|-----|
| 〈スケール感〉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | 2 | | | 2 | | 7 | | |
| 〈安心感〉 | 1 | | | | 1 | 1 | | 2 | 1 | | 4 | 9 | | | 1 | 3 | | | 1 | 1 | | 6 | 6 | | | | | 1 | 2 | 40 | | |
| 〈異質〉 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 2 | | |
| 〈一体〉 | | | | | | | | 5 | | | 1 | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | 1 | 11 | | |
| 〈印象（快適）〉 | | | | | | | | | | | | 5 | | | | 1 | | | | | | 1 | | 2 | | | | | | 9 | | |
| 〈印象（良）〉 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | 1 | 9 | | |
| 〈奥ゆかしさ〉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | 1 | | 3 | | |
| 〈開放性〉 | | | | | 4 | | | | 2 | | | 3 | | | | 3 | 1 | | | | 2 | | 3 | | | | | | | 18 | | |
| 〈強固〉 | | | 1 | | | | | | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | | 1 | | | 1 | 4 | 15 | | |
| 〈空虚感〉 | | | | 1 | | | | | 2 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | 6 | | |
| 〈控目〉 | | | | | | | | 2 | 3 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | | |
| 〈刺激〉 | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | 4 | 11 | | |
| 〈自由〉 | | | | | | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 5 | | |
| 〈質感〉 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | 3 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 10 | | |
| 〈遮断〉 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | |
| 〈充足〉 | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 1 | 4 | |
| 〈柔軟性〉 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 5 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 8 | | |
| 〈柔和〉 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | 6 | | |
| 〈重厚さ〉 | 1 | | 2 | 1 | | | | 1 | 4 | | 3 | | 1 | | | | 2 | | | | 2 | | 1 | | | | | | 3 | 21 | | |
| 〈小ささ〉 | | | | | | | | 2 | 1 | 3 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | 8 | | |
| 〈親近感〉 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | 4 | | |
| 〈親和性〉 | | | | | 1 | | | 2 | 4 | 1 | | 6 | | | | | | 1 | | | 2 | | 3 | | | 1 | | | | 21 | | |
| 〈整合〉 | | 2 | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | 8 | | |
| 〈清潔さ〉 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 4 | | |
| 〈生命感〉 | | | | | | 1 | 1 | 2 | | 3 | 4 | | | | 2 | | | | | | | 1 | 5 | | 1 | 1 | | | 1 | 22 | | |
| 〈精巧〉 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 3 | | |
| 〈疎外〉 | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 5 | | |
| 〈多様性〉 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 〈大雑把〉 | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | 1 | 7 | | |
| 〈単純性〉 | | 3 | | 2 | | | | 1 | 8 | 1 | 1 | 4 | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 2 | | 2 | | 1 | 1 | 29 | | |
| 〈断片〉 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 4 | | |
| 〈伝統性〉 | | | | 1 | | 1 | 1 | | 3 | | 4 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | | |
| 〈賑わい〉 | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| 〈美しさ〉 | | | 1 | | 1 | | | | 2 | | 3 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 10 | | |
| 〈不適〉 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 3 | | |
| 〈複雑〉 | 1 | | 2 | | | | | 1 | 1 | | 3 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | 14 | | |
| 〈平坦〉 | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 4 | | |
| 〈包容〉 | | | | | 2 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | | | 7 | | |
| 〈豊穡〉 | | | | 2 | 1 | 1 | | | 1 | | 2 | 2 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 14 | | |
| 〈明るさ〉 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 〈明快〉 | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 5 | | |
| 〈抑揚〉 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | |
| 〈落着〉 | | | | | | | | 1 | | 2 | | | | | | 1 | | | | | 1 | | 2 | | | | | | | 7 | | |
| 〈湾曲〉 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | 4 | | |
| 〈曖昧〉 | 1 | | | | 1 | | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | | | | 1 | | | | | | | | 2 | | | | | | 1 | 1 | 18 | |
| 総計 | 6 | 9 | 7 | 6 | 12 | 6 | 4 | 21 | 58 | 17 | 49 | 51 | 7 | 2 | 4 | 11 | 2 | 6 | 1 | 6 | 6 | 6 | 17 | 45 | 3 | 3 | 12 | 2 | 3 | 33 | 5 | 420 |



図 4-4 主体と表出概念のコレスポンデンス分析散布図

4-4 主体・基本義・表出概念からみる建築の具体の様相の類型

本章では、擬態語表現における建築の具体の様相を決定づける 3 つの要素として主体、基本義、表出概念を位置づけている。これらの要素間のコレスポンド分析散布図から得られたそれぞれの傾向を重ね合わせ、語義により類型を導出し、擬態語表現における建築の具体の様相を考察する。そのため、本章 3 節 1 項の主体と基本義のコレスポンド分析により得られた傾向と本章 3 節 2 項の主体と表出概念のコレスポンド分析により得られた傾向の違いとその強弱を手がかりとしてすべての事例を比較考察し、原文の記述内容も考慮した上でいくつかの意味のまとまりとして位置づけた^{注 32)} (図 4-5)。その上で、意味のまとまりの枠組みをもっとも端的に表せるよう、本章 3 節 1 項で得られた傾向を縦軸、本章 3 節 2 項で得られた傾向を横軸として、二次元上に位置づけた図を作成した。その結果、擬態語表現における建築の具体の様相として少なくとも A~Z の 26 の類型が認められた。以下に、各類型の考察を述べる。

類型 A：素材の定着感による伝統性の感知

この類型は、「上州の山々の連なる平地の中に建つ立地条件として、切妻の鈍色の瓦屋根と白漆喰の壁に、民家の伝統というものを踏まえて、しつとりと落ち着いたものにしたい」^{注 33)} などの描写のように、【材料】，【湿潤度(小)】，〈伝統性〉などの組合せにより、十分に保水されたかのような外装材の様子から建築物が周辺の街並みと馴染んで、伝統性を体現しようとすることを表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、材料が力強さをもつことや湿潤な状態を表すことで、風土に対し定着している様子を表現し、そこに質感に時間を宿した深みを見出しているといえる。

類型 B：強固さによる万全な機能の働きの様相

この類型は、「腰まで積まれたガッシリとした玉石コンクリートの上に軽い木造の 3 絞点アーチをのせたこの家は、構造的に非常に安定しており、風雨に対してもきわめて堅牢である」^{注 34)} などの描写のように、【材料】，【固定度(大)】，〈強固〉などの組合せにより、構造材料の性質と構成から、建築物が気候条件において壊れないよう頑丈にできている様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、部材や構造が力強さや固さをもつことで、それらの機能が十分に働いている様子を表現しているといえる。

類型 C：精巧な継ぎ目による清楚さの付与

この類型は、「空間を構成する要素を最小限に押さえながら、すっきりとしたディテールに整理することによって、そこに内と外とが融合する『透明な空間の秩序』が浮かび上がっていく」^{注 35)} などの描写のように、【ディテール】，【整然性(小)】，〈整合〉などの組合せにより、必

要最低限の構成要素により精巧に処理された部分が、建築全体の透き通った印象を生み出している様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築物が秩序だって構成されることで、構成されたものの面が揃い、そこに清潔感や清楚さを見出しているといえる。

類型D：減算的部位構成による美観の付与

この類型は、「小さな枠や戸あたりは見せないようにしたりしています。この方法は枠回りがすっきりするのは当然ですが、同時に壁の仕舞がきちっとしますので、私はしばしばこの手を使っています」^{注 36)}などの描写のように、〔ディテール〕，【整然性(小)】，〈印象(良)〉などの組合せにより、最小限の部分詳細の構成に好印象を持っている様子を表している。また、「小さいとはいえちゃんとした建築としてつくりたかったから、紅茶用の茶室とした。小さくとも本格的建築として認められているビルディングタイプは、世界の建築史上でも日本の茶室しかないのである」^{注 37)}などの描写のように、〔建築全体〕，【整然性(小)】，〈美しさ〉などの組合せにより、建築物の規模に関わらず特化された専用性を既存の建築物の型に重ねて構想することで、日本の情緒などに通じる美意識を思わせる建築物にしている様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、仕上げや部材が、無駄なものが省かれ合理的に構成されることで、構成そのものにシンプルな美しさが宿っている様子表現しているといえる。

類型E：触覚による空間がもつ肌理の伝達

この類型は、「透明だが表面と輪郭は滑らかではなく、微妙にもぞもぞしている。近づくにつれ凹凸のあるファサードは表情を持ち始め、見る角度によって形状や方立の密度が柔軟に変化する」^{注 38)}などの描写のように、〔ヴォリューム〕，【不明瞭性(小)】，〈質感〉などの組合せにより、建築外観の不定の視覚形状を質感に例えることで印象的に伝えている。また、「近づくにつれ、明確で力強い外形線は姿を消し、不均質にデコボコした外壁、ザラザラした手触りの内壁や天井が現れる」^{注 39)}などの描写のように、〔壁〕，【凹凸(大)】，〈複雑〉などの組合せにより、視認する位置により見え方が変化する壁の質感の様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、壁の表面が触覚的に認識しやすい状態であることで、質感を人の感覚に近づけ、より仔細に壁がもつ印象を表現しているといえる。

類型F：強い屈曲形状がもたらす心理的揺動

この類型は、「ビル内部には局部的に、円弧や階段形のジグザグ線といった形のモチーフ…の使用によって、単調になりがちなオフィスビルの空間に刺激を与えている」^{注 40)}などの描写のように、〔調度品〕，【折れ方(強)】，〈刺激〉などの組合せにより、慣例的で単調な機能空間の中に、角度のある形状をもち込むことで空間に変化をつけている様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、部位や構造の形状に着目し、その屈曲の強度により、単調ではない様子を表し、周囲に対し刺激を与えるような性質を付与しているといえる。

類型 G：曖昧な表層による希薄な建築空間の創出

この類型は、「これはアースワークプロジェクトが試みている『建設の透明化』を記述したものであり、同時にぼんやりとした手が届くようで届かない表層を実現しようとしたものでもある」^{注 41)}などの描写のように、「建築外観」，【不明瞭性(大)】，〈曖昧〉などの組合せにより、明瞭に視認することが困難で捉えどころのない建築外観の様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築物の周辺にある環境要素や建築物の外形が不明瞭で曖昧な状態であることで、それらによって形成された建築空間の存在感が希薄になっている様子を表現しているといえる。

類型 H：コンパクトさによる充足した居住性の獲得

この類型は、「広く快適にくつろげるようなキッチンや浴室をつくったり、小さくこじんまりとした快適な寝室をつくっている」^{注 42)}などの描写のように、「室空間」，【量(小)】，〈印象(快適)〉などの組合せにより、小さく無駄のない空間の快適な様子を表している。また、「1階2階とも夫々11.25坪で1階は居住部分で2階は建築設計になつている。ローコストのこざつぱりした清潔な感じは好感がもてる…」^{注 43)}などの描写のように、「建築全体」，【量(小)】，〈印象(良)〉などの組合せにより、余計なものがなく建築物が小さくまとまり整頓された印象を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築物の物量が小さくコンパクトな状態となることで、その中にある空間の住機能の無駄が省かれて洗練され、快適さを獲得しているといえる。

類型 I：触覚による建築物表面の魅力の伝達

この類型は、「床のオークフローリングの浮造り加工は、はだしで歩き回りたくなくなるくらいのごつごつ加減で…」^{注 44)}などの描写のように、「床」，【硬度(大)】，〈美しさ〉などの組合せにより、魅了されるような硬さの感触がある床の様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築部位の表面を、人が触った際に心地のよいものとして表現することで、部位そのものに魅力を感じさせているといえる。

類型 J：物性の抑揚による背景との脱着

この類型は、「このタイル壁面…地味な、温灰白色であり、遠望だと目だたないが、近づいてみると、シットリと見応えがある」^{注 45)}などの描写のように、「壁」，【湿潤度(小)】，〈重厚さ〉などの組合せにより、壁の色の効果から周辺環境に溶け込んでいながらそれ自体の存在性も示している様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築物が周辺環境と一体となる描写や、逆に周囲のものと差異化されるような描写を行うことで、建築物とその背景の関係を操作し、存在感の強弱をつけているといえる。

類型 K：有機的な質感による自然の象徴

この類型は、「もうひとつの顔は『孔』である．大谷石の全体はスポンジのようにボソボソしていて、ミソは其中でもとりわけ大きな『孔』である」^{注 46)}などの描写のように、〔材料〕，【乾燥度(大)】，〈質感〉などの組合せにより、乾燥して荒れた材料の表面をそのまま建築外観として表現している様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築物表面の風化による荒々しさを表現することで、素材そのものの質感が強調され、無垢である状態を印象づけているといえる。

類型 L：極端な形状による固有の物性の付与

この類型は、「日常に関わりながら皮膚感覚に訴えて部分をさまざまに演出してゆくのがコンクリートブロックである．コンクリートブロックは刻々移り変わる光や風を受け、透過させて、建物内部に多様な風景を生み出してゆく．ざらざらした表面をなでてゆく光を、コンクリートブロックのひとつひとつが内部へ吸い込んで結晶させ、ほのかな輝きとして表わし出す」^{注 47)}などの描写のように、〔材料〕，【粗さ(粗)】，〈刺激〉などの組合せにより、材料に特有な表面の粗さの性質に着目し、それによって生じる身体感覚に働きかける現象の様子を表している。また、「屋根勾配はばらばら、屋根・外壁の色（白・紺・オレンジ・シルバー）も違えて、似ていながら同じでない、反復連続に耐えられる戸建ての集合をつくり出している。」^{注 48)}などの描写のように、〔屋根〕，【散在性(大)】，〈複雑〉などの組合せにより、各々異なった要素を取り入れることで個性を示す、類似したタイプの建築物による群ができている様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築部位や構造の複雑な形状に着目し、それが周囲とは異なる状態であることを印象づけることで、各々が固有の性質をもっていることを表現しているといえる。

類型 M：鋭鈍による空間の際立ち

この類型は、「琉球松の林に映える赤瓦の稜線のくっきりとしたコントラストは…目をみはらせるものがあつた」^{注 49)}などの描写のように、〔屋根〕，【明瞭性(鋭)】，〈美しさ〉などの組合せにより、建築物の外郭がその色と形状によって、背景となっている自然との対比により鮮明に浮き上がったように見える様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、空間自体に強弱がついているように描写されることで、その存在が際立っている様子を表しているといえる。

類型 N：建築空間を内包する自然環境の雄大さの獲得

この類型は、「のびのびとしたうねりのある芝生面を自然の『地』とし、これにふたつの『点』の幾何学的な要素を重ねさせている」^{注 50)}などの描写のように、〔地形〕，【弛緩性(小)】，〈重厚さ〉などの組合せにより、自身に比して広大な自然の一部に建築物が位置づけられている様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築物の周辺にある自然や地形が広がりをもつように描写されることで、建築物を包み込むことが出来る自然環境の大きさと存在感を示しているといえる。

類型 0：緩やかに周辺に溶け込む建築の佇まい

この類型は、「建物は華純な直線によって組立てられた四角な面で構成され、小さな凹凸をなくし、色彩も明るいグレーに統一されている。従って比較的小さな會堂(41. 33 坪)にのびのびとした大きさを感じることが出来る」^{注 51)}などの描写のように、〔建築全体〕，【弛緩性(小)】，〈曖昧〉などの組合せにより、その小ささにも関わらず周辺環境との関係の中で消されてしまうことのない、色の効果による建築物の伸びやかな演出の様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築全体を柔らかな存在として描写し、周囲の環境に対し溶け込んでいる状態を表現することで、建築物と周囲の環境が一体のものとして捉えられているといえる。

類型 P：存在感のある周辺要素の図像化

この類型は、「ファサードは穴をあけた 10mm のアルミ板で覆われ…質感や色がばらばらで、そしていろいろなパーツが秩序なく集積している銀座の晴海通りの中で…」^{注 52)}などの描写のように、〔周辺環境〕，【散在性(大)】，〈複雑〉などの組合せにより、色とりどりの周辺建築物から形成される街並みを、窓から眺めるひとつの特徴ある景色としている様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築物を取り巻く周辺物や環境要素が各々個性的な性状を持ち、存在感を纏ったその様子が、額縁を持った絵画のようにひとつの図像として捉えられているといえる。

類型 Q：添景による空間の生命感の示唆

この類型は、「事務室の空間的な特質として第 1 にあげられる点は…室内にのびのびとした明かるさと、生き生きとした活気をもたらした」^{注 53)}などの描写のように、〔環境要素〕，【弛緩性(小)】，〈生命感〉などの組合せにより、光の明るさの質が空間に活気を生む要因になっていることを表している。また、「食堂のテーブルを木製にして…ほっとする華やいだ時間をプレゼントしたかった」^{注 54)}などの描写のように、〔人〕，【不明瞭性(小)】，〈生命感〉などの組合せにより、自然素材でできた家具がある部屋から受ける人の安堵の様子を表している。さらに、「コンサートホール ATM は、広げた掌の真ん中にステージを置いたような平面形をした…こうして、こじんまりとした単位に心理的にグルーピングされ、居心地のよいスケールのなかに座ることになる」^{注 55)}などの描写のように、〔人〕，【量(小)】，〈印象(快適)〉などの組合せにより、大きな室空間において、小さな人の集合単位を設定することで快適に時間を過ごせる空間にしている様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、人や反射光などの建築物の添景となる要素に生命感を見出すことで、それらが存在する空間自体にも、生命感を創出させているといえる。

類型 R：周辺環境要素の建築設計に適用可能な豊かさの獲得

この類型は、「ここでは建物周囲の緑をふんだんに取り入れ、ゆったりとしたこの環境を十二分に享受するために、木造部の公室はあくまでも透けた空間であってほしい。そのため木造部の壁量を可能な限り落し、必要な横力は鉄筋コンクリート造にもたせるという混構造ならではの構造計画を採用している」^{注 56)}などの描写のように、〔周辺環境〕，【弛緩性(小)】，〈豊饒〉などの組合せにより、豊富な周辺の緑などの環境を活しながら建築物を構成することで空間の悠然さを高めている様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、豊かで雄大な自然環境に美しさや親和性を見出すことで、それらが建築設計において活用できるものとして捉えられているといえる。

類型 S：適度な温湿度感による空間への安らぎの創出

この類型は、「収納をたくさん取ってあげて、それぞれに納まって、初めて、ほのぼのとする余裕も生じようというものだ。さもないと家に金を掛けて、ゴミに囲まれスラムに棲息するようなことになる」^{注 57)}などの描写のように、〔内部空間〕，【温かさ(小)】，〈安心感〉などの組合せにより、物に溢れた現代生活の中で、物が所定の場所に納まりその存在が薄れることで、人に安息をもたらす空間ができる様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、内部空間や建築全体の人が快適と感じる適度な温度感や湿度感を表現することで、そこに安らぎを見出しているといえる。

類型 T：強固さによる建築空間の奥深さの獲得

この類型は、「本計画も経済的、気候的要因から鉄筋コンクリート以外の選択肢はあり得なかったし、ペランペランよりもガッシリしたものの方が、ワークショップの総意からもこの地には適していると判断した」^{注 58)}などの描写のように、〔建築全体〕，【固定度(大)】，〈伝統性〉などの組合せにより、構造的に強固につくされた建築物の佇まいに、風土性を見出す様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、建築全体やその空間に、力強さや、強固であるがゆえの安心感を印象づけることによって、あたかも歴史や風土性が刻み込まれたような奥深さを表現しているといえる。

類型 U：明快な骨格形状による空間の開放性の獲得

この類型は、「レベル差をもつ鉄筋コンクリートの床盤を地盤面から浮かせて設定する。内外を貫くジグザグのウォークウェイおよび大小のテラス、ブリッジをプロットする」^{注 59)}などの描写のように、〔動線空間〕，【折れ方(強)】，〈開放性〉などの組合せにより、強く屈折しながら建築物を貫入するように配された動線空間の構成から、外部が内部に侵入している様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、構造や形状を軽快で明快なものと表現することで、それらによって形成される空間に開放性を付与しているといえる。

類型V：空間の包容力による安堵感の創出

この類型は、「house N は大分市の住宅地の中にある、半ば都市であり半ばいえであるような、ぼんやりとした領域の『住むための場所』である」^{注 60)}などの描写のように、〔領域〕，【不明瞭性(大)】，〈曖昧〉などの組合せにより、空間の内部から外部への変わり目が不明で内部なのか外部なのかかわからない状態をつくり出すことで、広がりがある居住空間の様子を表している。また、「広々としたゴルフ場の中にあるハウスは、入口玄関からフロント、さらに階段、社交室といずれも広々とゆったりとした寸法をとり、色彩もやわらかく、中に入る人々に深い憩いを与えることを設計の基本として進めた」^{注 61)}などの描写のように、〔室空間〕，【弛緩性(小)】，〈安心感〉などの組合せにより、空間の寸法的な余裕が人の心のゆとりを生み出すことを意図した様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、空間が柔らかさや広がりをもつことで包容力が生まれ、その空間が安心感や落ち着きを与える力をもっている様子を表現しているといえる。

類型W：空間の包容力による一体感の創出

この類型は、「吹抜けのホールとトップライトで建物を南北に分割し、明るくゆったりとした空間とし、しかも外部との区別をできるだけなくすようにした」^{注 62)}などの描写のように、〔内部空間〕，【弛緩性(小)】，〈一体〉などの組合せにより、開口部などによる空間の広がりから、空間に視覚的、物理的な一体感ができる様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、類型Vに対して、空間に包容力が生まれることで、包まれたものに親和性や一体感が生まれている様子を表現しているといえる。

類型X：空間の延伸性による開放感の創出

この類型は、「同じミニ開発であっても閉塞感のない、のびのびとした外部空間の開発ができないものかと考えた…これによって敷地の東西および南北にオープンスペースのヌケが生まれ、敷地内道路空間を建物で囲い込むことなく隣接宅地に開くことに成功した」^{注 63)}などの描写のように、〔外部空間〕，【弛緩性(小)】，〈開放性〉などの組合せにより、広がりのある外部空間により見通しができる様子を表している。

つまり、この類型における建築の具体の様相は、空間に広がりをもたせることで、開放感を与えているといえる。

類型Y：柔軟な空間による場の活気の創出

この類型は、「ラウンジはこのホテルの唯一のコミュニケーションの場として捉え、…このガーデンラウンジのゆったりしたスペースと、日本庭園の滝を眺めながらのくつろぎは、リゾート性を満たすに十分であろうし国際ホテルの応接間として、その機能を果たしてくれると思う」^注

⁶⁴⁾ などの描写のように，〔室空間〕，【弛緩性(小)】，〈開放性〉などの組合せにより，特定の用途をもたない空間に余裕をもたせて様々な活動の実施を許容したり，風景を取り入れたりすることで，空間を活性化する様子を表している。

つまり，この類型における建築の具体の様相は，余裕を持った空間自体が，柔軟に人の行動に対応することで，その場に活気を創出させているといえる。

類型Ⅱ：空虚の強調による空間への虚無感の付与

この類型は，「解体直後の，コンクリート躯体のみのガランとした大きなひとつの部屋のような状態と，プラスターボードを剥がしたままの水玉模様のような GL ボンド跡を見て，クライアントもわれわれも一目でその空間を気に入った」^{注 65)} などの描写のように，〔室空間〕，【空隙度(大)】，〈空虚感〉などの組合せにより，生活感が感じられず，空間だけがただ広がっているような純粋な状態に魅力を感じる様子を表している。

つまり，この類型における建築の具体の様相は，空間の密度が低いことを強調することで，何もないことで生まれる単純さや，空虚感を表現しているといえる。

| | 物性の洗練による機能の正当化 | 初源的構築要素の表象の獲得 | 周辺要素の情景化 | 感情への作用をもつ空間 |
|-------------------------|---|---|---|---|
| 身体によつて物性の尺度感知される | <p>A: 素材の定着感による伝統性の感知 (4)</p> <p>【材料】【湿度 (小)】〈伝統性〉</p> <p>「…白漆喰の壁に、民家の伝統というものを踏まえて、しつとりと落ち着いたものに…」 注 33</p> <p>B: 強固さによる万全な機能の働きの様相 (13)</p> <p>【材料】【固定度 (大)】〈強固〉</p> <p>「腰まで積まれたガッシリとした玉石コンクリート…風雨に対してもきわめて堅牢である」 注 34</p> <p>C: 精巧な継ぎ目による清楚さの付与 (10)</p> <p>【ディテール】</p> <p>【整然性 (小)】〈整合〉</p> <p>「…要素を最小限に押さえながら、すっきりとしたディテールに整理することによって、そこに内と外とが融合する…」 注 35</p> | <p>I: 触覚による建築物表面の魅力の伝達 (9)</p> <p>【床】【硬度 (大)】〈美しさ〉</p> <p>「オークフローリングの…はだして歩き回るとなるくらいのごつごつ加減で…」 注 44</p> <p>J: 物性の抑揚による背景との脱着 (25)</p> <p>【壁】【湿度 (小)】〈重厚さ〉</p> <p>「このタイル壁面…遠望だと目だたないが、近づいてみると、シットリと見応えがある」 注 45</p> <p>K: 有機的な質感による自然の象徴 (7)</p> <p>【材料】【乾燥度 (大)】〈質感〉</p> <p>「もうひとつの顔は『孔』である。大谷石の全体は…ボソボソして…」 注 46</p> <p>【壁】【凹凸 (大)】〈複雑〉 注 39</p> <p>【建築全体】【整然性 (小)】〈美しさ〉 注 37</p> <p>【材料】【粗さ (粗)】〈刺激〉 注 47</p> | <p>P: 存在感のある周辺要素の図像化 (10)</p> <p>【周辺環境】</p> <p>【散在性 (大)】〈複雑〉</p> <p>「ファサードは穴をあけた10mmのアルミ板で覆われ…質感や色がばらばらで、そしていろいろなパーツが秩序なく集積している銀座の晴海通り…」 注 52</p> | <p>S: 適度な温湿度感による空間への安らぎの創出 (12)</p> <p>【内部空間】</p> <p>【温かさ (小)】〈安心感〉</p> <p>「収納はできるだけ多くしてあげたい。収納をたくさん取ってあげて、それぞれに納まって、初めて、ほのぼのとする余裕も生じようというものだ。さもないと家に金を掛けて、ゴミに囲まれスラムに棲息するようなことになる」 注 57</p> <p>T: 強固さによる建築空間の奥深さの獲得 (5)</p> <p>【建築全体】</p> <p>【固定度 (大)】〈伝統性〉</p> <p>「本計画も経済的、気候的要因から鉄筋コンクリート以外の選択肢はあり得なかったし、ペランペランよりもガッシリしたものの方が、ワークショップの総意からもこの地には適していると判断した」 注 58</p> |
| 建築物内外境界部による建築物質の増幅による規定 | <p>D: 減算的部位構成による美観の付与 (13)</p> <p>【ディテール】</p> <p>【整然性 (小)】</p> <p>【印象 (良)】</p> <p>「戸当たりは見えないようにし…枠回りがすっきりする…壁の仕舞がきちっとする」 注 36</p> <p>E: 触覚による空間をもつ肌理の伝達 (4)</p> <p>【ヴォリューム】</p> <p>【不明瞭性 (小)】〈質感〉</p> <p>「表面と輪郭は…微妙にもぞもぞしている。近づくにつれ凹凸のある…」 注 38</p> <p>F: 強い屈曲形状がもたらす心理的揺動 (8)</p> <p>【調度品】【折れ方 (強)】〈刺激〉</p> <p>「ジグザグ線といった形のモチーフ…空間に刺激を与えている」 注 40</p> | <p>【屋根】</p> <p>【散在性 (大)】〈複雑〉</p> <p>「屋根勾配はばらばら、屋根・外壁の色 (白・紺・オレンジ・シルバー) も違えて、似ていながら同じでない、反復連続に耐えられる戸建ての集合をつくり出している」 注 48</p> <p>L: 極端な形状による固有の物性の付与 (26)</p> | | <p>U: 明快な骨格形状による空間の開放性の獲得 (4)</p> <p>【動線空間】</p> <p>【折れ方 (強)】</p> <p>【開放性】</p> <p>「レベル差をもつ鉄筋コンクリートの床盤を地盤面から浮かせて設定する。内外を貫くジグザグのウォークウェイおよび大小のテラス、ブリッジをプロットする」 注 59</p> |
| 鋭る鈍る建による空間の在体化 | <p>G: 曖昧な表層による希薄な建築空間の創出 (5)</p> <p>【建築外観】</p> <p>【不明瞭性 (大)】〈曖昧〉</p> <p>「これはアースワークプロジェクトが試みている『建設の透明化』を記述したものであり、同時にぼんやりとした手が届くようで届かない表層を実現しようとしたものでもある」 注 41</p> | <p>M: 鋭鈍による空間の際立ち (9)</p> <p>【屋根】【明瞭性 (鋭)】〈美しさ〉</p> <p>「琉球松の林に映える赤瓦の稜線のくっきりとしたコントラストは、黒船のペリーを感嘆せしめ、陶器や、紅型、舞踊にみる民族文化の香り高い美しさは、柳宗悦をして、目をみはらせるものがあつた」 注 49</p> | <p>Q: 添景による空間の生命感の示唆 (7)</p> <p>【環境要素】</p> <p>【弛緩性 (小)】</p> <p>【生命感】</p> <p>「…室内にのびのびとした明かさと、生き生きとした活気をもたらした」 注 53</p> | <p>V: 空間の包容力による安堵感の創出 (26)</p> <p>【領域】【不明瞭性 (大)】〈曖昧〉</p> <p>「house Nは大部分の住宅地の中にある、半ば都市であり半ばいえであるような、ぼんやりとした領域の『住むための場所』である」 注 60</p> <p>【人】【不明瞭性 (小)】〈生命感〉</p> <p>「食堂のテーブルを木製にして…ほっとする華やいだ時間をプレゼントしたかった」 注 54</p> <p>【人】【量 (小)】〈印象 (快適)〉 注 55</p> <p>【室空間】【弛緩性 (小)】〈安心感〉 注 61</p> |
| 空間の余裕の様相 | <p>H: コンパクトさによる充足した居住性の獲得 (4)</p> <p>【室空間】</p> <p>【量 (小)】</p> <p>【印象 (快適)】</p> <p>「広く快適にくつろげるようなキッチンや浴室をつくったり、小さくこじんまりとした快適な寝室をつくっている」 注 42</p> | <p>N: 建築空間を内包する自然環境の雄大さの獲得 (8)</p> <p>【地形】</p> <p>【弛緩性 (小)】〈重厚さ〉</p> <p>「のびのびしたうねりのある芝生面を自然の『地』とし、これにふたつの『点』的幾何学的な要素を重ねさせている」 注 50</p> <p>O: 緩やかに周辺に溶け込む建築の佇まい (10)</p> <p>【建築全体】【弛緩性 (小)】〈曖昧〉</p> <p>「建物は華やかな直線によって組立てられた四角な面で構成され、小さな凹凸をなくし、色彩も明るいグレーに統一されている。従って比較的小さな會堂 (41.33坪) へのびのびとした大きさを感じることが出来る」 注 51</p> | <p>R: 周辺環境要素の建築設計に適用可能な豊かさの獲得 (8)</p> <p>【周辺環境】</p> <p>【弛緩性 (小)】</p> <p>【豊穡】</p> <p>「ここでは建物周囲の緑をふんだんに取り入れ、ゆったりとしたこの環境を十二分に享受するために、木造部の公室はあくまでも透けた空間であってほしい。そのため木造部の壁量を可能な限り落とし、必要な横力は鉄筋コンクリート造にもたせるという混構造ならではの構造計画を採用している」 注 56</p> | <p>W: 空間の包容力による一体感の創出 (32)</p> <p>【内部空間】</p> <p>【弛緩性 (小)】〈一体〉</p> <p>「明るくゆったりとした空間とし、しかも外部との区別をできるだけなくす…」 注 62</p> <p>Y: 柔軟な空間による場の活気の創出 (17)</p> <p>【室空間】</p> <p>【弛緩性 (小)】〈開放性〉</p> <p>「…ガーデニングラウンジのゆったりとしたスペース…」 注 64</p> <p>X: 空間の延伸性による開放感の創出 (23)</p> <p>【外部空間】</p> <p>【弛緩性 (小)】〈開放性〉</p> <p>「…閉塞感のない、のびのびとした外部空間…」 注 63</p> <p>Z: 空虚の強調による空間への虚無感の付与 (17)</p> <p>【室空間】</p> <p>【空隙度 (大)】〈空虚感〉</p> <p>「…コンクリート躯体のみのガラシとした大きなひとつの部屋…」 注 65</p> <p>【建築全体】【量 (小)】〈印象 (良)〉 注 43</p> |

※図中、横軸は主体と表出概念からみた傾向の軸、縦軸は主体と基本義からみた傾向の軸、□ は主体、[] は基本義、◇ は表出概念、「」 は記述例、() は事例数を示す。

図 4-5 主体・基本義・表出概念からみる擬態語表現における建築の具体的様相

4-5 小結

本章では、設計者が自身の建築物を言語描写する際に擬態語を用いて表現した建築の具体の様相について、主体、基本義、表出概念の組合せから考察を行った。まず、主体と基本義のカテゴリを全体の用法として関連性を考察した結果、身体によって感知される物性の尺度、形質の増幅による建築物内外境界の規定、鋭鈍により顕在化される建築空間の体系、空間の余裕の様相の4つの傾向に整理することができた。また、主体と表出概念においても同様に、物性の洗練による機能の正当化、初源的構築要素の表象の獲得、周辺要素の情景化、感情への作用をもつ空間の4つの傾向に整理することができた。これらを踏まえて、主体、基本義、表出概念の特徴を重ね合わせることによって考察した結果、少なくとも26種の擬態語表現における建築の具体の様相が認められた。これら26種の類型は主体、基本義、表出概念により意味づけられているが、さらにそれらの役割により大きく6つに特徴づけることができる。B, O, W, Xは、万全な機能を示す強固さや、開放性や包容力、親和性を示す延伸性を、ひとつのふるまいとして擬態語により捉えている。これらは、建築物が他者に対し影響を及ぼす働きを本来有している特性とし、具体化している。J, L, M, Nは、建築物がもつ物性の抑揚がその周辺環境との結びつきの強弱を、極端な形状がその固有さを、自然空間の広がりが顕著な雄大さを伝えている様子を擬態語により捉えている。これらは、建築物の特性が周囲に対し親和性をもち、建築物と周囲とを一体として認識しているか、また突出したものとして周囲と差異化しているかを表すことで、建築物と周囲との関係性の強弱を具体化している。D, F, I, R, Tは、減算的な部位構成が美観を、形状の屈曲の強さが心理的な揺動を、建築物表面の触覚的特徴が美観を、周辺環境要素の豊かさがそれらの適用可能性を、建築空間の強固さが奥深さを伝えている様子を擬態語により捉えている。これらは、固有の概念を建築物に付与することで、その建築物に独自の設計観を加えている様子を具体化している。A, K, P, V, Zは、材料の定着感が時間の概念を、有機的な質感が加工されていない自然な状態を、存在感のある周辺要素が図像としての特性を、空間の包容力がそこで人が感じる安堵感を、空間の密度の低さが虚無感を伝えている様子を擬態語により捉えている。これらは、建築物がもつ特性に新たな概念を見出し、設計を次の過程へと発展させている様子を具体化している。C, E, G, Uは、ディテールの整然さがそれらが組み合わさって出来る表層の清楚さを、材料の触感を示しそれによって囲まれる空間の特性を、表層の曖昧な物性を示すことでそれによって囲まれる空間の存在感の弱さを、構造を明確に示すことでそれによって生み出される空間の開放性を伝えている様子を擬態語により捉えている。これらは、全体に共通する特性の一部に焦点を当て、子細に表現することで、建築物の構成のされ方を具体化している。H, Q, S, Yは空間のコンパクトさが創り出す住み易さを、賑やかな構成要素が創り出す空間の生命感を、適度な温湿度感が創り出す空間の快適さを、空間の柔軟さが創り出す人の活気を伝えている様子を擬態語により捉えている。これらは、建築空間の中に動的な特性を付与させることで、建築空間を場として捉え、人々の営みを具体化している。

以上より、設計者は擬態語を用いて建築物がもつ意味を拡張することで、内在する特性を顕在化させ、周辺環境へ及ぼす作用や、その作用によって引き起こされる影響を表現し、建築物と周辺要素の結びつきを描写している。また、美しさや奥深さなど形状を形成する過程で表出してきた印象としての概念を建築物に付加することにより、設計者の独自の感性を表現している。さらに、部材の構成や空間を、構成要素を取り巻く環境として表現することで、その環境下で生み出される振る舞いを描写している。つまり擬態語によって伝えられる具体の様相は、自身の特性とその周囲への効果を明確にし、作用物としての役割を顕在化させるものから、自身の特性が抽象化され、構成要素を規定する背景となるものまで、建築の主体性の強弱を言い表していた。即ち、建築物とそれを取り巻く要素を総体として捉え、そこに偏向性を相対的に創り出す過程で表出してくる印象として建築に意味を付加していることが明らかになった。

注

- 注1) 言語音によって音や状態を表すことを言語学のうえで、音象徴という。擬声語や擬態語は、一般言語と比較して、音声と指示対象の恣意性が低く、音そのものがある特定のイメージを喚起させる（参考文献 4）。日本語においては、外界の音を客観的に模した語彙を擬声語（擬音語）、必ずしも音を伴わない事物の動きや状態を音声で象徴的に描写する語彙を擬態語とし区別している（参考文献 5）。本研究では、擬態語のみを扱っている。
- 注2) 本章では、主体、基本義、表出概念をキーコンテキストから抽出し、これらの語句の描写内容が示す意味と照らし合わせて結論を導出している。そのため、本文中の考察や図中における「 」内の記述では、抽出元となったキーコンテキストを考察内容に合わせて品詞の活用の変換や文字の省略を行い例示しているが、文法上の表現を変えてもこれによる本章の結論に関しての影響はないものとする。
- 注3) コレスポネンス分析とは、集計済みのクロス集計結果を使って、行の要素と列の要素を使い、それらの相関関係が最大になるように数量化して、その行の要素と列の要素を多次元空間（散布図）に表現するものである。類似度・関係性の強い要素同士は近くに、弱い要素同士は遠くにプロットされる。ただし、相対的な位置関係であり、絶対的なものではない。このとき、軸がクロスする原点付近にプロットされる要素は比較的特徴が薄いと解釈できる。図中の W は傾向が弱い、S は傾向が強いことを示す。
- 注4) 本研究では、擬態語という感覚的で曖昧な言葉を論考の要素とするうえで、客観性を高めるために、以下に説明する擬態語の言葉の特徴の理解のうえ擬態語の語義を確定し、整理している。擬態語は、言葉の恣意性によって成り立つ概念的意味を持つ一般概念語とは違い、音と意味との間に有縁性が認められる言葉であり、語基を構成する子音、その有声・無声、促音・流音・撥音・長音付きや語基の反復などの語形変化の特徴として、成立しているものの状態や運動の状態などの基本的な意味の傾向が表れる。例えば、「つるつる」や「さらさら」では、語基「つる」と「さら」に含まれる [t] と [s] という軽い弾きや摩擦によって起こる音と、[r] という横に滑る軽い摩擦音との組合せにより、軽やかで滑らかな接触感を表している。また、「ざらざら」では、軽いひっかかりや摩擦を表す [s] という音が [z] と濁ることで、滑らかでない接触を感じさせる（参考文献 6）。設計者が建物自体や建築空間を構成する要素の様相を伝達する際に用いた擬態語は、擬態語を構成するこのような音韻の特徴に基づいた意味の傾向を反映していることになり、それらを考慮して擬態語の意味を判別・分類することで、論考の客観性を高めるための一助になると考える。そこで、本研究では、擬態語の意味の判別と分類にあたり、擬態語の音韻の特徴から擬態語のもつ意味の傾向の概念を構造的に分析した Shouko Hamano や田島毓堂らの既往の言語学における研究の成果を中心に複数の文献（参考文献 4～10）を参考にし、擬態語の語基を構成する音韻の意味の傾向を考慮した上で、基本義を整理している。ただし、促音・流音・撥音・長音付きや語基の反復などの語形の変化の特徴にみられる意味の傾向は、語基の意味に運動の状態の長さや状態の連続性などのより些細なニュアンスの違いを付け加えるが、これらを分類することはサンプル数が分類数に比して極端に少なくなる分類が増えること、そして、本研究が設計者の思考を総体的に読み解く研究として位置づけていることを配慮し、基本義を分類する上で特に考慮していない。基本義を整理した表 4-3 の表記に使用した用語は、田島毓堂らの研究（参考文献 7）中に出てくる、音韻の特徴に基づく擬態語の基本的な意味傾向として、物体の状態性や運動の様子、物体の質・量的な属性、物体の有する刺激や鋭鈍の観点から分類し範疇化する際に用いている用語のうちで、本研究に出てくる擬態語の意味の範疇に当てはまる弛緩性、固定度、散在性、質量、量、薄さ、凹凸、衝撃、明度、硬度、軟度、乾燥度、粘性、鋭度、太さ、密集度を参照しており、必要に応じて湿潤度、粗さ、折れ方、円滑性、温かさ、空隙度、不明瞭性、明瞭性、臨界性、過剰性は他文献を参考に補足している。また、表記語尾の括弧内の大小などは、有声か無声かによる音韻の特徴からくる相対的な程度の意味のニュアンスを表し、語基に付随し擬態語の意味を大別する意味要素として付記している。擬態語の音韻が有声

音で濁音をもつ語句には、大きい、遅い、強い、重い、深い、厚い、堅い、粗い、鈍い、濁る、太い、力強いといった意味が表れるのに対して、無声音で濁音を持たない語句には、小さい、速い、弱い、軽い、浅い、薄い、柔らかい、細かい、鋭い、澄む、細い、鮮やかといった意味が表れる。分類に際し、必要な場合は、辞書に基づく用法も考慮している。

- 注5) 隈研吾：ちよつ蔵広場，新建築，p. 76，2006. 7
- 注6) 菊竹清訓：島根県立博物館，新建築，p. 52，1960. 2
- 注7) アトリエ・イマム：キャトル柿の木坂，新建築，p. 157，2009. 2
- 注8) 北海道建築工房：札幌豊平教会，新建築，p. 192，1987. 12
- 注9) 青木淳：SIA 青山ビルディング，新建築，p. 77，2008. 6
- 注10) スタジオ建築計画：朝日町エコミュージアムコアセンター 創遊館，新建築，p. 111，2000. 11
- 注11) 隈研吾：KRUG X KUMA = ∞ 〈無限大〉 KKK，新建築，p. 151，2005. 9
- 注12) 界工作舎：オフィスマシン，新建築，p. 200，1986. 2
- 注13) 清水建設：コープ・オリンピック，新建築，p. 188，1965. 6
- 注14) 第一工房：浪速芸術大学，新建築，p. 143，1966. 6
- 注15) 池原義郎：N邸，新建築，p. 197，1969. 5
- 注16) 川辺直哉：AOI apartment，新建築，p. 87，2007. 8
- 注17) 内井昭蔵：浦添市立図書館，新建築，p. 219，1985. 9
- 注18) 遠藤政樹＋池田昌弘：ナチュラルシーム，新建築，p. 171，2004. 6
- 注19) 森島清太：松原の家，新建築，p. 211，1984. 8
- 注20) 菊竹清訓：弘前市社会福祉センター，新建築，p. 233，1986. 12
- 注21) 黒川紀章：杉並区立中央図書館，新建築，p. 178，1982. 11
- 注22) 前川建築設計：専修寺納骨堂，新建築，p. 166，1999. 2
- 注23) 匠設計：やむちんの里，新建築，p. 206，1982. 3
- 注24) 隈研吾：オボジットハウス，新建築，p. 117，2009. 3
- 注25) 日建設計：裏磐梯国民休暇村宿舎，新建築，p. 86，1964. 9
- 注26) 宮本佳明：ヒ，新建築，p. 102，2001. 2
- 注27) 竹内武弘：神宮前太田ビル，新建築，p. 236，1982. 3
- 注28) 現代計画研究所：山下邸 民家型工法住宅，新建築，p. 228，1983. 2
- 注29) 竹中工務店：ペアシティ・サクラピア成城，新建築，p. 267，1989. 3
- 注30) 建築企画設計社：アルファコート伏見，新建築，p. 251，1983. 10
- 注31) 長島孝一：那須友愛の森，新建築，p. 242，1988. 8
- 注32) 縦軸は、主体と基本義のコレスポンド分析により得られた傾向、横軸は主体と表出概念のコレスポンド分析により得られた傾向を示す。各類型において、代表的な組合せを示す。〔 〕は主体の分類，【 】は基本義の分類，〈 〉は表出概念の分類，（ ）内の数字は類型の数を示す。
- 注33) 大熊喜英：黒沢邸，新建築，p. 209，1978. 8
- 注34) 遠藤楽：山荘-3，新建築，p. 62，1961. 8
- 注35) 前川建築設計：専修寺納骨堂，新建築，p. 166，1999. 2
- 注36) 板垣元彬：吉屋邸，新建築，p. 243，1982. 8
- 注37) 藤森照信：空飛ぶ泥船，新建築，p. 190，2010. 9 「小さいとはいえちゃんとした建築としてつくったから、紅茶用の茶室とした。小さくとも本格的建築として認められているビルディングタイプは、世界の建築史上でも日本の茶室しかないのである。」
- 注38) 石黒由紀：F-SPACE，新建築，p. 158，2009. 5

- 注39) SOYsource 建築設計事務所：日本バプテスト仙台基督教会，新建築，p. 147，2008. 1 「近付くにつれ，明確で力強い外形線は姿を消し，不均質にデコボコした外壁，サラザラした手触りの内壁や天井が現れる．」
- 注40) 山下和正：ペガサスビル，新建築，p. 184，1979. 6
- 注41) 吉松秀樹＋アーキプロ：アースワークセンター，新建築，p. 156，2000. 8
- 注42) 西沢立衛：船橋アパートメント，新建築，p. 82，2004. 6
- 注43) 小椋建築設計：ローコストの小事務所，新建築，p. 73，1955. 9 「1階2階とも夫々11.25坪で1階は居住部分で2階は建築設計になっている．ローコストのこざつぱりした清潔な感じは好感がもてるが，南面外観の処理は少しうるさくて成功しているとはいえない．」
- 注44) 隈研吾：オボジットハウス，新建築，p. 117，2009. 3
- 注45) 竹中工務店：東京天理教館，新建築，p. 132，1962. 7
- 注46) 隈研吾：ちょっ蔵広場，新建築，p. 76，2006. 7
- 注47) 安藤忠雄：フェスティバル，新建築，p. 205，1984. 11 「日常に関わりながら皮膚感覚に訴えて部分をさまざまに演出してゆくのがコンクリートブロックである．コンクリートブロックは刻々移り変わる光や風を受け，透過させて，建物内部に多様な風景を生み出してゆく．ざらざらした表面をなでてゆく光を，コンクリートブロックのひとつひとつが内部へ吸い込んで結晶させ，ほのかな輝きとして表わし出す．」
- 注48) 若松均：上用賀のコートハウス，新建築，p. 205，2007. 8
- 注49) 匠設計：やむちんの里，新建築，p. 206，1982. 3
- 注50) 曽根幸一・環境設計研究所：富山県総合運動公園陸上競技場，新建築，p. 222，1995. 1
- 注51) 山口文象：久ヶ原教會，新建築，p. 250，1950. 9
- 注52) 乾久美子建築設計：ディオール銀座，新建築，p. 147，2004. 12
- 注53) 丹下健三研究室・神谷宏治：香川県庁舎，新建築，p. 101，1959. 1
- 注54) 工藤国雄＋L-HOUSE：ニコニコのり九州工場，新建築，p. 308，1991. 4
- 注55) 磯崎新／三上建築事務所：水戸芸術館，新建築，p. 233，1990. 7 「コンサートホールATMは，広げた掌の真ん中にステージを置いたような平面形をした…こうして，こじんまりとした単位に心理的にグルーピングされ，居心地のよいスケールのなかに座ることになる．」
- 注56) 宮脇檀：中山邸，新建築，p. 169，1984. 2
- 注57) 石井和紘：児玉邸，新建築，p. 265，1980. 8
- 注58) フナキサチコケンチクセッケイジムショ／細矢仁建築設計：沖縄小児保健センター，新建築，p. 82，2009. 2
- 注59) 宇野求＋フェイズアソシエイツ：VILLA FUJII，新建築，p. 83，2000. 10
- 注60) 藤本壮介建築設計事務所：house N，新建築，p. 122，2008. 9
- 注61) 都市建築研究所・吉川清作・窪田保彦・吉川晴夫：紫カントリークラブ・ハウス，新建築，p. 68，1961. 6，「広々としたゴルフ場の中にあるハウスは，入口玄関からフロント，さらに階段，社交室といずれも広々とゆったりとした寸法をとり，色彩もやわらかく，中に入る人々に深い憩いを与えることを設計の基本として進めた．」
- 注62) 高原生樹建築設計：敷石屋根の家，新建築，p. 293，1983. 8
- 注63) タオアーキテクト：代沢の家街並みに配慮した小規模宅地開発，新建築，p. 169，2003. 11
- 注64) 大成建設：ホテルニューオータニタワー（新館），新建築，p. 258，1974. 10
- 注65) トラフ建築設計／鈴野浩一＋禿真哉：井の頭の住宅（桜アパートメント），新建築，p. 162，2006. 2

参考文献

- 1) 山内一晃, 吉田勝行: 建築形態構成における「概念語」と「形態語」の関係性について, 日本建築学会計画系論文集, 第 559 号, pp. 137-144, 2002. 9
- 2) 青木義次, 稲毛誠: 建築形状の形容詞による言語的操作の計算論的モデル, 日本建築学会計画系論文集, 第 551 号, pp. 143-147, 2002. 1
- 3) 新建築社: 新建築, 1950. 1-2010. 12
- 4) Shoko Saito Hamano: The Sound-Symbolic System of Japanese, Thesis (Ph.D.) University of Florida, 1986. 5
- 5) 吉井宏: 空間認識の方法と発達について その (2) オノマトペの発生と構造, 美術教育学, 美術科教育学会誌, 第 5 号, pp. 89-99, 1983. 12
- 6) 鷺田清一: 「ぐずぐず」の理由, 角川学芸出版, 2011. 8
- 7) 田島毓堂, 丹羽一弥編: 日本語論究 3 現代日本語の研究, 和泉書院, 1992. 12
- 8) 柴田武: 日本語はおもしろい, 岩波書店, 1995. 1
- 9) 阿力田稔子, 星野和子: 擬音語・擬態語使い方辞典 正しい意味と用法がすぐわかる, 創拓社, 第 2 版, 1995. 10
- 10) 小野正弘: 擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典, 小学館, 2007. 10

5 建築物の言語描写の擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考

5-1 背景と目的

5-1-1 背景と目的

第3章と第4章において、建築物の言語描写を通して、設計者が建築物の創作・設計に際し用いた擬態語という感覚的な言葉による表現に着目しその記述内容を分析することで、擬態語の語感から得られる感覚に則り建築のある特徴を具現的に解釈した様相について分析した。第3章では、擬態語によって顕在化される建築空間を構成する事物の状態や運動の様子を関連する動詞との組合せにより分析することで建築の即物の様相を、そして、第4章では、建築空間を構成する事物が擬態語によって捉えられることにより表出する概念的な意味を関連する語句との組合せにより分析することで建築の具体の様相を考察した。その結果、建築の即物の様相として24種の類型、建築の具体の様相として26種の類型を導出し、その内容を明らかにした。(表5-1)

表 5-1 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相と具体の様相の類型一覧

| | 即物の様相の類型 | 具体の様相の類型 |
|---|------------------|-------------------------|
| A | 重力から解放される建築 | 素材の定着感による伝統性の感知 |
| B | 求心性により序列化される空間 | 強固さによる万全な機能の働きの様相 |
| C | 微細な移ろいによる現象の実感 | 精巧な継ぎ目による清楚さの付与 |
| D | 円滑な包囲による安心感 | 減算的部位構成による美感の付与 |
| E | 緊密な個の集合による存在感 | 触覚による空間がもつ肌理の伝達 |
| F | 角の創出により律動する壁面 | 強い屈曲形状がもたらす心理的揺動 |
| G | 排他的な建築表情 | 曖昧な表層による希薄な建築空間の創出 |
| H | 落ち着きをもたらす安定性 | コンパクトさによる充足した居住性の獲得 |
| I | 適度な余剰による空間の豊かさ | 触覚による建築物表面の魅力の伝達 |
| J | 内力を想起させる外観 | 物性の抑揚による背景との脱着 |
| K | 親和をもたらす弛緩性 | 有機的な質感による自然の象徴 |
| L | 微気候により促される居住性 | 極端な形状による固有の物性の付与 |
| M | 端正な形態による建築美 | 鋭鈍による空間の際立ち |
| N | 均衡した境面の顕在化 | 建築空間を内包する自然環境の雄大さの獲得 |
| O | 印象を付加する粗雑な建築表面 | 緩やかに周辺に溶け込む建築の佇まい |
| P | 融和による印象の調整 | 存在感のある周辺要素の図像化 |
| Q | 万全な建築機能の発揮 | 添景による空間の生命感の示唆 |
| R | 部位の独立による建築体系の顕在化 | 周辺環境要素の建築設計に適用可能な豊かさの獲得 |
| S | 地域との安定した結束 | 適度な温湿度感による空間への安らぎの創出 |
| T | 環境と一体化する建築物 | 強固さによる建築空間の奥深さの獲得 |
| U | 躍動する自然のある空間 | 明快な骨格形状による空間の開放性の獲得 |
| V | 現象により生じる建築物の存在感 | 空間の包容力による安堵感の創出 |
| W | 異物感のある接触状態 | 空間の包容力による一体感の創出 |
| X | 不鮮明さによる光景の抽象化 | 空間の延伸性による開放感の創出 |
| Y | - | 柔軟な空間による場の活気の創出 |
| Z | - | 空虚の強調による空間への虚無感の付与 |

本章では、まず建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相の類型と、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相の類型とを合わせて総合的に考察することで擬態語によって捉えられる建築についてその特徴を論じた上で、即物と具体の様相を横断的に考察し、擬態語表現からみる建築の感性的思考について論ずる。

5-1-2 擬態語表現における建築の即物と具体の様相

第3章と第4章で導出した建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相と具体の様相を総合的に考察する。各類型の意味内容をまとめ、類型名からキーワード化してマッピングした。(図5-1)

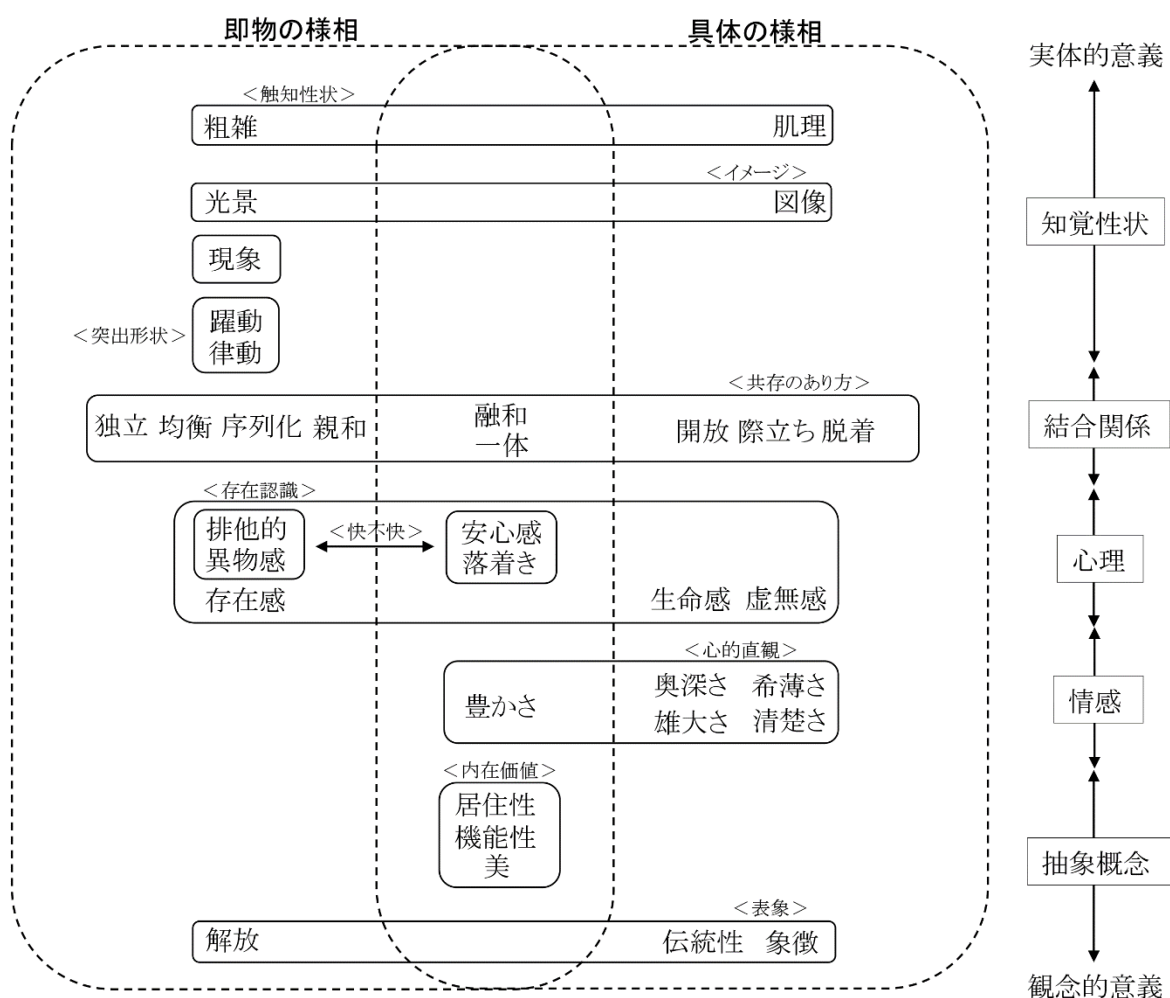


図 5-1 擬態語表現における建築の即物と具体の様相

擬態語表現にみる建築の様相は、建築物を構成する部分から全体、周辺事物までを含み、その物性に準じた実体の性質を示すものから、物性の特徴を基に外部参照事項を連想させることで高度な概念を示すものまで広がりを見せる。各類型はその意味内容から実体的な意義から観念的な意義へ順に、空間において実感される対象物の姿形や動きの性質を示す知覚性状、周辺物を考慮した事物の配列や取り合いの状態を示す結合関係、空間から受ける快不快感や存在認識を示す心理、知覚対象に対する心的反応としての情感、建築に内在する価値や建築による表象を示す抽象概念の大きく5つに分けられる。

即物、具体の様相に共通するキーワードとして、融和、一体、安心感、落ち着き、豊かさ、居住性、機能性、美があげられる。感覚によって育まれる建築は、機能と美を備え、社会や環境と安定した関係を築き、人間に安らぎをもたらす、作用と意味を有する総体としての存在であることがわかる。

また、結合関係と心理の意義には、即物と具体の様相の双方に跨がって意味が集中している。結合関係は、独立、脱着、際立ち、序列化、均衡、開放、親和、一体、融和から成り、視覚や触覚的な感覚の印象を用いた表現から建築物の部分や全体とそれと関わる周辺の事物との間の多様な共存のあり方を示している。建築を抽象的なものとしてではなく、置かれるコンテキストや環境の中で差異化され、経験する人の身体感覚を喚起させる具体物として位置づけているといえる。心理は、排他的、異物感、安心感、落ち着きなど、快・不快の生理に基づく感情や心情、存在感、生命感、虚無感は、建築の存在を認識する人の意識を示しており、空間が人へ与える印象を想定しているといえる。

即物、具体の様相それぞれに出てくるキーワードとして、実体的意義を示す粗雑、肌理、光景、図像、現象そして観念的意義を示す解放、伝統、象徴があげられる。前者は事物の印象的な性質や動きの様子を実感させるものであり、後者は、事物の実像の様子から社会的意味合いや普遍的文化価値を喚起させるものである。これらは建築の虚実の対極をなすものであり、感覚が建築の創作において実体験される空間についてだけでなく建築の意味の創造にも関わっていることを示している。

さらに、即物の様相に偏ってみられるキーワードとして、知覚性状の意義である躍動、律動があげられる。これらは、建築物を構成する事物に内在する動性や動向の性質が人の知覚を刺激する実体の作用的な意義である。また、具体の様相に偏ってみられるキーワードには、奥深さ、希薄さ、雄大さ、清楚さがあげられる。これらは、視対象の性質を捉えた上で心に強く意識される観念的な意義である。

以上のことから、擬態語表現からみた建築の即物と具体の様相は、事物がそれ自体に内在する性質を周辺の事象に及ぼしたり周辺物の性質や外在する概念を取り込む過程で、人の知覚や心の働きと共鳴しながら建築空間を統合し、多様な意味を内包する建築空間の具体層を形成しているといえる。

5-2 擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考

本論では、設計者が必ずしもひとつの概念として言い表せないような未分化なイメージを感覚的に認識・解釈し、設計における意図や思いを建築作品を通して具現化しているのではなかろうか、そしてそのような認識や解釈は擬態語表現による建築の様相に見出せるであろうと仮説を立てた。そのうえで第3章と第4章で擬態語表現における建築の即物と具体の各様相を分析し、設計者は自身の感性的なフィルターを通すことで、建築空間を構成する要素を総体的に捉え、要素間の関係に相対的な強弱をつけ状況に応じて偏向性のある建築空間を創り出していることを分析結果として導いた。そして前節では、建築の即物の様相と具体の様相を合わせて考察し、感覚によって事象の微妙な差異が相対的に関係づけられた多様な建築の様相は、建築空間の具体層を形成していることを述べた。

本節では、感じることに基づく感性的な思考が、建築的な思考とどのように関わっているのかをさらに具体的に検討する。そこで、まず、第3章と第4章で導出した類型を横断的に吟味し、背景あるいは周りにあると考え得る建築に固有の性質や原理を示す概念を勘案したうえで、相関する建築の様相の意味内容のまとまりを捉える。そしてそのまとまりにおける代表的な事例を掲示しながら、感じることの働きによる思考を整理し、それらを勘案された建築に固有の性質や原理を示す概念と対照させることで建築の感性的な思考を明らかにする。

5-2-1 集積から融解へ

建築空間は、建築物を構成する材料、空間に置かれる家具、光や空気の流れなどの物理的現象、空間を占有する人など要素の集積により物理的に形作られる。単体としては抽象的なこれらの要素は、建築家の設計意図と技量により、それぞれに形が与えられ、部分や全体に秩序がつけられることで複合的な様相となり空間として具現化される。建築物による空間は、図面上で構成要素のひとつひとつが同定でき、それらの組み合わせ方が明記され第三者によって施工されることが可能となった結果作り出されるため、客観的で要素分解的な論理的思考が、建築設計には付き纏う。一方で、実感され、経験される建築空間は、建築物のそのような創出工程とは違って、必ずしも構成要素をひとつひとつ理解しながらその総和として分析的に把握されるものではない。

「吹抜けのホールとトップライトで建物を南北に分割し、明るくゆったりとした空間とし、しかも外部との区別をできるだけなくすようにした」^{注1)}などの描写にみられるように、『空間の包容力による一体感の創出』として意味づけられる建築の様相では、吹き抜けによって分けられる上下階、トップライトを介した内部と外部、トップライトから入射する光などの空間構成要素が統合したものとして、包容感のある広がりをもった内部空間が思考されている。このような空

間の創出において設計者は、自身の視覚や身体的な感覚をたよりに、空間を照らす光の質、吹き抜けを通り抜ける空気の流れ、上下・内外空間の繋がりなどを総合的に感じ取りながら空間の広がり認識し、一体感のある空間を想像していると考えられる。また、「同じミニ開発であっても閉塞感のない、のびのびとした外部空間の開発ができないものか」と考えた。敷地内にまとまったオープンスペースを確保し、開放的な外部環境を実現するために、住戸の配置は2棟を1単位とし全体のヴォリュームを大きく2つのブロックに別け…これによって敷地の東西および南北にオープンスペースのヌケが生まれ、敷地内道路空間を建物で囲い込むことなく隣接宅地に開くことに成功した」^{注2)}などの描写にみられるように、『空間の延伸性による開放感の創出』として意味づけられる建築の様相では、隣地、敷地内道路、敷地内のオープンスペースという外部空間を構成する要素が一連となった、視覚的な広がり認識することで、開放感のある外部空間が思考されている。(図 5-2-1-1) これらの建築の様相は、空間の体験性を想定したうえで、設計者の豊富な空間の体験の蓄積から空間の広がり感覚的にはかりつつ個々の空間構成要素を融合させ、様々なシーンが折り重なり、雰囲気をもった風景のような空間を思考しているといえる。

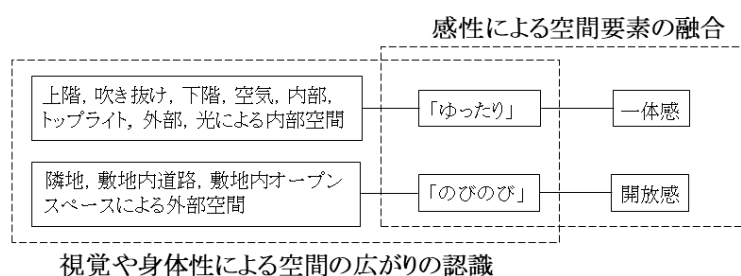


図 5-2-1-1 感性による空間要素の融合

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、要素の集合である建築空間を分析的に組み合わせる過程で、実空間における空間の知覚のされ方を経験的に想定しながら、建築物を構成する要素や建築物を取り巻く事象を、視覚や身体感覚により感じ取りながら空間の広がりとして統合し、人と環境要素と建築物が一体感を有し、複合的な繋がりをもったひとつの雰囲気のある空間を想像していると考えられる(図 5-2-1-2)。

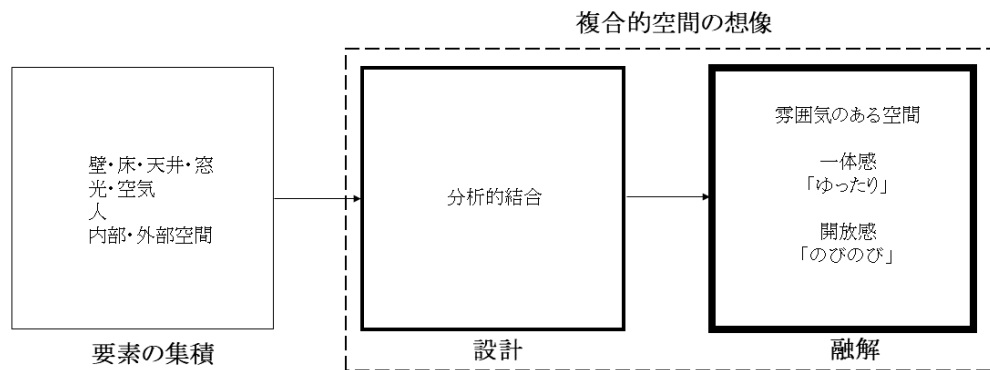


図 5-2-1-2 集積から融解へ

5-2-2 自立から存在連鎖へ

物質を組み合わせで構築した建築は、それ自体が重力に抗して大地に建つ自立した存在である。建築の物質性は実体あるものとして、建築の存在を確かなものになっている。自立した確固たる存在としての建築は、連綿とつながる田園風景や都市風景において目印となり、ランドマーク性といった建築において中心的な役割を担う。

「学園の東側の高台の上に中学・高校のどっしりした建物があり、その鐘楼はこの地域のランドマークともなっている」^{注3)}などの描写にみられるように、『物性の抑揚による背景との脱着』として意味づけられる建築の様相では、建築物を視覚的な感覚から量感のある佇まいとして認識することにより、おかれる背景と対比され相対的な強度を示す存在感のある建築物が思考されている。また、「この段状の床下にはコンピュータの機器がぎっしりと詰っている」^{注4)}などの描写にみられるように、『緊密な個の集合による存在感』として意味づけられる建築の様相では、空間の専有物の集合を視覚的な感覚から量感のある佇まいとして認識することにより、空間における専有物の存在感が思考されている。そして、「旺盛に繁ったボウボウの庭もろとも1階を中心とした生活を日当たりのよい2階にもちあげ」^{注5)}などの描写にみられるように、『存在感のある周辺要素の図像化』として意味づけられる建築の様相では、周辺物を視覚的な感覚から量感のある佇まいとして認識することにより、建築物の周りにあり風景として空間に取り入れられる周辺物の存在感が思考されている。さらに、「駅のホームから見ると、この作品は光を受ける曇り空の雲のようにきらきらと輝いて揺らいでいる」^{注6)}などの描写にみられるように、『現象により生じる建築物の存在感』として意味づけられる建築の様相では、建築物を視覚的な感覚から明度感のある佇まいとして認識することにより、おかれた環境下の光の効果によって顕著になる建築物の存在感が思考されている。(図 5-2-2-1)ものの存在感は主にものが有する量感や明度感による際立ちにより認識されるが、絶対的なものではなく、存在への気づきは、個人の意識の持ち方や感受性によるところがある。これらの建築の様相は、量感や明度感によりおかれる環境下で際立ちランドマークとなる建築物の存在だけでなく、設計者が重要と感じた、周辺物の存在

認識を通して、建築物自身の存在と他者の存在とによって具現化させる連鎖的な建築と周辺物の存在の関わり方を提示している。

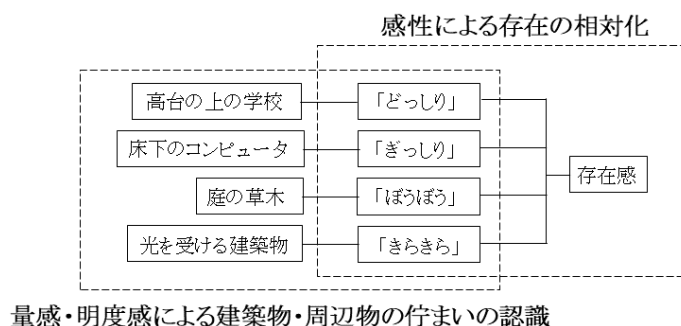


図 5-2-2-1 感性による存在の相対化

歴史を通して建築は、自律性を固有の存在価値として捉えてきたが、自立したオブジェクトが氾濫する今日の都市において、その価値や意味は相対化してきている。多くのオブジェクト建築からは、経験されるものとしての都市におけるランドマーク的な建築の役割は消失しており、周りの環境や人の日常的な経験とも乖離した建築も多い。上述の建築の様相は、それ自体がランドマークとなる自立する建築が、他者との関係を形成しながら連鎖的な存在になることで、環境全体の存在意義を高めることを示唆しており、今日的な建築状況において意義深い。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、元来自立することを前提とする建築物に対して、建築物だけでなく空間に出現し視覚的に経験される周辺物の存在をも感じ取り、建築を環境と共に位置づけられる存在として意義づけていると考えられる（図 5-2-2-2）。

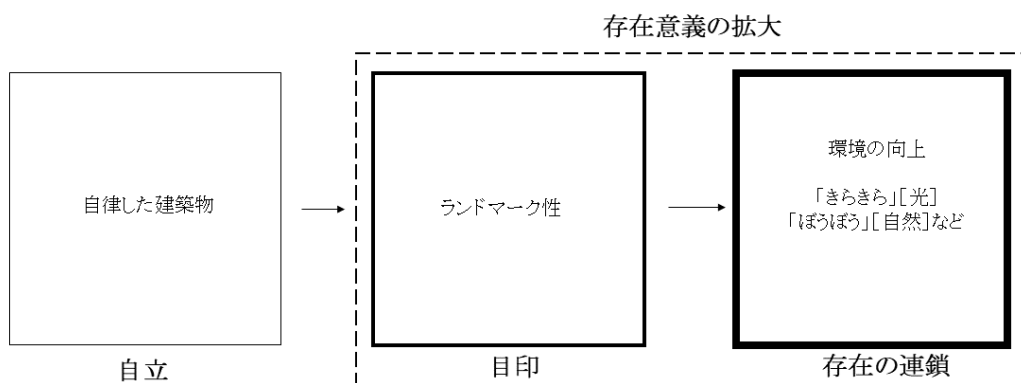


図 5-2-2-2 自立から存在連鎖へ

5-2-3 静物から時間へ

石やレンガ、コンクリート、鉄、木でつくられる建築は、パオのような移動型の住居形式などの例外はあるにしても、動かないものとされる。動かないことは、建築固有な性質として、建築に現在時間を超え存続するモニュメントとしての役割を与え、前時代の文化や歴史を今そして将来に伝達する。逆に動かないことは、建築にとって制限でもあり、動くことは建築にとって憧れとなり、通信や移動の技術が発展し移動のアイデアが劇的に変化した前世紀においては、アーキグラムやメタボリストなどの活動にみられるようなユートピア的な可動建築が立案されるなど、建築家は動かないという建築の命題に対して様々な思考を巡らせてきた。

「毎正時には、プリズムのように光が青から赤にゆっくりと変化して時間を知らせる」^{注7)}などの描写にみられるように、『微細な移ろいによる現象の実感』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な感覚から空間における実存の動きを認識することにより、実感される現象の変化が示す現在時刻が思考されている。また、「上州の山々の連なる平地の中に建つ立地条件として、切妻の鈍色の瓦屋根と白漆喰の壁に、民家の伝統というものを踏まえて、しっとりと落ち着いたものにしたい」^{注8)}などの描写にみられるように、『素材の定着感による伝統性の感知』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な感覚から周辺建築物と対比して素材感にばらつきがないことを認識することにより、定着感のある建築物が喚起させる周辺建築物と連続した時間の概念が思考されている。そして、「展示に必要な内部空間の高さを確保しながら、地域・環境との永遠の共存を意識し、天に向かってぐるぐる登っていく壁となっている」^{注9)}などの描写にみられるように、『重力から解放される建築』として意味づけられる建築の様相では、視覚的に追従される形態の観念的な動きの速度感を認識することにより、建築外観が想起させる未来へと繋がる時間が思考されている。(図 5-2-3-1) これらの様相は、建築空間における現象の実存の動きの実感、また建築物の観念上の動きから認識される定着感や速度感により、現在、過去、未来という時間の感覚を建築に体现している。

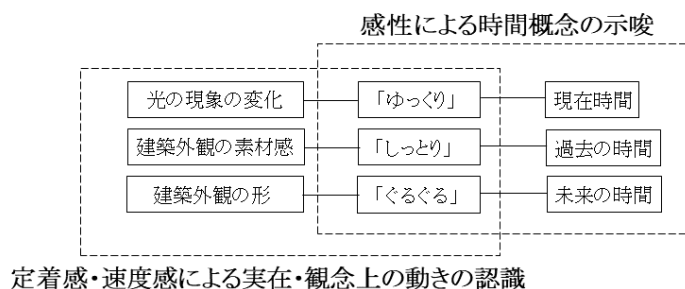


図 5-2-3-1 感性による時間認識

流れのある時間に対して建築は、古典では、建築物の動かないという性質を前提に、その重厚さや対称性の幾何学構成により物理的・視覚的な安定性を強調し、永続性を象徴的に表現してきた。現世の時間が最も重要な時代である近代では、キュビズムなどの芸術分野からの影響を受け、

人の動きを伴うダイナミックな形態による空間の体験から暫定性の概念として時間を空間概念に組み込んだ。上述の建築の様相では、時間の概念を形象により表象するのではなく、実存の動きや視覚上の動きによる知覚の現象として過去から未来までを感じさせる。これらは、現代建築を一過性の消費の対象としてではなく、刻一刻と変わる時間の流れの中に位置づける感覚的な次元からの取り組みといえる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、静物としての建築に体现される時間の概念を、建築空間における実存と観念上の動きの感覚を通して解釈することで拡張していると考えられる（図 5-2-3-2）。

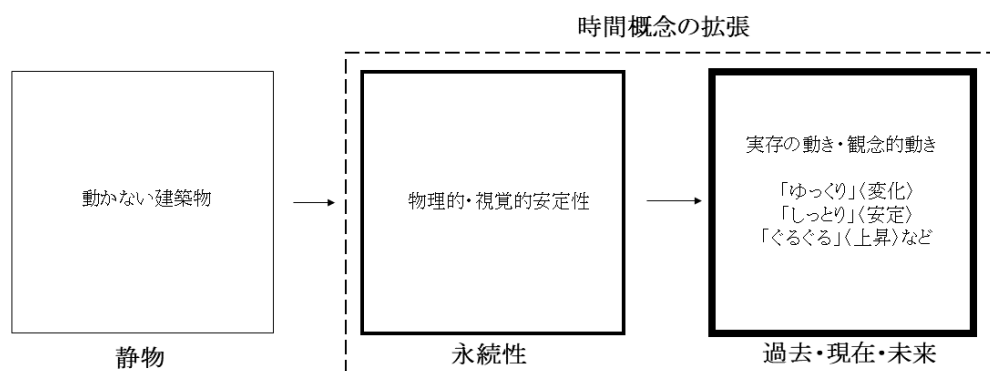


図 5-2-3-2 静物から時間へ

5-2-4 人工物から生態系へ

建築物をつくる石や木は、山から切り出され、建築材料として加工され、人工物となって大地に組み上げられる。建築物の建設の一連の過程は、連綿とつながる自然を人為的に分節し人工物に変えることと同義である。18世紀以降、著しく発展し続ける科学技術は、自然環境を克服し人間の生活環境の人工化を促進しており、建築物が過度に集中する都市域は世界中で拡大している。今世紀初頭には砂漠の真ん中に世界最大級の摩天楼群が出現するまでに至っている。

「…水面を流れる風が室の中をゆっくりと通り抜けていく」^{注 10)} などの描写にみられるように、『微気候により促される居住性』として意味づけられる建築の様相では、触覚的な感覚から空気の柔和な動きを認識することにより、空間において人に近親した自然の快適さが思考されている。また、「のびのびとしたうねりのある芝生面を自然の『地』とし、これにふたつの『点』的幾何学的な要素を重層させている」^{注 11)} などの描写にみられるように、『建築空間を内包する自然環境の雄大さの獲得』として意味づけられる建築の様相では、視覚上の柔和な大地の動きを認識することにより、自然を包容感のあるものとして捉え、自然に組み込まれる建築物が思考されている。（図 5-2-4-1）これらは自然の動きの中に親近感を見出し、建築と自然を共存させている。

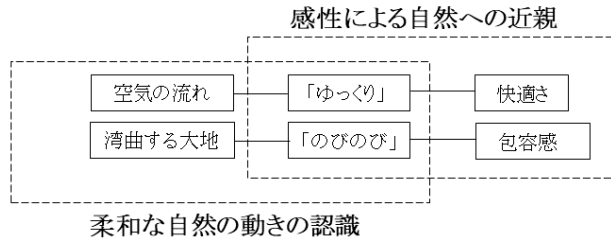


図 5-2-4-1 感性による自然への近親

通常、ある目的をもって建てられるひとつの建築物の生涯は、その役目が終われば取り壊され消失する生産と消費の一過性の現象であり、建築物を建てることは連続性のある自然や地球のサイクルを分断することに繋がりがかねない。上述の建築の様相は、大気の流れを建築物に組み込んだり、建築を自然に内部化させることで、建築物をひと連なりの自然の循環の中に位置づけることを目論んでおり、地球環境に配慮した持続可能な社会の発展が唱えられる今日的な環境意識へと接続される建築の意義を示しているといえる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、自然に対する親近感を認識することで、気候や大地という地球規模の発想から人工物としての建築を生態系の一部として再定義していると考えられる(図 5-2-4-2)。

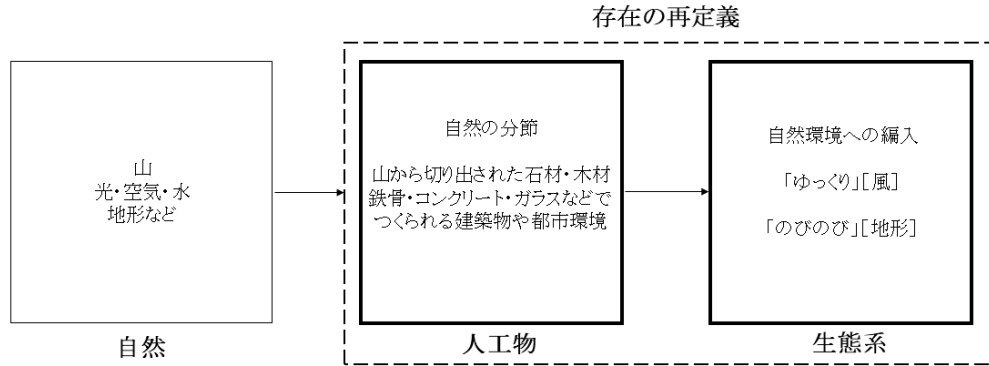


図 5-2-4-2 人工物から生態系へ

5-2-5 標準空間寸法から活動へ

建築空間には、使用目的に応じその空間構成の基礎となる人の姿勢や動作、知覚、集合に対応し、一連の生活行為を成し遂げるのに必要な空間領域に寸法を与え空間量を算出した設計標準がある¹⁾。この標準設計的な考え方は、人間を空間を構成する一要素とした人間工学的な解釈と、参考事例とした良きサンプルとみられる建築作品のデータ群の平均値により設定された建築設計

を指針とし、その標準に沿って設計することで、建築物の性能や品質を保証しようとするものである。

「あたたかい、患者をすっぽりつつむような高くない天井…」^{注 12)} などの描写にみられるように、『円滑な包囲による安心感』として意味づけられる建築の様相では、身体を中心とし空間の堺面までの距離感から心理的な空間の広がりを感じることにより、人の心情と共鳴する場が思考されている。また、「広々とした土地柄にふさわしいよう、天井高はたっぷりとりました」^{注 13)} などの描写にみられるように、『適度な余剰による空間の豊かさ』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な空間の量感から空間のゆとりある広がりを感じることにより、外部環境に相似する豊饒な雰囲気が感じられる場が思考されている。そして、「…小さくこじんまりとした快適な寝室をつくっている」^{注 14)} などの描写にみられるように、『コンパクトさによる充足した居住性の獲得』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な空間の量感から人に近親した空間の利便性を認識することにより、快適さのある場が思考されている。さらに、「解体直後の、コンクリート躯体のみのガランとした大きなひとつの部屋のような状態と、プラスターボードを剥がしたままの水玉模様のような GL ボンド跡を見て、クライアントもわれわれも一目でその空間を気に入った」^{注 15)} などの描写にみられるように、『空虚の強調による空間への虚無感の付与』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な空間の量感から空間との心理的な距離感を認識することにより、分断されたような感覚を抱かせる情感のある場を思考している。(図 5-2-5-1) これらの様相は、空間を感覚的に伸び縮みする余白があるもののように捉えることで、空間の心理的な大きさや距離感を仔細に測り、標準寸法による平均律としての空間を調整し、またその感覚的に測られた空間に感情を移入し、安心感、豊かさ、快適さ、虚無感などの多義が生まれる活動の場に変換している。

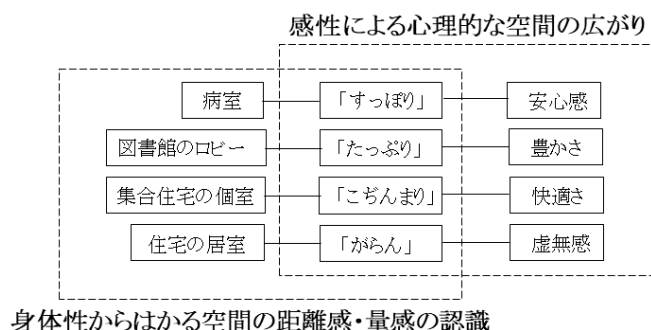


図 5-2-5-1 感性による心理的な空間の広がり

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、身体感覚を介して空間の心理的な広がりをはかることで、地域性や使用する人の性格などの違いに応じて少しずつ空間の広さや纏まり方に変化をつけ、標準寸法的な考え方のみでは捉えきれない、個別の価値を有し人の心理にまで影響を及ぼす活動の場を形成していると考えられる(図 5-2-5-2)。

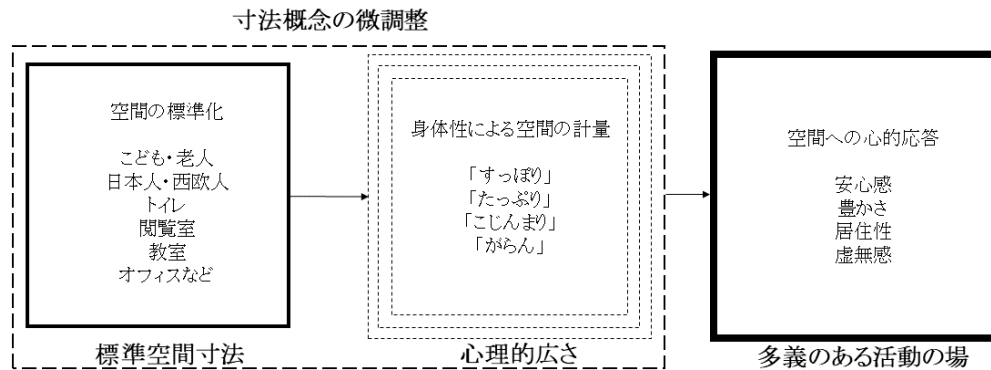


図 5-2-5-2 標準空間寸法から活動へ

5-2-6 容器から親和性へ

建築は「生活の容器」としての機能をもっており、建築物は目的に基づいて設計されるべきとした機能主義的モダニズム建築においては、この道具的性質の側面が建築の個別の主題となり、平面や建築部位の構成と機能性からその性能が検討され、さらに、機能的なものは美しいとして機能と美を結びつけた。

「収納はできるだけ多くしてあげたい。収納をたくさん取ってあげて、それぞれに納まって、初めて、ほのぼのとする余裕も生じようというものだ」^{注 16)} などの描写にみられるように、『適度な温湿度感による空間への安らぎの創出』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な感覚に基づき空間を占有するものの整然さから空間がもつ生命感を認識することにより、人に安堵感をもたらす空間が思考されている。また、「居間食堂は家族でゆっくり楽しめるようハイバックチェア、ディベットなどを置いています」^{注 17)} などの描写にみられるように、『落ち着きをもたらす安定性』として意味づけられる建築の様相では、空間に置かれる家具の特徴から導き出される人の安息の行動を認識することにより、安堵感のある空間を思考している。さらに、「たいへん無理をいって食堂のテーブルを木製にさせていただいたり…ほっとする華やいだ時間をプレゼントしたかったです」^{注 18)} などの描写にみられるように『添景による空間の生命感の示唆』として意味づけられる建築の様相では、家具の素材性から生命感を認識することにより、人に安堵感を与える空間を思考している。(図 5-2-6-1)これらの建築の様相は、建築物がつくる抽象的な空間ではなく、空間に置かれる家具などの添景物の存在を通して、利用者の空間における心情を反映した具象的な生活空間を思考している。

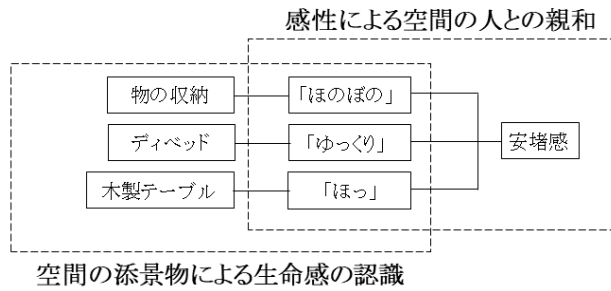


図 5-2-6-1 感性による空間の親和

生活を営む上では、入れものとしての空間を作り出す建築物ばかりではなく、空間における日常的な具体物となる家具などの添景物の視覚的な効果や肌ざわりは、直接的に身体に作用するため、人の行動や心情に多大な影響を及ぼす。容器とはそもそも、それが包含する内容と対比される外形を示す概念であり、容器としての建築概念においてその内容となる物や人の在り方は占有者にゆだねられ、モダニズム建築のシンプルなお観同様にその内包される空間は抽象的な扱いをされてきた経緯がある。したがって、設計者は、容器としての建築物と人を媒介する、空間の内容となる添景物を身体感覚とともに具体的に想定しながら設計することにより、人と建築が親和し、人の感情を沸き起こす建築空間を形成しているといえる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、建築物がつくる空間に、中身となる利用者の身体性と添景物との関係から空間における人の居方を具体的に提案することで、建築物による空間の外形が示す道具的性質に不足している空間の内容を補填し、人の感情が伴う生活の場として建築をより一層人と結びつきの深いものにしていると考えられる(図 5-2-6-2)。

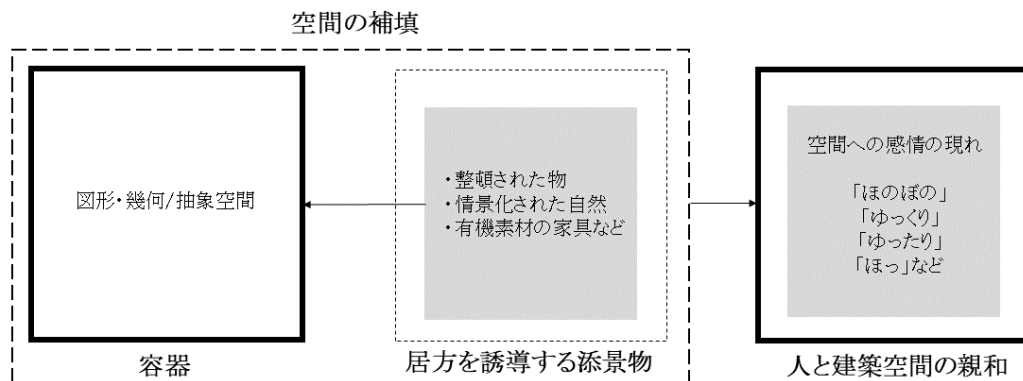


図 5-2-6-2 容器から親和性へ

5-2-7 規則性から原理へ

古典建築のオーダーによるプロポーシヨンのシステムや近代における標準化された建築物のパーツは、軸やグリッドなどの統辞的手法とともに建築物や空間に規則性をもたらし、そして、その秩序づけられた全体に美観や生活観を統合することで建築は、それぞれの時代に応じた社会像や世界観を体現してきた。

「施設を中心となる食堂ホールは軽い立体トラスとガラスで構成するから、その空間は主棟の大きな壁からぐると囲む山の傾斜面までの拡がりとなる」^{注 19)} などの描写にみられるように、『求心性により序列化される空間』として意味づけられる建築の様相は、空間の広がり方を方向性のある動きの感覚から認識することにより、中心と周縁の関係として相対的に定義される空間を思考している。また、「houseNは大分市の住宅地の中にある、半ば都市であり半ばいえであるような、ぼんやりとした領域の『住むための場所』である」^{注 20)} などの描写にみられるように、『空間の包容力による安堵感の創出』として意味づけられる建築の様相では、空間領域の広がり方を不明瞭さのある明度感として認識することにより、どこからどこまでと明確に規定されない曖昧な領域の連なりをもった空間を思考している。そして、「その柱梁と壁と開口はそれぞればらばらに自立しながらお互いに干渉させるように構成してある」^{注 21)} などの描写にみられるように、『部位の独立による建築体系の顕在化』として意味づけられる建築の様相では、空間を構成する各部位がそれぞれに動向をもつような感覚を認識することにより、全体を規定する規則性や共通要素をもたない、独立要素によってできるネットワーク的な空間を思考している。(図 5-2-7-1) これらの建築の様相は、建築全体を具現化するための構成の規則ではなく、感覚的に捉えた概括的な空間構成の原理を示している。

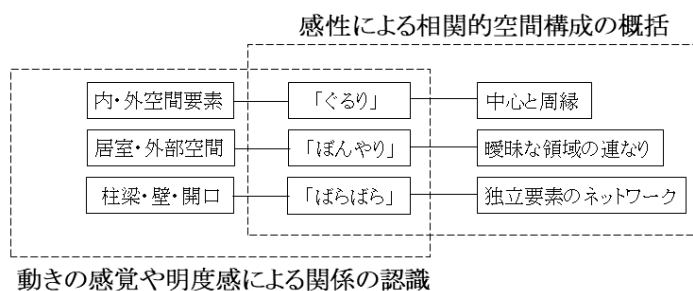


図 5-2-7-1 感性による空間構成の概括

部分と全体を規則性によって統制する前時代的な構成手法によらず、要素間の相対的な関係に着目し、非分節な部分から建築空間を生成するこれらの原理は、居間と寝室、居室と都市、内と外などが対立ではなく相互依存的に共在することで、錯綜する空間体験が生まれる多様性のある場を生み出す。つまり、設計者は、感覚的な原理の素描から、時代に応じた都市観や社会像を反映した多様な価値を内包する建築空間の想像をしていると考えられる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、建築空間の生成原理を感覚的に素描することを通して、既製の空間構成概念を脱し、時代に応じた新しい建築空間を生み出すための探求をしていると考えられる(図 5-2-7-2)。

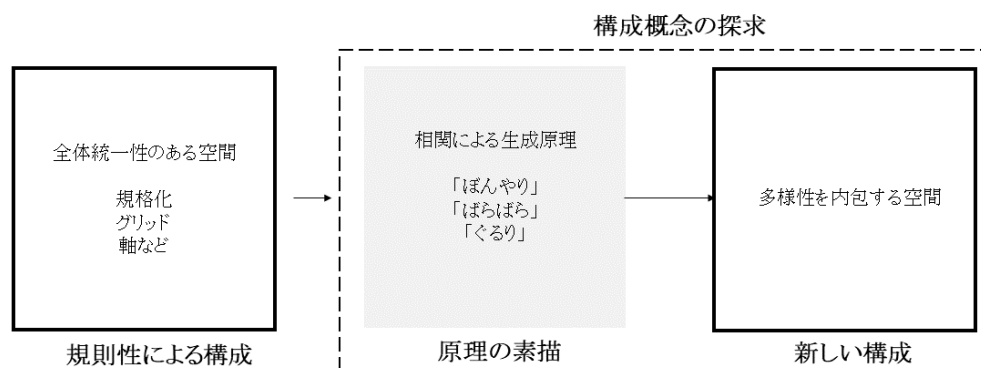


図 5-2-7-2 規則性から原理へ

5-2-8 構法から規範性へ

建築物を物理的に支持する構法は、建築にとって必然的な要件であるが、その表現や取り扱い方は建築様式によって違っており、つくられた時代背景による価値観を強く反映している。神学的な価値観から世界を作り上げる個物の本質である原型による秩序を表現するギリシャ神殿の円柱、人文主義的な考え方から調和をもたらす人体のプロポーションに重ね合わせた幾何図形によるルネサンス建築のドーム、自然主義により形態と構造とが動植物的に取り扱われ一体となったゴシック建築の構造体、合理主義に基づき要素に分化され自由な平面を生み出す近代のドミノシステムなど、いずれも時代が理想とする理念を構法的な要素の上に体现している。

「腰まで積まれたガッシリとした玉石コンクリートの上に軽い木造の3絞点アーチをのせたこの家は、構造的に非常に安定しており、風雨に対してもきわめて堅牢である」^{注 22)} などの描写にみられるように、『強固さによる万全な機能の働きの様相』として意味づけられる建築の様相では、視覚的に強固さを感じさせる建築物の佇まいからその安定感を直観的に認識することにより、構造的強度に確信を持った建築物が思考されている。また、「温度によって形状がフニャフニャと変わる建築はできないだろうか。ボキッと変わるのではなく、フニャフニャと変わるのが『負ける建築』らしくて好ましく感じられた」^{注 23)} などの描写にみられるように、『親和をもたらす弛緩性』として意味づけられる建築の様相では、構造体の柔和な動きの中に親和感を認識することにより、環境に応じて受動的に変化する建築の構法の好ましさが思考されている。(図 5-2-8-1) これらの建築の様相は、構法による構造体の硬さや柔らかさの感覚を通して建築における価値観を表明している。

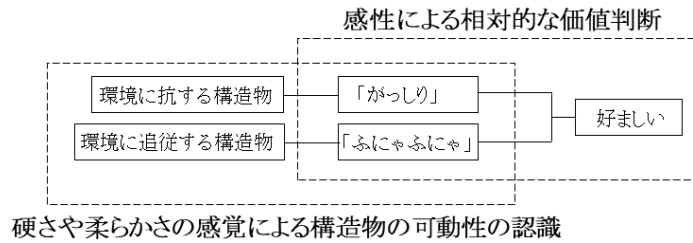


図 5-2-8-1 感性による相対的な価値判断

構法によって示される建築の堅牢さは、ものとしての建築の存立に関わりかつ安全欲求という人の低次の欲求を満たすものであるという、人のためにつくられる建築の第一義的な価値である。対して、滑らかに動く構造体により環境に応じて実体の変容する建築は、背景にある今世紀の環境のパラダイムを建築において象徴的に表現しているといえる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、硬さや柔らかさの感覚にのせて、構法という建築物の存立にとって重要な要件の上に普遍的なあるいは時代に応じた建築の価値観を示していると考えられる(図 5-2-8-2)。

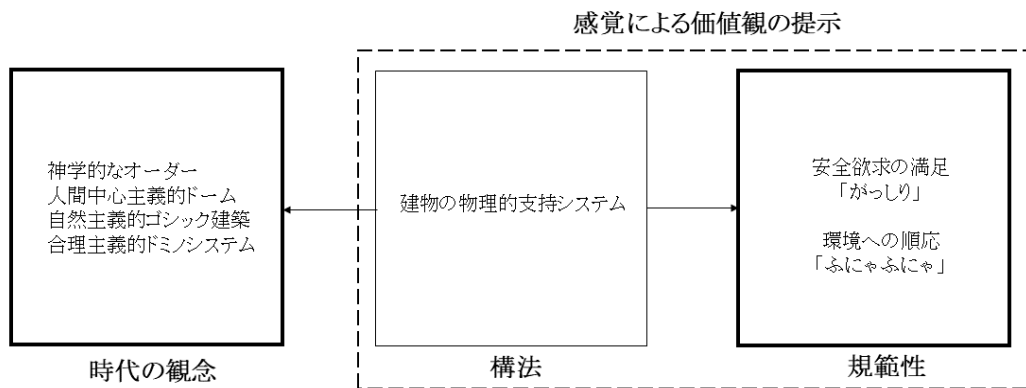


図 5-2-8-2 構法から規範性へ

5-2-9 形状から拍子へ

形(form)は、対象の特性によるものなのか、あるいは精神的なカテゴリーに属するものなのか、プラトンによる物質と形の対立的な思考に始まる哲学的な問題などと照らし合わされながら、建築において長らく議論が展開されてきた²⁾。それらの議論が明らかにしているのは、建築において形は物質から分離して考えられるということ、また建築における意義を成す形は、「感覚が捉える事物の特性」を指す「形状(shape)」と、「精神が捉える事物の特性」を指す「考え

(idea) や本質 (essence) 」の両義を内在していることである³⁾。依って、形は建築において常に観念を示す表象の対象となってきた。ルネサンス建築の人体比率を用いたジオメトリーは人文主義の理念を示しており、また、近代建築の機能に従う形態は合理主義思想を示していた。

「この外、ビル内部には局部的に、円弧や階段形のジグザグ線といった形のモチーフや、アメリカ製のペイントによる彩度の高い色形の使用によって、単調になりがちなオフィスビルの空間に刺激を与えている」^{注24)}などの描写にみられるように、『強い屈曲形状がもたらす心理的揺動』として意味づけられる様相では、視覚的な感覚から形状の力強い動きを認識することにより、律動感のある建築物が思考されている。また、「屋根勾配はばらばら、…似ていながら同じでない、反復連続に耐えられる戸建ての集合をつくり出している」^{注25)}などの描写にみられるように、『極端な形状による固有の物性の付与』として意味づけられる様相では、視覚的な感覚から性状の違いを動向性のあるものとして認識することにより、多様性を内包した建築群が作り出す活気ある景観が思考されている。そして、「コンモリと盛り上がった屋根 3 つの保育室は直径 3m のドームに、中央の遊戯室の盛り上がりは 4m のドームに」^{注26)}などの描写にみられるように、『内力を想起させる外観』として意味づけられる様相では、視覚的な感覚から形状が生み出す量感や動きの感覚を認識することにより、人の目を引く律動感のある建築外観が思考されている。(図 5-2-9-1) これらの建築の様相は、建築物の形状特性が示す知覚の作用以上の意味を形によって伝えようとしているのではなく、観る者の感覚に訴えかける建築物の視覚的効果を狙っているといえる。そして、そのような律動感のある形状は、景観に抑揚をつけ、人の空間体験を豊かにしていると考えられる。

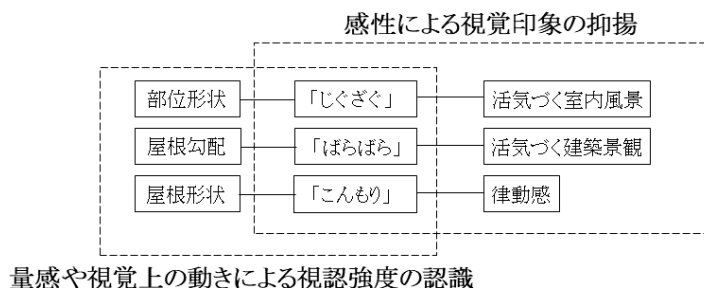


図 5-2-9-1 感性による視覚印象の抑揚

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、形により建築に付された観念的な意味を伝えるためにではなく、律動感のある形状により建築実体としての視覚的効果を強調することで、身体性と呼应しながら景観を調子づける拍子をつくり出し、実感が伴った建築空間の経験性を主張していると考えられる(図 5-2-9-2)。

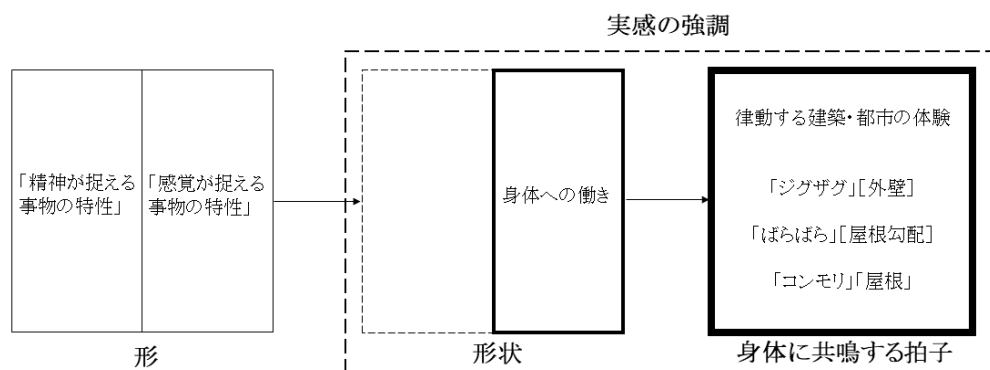


図 5-2-9-2 形状から拍子へ

5-2-10 記号から記憶へ

建築は人の活動の場所を提供するという実用的な事物であると同時に、ある事柄を指し示す記号的性格を有し意味を伝達する。建築の歴史的な意味の多様性を表現したポストモダンの建築群は、そのような建築の記号性を利用した代表的な例である。こうした建築の記号的性質の特徴は、実空間とは分離して独自に作用する傾向にある。

「タイル貼りや石貼りについては、…手作りの温もりが伝わるように、ザックリと仕上げる」^{注 27)} などの描写にみられるように、『印象を付加する粗雑な建築表面』として意味づけられる建築の様相では、触覚による肌ざわりを認識することにより、材料の表面仕上げが醸し出す建築物の温度感のある雰囲気思考されている。また、「…浴槽のオークは背中を擦り付けたくなるようなつるつる加減に…」^{注 28)} などの描写にみられるように、『触覚による建築物表面の魅力の伝達』として意味づけられる建築の様相では、触覚による肌ざわりを認識することにより、材料表面の素材感が身体的に感じ取らせる魅力が思考されている。さらに、「もうひとつの顔は『孔』である。大谷石の全体はスポンジのようにボソボソしていて、ミソは其中でもとりわけ大きな『孔』である」^{注 29)} などの描写にみられるように、『有機的な質感による自然の象徴』として意味づけられる建築の様相では、触覚による肌ざわりを認識することにより、材料の素材感が喚起させる象徴的な意味が思考されている。(図 5-2-10-1) これらの建築の様相は、建築表面の物質性を身体との接触を通して直接的に感じさせることにより、人に強い空間の印象と体験性を与えると同時に、触覚を通じて意味をも伝達している。

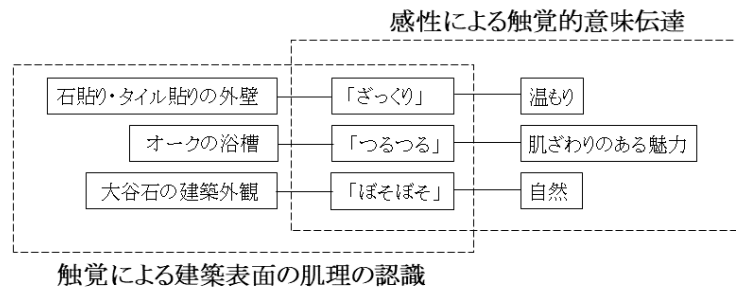


図 5-2-10-1 感性による触覚的意味伝達

材料が集積してできる建築物は、その表面にマクロ的な視線が注がれるとき、物質性から離れ視覚的に捉えられる表層となり、社会や文化的意味を表象する記号の役割を帯びる。逆に、建築物の表面を近視的に見ることは、素材のもつ肌理を発見させ、そして、その表面に触れることは印象深さや魅了を肌で感じ取らせるため、記憶に残る体験に繋がっていく。記号による意味作用は建築物の形に与えられる意味の恣意性により成り立つため、空間の実体験として不確かさを残す。対して、触覚によって実感される空間の経験は、実体験としてより確実なものとなり、その印象や意味を人の記憶に残すといえる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、視点の変更により、意味が不確かな記号の戯れとしての表層ではなく、建築表面の肌理に注視することから肌で感じる実存の空間の体験をもたらす印象深い建築となり、人の意識の深層へ接近していると考えられる(図 5-2-10-2)。

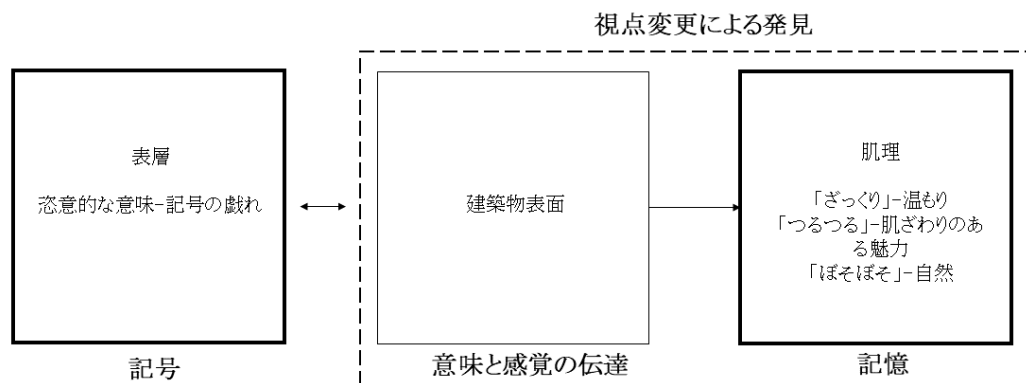


図 5-2-10-2 記号から記憶へ

5-2-11 際から美意識へ

際は際匏という日本の伝統建築における特殊な道具の存在などが示すように、あるいは、日本の建築の洗練された接合部に見て取れるように、日本の建築にとって特別な注意と美的な感性が注がれる場所である。英語では Edge と訳され、部材の端部などを示す一般的な意味においては際と同様であるが、Edge は空間構成においてその外部の如何に関わらず領域の限界部を指し、ひとつの領域を他の領域から区別する空間の輪郭を形成するのに対し⁴⁾、際は、異なる領域を区別をするのではなく、状態が別の状態へ移行する境界として精緻に構成され、空間の出現と消滅を演出する。

「室内は真壁造であるが、柱が内法より上にあらわれると堅くなるので、その部分は大壁として、天井との取合いをすっきりとさせている」^{注 30)} などの描写にみられるように、『端正な形態による建築美』として意味づけられる建築の様相では、複合事象の取り合い部に動向が見られない整然とした状態を認識することにより、清らかさや透明感を感じさせる美意識が思考されている。また、「琉球松の林に映える赤瓦の稜線のくっきりとしたコントラストは、黒船のペリーを感嘆せしめ、陶器や、紅型、舞踊にみる民族文化の香り高い美しさは、柳宗悦をして、目をみはらせるものがあつた」^{注 31)} などの描写にみられるように『鋭鈍による空間の際立ち』として意味づけられる建築の様相では、建築物の部分の明度感のある佇まいとして認識することにより、その部分により際立った背景と建築物が一体となった情景として美が思考されている。これらの建築の様相では、建築物の全体を語らずに、部分間や前背景となる事象間の際から、建築全体の美を喚起させている。(図 5-2-11-1)「すっきり」と表現させる美意識は、形のない曖昧で主観的な美であり、「くっきり」と表現される美意識もまた、形が示す美しさではなく、際の明度感が気づかせる背景となっている自然と、それと共存する建築から生まれる余情から生み出されているものである。これらは余白や無から美を感じ取る日本的な感性によるものといえるだろう。

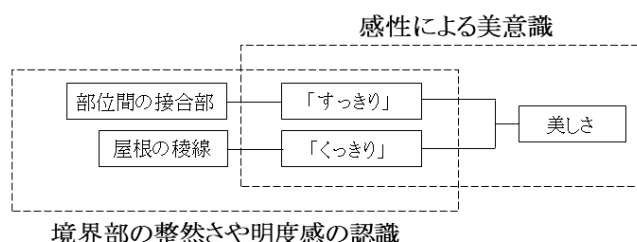


図 5-2-11-1 感性による美意識

建築において美は、強・用・美という建築の根幹をなす普遍的な概念のひとつであり、西洋的な建築美、日本的な建築美、古典的な建築美、モダンな建築美などとして様々に定義されてきた。そのような建築美は、シンメトリー、非対称によるくずし、部分と全体のプロポーシオン、繰り返される要素による統一、バランスなどとして論理的に説明することができるが、美意識とは、根本的には他の動物にはない人間固有の感じる働きに起因している。際という部分からその全体の有形性を問わず美を感知させる上述の建築の様相は、日本人の感じ方の特徴ともいえるが、それは人の感じる働きによって認識される美の本質を示しているともいえる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、美に対する日本の感性を示していると同時に、感じられるものとしての美の根源を追及していると考えられる(図 5-2-11-2)。

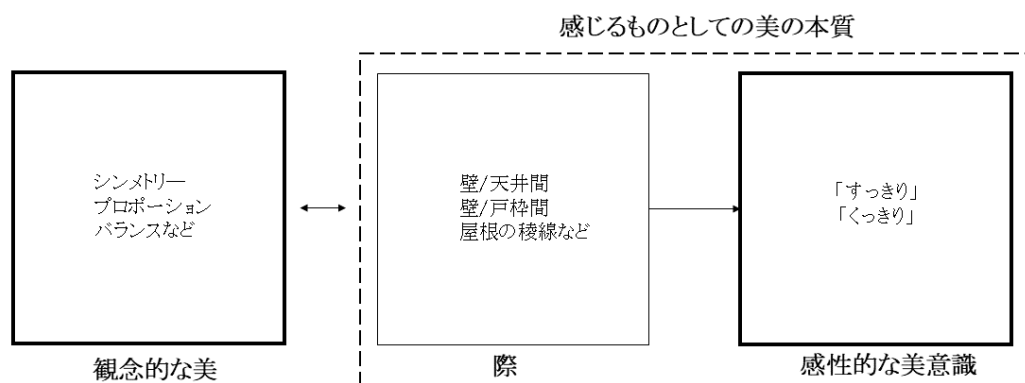


図 5-2-11-2 際から美意識へ

5-2-12 形式から能動性へ

磯崎新は、建築とは形式のことであるといい、また、エイドリアン・フォーティは「形式的」であることは「建築的」な特質を強調するという³⁾⁵⁾。建築と形式を同義とするあるいは並置するこれらの発言は形式が建築にとって本質的であるとするもので、建築は芸術表現あるいは社会の表現の形式としてみられてきた。平面形式や共通する形式をまとめた建築の様式は、このような形式の考え方にに基づいている。形式は、事物間を統一的に関連させ、まとまりをもたせることで全体としての意味を明確にするが、逆に事象の内容が伴わないという形骸化や関係の固定化の事態も引き起こすことがある。

「周辺の戸建て住宅のスケールに近付けるために、ファサードにはふたつの積石壁を結ぶように木製の格子戸を吊るした。格子の間からは、それと直行する壁面越しに入居者の暮らしが垣間見えて、閉鎖性を感じさせない。この建物が大きさだけでなく営みとして、町並みのリズムにしっくりと馴染むことをねらった」^{注 32)}などの描写にみられるように、『融和による印象の調整』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な感覚から建築物の量感や浸透感を認識することにより、既存の町並みとの一体感がある建築物が思考されている。また、「念仏寺で有名な、京都でも屈指の景勝地といえる嵯峨野の高台に、ちょこんと腰を落ち着けることになったかわいらしいこの建築も、そういった特別な調理法を要求される場所にある」^{注 33)}などの描写にみられるように、『環境と一体化する建築物』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な感覚から建築物の量感や接触感のある佇まいを認識することにより、それ自体が小さな存在感を示しつつ周辺環境の一部として組み込まれる建築物の在り方が思考されている。そして、「建物は華純な直線によって組立てられた四角な面で構成され、小さな凹凸をなくし、色彩も明るいグレーに統一されている。従って比較的小さな會堂(41. 33 坪)にのびのびとした大きさを感じることが出

来る」^{注 34)}などの描写にみられるように、『緩やかに周辺に溶け込む建築の佇まい』として意味づけられる建築の様相では、視覚的な感覚から建築物の量感や浸透感のある佇まいを認識することにより、周辺環境に対して自ら歩み寄っていくような建築物が思考されているといえる。(図 5-2-12-1)これらの建築の様相は、建築物の量感や浸透感、接触感によって主体的なふるまいとして周辺景観に働きかけることで、建築物を景観の一部となるように確実に位置づけている。

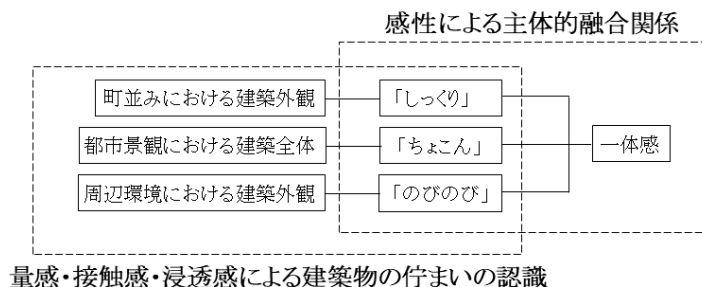


図 5-2-12-1 感性による主体的融合関係

建築が街並みの景観への合致を試みる際、常套手段として計画される建築物に既存の建築物に特徴的な形態や素材などを共通する要素として取り入れ、あらかじめ予定される風景を保つために、その全体像の一部として序列化する。対して、建築物自身のふるまいとして街並みと関係を結ぶ上述の建築の様相は、形式化された論理的な方法を受動的に受け入れるのではなく、自らの建築の特徴を活かしながら周辺環境へ共働するような建築の在り方を設計者の感覚に基づいて模索しているといえる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、建築物と周辺の間を量感、浸透感、接触感による建築物のふるまいとして捉え直すことで固定化した概念を軟化させ、自らの独自性を保ちながらも周辺環境や地域へと働きかけ、新たな全体性の創造に寄与する建築物と周辺環境との関係づくりの目論みをしていると考えられる(図 5-2-12-2)。

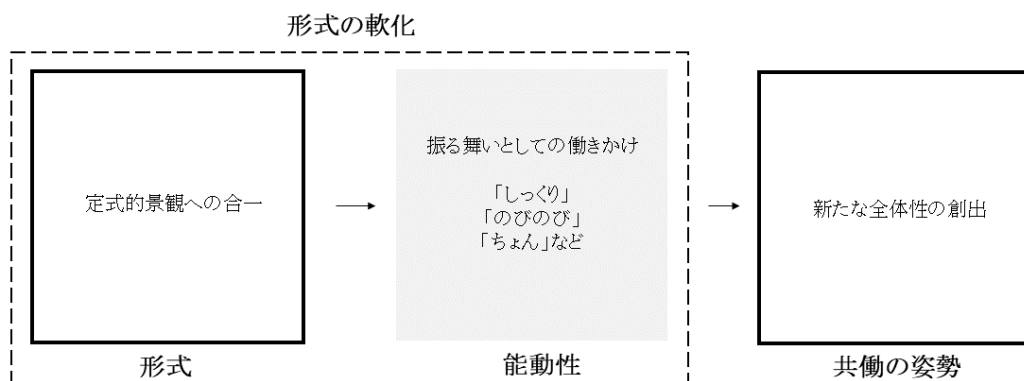


図 5-2-12-2 形式から能動性へ

5-2-13 外皮から批評性へ

外皮とは、建築物を支える構造としての骨と対比される、建築物の覆いの身体のメタファー表現である。近代において、鉄やコンクリートによる建築の技術的発達により、建築物の表面を形成する外壁は、建築物の荷重を支える役割から解放され、独立した機能と表現の自由を獲得した。以来、建築物の外皮は非物質化した表層としてその意味を拡大させる傾向にある。また、私欲の表現となる見かけがでげさで、視認される表層と建築の実体との間にずれが生じる商業的建築などは「張りぼて建築」として批判の対象にもなっている。

「メンテナンスとセキュリティの要請でガチガチに角質化してしまった建築の皮膚を、なんとかあのピンク色の産毛に覆われたやわらかな皮膚に戻すことはできないだろうか」^{注 35)} などの描写にみられるように、『排他的な建築表情』として意味づけられる建築の様相では、皮膚感覚からファサードの固着感を認識することにより、膠着した建築に対する批判性が思考されている。対して、「透明だが表面と輪郭は滑らかではなく、微妙にもぞもぞしている。近づくにつれ凹凸のあるファサードは表情を持ち始め、見る角度によって形状や方立の密度が柔軟に変化する」^{注 36)} などの描写にみられるように、『触覚による空間がもつ肌理の伝達』として意味づけられる建築の様相では、皮膚感覚からファサードを観念的な動きのあるものとして認識することにより、生命感のある建築が思考されている。(図 5-2-13-1) これらの対称的な様相は、皮膚感覚によって捉えられる建築の生と死のメタファーを形成しており、同様な批判的な精神の上で思考されていると考えられる。

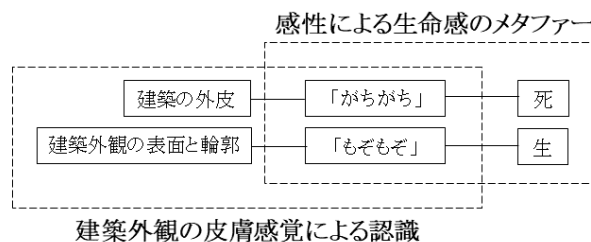


図 5-2-13-1 感性による生命感のメタファー

これらの建築の様相の背景として、セキュリティだけでなく、経済性などの外的な要因の直接的な表現となった建築外観のパターン化や、外皮を建築の内実と分離した記号として形態に偏重した利己的な表現手段とする現代建築のモードによる都市景観とその体験の乏しさが指摘できる。従って、生命体の死を意味する外皮の硬化や人の動きに応答した生命感のあるファサードの様相は、そのような状況に対する批判と回答といえ、都市景観とその体験を変えようとする意思を表明していると理解できる。

以上のことから、建築は、擬態語表現からみた感性的な思考において、独立した表現媒体となっている建築外皮における批評性を表し、その在り方を身体感覚から問い直していると考えられる(図 5-2-13-2)。

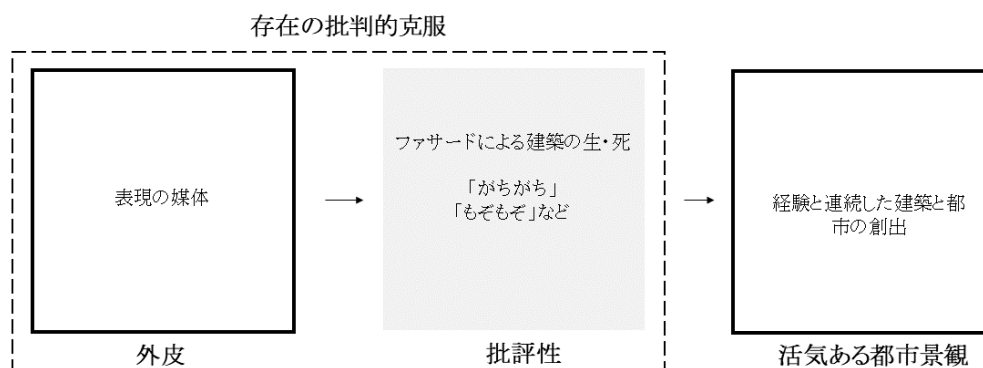


図 5-2-13-2 外皮から批評性へ

5-2-14 条件から臨界性へ

建築法規は、人の生命の安全、健康、財産を保護する目的で建築物が建てられる際に満たすべき条件を定めている。また、敷地や地理的条件、気候条件、宗教や文化的理由、建設資材の生産や運搬、コスト、施主の要求など、建築物の設計には様々な条件が取り巻いている。条件は建築家が理想とする建築を表現する上でその制約ともなり兼ねないが、条件が設計のアイデアの発想のもとになることもあり、優れた建築においては自明とされる条件を超越していくことで新たな建築を生み出しており、設計の条件とは、建築が成立するあるいは生起するある状況をつくっているといえる。

「建物の東側の線を出し、北側の線はこの種の案として校地を最大に生かすためぎりぎりのところまで追い込んである」^{注 37)} などの描写にみられるように、『均衡した境面の顕在化』として意味づけられる様相は、「ぎりぎり」と称されるひとつの思考の特徴を示している。「ぎりぎり」という擬態語によって描写される建築物の様相では、建築境界と建築物、可視線と親近性、機能性とヴォリューム、柱梁構造と壁構造、生活と空間といった設計条件に対して、設計考慮事項間の均衡状態を接近感として認識することにより、臨界状態で設計の解法を導き出しており、設計者がある条件下で設計の限界に挑戦していることがうかがえる。(図 5-2-14-1)

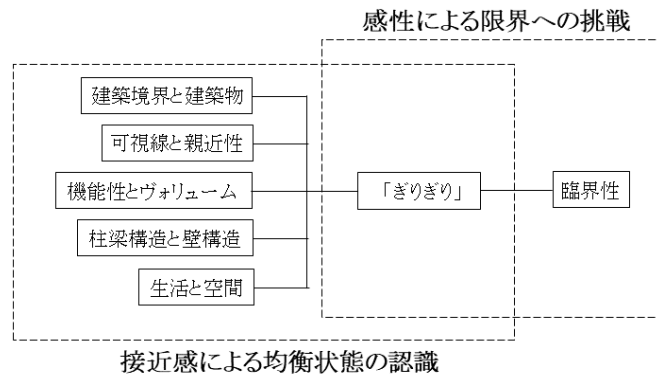


図 5-2-14-1 感性による限界への挑戦

「ぎりぎり」とはある事象同士が限界地点に達して均衡状態を保っているひとつの力学的な現象であり，その均衡を保っている要素のうちひとつでも欠けてしまうと関係の存在として成立している建築の様態が崩壊してしまうような危機な状態を指している。しかし，このような状態だからこそ，平常状態ではみえてこない，均衡が破られることで発見され得るまったく別次元の建築の存在様態に接近する可能性があるともいえる。

以上のことから，擬態語表現からみた感性的な思考において，設計者は，臨界状態に身を置きながら，自らが掲げる建築の理想に向けて感覚を研ぎ澄ませ，新しい建築を切り開く建築創作・設計への挑戦をしていると考えられる(図 5-2-14-2)。

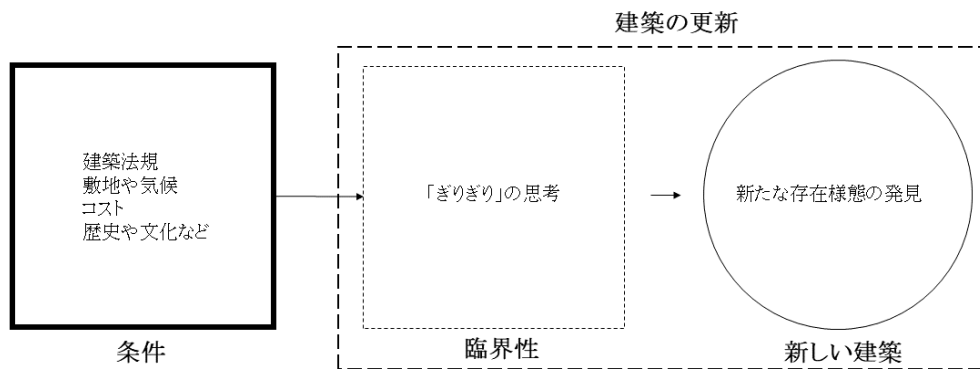


図 5-2-14-2 条件から臨界性へ

5-3 小結

本章では、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相の類型と、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相の類型を合わせて、擬態語によって捉えられる建築の様相の特徴を総合的に考察した。擬態語の語感から得られる感覚に則り解釈した建築の様相は、建築空間における対象物の質感や形状の実感、心理や情感、社会や文化的意味の喚起と、建築のものとしての側面に関わる実体的な意義から建築の意味としての側面に関わる観念的な意義までを示し、融和、一体、安心感、落ち着き、豊かさ、居住性、機能性、美を中心的なキーワードとし、機能と美を備え、社会や環境と安定した関係を築き、人間に安らぎをもたらす、作用と意味を有する建築の具体層を形成していることを述べた。

続いて、擬態語表現における建築の即物と具体の様相の類型を、建築に固有の性質や原理を示す概念と対照させながら横断的に考察し、擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考を論じた。その結果、集積から融解へ、自立から存在連鎖へ、静物から時間へ、人工物から生態系へ、標準空間寸法から活動へ、容器から親和性へ、規則性から原理へ、構法から規範性へ、形状から拍子へ、記号から記憶へ、際から美意識へ、形式から能動性へ、外皮から批評性へ、条件から臨界性への少なくとも 14 の擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考の特徴を形式的に明らかにした。

集積から融解へでは、建築物を構成する要素と建築物を取り巻く事象とを同列に位置づけ、人と環境要素と建築物が一体感ある雰囲気をもったひとつの環境として空間を想像していることを述べた。自立から存在連鎖へでは、建築の存在意義を相対化し、経験する主体である人を環境と共に位置づけていることを述べた。静物から時間へでは、静物としての建築は視覚や身体性を通して建築における時間概念を拡張していることを述べた。人工物から生態系へでは、気候や大地という地球規模の発想から人工物としての建築を生態系の一部として再定義していることを述べた。標準空間寸法から活動へでは、身体性を介して空間を拡張させることで、基準的な空間を個々の状況に応じて微調整し、特徴ある活動の場になっていることを述べた。容器から親和性へでは、建築物それ自体のみでなく、中身となる利用者の身体性と添景物との関係性から空間の在り方を具体的に提案することで、外形が示す道具的性質に不足している空間の内容を補填し、建築をより一層人と結びつきの深いものになっていることを述べた。規則性から原理へでは、既製の空間構成概念を脱し、新しい空間を生み出す構成の原理を感覚的に素描することで、時代に応じた建築空間の探求をしていることを述べた。構法から規範性へでは、観念としてではなく、硬さや柔らかさの感覚にのせて建築の普遍的あるいは時代に応じた価値観を示そうとしていることを述べた。形状から拍子へでは、形状により建築実体としての効果を強調することで、建築に付された観念的な意味の認識ではなく、人の実感を伴った経験性を主張していることを述べた。記号から記憶へでは、視点の変更により、意味が不確かな記号の戯れとしての表層ではなく、実存の空間の体験をもたらす建築表面の肌理を注視することで、人の意識の深層へ接近していることを述べた。際から美意識へでは、美に対する日本の感性を示していると同時に、

感じられるものとしての根本的な美を追及していることを述べた。形式から能動性へでは、建築物と周辺の関係に触感や接触感によって建築物のふるまいとして捉え直すことで固定化した概念を軟化させ、自らの独自性を保ちながらも周辺環境や地域へと働きかけ、それらと共に新たな全体性に寄与する関係の創造の目論みをしていることを述べた。外皮から批評性へでは、独立した表現媒体となっている建築外皮における批評性を表し、その在り方を問い直していることを述べた。条件から臨界性へでは、建築家は、臨界状態に身を置きながら、自らが掲げる建築の理想に向けて感覚を研ぎ澄ませ、新しい建築を切り開く建築創作・設計への挑戦をしていることを述べた。

以上のことから、擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考は、実感され多義を有する建築物や空間を具体的に想像させているだけでなく、全体性が不確かであったり、あるいは分解すると意味を失ってしまいかねない関係にあるような連鎖する事象を総体として認識させることにより、単体では表現しきれない多様な状態を建築にもたらししているといえる。また、背景にある建築固有の概念を微調整、補填、軟化、拡張、変更していくような建築設計を、常用的な言葉の感覚にのせてさりげなく行っているといえる。感性的な思考は、論理的な思考のような明晰さと概念的な強さをもたないが、概念化することで切り落とされてしまう多様な差異のある建築の価値を気づかせている。そしてそれらを建築設計に取り込むことで建築固有の概念をより緻密なものにしていると同時に、建築の存在を少しずつ変えていると考えられる。

注

- 注1) 高原生樹建築設計：敷石屋根の家，新建築，p. 293，1983. 8
注2) タオアーキテクト／代沢の家 街並みに配慮した小規模宅地開発，新建築，p. 169，2003. 11
注3) 長島孝一：福山暁の星女子中学・高等学校体育館，新建築，p. 238，1984. 7
注4) 鹿島建設：三洋証券本社別館，新建築，p. 252，1988. 7
注5) 宮元佳明／アトリエ第5建築界＋池田昌弘／池田昌弘建築研究所：ヒ，新建築，p. 201，2001. 2
注6) 隈研吾：宝積寺駅グリーンシェルター，新建築，p. 81，2006. 7
注7) 近田玲子デザイン事務所 TIS & PARTNERS：光のプリズム（川口公園エレベータシャフト上屋），新建築，p. 260，1994. 4
注8) 大熊喜英：黒沢邸，新建築，p. 209，1978. 8
注9) 三菱地所設計：2006 年日本国際博覧会 企業パビリオンゾーン A 三菱未来館@earth，新建築，p. 169，2005. 5
注10) 黒川紀章：吉備町役場，新建築，p. 125，1995. 12
注11) 曾根幸一・環境設計研究所：富山県総合運動公園陸上競技場，新建築，p. 222，1995. 1
注12) 倉敷建築事務所：愛染橋病院，新建築，p. 153，1965. 3
注13) 茨城県土木部営繕課／日建設計：茨城県立図書館（旧茨城県議会議事堂），新建築，p. 84，2002. 2
注14) 西沢立衛：船橋アパートメント，新建築，p. 82，2004. 6
注15) トラフ建築設計／鈴野浩一＋禿真哉：井の頭の住宅（桜アパートメント），新建築，p. 162，2006. 2
注16) 石井和紘：児玉邸，新建築，p. 265，1980. 8
注17) 竹中工務店：勾配屋根とスキップフロアーの住宅，新建築，p. 127，1962. 5
注18) 工藤国雄＋L-HOUSE：ニコニコのり九州工場，新建築，p. 308，1991. 4
注19) アトリエR＋アカデメイア建築研究所：林間劇場，新建築，p. 178，1987. 4
注20) 藤本壮介建築設計事務所：house N，新建築，p. 122，2008. 9
注21) 長谷川逸子：徳丸小児科，新建築，p. 184，1979. 10
注22) 遠藤楽：山荘-3，新建築，p. 62，1961. 8
注23) 隈研吾：KRUG X KUMA = ∞〈無限大〉KXK，新建築，p. 148，2005. 9
注24) 山下和正：ペガサスビル，新建築，p. 184，1979. 6
注25) 若松均：上用賀のコートハウス，新建築，p. 205，2007. 8
注26) 村山建築設計：東江幼稚園，新建築，p. 204，1995. 4
注27) 木村誠之助：K 証券葉山研修センター，新建築，p. 226，1993. 3
注28) 隈研吾：オボジットハウス，新建築，p. 117，2009. 3
注29) 隈研吾：ちよつ蔵広場，新建築，p. 76，2006. 7
注30) 宮川英二＋若木滋：A 博士邸，新建築，p. 52，1959. 4
注31) 匠設計：やむちんの里，新建築，p. 206，1982. 3
注32) 浅利幸男／ラブアーキテクチャー：石双居，新建築，p. 188，2010. 2
注33) 高松伸：AUBERGE，新建築，p. 319，1988. 6
注34) 山口文象：久ヶ原教會，新建築，p. 250，1950. 9
注35) 隈研吾：オボジットハウス，新建築，p. 126，2009. 3
注36) 石黒由紀：F-SPACE，新建築，p. 158，2009. 5
注37) 早大安藤研究室：第四大島小学校，新建築，p. 10，1958. 5

参考文献

- 1) 日本建築学会編：建築設計資料集成 【人間】，丸善出版，2003.1
- 2) Colin Davices: Thinking About Architecture An Introduction to Architectural Theory, Laurence King Publishing, 2011
- 3) エイドリアン・フォーティ著，坂牛卓／邊見浩久監訳：言葉と建築 言語体系としてのモダニズム，鹿島出版会，2006.7
- 4) James Eckler: Language of Space and Form, John Wiley and Sons, 2012
- 5) 磯崎新：《建築》という形式 I，新建築社，1991.8

6 結論

6-1 各章のまとめ

以下に各章で得た知見をまとめる。

第1章「序論」では、本研究の背景と目的及び意義を示した。また、関連する既往研究を整理した。

第2章「研究の論理と進め方」では、研究の論理として、分析を進めるうえで基盤となる感性、擬態語表現、即物と具体についての考え方を説明した。そして、分析対象資料となる『新建築』の建築作品解説文の位置づけを行い、実際の分析の進め方と研究の構成を示した。

第3章「建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相」では、設計者による自身の作品に対する記述の中から擬態語表現における建築の即物の様相について、基本義・主体・規定語の観点から考察を行った。まず、基本義と主体のクロス集計結果を基にコレスポネンス分析を行い、全体の用法として関連性を考察した結果、潜在性による環境計画事象、空間を演出する流動体、拡張により捉えられる肌理、形状による建築の主要部位の振る舞いの4つの傾向に整理することができた。また、基本義と規定語においても同様に分析・考察し、微調整された動向、定常状態の逸脱、形成される取合いの差異、鋭鈍により顕在化する相関の4つの傾向に整理することができた。

これらを踏まえて、基本義、主体、規定語の特徴を重ね合わせることによって考察した結果、少なくとも24種の擬態語表現における建築の即物の様相が認められた。さらにその性質や役割から、存在と消滅の間を移ろう建築の現象的な諸相、全体を構成する要素を局所的に強調することで複合的な性質を帯びた空間の様相、人の知覚・体験・心理作用を促すものとしての建築を構成する物体やその性状、及び建築物と周辺環境の物理的な間柄を繊細に取りもつ様相の大きく4つの即物の様相として意味づけられていることを明らかにした。そして、擬態語表現における建築の即物の様相は、一般概念を示す言葉による分節的な建築の思考とは異なり、感性により捉えられる即物間の関係の強弱に依拠したシームレスな思考によって、建築の価値を相対的に形成していることを述べた。

第4章「建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相」では、設計者による自身の作品に対する著述の中から擬態語表現における建築の具体の様相について、主体、基本義、表出概念の観点から考察を行った。まず、主体と基本義のクロス集計結果を基にコレスポネンス分析を行い、全体の用法として関連性を考察した結果、身体によって感知される物性の尺度、形質の増幅による建築物内外境界の規定、鋭鈍により顕在化される建築空間の体系、空間の余裕の様相の4つの傾向に整理することができた。また、主体と表出概念においても同様に分析・考察

し、物性の洗練による機能の正当化、初源的構築要素の表象の獲得、周辺要素の情景化、感情への作用をもつ空間の4つの傾向に整理することができた。

これらを踏まえて、主体、基本義、表出概念の特徴を重ね合わせることによって考察した結果、少なくとも26種の擬態語表現における建築の具体の様相が認められた。さらにその性質や役割から、建築物が他者に対し影響を及ぼす働き、建築物と周囲との関係性の強弱、建築物への独自の設計観の付加、設計の次の過程への発展、子細な建築物の構成、人々の営みの場の大きく6つの具体の様相として意味づけられていることを明らかにした。そして、擬態語表現における建築の具体の様相は、自身の特性とその周囲への効果を明確にし、作用物としての役割を顕在化させるものから、自身の特性が抽象化され構成要素を規定する背景となるものまで、建築の主体性の強弱を言い表しており、建築物とそれを取り巻く要素を総体として捉え、そこに偏向性を相対的に創り出す過程で表出してくる印象により建築を意味づけていることを述べた。

第5章「建築物の言語描写の擬態語表現における即物と具体の様相からみる建築の感性的思考」では、まず、第3章と第4章で導出した擬態語表現における建築の即物の様相と具体の様相を合わせて建築の様相として総体的に把握し、その後、それらを横断的に考察することで、14の建築における感性的思考の特徴を明らかにした。

擬態語の言葉の語感から得られる感覚に則り解釈される擬態語表現による建築の様相は、機能と美を備え、社会や環境と安定した関係を築いた人間に安らぎをもたらす存在としての建築を中心軸とし、建築空間を通して外界から人の意識までを繋ぐ建築の諸相を有し、実感される実体的意義と想起される観念的意義をあわせもった具体層を形成していることを述べた。そして、建築の感性的思考は、集積、自立、静物、人工物、標準空間寸法、容器、規則性、構法、形状、記号、際、形式、外皮、条件という建築に固有の概念と対照され、それぞれ融解、存在連鎖、時間、生態系、活動、親和性、原理、規範性、拍子、記憶、美意識、能動性、批評性、臨界性の側面において建築設計を展開し、実感され多義を有する建築物や空間を具体的に想像させているだけでなく、全体性が不確かであったり、あるいは分解すると意味を失ってしまいかねない関係にあるような連鎖する事象を総体として認識させることにより、建築に多様な状態をもたらしていた。また、対照された建築固有の概念に対し微調整、補填、軟化、拡張、変更をさりげなく行っていることを指摘した。故に、擬態語描写における建築物の即物の様相と具体の様相からみる建築の感性的思考は、論理的な思考のような明晰さと概念的な強さをもたないが、概念化することで切り落とされてしまう多様な差異のある建築の価値を気づかせ、それらを建築設計に取り込むことで建築固有の概念をより緻密なものにしていると同時に、建築の存在を少しずつ変えていると結論づけた。

6-2 総括と展望

本論文は、設計者が必ずしもひとつの概念では言い表すことのできない未分化なイメージを感じ取り、建築物の設計を通して表現しているという前提で、感性という主観的で漠然とした人の側面に焦点を当て、その建築の創作や設計における思考を多数の建築家の言説から総じて論じ、建築における感性的思考のいち知見を得ることを試みた。

感性という主観の総体を論じるにあたり、言葉自体に多義を含み、その語義が音韻と語形からある程度特定される擬態語に着目し、設計者が言葉の語感から得られる感覚に則って建築のある特徴を具現的に解釈した言説を分析対象として取り上げた。擬態語を用いた建築物や空間についての表現は、物性に即した佇まいや動きの様相があたかも事物や現象の内面的な性格が空間の様相となって現れてくるような強い印象を与え、さらに、イメージ喚起性が高い複合的な様相として美観、社会性、歴史性などのより拡張された概念までを表出させる。そこで、「擬態語は、建築家の感覚的なフィルターを通して解釈された建築物の性質、概念的に漠然とした未分化なイメージ、現象の様相から受ける印象や価値などをより直接的に表現し、建築家が建築空間に込めた思いや意図を映し出している」と仮説し、「擬態語表現による建築物の言語描写において、建築空間を構成する建築物自体、建築構成部位、物質的現象などの知覚可能な実体的要素を即物、建築空間を構成するそれらの事物や現象が擬態語によって描写されることで表出する概念が建築物自体の形状や物理的性質に付帯することを具体」と定義し、建築をものとしての側面と意味としての側面を併せもつ存在として、建築の即物の様相と具体の様相を分析した。

建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相は、存在と消滅の間を移ろう建築の現象的な諸相、全体を構成する要素を局所的に強調することで複合的な性質を帯びた空間の様相、人の知覚・体験・心理作用を促すものとしての建築を構成する物体やその性状、及び建築物と周辺環境の物理的な間柄を繊細に取りもつ様相の大きく4つの即物の様相として意味づけられ、一般概念を示す言葉による分節的な建築の思考とは異なり、感性により捉えられる即物間の関係の強弱に依拠したシームレスな思考によって、建築の価値を相対的に形成していることが分かった。

建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相は、建築物が他者に対し影響を及ぼす働き、建築物と周囲との関係性の強弱、建築物への独自の設計観の付加、設計の次の過程への発展、子細な建築物の構成、人々の営みの場の大きく6つの具体の様相として意味づけられ、建築の主体性の強弱を通して、建築物とそれを取り巻く要素を総体として捉え、そこに偏向性を相対的に創り出す過程で表出してくる印象によって建築に意味づけしていることが分かった。

そして、建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物と具体の各様相を合わせた考察から、建築の感性的思考は、実感される実体的意義と想起される観念的意義とを有する具体層として建築を形成していることがわかった。さらに横断的な検討から、建築の感性的思考は、集積、自立、静物、人工物、標準空間寸法、容器、規則性、構法、形状、記号、際、形式、外皮、条件という建築に固有の概念に照応されながら、融解、存在連鎖、時間、生態系、活動、親和性、原理、規範性、拍子、記憶、美意識、能動性、批評性、臨界性の側面において建築設計を展開し、

概念化することで切り落とされてしまう事象を多様な価値を生じるものとして建築に取り込み、建築の原初的な部分から少しずつ変化させていることが分かった。

本論は、建築の感性的な思考を言説から総論的に論考する初歩的な試みの成果とし、ひとつの知見を得て、この領域の今後の研究におけるひとつの指針を示したと考える。その一方で、課題も明らかになった。本論は、擬態語表現からみる建築の感性的思考の全体像を先ず把握することを重視したため、語句自体に多義を含む擬態語の語義の子音から発生する意味に限定して分析を行った。語形変化の特徴による意味の傾向も考慮することで、建築空間を構成する各要素の成立している状態や動きを詳細に分析することができ、それぞれの様相に対する深い考察ができると考える。設計者ごとの擬態語の用法の違いから個別の建築的思考について明るみにすることも今後の取り組みに委ねられるだろう。また、他言語における擬態語表現からみる建築の様相と比較考察することで、本論で得た建築の感性的思考の特徴は、擬態語が常用語として普及している日本語による建築の思考に特有なものなのか、つまり、日本の建築的な感性を表しているのかを検討することができると考える。そして、建築における感性的思考の幅広い知見を得て、体系的な研究とするために、擬態語以外の感覚を表す語や文章表現に目を向ける必要もあるだろう。

ポストモダンが開いた建築の多様性と対立性の時代では、従うべきひとつの建築の教旨は存在せず、良きにしろ悪きにしろ、多様な主観性とその機動力となっている感性によって建築は動いているといえる。そのような状況にあって、個的であること、つまり主観性は没個性となりつつある。建築における多様な主観性を理解し判断するために建築の感性的思考の枠組みを整理し、感性を活かしながら気鋭の建築を生み出すための建築設計過程の構築へ向けた取り組みが望まれる。

謝辞

本論文をまとめるにあたり，多くの方々にご指導，ご助力，ご協力をいただきました。巻末ではありますが，これらの方々に心から感謝申し上げます。

主査・指導教官として，終始きめ細やかなご指導と視野を広げる数々のご助言を賜りました名古屋工業大学大学院教授 北川啓介博士（工学）に心から感謝の意を表します。

学部時代にご指導を賜り，本論文につきまして，ご指導・ご助言いただきました 名古屋工業大学大学院教授 麓和善工学博士 に深く感謝を申し上げます。

本論文につきまして，ご指導いただきました 名古屋工業大学大学院教授 石松丈佳博士（工学），名古屋工業大学大学院准教授 夏目欣昇博士（工学），名古屋大学大学院准教授 恒川和久博士（工学）に深く感謝を申し上げます。

また，本研究を通して，名古屋工業大学工学部北川啓介研究室の皆様にご協力をいただきました。本研究の初期に共働いたしました藤永麻友氏に謝意を表します。印刷発表では，田原聖氏，倉田駿氏，篠原里織氏に多大なご協力をいただきましたこと，厚く御礼申し上げます。そして，本論文をまとめるにあたり，石本晃之氏，上原啓氏に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

最後に、本論文作成中，常に精神的な支えとなっていた家族，恭子，春樹，莉里に心から感謝いたします。

2019 年吉月吉日

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-----------------|---------------------|---------|----------|--------------|---------|-------------|----------|
| 1 | 1950 | 2 | 56 | 東交會館 | 井上工業K. K. | スツキリ | 【整然性(小)】 | エレベーション | [建築外觀] | 望んでいる | 〈視認〉 |
| 2 | 1950 | 4 | 108 | 赤十字子供の家 | 匠建築研究所 | ポツツリ | 【衝撃(小)】 | 子供の家 | [建築全体] | たった | 〈建設〉 |
| 3 | 1950 | 4 | 113 | うさぎ幼稚園 | 清家清 | ポツカリ | 【裂け方(弱)】 | 穴 | [開口部] | あいた | 〈開放〉 |
| 4 | 1950 | 8 | 236 | 山岡内燃機東京支店社屋 | 山岡内燃機施設課 大林組 | スツキリ | 【整然性(小)】 | 建物 | [建築全体] | 仕上げている | 〈加工〉 |
| 5 | 1950 | 10 | 16 | 全銀連會館 | 信建築設計 | しつくり | 【沈着性(小)】 | パルコニー | [外部空間] | 落着かない | 〈騒然〉 |
| 6 | 1950 | 10 | 16 | 全銀連會館 | 信建築設計 | しつくり | 【沈着性(小)】 | 階段 | [動線空間] | 落着かない | 〈騒然〉 |
| 7 | 1951 | 2 | 23 | 木肌の美しい仕上 - H氏の家 | 鹿島建設株式會社設計部 | たつぷり | 【過剰性(小)】 | 材料 | [材料] | 使って | 〈使用〉 |
| 8 | 1951 | 7 | 1 | 志摩觀光ホテル | 近畿日本鐵道營繕課 村野・森建築事務所 | ゆつたり | 【弛緩性(小)】 | 建物 | [建築全体] | 横たわっている | 〈回転〉 |
| 9 | 1951 | 8 | 2 | 永井邸 - 眉山居 - | 吉村建築事務所 | ぐつ | 【衝撃(大)】 | 中庭 | [外部空間] | 引き入れられてしまった | 〈引張〉 |
| 10 | 1951 | 8 | 5 | 永井邸 - 眉山居 - | 吉村建築事務所 | キリツ | 【緊張度(小)】 | そろばん蒔・唐棧蒔の木綿 | [調度品] | しめている | 〈引張〉 |
| 11 | 1951 | 8 | 236 | 日本板硝子株式會社東京支店 | 日建設計 | たつぷり | 【過剰性(小)】 | お手のもののガラス | [ガラス] | 使い | 〈使用〉 |
| 12 | 1951 | 10 | 22 | M氏邸 | 久米設計 吉久秀夫 | スカツ | 【加速度(小)】 | 南側の軒線 | [輪郭] | 伸ばした | 〈伸張〉 |
| 13 | 1952 | 1 | 8 | 神奈川縣立近代美術館 | 坂倉準三 | ぐつ | 【衝撃(大)】 | 床 | [床] | 張り出し | 〈突出〉 |
| 14 | 1952 | 3 | 113 | 18坪の家 | 安田興佐 | ゆつたり | 【弛緩性(小)】 | 居間 | [室空間] | とれ | 〈確保〉 |
| 15 | 1952 | 4 | 157 | 島田邸 | 大成建設 大熊喜英 | しつくり | 【沈着性(小)】 | 杉疋敷目板張 | [材木] | 抑えている | 〈制御〉 |
| 16 | 1952 | 4 | 157 | 島田邸 | 大成建設 大熊喜英 | しつくり | 【沈着性(小)】 | 平縁天井 | [天井] | 抑えている | 〈制御〉 |
| 17 | 1952 | 4 | 190 | 6坪の小住宅 | 坂本鹿名夫 | こちんまり | 【衝撃(小)】 | 家 | [建築全体] | 建てられる | 〈建設〉 |
| 18 | 1952 | 4 | 192 | 坂本邸 | 田中宗一 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | ポーチの邊 | [軒] | 伸びている | 〈伸張〉 |
| 19 | 1952 | 8 | 377 | S邸 | 村田政眞 | しつくり | 【沈着性(小)】 | 住宅 | [建築全体] | 建てられた | 〈建設〉 |
| 20 | 1952 | 10 | 458 | グレセット記念講堂 | 山口文象 | ピン | 【緊張度(小)】 | 構造 | [構造] | 緊張している | 〈引張〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|----|-------------|----------------|---------|----------|-------------|---------|----------|----------|
| 21 | 1953 | 1 | 16 | 日本相互銀行本店 | 前川國男 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | オーデイトリウム | [室空間] | 配置 | 〈配置〉 |
| 22 | 1953 | 7 | 12 | 土田さんの家 | 山口文象 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 木柵 | [塀] | 出来上った | 〈形成〉 |
| 23 | 1953 | 9 | 29 | 三人姉妹の家 | 福田尚之 | ボツカリ | 【裂け方(弱)】 | 土地 | [敷地] | 残っていた | 〈存在〉 |
| 24 | 1953 | 10 | 30 | 朝日羽衣園 | 三座建築事務所 | びったり | 【付着度(小)】 | 建物 | [建築全体] | あてはまる | 〈適合〉 |
| 25 | 1954 | 2 | 45 | 長野県立長野保健所 | 佐藤鑑・河合正一 | ゆつくり | 【変化量(小)】 | 人 | [人] | 話の交ざる | 〈行動〉 |
| 26 | 1954 | 10 | 50 | 毛織機のある小住宅 | 建畠惣弥 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 寝室 | [室空間] | まとめられている | 〈整理〉 |
| 27 | 1955 | 1 | 31 | 津田塾大学図書館 | 丹下健三 神谷宏治 長島正充 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 自然 | [自然] | 拡がっていく | 〈拡張〉 |
| 28 | 1955 | 1 | 31 | 津田塾大学図書館 | 丹下健三 神谷宏治 長島正充 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 学園 | [建築全体] | 拡がっていく | 〈拡張〉 |
| 29 | 1955 | 9 | 20 | 白鷺診療所 | 伴弘好 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 待合室 | [室空間] | とり | 〈確保〉 |
| 30 | 1956 | 5 | 42 | 関東労災病院・計画 | 建設省関東地方建設局営繕部 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 患者 | [人] | 利用する | 〈使用〉 |
| 31 | 1956 | 8 | 31 | H氏邸 | 清水一 | ぐっ | 【衝撃(大)】 | 8帖と6帖のタタミの間 | [室空間] | 明るく | 〈発言〉 |
| 32 | 1956 | 8 | 31 | H氏邸 | 清水一 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 住宅 | [建築全体] | 配置された | 〈配置〉 |
| 33 | 1956 | 10 | 31 | 福島県教育会館 | MIDO同人 | ドッカリ | 【量(多)】 | 壁 | [壁] | 支えている | 〈構成〉 |
| 34 | 1957 | 2 | 10 | 栗の木の家の家 | 宮島春樹 生田勉 | たっぶり | 【過剰性(小)】 | 材料 | [材料] | 使う | 〈使用〉 |
| 35 | 1957 | 8 | 2 | 読売会館＝そごう百貨店 | 村野・森建築事務所 | どっしり | 【質量(重)】 | 大理石の小片 | [石] | 張りつめた | 〈付着〉 |
| 36 | 1957 | 12 | 40 | 喫茶店シャトゥ | 水島政男 | ギッシリ | 【密集度(大)】 | 商店街 | [周辺環境] | 詰まった | 〈充填〉 |
| 37 | 1958 | 5 | 10 | 第四大島小学校 | 早大安藤研究室 | ぎりぎり | 【臨界性(大)】 | 建物の西側の縁 | [輪郭] | 追い込んである | 〈接近〉 |
| 38 | 1959 | 4 | 52 | A博士邸 | 宮川英二 若木滋 | すっきり | 【整然性(小)】 | 天井との取合い | [ディテール] | させている | 〈形成〉 |
| 39 | 1959 | 10 | 85 | 息子とおやじの仕事場 | 大熊喜英 | ぎりぎり | 【臨界性(大)】 | 部屋 | [室空間] | ところを取り | 〈形成〉 |
| 40 | 1959 | 11 | 73 | 新潟市体育館 | 宮川英二 | がっちり | 【固定度(大)】 | 柱列 | [柱] | 根をはった | 〈安定〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-------------------|-----------------------|---------|----------|----------|---------|---------|----------|
| 41 | 1960 | 1 | 94 | 世田谷区役所計画案 | 前川国男 | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | カウンター | 【調度品】 | おいて | 〈配置〉 |
| 42 | 1960 | 3 | 79 | 学習院大学計画案 | 前川国男 | ガラリ | 【量(多)】 | 広場 | 【外部空間】 | 一変させ | 〈変容〉 |
| 43 | 1960 | 3 | 79 | 学習院大学計画案 | 前川国男 | サンサン | 【明度(鮮)】 | 朝日 | 【光】 | 受けながら | 〈受容〉 |
| 44 | 1960 | 11 | 28 | 四日市市民ホール | 日建設計 | ひょこり | 【量(少)】 | ホール | 【建築全体】 | 浮かんでいる | 〈浮遊〉 |
| 45 | 1961 | 1 | 76 | N氏の小別荘 | 山脇建築研究室 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 各室 | 【室空間】 | 配置し | 〈配置〉 |
| 46 | 1961 | 1 | 94 | 中川邸 | 佐藤秀工務店 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 利用者 | 【人】 | 使える | 〈使用〉 |
| 47 | 1961 | 4 | 63 | 傾斜地にたつ家 | 副田道夫 | すっかり | 【明瞭性(鋭)】 | 景観 | 【風景】 | 取り入れて | 〈包容〉 |
| 48 | 1961 | 4 | 76 | F氏邸 | 田中淳 竹森光高 井出周利 高木武栄 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 廊下 | 【動線空間】 | させ | 〈形成〉 |
| 49 | 1961 | 5 | 33 | 深沢の家 | 楠見昭三 | ごろり | 【質量(重)】 | 家 | 【建築全体】 | 横になった | 〈回転〉 |
| 50 | 1961 | 5 | 65 | ドクター・デイビッド・ジョンソン邸 | 高瀬隼彦 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 玄関まわりの空間 | 【室空間】 | とってある | 〈確保〉 |
| 51 | 1961 | 6 | 52 | 大原美術館分館 | 倉敷レイヨون営繕部 渡辺鎮太郎 松村慶三 | がっちり | 【固定度(大)】 | 美術館 | 【建築全体】 | 受け止めている | 〈受容〉 |
| 52 | 1961 | 8 | 35 | 東京読売ゴルフ場クラブハウス | 大成建設 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | サラリーマン | 【人】 | 楽しめる | 〈娛樂〉 |
| 53 | 1961 | 8 | 90 | 山芦屋の家 | 大林組 右田広 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 建物 | 【建築全体】 | 配置し | 〈配置〉 |
| 54 | 1961 | 9 | 45 | 山荘-7 | 三輪正弘 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 遊ぶ人々 | 【人】 | 生活し | 〈生活〉 |
| 55 | 1961 | 10 | 65 | コンクリート造りのコート・ハウス | 斉藤英彦 | ボコボコ | 【量(多)】 | 穴 | 【開口部】 | あけて | 〈開放〉 |
| 56 | 1962 | 1 | 101 | K氏邸 | 坂倉準三 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | オープンプラン | 【平面形】 | 展開する | 〈開放〉 |
| 57 | 1962 | 5 | 127 | 勾配屋根とスキップフロアーの住宅 | 竹中工務店 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 家族 | 【人】 | 楽しめる | 〈娛樂〉 |
| 58 | 1962 | 10 | 126 | 棒柱のある家 | 清家清 | ピタリ | 【付着度(小)】 | 平面計画 | 【平面形】 | あった | 〈適合〉 |
| 59 | 1962 | 10 | 141 | ぼっこ山荘 | 生田勉 | がっちり | 【固定度(大)】 | 梁 | 【梁】 | 組み合っている | 〈構成〉 |
| 60 | 1963 | 3 | 103 | 成蹊学園 政治経済学部研究棟 | 吉武泰水・講堂建築設計 船越徹 広部達也 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 先生方 | 【人】 | くつろいで | 〈安息〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------|----------------|---------|----------|---|----------|-----------------|----------|
| 61 | 1963 | 6 | 157 | K氏邸 | 藤本武男 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 室内 | 【内部空間】 | ものにし | 〈形成〉 |
| 62 | 1963 | 12 | 180 | 小屋裏利用の家 | 飯田勝幸 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 屋根 | 【屋根】 | かぶり | 〈包容〉 |
| 63 | 1964 | 2 | 134 | 阪南高等学校 | 坂倉準三大阪支所 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 廊下 | 【動線空間】 | 取って | 〈確保〉 |
| 64 | 1964 | 7 | 147 | 慶応義塾幼稚舎講堂 | 谷口吉郎 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 室内の側壁 | 【壁】 | 型とし | 〈形成〉 |
| 65 | 1964 | 7 | 173 | 十里木の山荘 | 渡辺建築事務所 | すっさり | 【整然性(小)】 | エレベーション | 【建築外観】 | 見せる | 〈視認〉 |
| 66 | 1965 | 2 | 145 | 塩野義製菓名古屋分室 | 坂倉準三 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 4階建ての主屋 | 【ヴォリューム】 | 接している | 〈付着〉 |
| 67 | 1965 | 3 | 153 | 愛染橋病院 | 倉敷建築事務所 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 天井 | 【天井】 | つつむ | 〈包容〉 |
| 68 | 1965 | 4 | 156 | 九段高校尽性園哲明寮 | 森京介 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 青年たち | 【人】 | 汗を流し | 〈行動〉 |
| 69 | 1965 | 8 | 192 | 仙石原の山荘 | 茶谷正洋 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | ワイヤー | 【調度品】 | ゆるめていく | 〈制御〉 |
| 70 | 1965 | 9 | 177 | 野中建築事務所 | 野中建築事務所 | ギラギラ | 【明度(強力)】 | 太陽 | 【光】 | 輝く | 〈発信〉 |
| 71 | 1965 | 11 | 155 | 東京芸術大学付属図書館収蔵庫 | 東京芸術大学建築科 | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | 足元から芸大の庭へとつづき、さらに曲がり込んで美術学部の門からまたもや道路へとひろがり | 【外部空間】 | 続いて | 〈連続〉 |
| 72 | 1966 | 1 | 156 | ペガさんの家 | 小林設計 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 食堂 | 【室空間】 | 拡がり | 〈拡張〉 |
| 73 | 1966 | 1 | 156 | ペガさんの家 | 小林設計 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 屋根 | 【屋根】 | 広が | 〈拡張〉 |
| 74 | 1966 | 5 | 147 | 赤星邸 | 早稲田大学建築学科UI研究室 | どっさり | 【量(多)】 | 美術品 | 【調度品】 | あって | 〈存在〉 |
| 75 | 1966 | 5 | 147 | 赤星邸 | 早稲田大学建築学科UI研究室 | どっさり | 【量(多)】 | 書物 | 【調度品】 | あって | 〈存在〉 |
| 76 | 1966 | 7 | 162 | ソニービル | 芦原義信 | ちらちら | 【量(少)】 | 間仕切りパネル | 【壁】 | 見えて | 〈視認〉 |
| 77 | 1966 | 12 | 189 | 東京国際見本市協会 | 清水建設 | しっかり | 【固定度(小)】 | 事務館 | 【建築全体】 | 根を下ろして | 〈安定〉 |
| 78 | 1967 | 1 | 140 | K氏邸 | 坂倉準三 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | K氏邸 | 【建築全体】 | ひろがりをもって建てられている | 〈拡張〉 |
| 79 | 1967 | 2 | 171 | 114ビル・百十四銀行本店 | 日建設計 | キラキラ | 【明度(鋭)】 | 石床 | 【床】 | 光る | 〈発信〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-----------------------|-------------|---------|----------|------------|---------|----------|----------|
| 80 | 1967 | 3 | 166 | 八王子の家 | まさみ・さとう設計 | グッ | 【衝撃(大)】 | コーナー | 【動線空間】 | 廻りこんでいる | 〈湾曲〉 |
| 81 | 1967 | 8 | 163 | 日本館 | 芦原義信 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 構造体 | 【構造】 | 包む | 〈包容〉 |
| 82 | 1968 | 6 | 197 | 富士川サービシエリカ＝レス トハウス | 清家清 | ドッ | 【量(多)】 | 客 | 【人】 | きて | 〈進入〉 |
| 83 | 1968 | 7 | 184 | 浜田邸 | 田中清 | しっとり | 【湿度度(小)】 | 日本瓦 | 【材料】 | 押さえ | 〈制御〉 |
| 84 | 1968 | 7 | 206 | ドームのある1氏邸 | 池亀建築設計 | チラチラ | 【量(少)】 | 空間 | 【空間】 | ある | 〈存在〉 |
| 85 | 1968 | 8 | 212 | グイン・ホーム | 水谷頤介・小林郁雄 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 自然 | 【自然】 | 発育していく | 〈成熟〉 |
| 86 | 1969 | 1 | 170 | A氏邸 | 坂倉準三 | だんだん | 【加速度(大)】 | 住まい | 【建築全体】 | なってきた | 〈形成〉 |
| 87 | 1970 | 3 | 187 | 貿易研修センター | 芦原義信 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | キャンパス全体が | 【建築全体】 | 入る | 〈進入〉 |
| 88 | 1970 | 5 | 164 | 青山タワービル | 吉村順三 | ピタリ | 【付着度(小)】 | この事務所の横長の窓 | 【開口部】 | 符合した | 〈適合〉 |
| 89 | 1970 | 6 | 164 | 青山タワービル | 吉村順三 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 横長の窓 | 【開口部】 | すくいとして | 〈切取〉 |
| 90 | 1970 | 9 | 161 | 手塚邸 | 東孝光 | しっかり | 【固定度(小)】 | 基本的なスペース | 【領域】 | つくり | 〈形成〉 |
| 91 | 1971 | 4 | 172 | チェンマイ農業カレッジ | 坂倉建築研究所 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 実習農場 | 【外部空間】 | ひろがる | 〈拡張〉 |
| 92 | 1971 | 4 | 172 | チェンマイ農業カレッジ | 坂倉建築研究所 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 放牧場 | 【外部空間】 | ひろがる | 〈拡張〉 |
| 93 | 1971 | 5 | 226 | 長崎聖ピオ教会 | 凡建築設計 | がっちり | 【固定度(大)】 | 太い19本のロープ | 【調度品】 | 引締められている | 〈引張〉 |
| 94 | 1971 | 7 | 204 | 児童館 | 石川洋美建築設計研究室 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 立体トラス | 【構造】 | 梱包 | 〈包容〉 |
| 95 | 1971 | 9 | 179 | 秋田相互銀行ニッ井支店 | 宮脇檀 | ピタリ | 【付着度(小)】 | 陽 | 【光】 | 当たって光る | 〈発信〉 |
| 96 | 1971 | 10 | 232 | ヨール・ハウス 建築家の自 邸 | 松原忠策 | ボツリ | 【衝撃(小)】 | ヨット(住宅) | 【建築全体】 | 浮かんだ | 〈浮遊〉 |
| 97 | 1971 | 10 | 240 | 奥軽井沢の山荘 | UA都市建築研究所 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | (建築物) | 【建築全体】 | おさまる | 〈包容〉 |
| 98 | 1971 | 12 | 164 | 名古屋商科大学 | 村瀬卯市 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 北部の谷間 | 【地形】 | 包含 | 〈包容〉 |
| 99 | 1971 | 12 | 209 | 徳島県郷土文化会館 | 西山卯三 | グッ | 【衝撃(大)】 | 開放空間 | 【外部空間】 | 突入れる | 〈進入〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------|---------------|---------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| 100 | 1971 | 12 | 217 | 伊勢市観光文化会館 | 岡建築設計 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 市民会館 | [建築全体] | たてられる | 〈形成〉 |
| 101 | 1972 | 3 | 187 | 桐友学園 | 保坂陽一郎 | くねくね | 【弛緩性(小)】 | 廊下 | [動線空間] | 連続させ | 〈連続〉 |
| 102 | 1972 | 12 | 198 | 大同生命本社ビル | 竹中工務店 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 大部分の空間 | [内部空間] | 広がっている | 〈拡張〉 |
| 103 | 1973 | 2 | 172 | 東ヶ丘の家 | デザインシステム | ピツタリ | 【付着度(小)】 | 屋根 | [屋根] | 収まっている | 〈包容〉 |
| 104 | 1973 | 2 | 180 | 駒込の家 | デザインシステム | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 空気 | [空気] | 攪拌する | 〈流動〉 |
| 105 | 1973 | 2 | 208 | グリーンボックスハウス#2 | 宮脇檀 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 建築面積 | [ヴォリューム] | 建てる | 〈建設〉 |
| 106 | 1973 | 4 | 252 | 好文画廊 | 木村誠之助 | しっかり | 【固定度(小)】 | 壁 | [壁] | 形成する | 〈形成〉 |
| 107 | 1973 | 5 | 243 | さつき保育園 | 真孝光 | クルクル | 【巻き方(小)】 | 風車が | [調度品] | 回り | 〈回転〉 |
| 108 | 1973 | 7 | 192 | 長瀬邸 | 竹中工務店 | たぷり | 【過剰性(小)】 | ステンレス・レール | [金属] | 重量をかけた | 〈加工〉 |
| 109 | 1974 | 1 | 229 | PL学園幼稚園 | 相田武文 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 子供たち | [人] | 走り回ったり | 〈行動〉 |
| 110 | 1974 | 4 | 237 | 目黒学園幼稚園 | バンデモン設計研究所 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 園児たち | [人] | 走り回れる | 〈行動〉 |
| 111 | 1974 | 9 | 199 | 倉吉博物館 | 日建設計 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 有芳園西館 | [建築全体] | 静まりかえっている | 〈静寂〉 |
| 112 | 1974 | 9 | 250 | 市原市市民会館 | ARCOM | だんだん | 【加速度(大)】 | 空間 | [内部空間] | 閉鎖的になり | 〈閉鎖〉 |
| 113 | 1975 | 1 | 218 | トヨタ鞍ヶ池記念館 | 横文彦 | すっぱり | 【抵抗(小)】 | 休憩室 | [室空間] | 入りこんだ | 〈進入〉 |
| 114 | 1975 | 2 | 256 | 壬子碑堂 | 須賀徳光 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 壁面 | [壁] | 浮かせ | 〈浮遊〉 |
| 115 | 1975 | 4 | 167 | 富士見カントリークラブハウス | 磯崎新 | すれすれ | 【臨界性(小)】 | ヴォールト | [天井] | はわせる | 〈接近〉 |
| 116 | 1975 | 4 | 167 | 富士見カントリークラブハウス | 磯崎新 | すれすれ | 【臨界性(小)】 | ヴォールト | [天井] | はっている | 〈接近〉 |
| 117 | 1975 | 4 | 176 | 奈良県立民俗博物館 | 建築研究所アーキヴィジョン | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建物 | [建築全体] | 建つ | 〈存在〉 |
| 118 | 1975 | 5 | 202 | 愛知医科大学 | 鹿島建設 | すっぱり | 【抵抗(小)】 | 病室 | [室空間] | 納め | 〈包容〉 |
| 119 | 1975 | 5 | 229 | 新建築社屋 | 清家清 | メチャクチャ | 【散在性(小)】 | 発送係 | [人] | 忙しい | 〈騒然〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------------|---------|---------|----------|------------|---------|-----------|----------|
| 120 | 1975 | 8 | 152 | 緑段の家 | 竹中工務店 | しん | 【御撃(小)】 | その中 | 【内部空間】 | 静まりかえっている | 〈静寂〉 |
| 121 | 1975 | 8 | 240 | ル コフレ ルージュ | 黒沢隆 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 建築 | 【建築全体】 | 片寄せ | 〈接近〉 |
| 122 | 1975 | 9 | 274 | 首里の家 | 匠設計 | カンカン | 【明度(鋭)】 | 陽 | 【光】 | 照り | 〈発信〉 |
| 123 | 1975 | 10 | 187 | 北九州市立中央図書館 | 磯崎新 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 動線 | 【動線空間】 | つくる | 〈形成〉 |
| 124 | 1975 | 11 | 210 | るり溪ゴルフクラブハウス | 竹中工務店 | チラリ | 【量(少)】 | 色 | 【色彩】 | 見せる | 〈視認〉 |
| 125 | 1976 | 2 | 180 | H邸 | 出江寛 | ピツタリ | 【付着度(小)】 | 色 | 【色彩】 | くる | 〈形成〉 |
| 126 | 1976 | 2 | 262 | 佳朱亭 | 橋本文隆 | ぎりぎり | 【臨界性(大)】 | 空間 | 【内部空間】 | 切りつめられた | 〈縮小〉 |
| 127 | 1976 | 7 | 234 | 金城短期大学 | バンデコン設計 | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | 廊下 | 【動線空間】 | とりまく | 〈包容〉 |
| 128 | 1977 | 1 | 266 | 直島町民体育館・武道館 | 石井和敏 | べったり | 【粘性(強)】 | 太陽熱集熱板 | 【ディテール】 | 張り付く | 〈付着〉 |
| 129 | 1977 | 2 | 230 | BOX-A QUARTER CIRCLE | 宮脇檀 | ザラザラ | 【粗さ(粗)】 | 外壁 | 【壁】 | 仕上げて | 〈加工〉 |
| 130 | 1977 | 2 | 230 | BOX-A QUARTER CIRCLE | 宮脇檀 | ピツタリ | 【付着度(小)】 | 4階建ての建物 | 【周辺環境】 | 建つ | 〈存在〉 |
| 131 | 1977 | 2 | 230 | BOX-A QUARTER CIRCLE | 宮脇檀 | ピツタリ | 【付着度(小)】 | 隣家 | 【周辺環境】 | 建ち | 〈存在〉 |
| 132 | 1977 | 2 | 240 | トラスの家 | 深谷俊則 | しっくり | 【沈着性(小)】 | 住み手 | 【人】 | 溶け合って | 〈溶込〉 |
| 133 | 1977 | 2 | 240 | トラスの家 | 深谷俊則 | しっくり | 【沈着性(小)】 | 建物 | 【建築全体】 | 溶け合って | 〈溶込〉 |
| 134 | 1977 | 2 | 266 | 辻堂の家 | 林寛治 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 建替えや新築の住宅 | 【周辺環境】 | 立ち並ぶ | 〈配列〉 |
| 135 | 1977 | 4 | 152 | 夢の島総合体育館 | 坂倉建築研究所 | すっかり | 【明瞭性(鋭)】 | 構造材 | 【構造】 | 隠蔽する | 〈隠蔽〉 |
| 136 | 1977 | 5 | 242 | 東浦町立北部中学校 | 田中・西野設計 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 子供たち | 【人】 | 使い | 〈使用〉 |
| 137 | 1977 | 6 | 216 | 煉津の家2 | 長谷川逸子 | バラバラ | 【散在性(大)】 | ポリウム自身 | 【ヴァリウム】 | 分化させ | 〈分解〉 |
| 138 | 1977 | 10 | 186 | NOCビル | 保坂陽一郎 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | コールテン鋼のパネル | 【金属】 | つつんで | 〈包容〉 |
| 139 | 1977 | 11 | 216 | 中道サウンドリサーチセン ター | 戸田建設 | ボカッ | 【裂け方(弱)】 | 前庭 | 【外部空間】 | 開けた | 〈開放〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------|-----------------|---------|----------|---------|---------|----------|----------|
| 140 | 1978 | 4 | 177 | 山田牧場ヒュッテ | U研究室 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 風呂 | 【室空間】 | 配して | 〈配置〉 |
| 141 | 1978 | 4 | 177 | 山田牧場ヒュッテ | U研究室 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 便所 | 【室空間】 | 配して | 〈配置〉 |
| 142 | 1978 | 4 | 177 | 山田牧場ヒュッテ | U研究室 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 乾燥室 | 【室空間】 | 配して | 〈配置〉 |
| 143 | 1978 | 5 | 192 | クラブ“ヴィュ・ド” | 斎藤裕建築研究室 | きらきら | 【明度(鋭)】 | 水面 | 【水】 | 光り | 〈発信〉 |
| 144 | 1978 | 8 | 197 | 楓葉居 | 野村加根夫 | チラリ | 【量(少)】 | 中坪 | 【外部空間】 | 見える | 〈視認〉 |
| 145 | 1978 | 8 | 254 | 藤沢ソーラーハウス | 石田信男 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 空間 | 【外部空間】 | 巻付いている. | 〈包容〉 |
| 146 | 1978 | 8 | 259 | S邸 | 小宮山昭・ジエド建築設計研究所 | ぎりぎり | 【臨界性(大)】 | 周囲の建物 | 【周辺環境】 | 建った | 〈建設〉 |
| 147 | 1979 | 1 | 220 | ヤルムーク大学 | 丹下健三 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 壁 | 【壁】 | になっており | 〈形成〉 |
| 148 | 1979 | 2 | 180 | 樹木希林の家 | 黒川哲郎+ハードウェア | がっちり | 【固定度(大)】 | 3階は | 【領域】 | 間仕切り | 〈分解〉 |
| 149 | 1979 | 2 | 231 | 長田邸 | 河原一郎 | こんもり | 【膨張性(小)】 | ケヤキ | 【植物】 | 繁った | 〈成熟〉 |
| 150 | 1979 | 2 | 231 | 長田邸 | 河原一郎 | こんもり | 【膨張性(小)】 | モミジ | 【植物】 | 繁った | 〈成熟〉 |
| 151 | 1979 | 4 | 153 | 神戸市立王子スポーツセンター | 坂倉建築研究所 | くっきり | 【明瞭性(鋭)】 | 建物 | 【建築全体】 | 際立たせています | 〈発信〉 |
| 152 | 1979 | 4 | 153 | 神戸市立王子スポーツセンター | 坂倉建築研究所 | ちらっ | 【量(少)】 | 建物 | 【建築全体】 | 見え | 〈視認〉 |
| 153 | 1979 | 4 | 196 | 在米日本国大使公邸 | 吉田五十八 | パツ | 【明瞭性(鋭)】 | 建物全体 | 【建築全体】 | 広がる | 〈拡張〉 |
| 154 | 1979 | 8 | 246 | 野鳥の森の家 | A. L. P. 設計室 | とっぷり | 【沈着性(小)】 | 居間 | 【室空間】 | つかった | 〈包容〉 |
| 155 | 1979 | 9 | 199 | 大生相互銀行本店 | 日本設計 | たっぷり | 【過剰性(小)】 | 広場 | 【外部空間】 | とる | 〈確保〉 |
| 156 | 1979 | 10 | 184 | 徳丸小児科 | 長谷川逸子 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 柱梁と壁と開口 | 【柱】 | 自立し | 〈自立〉 |
| 157 | 1979 | 10 | 184 | 徳丸小児科 | 長谷川逸子 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 柱梁と壁と開口 | 【梁】 | 自立し | 〈自立〉 |
| 158 | 1979 | 10 | 184 | 徳丸小児科 | 長谷川逸子 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 柱梁と壁と開口 | 【壁】 | 自立し | 〈自立〉 |
| 159 | 1979 | 10 | 184 | 徳丸小児科 | 長谷川逸子 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 柱梁と壁と開口 | 【開口部】 | 自立し | 〈自立〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------|----------------|---------|----------|------------|----------|---------|----------|
| 160 | 1979 | 10 | 184 | 徳丸小児科 | 長谷川逸子 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 壁 | 【壁】 | 独立した | 〈自立〉 |
| 161 | 1980 | 1 | 267 | 群馬県立歴史博物館 | 大高正人 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | シラカシ | 【植物】 | 林立しており | 〈配列〉 |
| 162 | 1980 | 1 | 267 | 群馬県立歴史博物館 | 大高正人 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | マツ | 【植物】 | 林立しており | 〈配列〉 |
| 163 | 1980 | 1 | 267 | 群馬県立歴史博物館 | 大高正人 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | アカシア | 【植物】 | 林立しており | 〈配列〉 |
| 164 | 1980 | 1 | 279 | 内田アームズ | fromnow建築計画事務所 | びったり | 【付着度(小)】 | 材質同士 | 【材料】 | 合って | 〈適合〉 |
| 165 | 1980 | 1 | 279 | 内田アームズ | fromnow建築計画事務所 | びったり | 【付着度(小)】 | 材質同士 | 【材料】 | 合わ | 〈適合〉 |
| 166 | 1980 | 2 | 227 | 朱いろの家 | 伊丹潤建築設計研究所 | ビッシリ | 【密集度(大)】 | すべての個室 | 【室空間】 | つめ | 〈充填〉 |
| 167 | 1980 | 4 | 211 | 下地邸+医院 | 香山壽夫 | しっかり | 【固定度(小)】 | スクリーン | 【調度品】 | 閉じ | 〈閉鎖〉 |
| 168 | 1980 | 4 | 278 | 碧い鯨 | 小林英嗣 | チカチカ | 【明度(鋭)】 | 周辺/環境 | 【周辺環境】 | 混乱し | 〈騒然〉 |
| 169 | 1980 | 4 | 278 | 碧い鯨 | 小林英嗣 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 坂 | 【地形】 | カーブする | 〈湾曲〉 |
| 170 | 1980 | 5 | 163 | 聖グレゴリオの家 | 長島建築研究所 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | マントル | 【石】 | 被せられている | 〈包容〉 |
| 171 | 1980 | 6 | 248 | 埼玉厚生年金休暇センター | 日建設計 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 山で | 【地形】 | 囲まれる | 〈包容〉 |
| 172 | 1980 | 8 | 220 | 赫・正面のない家-Y氏邸+診療所 | 坂倉建築研究所 | ぎりぎり | 【臨界性(大)】 | コンクリートの直方体 | 【ヴォリューム】 | 置き | 〈配置〉 |
| 173 | 1980 | 8 | 264 | 周玉邸 | 石井和敏 | チマチマ | 【量(少)】 | 空間 | 【室空間】 | 集まって | 〈集合〉 |
| 174 | 1980 | 10 | 160 | 福岡市植物園・温室 | 浦光夫 | きちん | 【整然性(小)】 | 温室 | 【室空間】 | つくって | 〈形成〉 |
| 175 | 1980 | 10 | 160 | 福岡市植物園・温室 | 浦光夫 | スッポリ | 【抵抗(小)】 | 屋根 | 【屋根】 | 開ける | 〈開放〉 |
| 176 | 1980 | 10 | 160 | 福岡市植物園・温室 | 浦光夫 | スルスル | 【抵抗(小)】 | 連窓 | 【開口部】 | 開閉する | 〈流動〉 |
| 177 | 1980 | 11 | 229 | 茨城県営双葉台団地 | 山下和正 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 主要歩行道路 | 【動線空間】 | うねりながら | 〈流動〉 |
| 178 | 1981 | 3 | 165 | 伊藤忠商事東京本社ビル | 日建設計 | キラキラ | 【明度(鋭)】 | 日射調整トラス | 【構造】 | 輝く | 〈発信〉 |
| 179 | 1981 | 4 | 245 | 岡室邸 | 渡辺豊和 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 家 | 【建築全体】 | たたずまう | 〈存在〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-------------------|--------------------|---------|----------|--------------|----------|---------|----------|
| 180 | 1981 | 6 | 257 | 仁尾太陽博 ソーリアム・諸施設 | 早田保博設計工場 西野者介建築研究室 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 水は | [水] | 還流する | 〈流動〉 |
| 181 | 1981 | 7 | 208 | 横浜市戸塚高場 | 松本陽一設計 | すっきり | 【明瞭性(鋭)】 | 施設 | [建築全体] | 定着し | 〈安定〉 |
| 182 | 1981 | 9 | 256 | 豊田市市民文化会館 | 青島設計 | スッポリ | 【抵抗(小)】 | 材質 | [材料] | 被い | 〈包容〉 |
| 183 | 1981 | 11 | 238 | 松原山倉 | 宮脇壇建築研究室 | バタバタ | 【質量(軽)】 | 扉 | [開口部] | 開く | 〈開放〉 |
| 184 | 1981 | 11 | 250 | 楽亭 | F設計計画事務所 | しっくり | 【固定度(小)】 | 楽亭 | [建築全体] | 定着し | 〈安定〉 |
| 185 | 1981 | 11 | 263 | 上野さんの家 | 独楽蔵 | ほんのり | 【量(少)】 | 朱肌 (内部空間) | [内部空間] | 染まった | 〈加工〉 |
| 186 | 1982 | 1 | 278 | 五百羅漢寺 | EPI | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 建物 | [周辺環境] | 迫っている | 〈接近〉 |
| 187 | 1982 | 3 | 228 | 日本バプテスト教会連合センター | 真孝光 | パツ | 【明瞭性(鋭)】 | 空間 | [外部空間] | 開ける | 〈開放〉 |
| 188 | 1982 | 7 | 227 | 武蔵野大学キャンパス再開発 | 内田祥哉+TAKÉ-9計画設計研究所 | ポッカリ | 【裂け方(弱)】 | 広場 | [外部空間] | 空いた | 〈開放〉 |
| 189 | 1982 | 8 | 216 | バナナハウス(松永山荘) | 環境デザイン研究所 | しっくり | 【固定度(小)】 | 屋根 | [屋根] | 意識させ | 〈視認〉 |
| 190 | 1982 | 9 | 262 | 芝浦工業大学中学・高等学校 | アルセツド建築研究所 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 先生方 | [人] | くつろげる | 〈安息〉 |
| 191 | 1982 | 11 | 183 | 富岡市立図書館 | 和(やまと)設計 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 棟 | [ヴォリューム] | 見せる | 〈視認〉 |
| 192 | 1982 | 11 | 183 | 富岡市立図書館 | 和(やまと)設計 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 軒 | [軒] | 見せる | 〈視認〉 |
| 193 | 1982 | 11 | 219 | 藤井邸 | 山本理顕 | ぼつん | 【衝撃(小)】 | 建物 | [建築全体] | 建っている | 〈存在〉 |
| 194 | 1983 | 1 | 234 | FRICK COURT | 大杉喜彦建築総合研究所 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 階段室 | [動線空間] | 確保し | 〈確保〉 |
| 195 | 1983 | 1 | 234 | FRICK COURT | 大杉喜彦建築総合研究所 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 各階パッセージのスペース | [領域] | 確保し | 〈確保〉 |
| 196 | 1983 | 2 | 180 | 伊豆高原の家 | 岳建築設計 | くつきり | 【明瞭性(鋭)】 | 切妻 | [屋根] | 現わしている | 〈出現〉 |
| 197 | 1983 | 3 | 242 | 如水会館 | 三菱地所 日本設計 | はんなり | 【明度(鮮)】 | 外装タイル | [材料] | 焼き上げる | 〈加工〉 |
| 198 | 1983 | 3 | 259 | 賀川豊彦記念松澤資料館・松澤幼稚園 | 阿部勤ノアルテック建築研究所 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | 旧教会堂 | [建築全体] | 覆われて | 〈包容〉 |
| 199 | 1983 | 3 | 263 | 賀川豊彦記念松澤資料館・松澤幼稚園 | 阿部勤ノアルテック建築研究所 | しっくり | 【沈着性(小)】 | キャノピー部分 | [屋根] | おさまっている | 〈包容〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------|---------------------|---------|----------|---------|----------|----------|----------|
| 200 | 1983 | 4 | 226 | 住吉診療所1981 | 富永謙 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 各棟 | [ヴォリューム] | 押し出す | 〈突出〉 |
| 201 | 1983 | 5 | 242 | 基督兄弟団西宮教会 | 出江寛・新井組一般建築士事務所 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 教会 | [建築全体] | 同化して | 〈溶込〉 |
| 202 | 1983 | 6 | 183 | 自然の中の礼拝の場 | ミノル・ヤマサキ | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 人びと | [人] | 迂回する | 〈湾曲〉 |
| 203 | 1983 | 6 | 186 | 自然の中の礼拝の場 | ミノル・ヤマサキ | だんだん | 【加速度(大)】 | 材料 | [材料] | 高度に厳選された | 〈変容〉 |
| 204 | 1983 | 8 | 246 | 風格子の家 | 葉祥栄 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | バスケット | [壁] | かぶせた | 〈包容〉 |
| 205 | 1983 | 8 | 246 | 風格子の家 | 葉祥栄 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | バスケット | [屋根] | かぶせた | 〈包容〉 |
| 206 | 1983 | 9 | 149 | 赤坂プリンスホテル新館 | 丹下健三 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 外観 | [建築外観] | 構成されている | 〈構成〉 |
| 207 | 1983 | 9 | 195 | 宮代町立笠原小学校 | 象設計集団 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 笠原小学校全員 | [人] | 遊ぶ | 〈娛樂〉 |
| 208 | 1983 | 10 | 158 | 夢科荘レーネ・サイドスタンレー | 阿部勤／アルテック建築研究所 | ピタッ | 【付着度(小)】 | 壁 | [壁] | 吸い付く | 〈付着〉 |
| 209 | 1983 | 10 | 174 | 六甲の集合住宅 | 安藤忠雄 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建物 | [建築全体] | 息づく | 〈生活〉 |
| 210 | 1983 | 12 | 188 | ATELIER | 鈴木侑 | ぎりぎり | 【臨界性(大)】 | 壁構造 | [構造] | 絡み合い | 〈結合〉 |
| 211 | 1983 | 12 | 200 | 早稲田ゼミナール学生会館1982 | 富永謙 | ぼっかり | 【裂け方(弱)】 | 原っぱ | [植物] | 取り残された | 〈存在〉 |
| 212 | 1983 | 12 | 229 | ランド・シッブ-I<イリス> | 石山修武＋鈴木隆行(ダムダ空間工作所) | バラバラ | 【散在性(大)】 | 吹抜け | [開口部] | 溶融させ | 〈溶込〉 |
| 213 | 1983 | 12 | 229 | ランド・シッブ-I<イリス> | 石山修武＋鈴木隆行(ダムダ空間工作所) | バラバラ | 【散在性(大)】 | 光 | [光] | 溶融させ | 〈溶込〉 |
| 214 | 1983 | 12 | 229 | ランド・シッブ-I<イリス> | 石山修武＋鈴木隆行(ダムダ空間工作所) | バラバラ | 【散在性(大)】 | ペンキ絵 | [調度品] | 溶融させ | 〈溶込〉 |
| 215 | 1983 | 12 | 229 | ランド・シッブ-I<イリス> | 石山修武＋鈴木隆行(ダムダ空間工作所) | バラバラ | 【散在性(大)】 | 煙突 | [動線空間] | 溶融させ | 〈溶込〉 |
| 216 | 1983 | 12 | 229 | ランド・シッブ-I<イリス> | 石山修武＋鈴木隆行(ダムダ空間工作所) | バラバラ | 【散在性(大)】 | 唐破風 | [ディテール] | 溶融させ | 〈溶込〉 |
| 217 | 1983 | 12 | 229 | ランド・シッブ-I<イリス> | 石山修武＋鈴木隆行(ダムダ空間工作所) | バラバラ | 【散在性(大)】 | もの | [材料] | 寄せ集められ | 〈集合〉 |
| 218 | 1983 | 12 | 229 | ランド・シッブ-I<イリス> | 石山修武＋鈴木隆行(ダムダ空間工作所) | バラバラ | 【散在性(大)】 | 虚構 | [材料] | 構成 | 〈構成〉 |
| 219 | 1984 | 1 | 180 | マガジンハウス | 第一工房＋富井建築設計研究室 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | ベンチ | [調度品] | カーブを描いて | 〈湾曲〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-------------------------|-------------------------|---------|----------|---------------------------|---------|---------|----------|
| 220 | 1984 | 1 | 228 | 石川県林業試験場展示館 | 瀧光夫 | すんなり | 【抵抗(小)】 | 平面 | [平面形] | なじませる | 〈溶込〉 |
| 221 | 1984 | 5 | 205 | 釧路市立温原展望資料館 | 毛綱毅曠＋石本建築事務所 | ピカピカ | 【明度(鋭)】 | 真中 | [領域] | 光る | 〈発信〉 |
| 222 | 1984 | 6 | 260 | BIGI ATELIER | 安藤忠雄 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建物 | [建築全体] | 溶け込んでいる | 〈溶込〉 |
| 223 | 1984 | 8 | 199 | 本駒込の住宅1983 | 富永譲 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 外殻の壁 | [壁] | 押し出し | 〈突出〉 |
| 224 | 1984 | 8 | 205 | Pocket Park House | 渡辺明 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 屋外の空間 | [外部空間] | 関与 | 〈結合〉 |
| 225 | 1984 | 8 | 264 | 共生住居 | 内藤廣 | バラバラ | 【散在性(大)】 | ラワン材 | [材木] | なる | 〈形成〉 |
| 226 | 1984 | 8 | 298 | 北新在家の家 | 創設計 | きっちり | 【整然性(小)】 | 雨仕舞 | [ディテール] | しておく | 〈形成〉 |
| 227 | 1984 | 8 | 298 | 北新在家の家 | 創設計 | きっちり | 【整然性(小)】 | 断熱処置 | [ディテール] | しておく | 〈形成〉 |
| 228 | 1984 | 8 | 310 | 旧軽井沢の家#1・#2 | 佐藤康治／クレヨン アンド アソシエイツ | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 現場 | [領域] | 静まりかえり | 〈静寂〉 |
| 229 | 1984 | 9 | 166 | 球泉洞森林館 | 木島安史 | むっくり | 【膨張性(小)】 | 屋根 | [屋根] | 盛り上がった | 〈突出〉 |
| 230 | 1984 | 9 | 189 | カトリック八戸塩町教会 | 山添建築設計 | カチンカチン | 【硬度(小)】 | 壁面 | [壁] | 打上がった | 〈加工〉 |
| 231 | 1984 | 10 | 216 | アルファリゾート占冠 | ホテルアルファ事業企画室 | しっかり | 【固定度(小)】 | 屋根 | [屋根] | 守ってくれる | 〈対抗〉 |
| 232 | 1984 | 10 | 217 | アルファリゾート占冠 | ホテルアルファ事業企画室 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 家具 | [調度品] | 配置 | 〈配置〉 |
| 233 | 1984 | 10 | 229 | 西川緑道公園 | 岡山市自然緑地課 伊藤造 園設計 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 全体の風景 | [風景] | なつて | 〈形成〉 |
| 234 | 1984 | 10 | 236 | 花と緑の相談所 | 瀧光夫 | パツ | 【明瞭性(鋭)】 | 主園 | [外部空間] | 開ける | 〈開放〉 |
| 235 | 1984 | 10 | 278 | 段々の家 | 野老設計 | ゴロゴロ | 【質量(重)】 | 溶岩 | [石] | 盛り上がり | 〈突出〉 |
| 236 | 1984 | 12 | 240 | 上板町農村環境改善センター | 富樫頼 | しっかり | 【固定度(小)】 | 建物 | [建築全体] | 根をはやす | 〈安定〉 |
| 237 | 1985 | 1 | 178 | ガラスアート赤坂 | 磯崎新 | ぎゅゅ | 【密集度(大)】 | ガラスアート赤坂 | [建築全体] | 納められている | 〈包容〉 |
| 238 | 1985 | 1 | 178 | ガラスアート赤坂 | 磯崎新 | ちらり | 【量(少)】 | ガラスブロックの円筒と アルミパネルの立方体 | [建築外観] | のぞく | 〈視認〉 |
| 239 | 1985 | 2 | 218 | 東京文化会館新リハーサル 室棟 ミド同人 | 後藤伸一 前川國男 | そっくり | 【明瞭性(鋭)】 | 建物 | [建築全体] | 埋めて | 〈隠蔽〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------------------------------|-------------------------------|---------|----------|-----------|----------|------------|----------|
| 240 | 1985 | 3 | 240 | 国技館 | 鹿島建設 杉山隆建築設計 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 客動線 | [人] | アブローチする | 〈進入〉 |
| 241 | 1985 | 3 | 241 | 国技館 | 鹿島建設 杉山隆建築設計 | どっしり | 【質量(重)】 | 殿堂 | [建築全体] | まとめた | 〈整理〉 |
| 242 | 1985 | 4 | 166 | 熱帯ドリームセンター | 日本設計 | すっきり | 【整然性(小)】 | 接合部 | [ディテール] | 見せる | 〈視認〉 |
| 243 | 1985 | 4 | 206 | 妙香院 | 高口恭行 | ピツタリ | 【付着度(小)】 | 門 | [開口部] | 閉じている | 〈閉鎖〉 |
| 244 | 1985 | 4 | 229 | イサム・ノグチ展 あかりと石の空間 インスタレーション | 磯崎新 | しっくり | 【沈着性(小)】 | 照明 | [光] | 溶け合った | 〈溶込〉 |
| 245 | 1985 | 4 | 229 | イサム・ノグチ展 あかりと石の空間 インスタレーション | 磯崎新 | しっくり | 【沈着性(小)】 | 石とが | [石] | 溶け合った | 〈溶込〉 |
| 246 | 1985 | 4 | 250 | OVT海外職業訓練協カセ ンター | アール・アイ・エー建築総合研 究所 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | リスニングコーナー | [領域] | 設け | 〈配置〉 |
| 247 | 1985 | 5 | 186 | Bブロック外国展示館 | 菊竹清訓 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 大通り | [動線空間] | うねる | 〈流動〉 |
| 248 | 1985 | 5 | 197 | Fブロック外国展示館／エキ スポホール | 大高正人 | きらきら | 【明度(鋭)】 | 陽 | [光] | 光る | 〈発信〉 |
| 249 | 1985 | 5 | 205 | Gブロック外国展示館 | 黒川紀章 | しつかり | 【固定度(小)】 | 外国館 | [建築全体] | 主張する | 〈発信〉 |
| 250 | 1985 | 7 | 217 | 埼玉県立加須青年の家 | 坂倉建築研究所 | スルスル | 【抵抗(小)】 | 光る面 | [壁] | 動いていく | 〈流動〉 |
| 251 | 1985 | 8 | 198 | 早稲田スチューデンス1984 早稲田ゼミナール女子学生寮 | 富永謙 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 壁柱 | [柱] | 回転させてつくられる | 〈回転〉 |
| 252 | 1985 | 8 | 256 | 新潟県庁舎 行政庁舎・議会 庁舎・警察庁舎・東回廊・西回 廊 | 日建設計 | しつかり | 【固定度(小)】 | 県庁舎の「顔」 | [建築外観] | 備えた | 〈形成〉 |
| 253 | 1985 | 9 | 198 | 早稲田大学図書館本館分館・ 考古学資料館 早稲田大学 施設部 | 稲田大学穂積研究室 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 容積 | [ヴォリューム] | 圧縮する | 〈縮小〉 |
| 254 | 1985 | 9 | 240 | 静岡市安西小学校 | 田中謙次建築研究所・針谷建 築事務所 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 子供たち | [人] | 回って | 〈周回〉 |
| 255 | 1985 | 10 | 167 | ACT6 | 葉祥栄 | ポコポコ | 【量(多)】 | 水 | [水] | 湧き上がる | 〈出現〉 |
| 256 | 1985 | 12 | 199 | 丸与本社ビル | 丸与地域計画・関口直史十竹 山聖(設計組織アモルフ) | どっしり | 【質量(重)】 | 建築群 | [建築全体] | 溶込む | 〈溶込〉 |
| 257 | 1986 | 3 | 164 | 笠間東洋ゴルフ倶楽部 | 村野・森建築事務所 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 大屋根 | [屋根] | むくりをつけた | 〈湾曲〉 |
| 258 | 1986 | 3 | 251 | ポロ&ジャロアビル | 林賢次郎・建築設計 | さんさん | 【明度(鮮)】 | 陽 | [光] | 入って | 〈進入〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------------|-------------------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|
| 259 | 1986 | 4 | 180 | 安部産婦人科医院 | 西岡弘建築工房 | バラバラ | 【散在性(大)】 | おのおのの量塊 | [ヴォリューム] | 見ながら | 〈視認〉 |
| 260 | 1986 | 4 | 231 | ホテルリハバティ | 出江寛 | すっきり | 【整然性(小)】 | 建物 | [建築全体] | 見せた | 〈視認〉 |
| 261 | 1986 | 5 | 262 | 赤城のクラブハウス | 日本設計 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建物 | [建築全体] | 配置する | 〈配置〉 |
| 262 | 1986 | 5 | 262 | 赤城のクラブハウス | 日本設計 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建物 | [建築全体] | 建って | 〈存在〉 |
| 263 | 1986 | 6 | 172 | 浪速短期大学伊丹学舎 | 坂倉建築研究所 | びっしり | 【密集度(大)】 | 芝生 | [植物] | 敷きつめ | 〈充填〉 |
| 264 | 1986 | 6 | 189 | 新宿グリーンタワービル | 日建設計 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 窓高さ | [寸法] | 押さえて | 〈制御〉 |
| 265 | 1986 | 6 | 216 | 大濠公園能楽堂 | 大江宏 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 玄関棟 | [建築全体] | 構えた | 〈構成〉 |
| 266 | 1986 | 7 | 233 | ホテルとさんビル | YAS都市研究所・橋本文隆 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 5階建て | [ヴォリューム] | つめて | 〈縮小〉 |
| 267 | 1986 | 8 | 154 | 六甲の教会 | 安藤忠雄 | くっきり | 【明瞭性(鋭)】 | 影 | [陰影] | 落とす | 〈降下〉 |
| 268 | 1986 | 10 | 249 | 佐伯信用金庫やよい町支店 | 鹿島建設 | ビュンビュン | 【衝撃(大)】 | トラック | [周辺環境] | 飛ばす | 〈行動〉 |
| 269 | 1986 | 10 | 249 | 佐伯信用金庫やよい町支店 | 鹿島建設 | フワッ | 【質量(軽)】 | 屋根 | [屋根] | 舞い降りた | 〈降下〉 |
| 270 | 1986 | 11 | 203 | 国立国会図書館 | 前川國男 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | 外防水 | [耐候材] | 包んでいる | 〈包容〉 |
| 271 | 1986 | 12 | 233 | 弘前市社会福祉センター | 菊竹清訓 | しっかり | 【固定度(小)】 | 構造 | [構造] | 組みながら | 〈構成〉 |
| 272 | 1987 | 1 | 236 | 二期倶楽部 | 渡辺明 | たっぷり | 【過剰性(小)】 | 漆喰 | [ディテール] | 用いられる | 〈使用〉 |
| 273 | 1987 | 2 | 173 | 熊本県テクノポリスセンター | 内井昭蔵 | しっかり | 【固定度(小)】 | 建築 | [建築全体] | 受け止め | 〈受容〉 |
| 274 | 1987 | 3 | 260 | 日立物流富士研修所 | 麻生勝典 | すっきり | 【整然性(小)】 | 屋根 | [屋根] | 形になった | 〈形成〉 |
| 275 | 1987 | 4 | 176 | 林間劇場 | アトリエR+アカデメイア建築研究所 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 山 | [地形] | 囲む | 〈包容〉 |
| 276 | 1987 | 4 | 181 | 静照院 | アトリエR | がっしり | 【固定度(大)】 | 木材 | [材木] | 軸を組み | 〈構成〉 |
| 277 | 1987 | 4 | 189 | 新川電機広島工場 | 横河健 | さんさん | 【明度(鮮)】 | 光 | [光] | 降り注ぎ | 〈降下〉 |
| 278 | 1987 | 4 | 194 | O426 SPRING GARDEN | 森義純 | グルグル | 【巻き方(大)】 | 出店者 | [人] | めぐり合い | 〈行動〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------------|------------------------|---------|----------|-----------|----------|---------|----------|
| 279 | 1987 | 6 | 212 | 龍神村民体育館 | 渡辺豊和 | ニョッキリ | 【太さ(細)】 | 列柱 | [柱] | 立ち上がった | 〈存在〉 |
| 280 | 1987 | 7 | 213 | 郷土民芸館 カサ エストレ リータ | 石山修武+ダムダム空間工 作所 | キラリキラリ | 【明度(鋭)】 | 美術館 | [建築全体] | 映し込まれる | 〈進入〉 |
| 281 | 1987 | 7 | 213 | 郷土民芸館 カサ エストレ リータ | 石山修武+ダムダム空間工 作所 | キラリキラリ | 【明度(鋭)】 | 庭園のブルー | [色彩] | 映し込まれる | 〈進入〉 |
| 282 | 1987 | 7 | 213 | 郷土民芸館 カサ エストレ リータ | 石山修武+ダムダム空間工 作所 | キラリキラリ | 【明度(鋭)】 | 鉄塔 | [周辺環境] | 映し込まれる | 〈進入〉 |
| 283 | 1987 | 7 | 213 | 郷土民芸館 カサ エストレ リータ | 石山修武+ダムダム空間工 作所 | キラリキラリ | 【明度(鋭)】 | フラッグ | [調度品] | 映し込まれる | 〈進入〉 |
| 284 | 1987 | 7 | 213 | 郷土民芸館 カサ エストレ リータ | 石山修武+ダムダム空間工 作所 | キラリキラリ | 【明度(鋭)】 | 水 | [水] | 映し込まれる | 〈進入〉 |
| 285 | 1987 | 7 | 213 | 郷土民芸館 カサ エストレ リータ | 石山修武+ダムダム空間工 作所 | キラリキラリ | 【明度(鋭)】 | 光 | [光] | 映し込まれる | 〈進入〉 |
| 286 | 1987 | 7 | 213 | 郷土民芸館 カサ エストレ リータ | 石山修武+ダムダム空間工 作所 | キラリキラリ | 【明度(鋭)】 | 山の緑 | [色彩] | 映し込まれる | 〈進入〉 |
| 287 | 1987 | 7 | 213 | 郷土民芸館 カサ エストレ リータ | 石山修武+ダムダム空間工 作所 | キラリキラリ | 【明度(鋭)】 | 海の風 | [空気] | 映し込まれる | 〈進入〉 |
| 288 | 1987 | 7 | 220 | 町田市立国際版画美術館 | 大宇根・江平建築事務所 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | 断熱材 | [耐候材] | 包み | 〈包容〉 |
| 289 | 1987 | 7 | 268 | TUアパートメント | YAS都市研究所・橋本文隆 | ユラユラ | 【振幅(小)】 | 光 | [光] | ゆらぐ | 〈流動〉 |
| 290 | 1987 | 8 | 232 | 片山津温泉 温泉配湯所 | 文化環境計画研究所 | こんこん | 【質量(軽)】 | 温泉 | [水] | 湧き出る | 〈出現〉 |
| 291 | 1987 | 8 | 235 | 熊本県野外劇場-アスペクタ | 葉祥栄 | しっかり | 【固定度(小)】 | 反射板 (ガラス) | [ガラス] | 受け止める | 〈受容〉 |
| 292 | 1987 | 8 | 243 | 水戸市植物公園 | 瀬光夫 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | コンクリートの温室 | [室空間] | とりまく | 〈包容〉 |
| 293 | 1987 | 9 | 196 | 芦屋市立図書館 | 坂倉建築研究所 | ぐっ | 【衝撃(大)】 | (スケール) | [ヴォリューム] | おさえて | 〈制御〉 |
| 294 | 1987 | 9 | 196 | 芦屋市立図書館 | 坂倉建築研究所 | ぐっ | 【衝撃(大)】 | 装飾 | [ディテール] | おさえて | 〈制御〉 |
| 295 | 1987 | 10 | 195 | FOREST | 早川邦彦建築研究室 | ボツン | 【衝撃(小)】 | 壁 | [壁] | 自立した | 〈自立〉 |
| 296 | 1987 | 12 | 176 | OXY鯉谷 | 安藤忠雄 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 壁 | [壁] | 立てる | 〈建設〉 |
| 297 | 1987 | 12 | 229 | やまと保育園(改装) | 笠嶋建築工房 | チラチラ | 【量(少)】 | 各保育室の内部 | [内部空間] | 窺える | 〈視認〉 |
| 298 | 1987 | 12 | 263 | グラスハウス うしかわ | 矢吹昭良建築設計 佐藤商 業建築研究所 | キラキラ | 【明度(鋭)】 | 屋根 | [屋根] | 光って | 〈発信〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------|------------------|---------|-----------|---------------|----------|-----------|----------|
| 299 | 1988 | 1 | 275 | 吉光 | 野村加根夫 | たつぷり | 【過剰性(小)】 | 露地 | 【外部空間】 | とっている | 〈確保〉 |
| 300 | 1988 | 2 | 196 | 遺唐使館 | 松井宏方＋東条設計 | しっかり | 【固定度(小)】 | 色彩 | 【色彩】 | 抱きかかえる | 〈包容〉 |
| 301 | 1988 | 2 | 271 | 其水堂金井印刷本社 | 環境設計下村矢尾板都市建築研究所 | しっかり | 【固定度(小)】 | 壁面 | 【壁】 | 設け | 〈配置〉 |
| 302 | 1988 | 3 | 202 | 精神薄弱者更生施設みだい寮 | 湯澤正信 | ボンヤリ | 【不明瞭性(大)】 | 寮生 | 【人】 | 見ていた | 〈視認〉 |
| 303 | 1988 | 3 | 269 | メッツガライ・オジマ | 佐賀和光 | ぎゅっ | 【密集度(大)】 | その2棟 | 【ヴォリューム】 | 押し込んでしまった | 〈進入〉 |
| 304 | 1988 | 4 | 251 | バジフィックスターホテル・グアム | 観光企画設計社 | くっさり | 【明瞭性(鋭)】 | 明るい横のライン | 【光】 | つくり出し | 〈形成〉 |
| 305 | 1988 | 4 | 255 | ジャーマンインダストリーセンター | 大成建設 | すっさり | 【整然性(小)】 | エキスパンションジョイント | 【ディテール】 | 見える | 〈視認〉 |
| 306 | 1988 | 5 | 172 | CUTビル | 毛織殺蟻 | ぼっかり | 【裂け方(弱)】 | 穴 | 【開口部】 | 空いた | 〈開放〉 |
| 307 | 1988 | 6 | 288 | 東京都多摩動物公園・昆虫生態園 | 多摩動物公園工事下日本設計 | すっさり | 【整然性(小)】 | インテリア | 【内部空間】 | みえ | 〈視認〉 |
| 308 | 1988 | 6 | 319 | AUBERGE | 高松伸 | ちょこん | 【衝撃(小)】 | 建築 | 【建築全体】 | 腰を落ち着ける | 〈安定〉 |
| 309 | 1988 | 7 | 237 | 鳴瀬小学校 | 戸沼研究室＋アトリエ海 | すっかり | 【明瞭性(鋭)】 | 周辺の山並み | 【地形】 | 見えて | 〈視認〉 |
| 310 | 1988 | 7 | 237 | 鳴瀬小学校 | 戸沼研究室＋アトリエ海 | すっかり | 【明瞭性(鋭)】 | 田園風景 | 【風景】 | 見えて | 〈視認〉 |
| 311 | 1988 | 7 | 252 | 三洋証券本社別館 | 鹿島建設 | ぎっしり | 【密集度(大)】 | コンピュータの機器 | 【調度品】 | 詰まっている | 〈充填〉 |
| 312 | 1989 | 1 | 296 | ハレット玩具店 | 石山修武 | ふわり | 【質量(軽)】 | 鳥のよう(建築) | 【建築全体】 | 飛び立つ | 〈上昇〉 |
| 313 | 1989 | 3 | 267 | ベアシティ・サクラピア成城 | 竹中工務店 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 建物 | 【建築全体】 | 成熟してゆく | 〈成熟〉 |
| 314 | 1989 | 4 | 245 | 東京大学御殿下記念館 | 芦原建築設計研究所 | パッ | 【明瞭性(鋭)】 | モダンなモール | 【室空間】 | ひらけ | 〈開放〉 |
| 315 | 1989 | 5 | 233 | 福岡タワー | 日建設計 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | エレベーター | 【動線空間】 | 上昇し | 〈上昇〉 |
| 316 | 1989 | 6 | 289 | 山下公園再整備エリア | 坂倉建築研究所・創和エクスエリア | だんだん | 【加速度(大)】 | 水の流れ | 【水】 | 変化させ | 〈変容〉 |
| 317 | 1989 | 6 | 325 | 池上の集合住宅 | スタジオ建築計画 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 手摺 | 【金属】 | 解体され | 〈分解〉 |
| 318 | 1989 | 6 | 325 | 池上の集合住宅 | スタジオ建築計画 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 壁 | 【壁】 | 解体され | 〈分解〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------|--|---------|----------|--------------------|---------|------------|----------|
| 319 | 1989 | 6 | 325 | 池上の集合住宅 | スタジオ建築計画 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 手摺パネル | [金属] | 解体され | 〈分解〉 |
| 320 | 1989 | 6 | 325 | 池上の集合住宅 | スタジオ建築計画 | やんわり | 【軟度(小)】 | 光 | [光] | 落ちる | 〈降下〉 |
| 321 | 1989 | 7 | 313 | シティパル武蔵野 | 坂倉建築研究所 | しっかり | 【固定度(小)】 | メインエントランスから玄関まで | [動線空間] | ガードされ監視される | 〈対抗〉 |
| 322 | 1989 | 8 | 232 | 世界デザイン博覧会 インテリア館 | 長谷川逸子 | だんだん | 【加速度(大)】 | 庭園的建築 | [建築全体] | 上昇していく | 〈上昇〉 |
| 323 | 1989 | 10 | 308 | Bunkamura | 石本建築事務所 東急設計コンサルタント MIDJ聯合設計研究所 ヴィルモット・ジャボ | すっぼり | 【抵抗(小)】 | シェルター | [壁] | 覆う | 〈包容〉 |
| 324 | 1990 | 2 | 209 | 東京 竹葉亭 | 出江寛 | キラキラ | 【明度(鋭)】 | 竹の葉(アルミチエツカーブプレート) | [金属] | 輝き | 〈発信〉 |
| 325 | 1990 | 2 | 216 | 数寄屋色(色庵) | 石井和敏 | サツ | 【質量(軽)】 | 光 | [光] | 入ってくる | 〈進入〉 |
| 326 | 1990 | 3 | 314 | 海の中道青少年海の家 | 匠建築研究所 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 子どもたち | [人] | 過ごせる | 〈滞在〉 |
| 327 | 1990 | 4 | 253 | あきたスカイドーム | 鹿島建設 | すっきり | 【整然性(小)】 | 天井 | [天井] | 見せ | 〈視認〉 |
| 328 | 1990 | 6 | 247 | 東京YWCA会館 | 香山壽夫 | チラチラ | 【量(少)】 | 地下の体育の活動 | [人] | 見え | 〈視認〉 |
| 329 | 1990 | 6 | 319 | HOUSE5302 | 北山孝二郎+K計画事務所 | ギンシリ | 【密集度(大)】 | 建物 | [周辺環境] | 並び | 〈配列〉 |
| 330 | 1990 | 7 | 276 | 海の博物館・文化財収蔵庫 | 内藤廣 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 物は | [調度品] | 老いる | 〈成熟〉 |
| 331 | 1990 | 7 | 316 | 大栄教育システム名張研修所 | 竹中工務店 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 外観 | [建築外観] | 横たわっている | 〈回転〉 |
| 332 | 1990 | 9 | 263 | 塩沢町立今泉博物館 | 香山壽夫+富所設計 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 敷地 | [敷地] | 起伏する | 〈突出〉 |
| 333 | 1990 | 10 | 285 | 奥郷屋敷 | 竹中工務店 | どっかり | 【量(多)】 | 屋根 | [屋根] | 根を下ろしている | 〈安定〉 |
| 334 | 1990 | 10 | 310 | 日本城郭研究センター | 久米建築事務所 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 土塁 | [塀] | 延びてゆく | 〈伸張〉 |
| 335 | 1990 | 10 | 347 | 二条丸ハセレモニー研究所 | 竹中工務店 | すっく | 【抵抗(小)】 | 壁 | [壁] | 立ち上がった | 〈存在〉 |
| 336 | 1990 | 10 | 347 | 二条丸ハセレモニー研究所 | 竹中工務店 | どっしり | 【質量(重)】 | 建築イメージ | [建築外観] | 根を降ろした | 〈安定〉 |
| 337 | 1990 | 12 | 346 | 秀光ゲストハウス | A&T建築研究所 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 心の波紋 | [人] | 広がっていく | 〈拡張〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-----------------------------|------------------------|---------|----------|--------------------------|----------|---------|----------|
| 338 | 1991 | 1 | 373 | ソラリス | 高松伸 | チラチラ | 【量(少)】 | 風景が | [風景] | 舞踏する | 〈流動〉 |
| 339 | 1991 | 2 | 250 | WEB | 鈴木エドワード | キラリ | 【明度(鋭)】 | 水滴 | [水] | 反射する | 〈対抗〉 |
| 340 | 1991 | 2 | 317 | 円通寺 | 原尚建築設計 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 内部 | [内部空間] | させた | 〈形成〉 |
| 341 | 1991 | 3 | 270 | ウイングハウス(大阪営林局 箕面自然休養林休舎) | 新田正樹建築設計工房 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | たたずまい | [建築外観] | 溶けこんで | 〈溶込〉 |
| 342 | 1991 | 3 | 270 | ウイングハウス(大阪営林局 箕面自然休養林休舎) | 新田正樹建築設計工房 | ふんわり | 【質量(軽)】 | Uf0 | [建築全体] | 不時着し | 〈付着〉 |
| 343 | 1991 | 5 | 351 | ネクススワールド 石山修武棟 | 石山修武 | グニヤリ | 【弛緩性(大)】 | 平面形 | [平面形] | 曲がった | 〈湾曲〉 |
| 344 | 1991 | 5 | 351 | ネクススワールド 石山修武棟 | 石山修武 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | プラン | [平面形] | 弧を描く | 〈湾曲〉 |
| 345 | 1991 | 7 | 278 | ペイサイドブレイス博多埠頭 | 北山孝二郎+K計画事務所 | キラキラ | 【明度(鋭)】 | 屋根 | [屋根] | 反射し | 〈対抗〉 |
| 346 | 1991 | 7 | 278 | ペイサイドブレイス博多埠頭 | 北山孝二郎+K計画事務所 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 人びと | [人] | 過ごす | 〈滞在〉 |
| 347 | 1991 | 7 | 300 | 豊田市鞍ヶ池植物園 | 青島設計 | ふわり | 【質量(軽)】 | シェルター | [壁] | 舞い降りた | 〈降下〉 |
| 348 | 1991 | 10 | 236 | 津音楽の森コンサートホール | 吉村順三設計 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | ギャラリ | [室空間] | めぐらせた | 〈包容〉 |
| 349 | 1992 | 1 | 205 | 高知県立坂本龍馬記念館 ステーション | 高橋晶子+高橋寛/ワーク ステーション | キラキラ | 【明度(鋭)】 | 水面 | [水] | 光る | 〈発信〉 |
| 350 | 1992 | 1 | 205 | 高知県立坂本龍馬記念館 | 高橋晶子+高橋寛/ワーク ステーション | バラバラ | 【散在性(大)】 | 他のヴォリューム | [ヴォリューム] | なる | 〈形成〉 |
| 351 | 1992 | 1 | 218 | 防府天満宮茶室 芳松庵 | 大江宏 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 池 | [水] | カーブを描く | 〈湾曲〉 |
| 352 | 1992 | 1 | 304 | 新日本証券梶井沢山荘 | 三輪正弘/三輪環境計画 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | セミダブルのツインとふ たつのソファベッド | [調度品] | 収まっている | 〈包容〉 |
| 353 | 1992 | 3 | 220 | ZEUS 仁摩サンビュージアム | 高松伸 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | すべての空間 | [領域] | 配置する | 〈配置〉 |
| 354 | 1992 | 3 | 278 | 松蔭女子大学員大学大山 ロッジ | 竹中工務店 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建物 | [建築全体] | たたずむ | 〈存在〉 |
| 355 | 1992 | 6 | 259 | 熊本県営常山A団地 | 新納至門+新納設計 | そっくり | 【明瞭性(鋭)】 | 居室 | [室空間] | もちだされる | 〈排出〉 |
| 356 | 1992 | 6 | 306 | プレーンセンター 風の万華 鏡 新宮晋 | 尾形建築事務所 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | オブジェ | [調度品] | 動き続ける | 〈流動〉 |
| 357 | 1992 | 7 | 236 | 真言宗本福寺水御堂 | 安藤忠雄 | くっきり | 【明瞭性(鋭)】 | 輪郭 | [輪郭] | 付けている | 〈付着〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------------------|--------------------------|---------|----------|-------------------------------|----------|------------|----------|
| 358 | 1992 | 8 | 248 | 嵐山ゴルフ倶楽部 | 葉祥栄 | キラキラ | 【明度(鋭)】 | 水 | [水] | 光る | 〈発言〉 |
| 359 | 1992 | 11 | 298 | 岩木山総合公園スポーツコミュニティホール | 森義純建築設計室 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | ボリューム | [ヴォリューム] | 圧縮して | 〈縮小〉 |
| 360 | 1992 | 12 | 247 | ウッドストック | 野沢誠+GETT ザインセント・A・ヴァンハーフ | パッ | 【明瞭性(鋭)】 | 突き当たり | [動線空間] | 開けた | 〈開放〉 |
| 361 | 1993 | 1 | 210 | インビンジブル2 | 北川原温+IICD | ポツン | 【衝撃(小)】 | スーパージグリッド | [構造] | 建っている | 〈存在〉 |
| 362 | 1993 | 2 | 180 | 花生カントリートーククラブクラブハウス | 山陰建築設計 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 18ホールのゴルフ場 | [外部空間] | 展開する | 〈開放〉 |
| 363 | 1993 | 3 | 226 | K証券葉山研修センター | 木村誠之助 | ザックリ | 【粗さ(粗)】 | タイル貼り | [ディテール] | 仕上げる | 〈加工〉 |
| 364 | 1993 | 3 | 226 | K証券葉山研修センター | 木村誠之助 | ザックリ | 【粗さ(粗)】 | 石貼り | [ディテール] | 仕上げる | 〈加工〉 |
| 365 | 1993 | 5 | 193 | RICセントラルタワー | 坂倉建築研究所 | ピタリ | 【付着度(小)】 | 32階100m級ハイライズ型と12階45m級中庭開放廊下型 | [建築全体] | はめこみ | 〈充填〉 |
| 366 | 1993 | 6 | 170 | 中津市立小幡記念図書館 | 楳文彦 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 人 | [人] | 時を過ごす | 〈滞在〉 |
| 367 | 1993 | 6 | 186 | 育英学院サレジオ小・中学校 | 藤木隆男建築研究所 | すっきり | 【明瞭性(鋭)】 | 学園の風景 | [風景] | 定着した | 〈安定〉 |
| 368 | 1993 | 6 | 197 | 石打ダム資料館 | 入江経一+Power Unit Studio | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | ブレース | [構造] | 連続する | 〈連続〉 |
| 369 | 1993 | 8 | 250 | 軽井沢少年自然の家くめーズ | 三輪正弘 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | ラウンジ | [室空間] | 引き出す | 〈引張〉 |
| 370 | 1993 | 8 | 250 | 軽井沢少年自然の家くめーズ | 三輪正弘 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | みちゆき | [動線空間] | させる | 〈形成〉 |
| 371 | 1993 | 9 | 188 | 早稲田大学所沢キャンパス第2ホール(ラウンジ棟) | 池原義郎 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 校舎 | [建築全体] | 螺旋状に上昇し | 〈上昇〉 |
| 372 | 1993 | 9 | 212 | 東京造形大学 | 磯崎新 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | 台形の形をした施設群 | [建築全体] | 入る | 〈進入〉 |
| 373 | 1993 | 9 | 247 | JR赤湯駅 | 鈴木エドワード | さんさん | 【明度(鮮)】 | 自然光 | [光] | 入り | 〈進入〉 |
| 374 | 1993 | 9 | 251 | プレスカントリートーククラブ | 野村加根夫 | ふわり | 【質量(軽)】 | 影 | [陰影] | 落とし | 〈降下〉 |
| 375 | 1993 | 10 | 248 | 坂橋さざなみ幼稚園アネックス | 遠藤建築スタジオ | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 子供たち | [人] | 回れる | 〈周回〉 |
| 376 | 1993 | 12 | 201 | 世田谷ビジネススクエア | 東急設計コンサルタント | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | シルエットは | [輪郭] | セットバックによって | 〈後退〉 |
| 377 | 1993 | 12 | 218 | 泉崎資料館 | 湯澤建築設計研究所 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 田園 | [風景] | 囲む | 〈包容〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-------------------------|-----------------------------|---------|----------|--------------------|---------|-------------|----------|
| 378 | 1993 | 12 | 265 | ビジョンランド | 小川建築工房 | のひのび | 【弛緩性(小)】 | 子ども | [人] | 過ごせる | 〈滞在〉 |
| 379 | 1994 | 4 | 260 | 光のプリズム(川口公園エレベータシャフト上屋) | 近田玲子デザイン事務所 TIS&PARTNERS | ゆっくり | 【変量化(小)】 | 光 | [光] | 変化して | 〈変容〉 |
| 380 | 1994 | 7 | 160 | 木の殿堂 | 安藤忠雄 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | 施設 | [建築全体] | 収まり | 〈包容〉 |
| 381 | 1994 | 10 | 181 | 西海パールシー・センター＋付属棟 | 古市徹雄・都市建築研究所 | きちん | 【整然性(小)】 | 建物の平面形 | [平面形] | 整理された | 〈整理〉 |
| 382 | 1994 | 11 | 245 | 天草ビジターセンター＋展望休憩所 | 古谷誠章＋中川建築設計 | さあーつ | 【加速度(小)】 | 海面 | [水] | 見えてくる | 〈視認〉 |
| 383 | 1994 | 12 | 184 | シンフォニーガーデン | 高松伸 | ゆらゆら | 【振幅(小)】 | ホール | [建築全体] | 漂流する | 〈流動〉 |
| 384 | 1995 | 1 | 106 | すみだ生涯学習センター | 長谷川逸子 | ふわっ | 【質量(軽)】 | 人々の動き | [人] | 浮き上がった | 〈上昇〉 |
| 385 | 1995 | 1 | 106 | すみだ生涯学習センター | 長谷川逸子 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | アルミバンチングメタル | [金属] | 包み込む | 〈包容〉 |
| 386 | 1995 | 1 | 115 | すみだ生涯学習センター | 長谷川逸子 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | アルミバンチングメタル | [金属] | 包む | 〈包容〉 |
| 387 | 1995 | 1 | 128 | サンド薬品筑波総合研究所 | 総合計画事務所 | ふわり | 【質量(軽)】 | ヤマモミジ | [植物] | のせた | 〈配置〉 |
| 388 | 1995 | 2 | 232 | 品川プリンスホテル新館 | 竹中工務店 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | パブリックスペース | [領域] | 計画する | 〈計画〉 |
| 389 | 1995 | 3 | 202 | STEP中央工学校創立85周年記念館 | 林雅子・林・山田・中原設計 同人 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 校舎 | [建築全体] | 展開する | 〈開放〉 |
| 390 | 1995 | 3 | 244 | 浄土宗臨川山麓淨院書院 | 上田徹・玄綜合設計 | チョン | 【衝撃(小)】 | 方形屋根の望楼(庫裡の老住職の居室) | [室空間] | 乗せた | 〈配置〉 |
| 391 | 1995 | 4 | 132 | マイカル三田・ポロロッカ | エミリオ・アンバーズ&アソシエイツ | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 屋根 | [屋根] | 起伏する | 〈突出〉 |
| 392 | 1995 | 4 | 204 | 東江幼稚園 | 村山建築設計 | コンモリ | 【膨張性(小)】 | 屋根 | [屋根] | 盛り上がった | 〈突出〉 |
| 393 | 1995 | 7 | 120 | ラ・コルニーヤ人間科学館 | 磯崎新 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 壁面 | [壁] | 連続した | 〈連続〉 |
| 394 | 1995 | 9 | 145 | かわらミュージアム | 出江寛／出江建築事務所 | しっくり | 【沈着性(小)】 | 瓦 | [材料] | 調和する | 〈溶込〉 |
| 395 | 1995 | 10 | 138 | クラコフ日本美術技術センター | 磯崎新 | しっかり | 【固定度(小)】 | 屋根 | [屋根] | 根を下ろす | 〈安定〉 |
| 396 | 1995 | 10 | 138 | クラコフ日本美術技術センター | 磯崎新 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 軒 | [軒] | カーブが選択されている | 〈湾曲〉 |
| 397 | 1995 | 10 | 177 | 世田谷区立中町小学校・玉川中学校 | 世田谷区建設部営繕第2課 内井昭蔵 | しっかり | 【固定度(小)】 | 共有空間 | [領域] | つながる | 〈結合〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の概念語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 概念語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|---------------------|---|---------|----------|-----------|----------|----------|----------|
| 398 | 1995 | 11 | 277 | ホテル ザ クレイン1994 | 富永譲 | スッポリ | 【抵抗(小)】 | 立体駐車場 | [建築全体] | はめ込む | 〈充填〉 |
| 399 | 1995 | 12 | 125 | 吉備町役場 | 黒川紀章 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 風 | [空気] | 通り抜けていく | 〈流動〉 |
| 400 | 1996 | 3 | 220 | 神奈川県立芦ノ湖キャンパス村 | MHS松田平田横浜事務所 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 宿泊各棟 | [建築全体] | 嵌め込まれている | 〈充填〉 |
| 401 | 1996 | 4 | 261 | たからだの里 環の湯 | 佐藤昌平／佐藤昌平建築研究所＋浦山隆一 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 茶室 | [建築全体] | 存在する | 〈存在〉 |
| 402 | 1996 | 5 | 227 | わんぱく王国管理棟 | 阪南市建築管理課 Ms建築設計 | しっかり | 【固定度(小)】 | 構造体のスギ | [構造] | 緊結し | 〈結合〉 |
| 403 | 1996 | 5 | 230 | 浄土宗西光寺 | 野村加根夫設計 | すっきり | 【整然性(小)】 | 向拝屋根 | [屋根] | 表現する | 〈発信〉 |
| 404 | 1996 | 6 | 167 | 三戸町役場 三戸保健センター | アーキテクトファイブ | しっかり | 【固定度(小)】 | 建築イメージ | [建築全体] | 根ざしてきた | 〈安定〉 |
| 405 | 1996 | 6 | 251 | 雄勝町総合文化会館 | 荻津郁夫 村田弘建築設計・荻津郁夫建築設計設計共同企業体 | じっ | 【固定度(大)】 | 陸屋根 | [屋根] | 耐える | 〈対抗〉 |
| 406 | 1996 | 6 | 236 | 東京都新宿区立西戸山小学校(内部改修) | 東京都新宿区建築部営繕課 藤木隆男建築研究所 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 特別教室 | [室空間] | 配置し | 〈配置〉 |
| 407 | 1996 | 6 | 236 | 東京都新宿区立西戸山小学校(内部改修) | 東京都新宿区建築部営繕課 藤木隆男建築研究所 | バラバラ | 【散在性(大)】 | パブリックスペース | [領域] | 配置し | 〈配置〉 |
| 408 | 1996 | 11 | 129 | 姫路文学館南館 | 安藤忠雄 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 本 | [調度品] | 取り囲まれて | 〈包容〉 |
| 409 | 1996 | 11 | 157 | 浮かぶ劇場 | 榎文彦 DEPARTMENT OF CITYPLANNING AND ECONOMIC AFFAIRS, GRONINGEN DORA VAN DER GROEN | ゆっくり | 【変化量(小)】 | パヴィリオン | [建築全体] | 進む | 〈進入〉 |
| 410 | 1996 | 11 | 227 | 中野坂上プロジェクト | 住宅・都市整備公団東京支社 ヘルム建築・都市コンサルタント 山本・堀アーキテクト | だんだん | 【加速度(大)】 | 6階以上 | [ヴォリューム] | 小さくし | 〈縮小〉 |
| 411 | 1997 | 1 | 254 | 獅子ワールド館 | ユニテ設計・計画 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 建築 | [建築全体] | 着地させる | 〈付着〉 |
| 412 | 1997 | 2 | 157 | 小田原市総合文化体育館・小田原アリーナ | 坂倉建築研究所 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建築物 | [建築全体] | たたずんでいる | 〈存在〉 |
| 413 | 1997 | 3 | 122 | 東京大学大学院数理科学研究科棟 | 東京大学施設部・香山壽夫＋環境造形研究所 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | コモンルーム | [室空間] | 取られている | 〈確保〉 |
| 414 | 1997 | 3 | 167 | 大阪市水上消防署仮設庁舎 | 大阪市都市整備局営繕部 シーラカンス | すっきり | 【整然性(小)】 | ジョイント | [ディテール] | 納める | 〈包容〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------------------|---|---------|----------|-------------------------|----------|----------|----------|
| 415 | 1997 | 4 | 152 | 養老天命反転地オフィス | 荒川修作+マドリン・ギンズ/ コンテナーズオブマインドフア ンデーション・ジャパン 車戸建 築事務所 | ヒラリ | 【捲れ方(弱)】 | 建物 | [建築全体] | 舞い降りた | 〈降下〉 |
| 416 | 1997 | 5 | 174 | 水俣メモリアル | ジュゼッペ・パローネ建築事 務所 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | スラブ | [床] | 広がり | 〈拡張〉 |
| 417 | 1997 | 6 | 207 | こまつドーム | 山下設計・大成建設設計共 同体 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 屋根 | [屋根] | 開いていく | 〈開放〉 |
| 418 | 1997 | 7 | 204 | 三隅町立三隅小学校 | 高松伸+高松伸 | ぼつねん | 【衝撃(小)】 | 学校 | [建築全体] | 生まれようとする | 〈出現〉 |
| 419 | 1997 | 8 | 147 | 森林技術総合研究所林業機 械化センター寄宿舍棟 | アルセッド建築研究所 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 人 | [人] | 生活をする | 〈生活〉 |
| 420 | 1997 | 8 | 153 | 飛鳥学院保育所遊戯室棟・子 育て支援センター | アルセッド建築研究所 | すつきり | 【整然性(小)】 | 木造架構 | [構造] | 仕上がっている | 〈加工〉 |
| 421 | 1997 | 9 | 185 | 松島さかな市場 | 早稲田大学石山修武研究室 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 日門湾の廃船 | [調度品] | 解体され | 〈分解〉 |
| 422 | 1997 | 9 | 193 | 横浜市篠原地区センター・横 浜市篠原地域ケアプラザ | 楳文彦 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | このふたつ (ヴォリユー ム・内部空間) | [ヴォリューム] | 均衡を保って | 〈安定〉 |
| 423 | 1997 | 9 | 193 | 横浜市篠原地区センター・横 浜市篠原地域ケアプラザ | 楳文彦 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | このふたつ (ヴォリユー ム・内部空間) | [内部空間] | 均衡を保って | 〈安定〉 |
| 424 | 1997 | 10 | 118 | 都幾川文化体育センター | 鈴木侑+AMS | しっかり | 【固定度(小)】 | 体育館 | [建築全体] | 重合し | 〈結合〉 |
| 425 | 1997 | 11 | 98 | ハーグドーム熊本 | 第一工房・フジタ共同体 | ふわっ | 【質量(軽)】 | 屋根 | [屋根] | 架ける | 〈形成〉 |
| 426 | 1997 | 11 | 197 | あけぼの子ども森公園 | 村山建築設計 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | ムーミンババ | [建築全体] | 座る | 〈行動〉 |
| 427 | 1997 | 11 | 222 | 日本野鳥の会鳥と緑の国際 センターWING | 時空遊園 日本野鳥の会 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 時 | [時間] | 流れ | 〈流動〉 |
| 428 | 1997 | 12 | 112 | 酒田市美術館 | 池原義郎 | ちらっ | 【量(少)】 | 展示室 | [室空間] | 見える | 〈視認〉 |
| 429 | 1997 | 12 | 225 | 老人保健施設涼風苑 | 渡辺武信設計室 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 療養室 | [室空間] | 押さえて | 〈制御〉 |
| 430 | 1998 | 1 | 158 | 芦屋市民センター | 坂倉建築研究所 | きちん | 【整然性(小)】 | 多目的なロビー | [室空間] | 独立して | 〈自立〉 |
| 431 | 1998 | 1 | 158 | 芦屋市民センター | 坂倉建築研究所 | きちん | 【整然性(小)】 | 堅穴区画 | [領域] | 設置する | 〈配置〉 |
| 432 | 1998 | 1 | 158 | 芦屋市民センター | 坂倉建築研究所 | きちん | 【整然性(小)】 | 堅穴区画 | [領域] | なった | 〈形成〉 |
| 433 | 1998 | 1 | 185 | 新津市美術館 | 横山正+アルセッド建築研究 所 | びっしり | 【密集度(大)】 | 人びと | [人] | 開んで | 〈包容〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|---------------------------------------|------------------------|---------|-----------|---------|---------|-----------|----------|
| 434 | 1998 | 6 | 95 | 天竜市秋野不矩美術館 | 藤森照信＋内田祥士(習作舎) | ポツ | 【不明瞭性(大)】 | 絵 | 【調度品】 | 浮いている | 〈浮遊〉 |
| 435 | 1998 | 6 | 114 | 桜座 | ワークステーション | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 平地 | 【地形】 | 下りながら | 〈降下〉 |
| 436 | 1998 | 8 | 130 | 御杖小学校 | 青木淳 | すぼり | 【抵抗(小)】 | テント膜 | 【構造】 | 覆われた | 〈包容〉 |
| 437 | 1998 | 12 | 84 | グラスハウス | 横河健＋木村建築設計 | スッポリ | 【抵抗(小)】 | 屋根 | 【屋根】 | 覆い | 〈包容〉 |
| 438 | 1999 | 1 | 164 | オフィス・赤坂 | 平倉直子建築設計 | たっぷり | 【過剰性(小)】 | 踊り場 | 【動線空間】 | とり | 〈確保〉 |
| 439 | 1999 | 1 | 177 | 50M-様の森美術館 | 桂英昭＋A・I・R | ぼつり | 【衝撃(小)】 | 榛の森 | 【植物】 | 残されていた | 〈存在〉 |
| 440 | 1999 | 2 | 166 | 専修寺納骨堂 | 前川建築設計 | スッポリ | 【抵抗(小)】 | 屋根 | 【屋根】 | 切り取って | 〈切取〉 |
| 441 | 1999 | 3 | 208 | 春町保健センター 三春町シ ルバー人材センター(生活工 芸館) | 武渾秀一/用美強・建築都市 設計 | バックリ | 【裂け方(弱)】 | 口 | 【開口部】 | 開く | 〈開放〉 |
| 442 | 1999 | 3 | 208 | 春町保健センター 三春町シ ルバー人材センター(生活工 芸館) | 武渾秀一/用美強・建築都市 設計 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 大屋根 | 【屋根】 | 起られ(むくられ) | 〈突出〉 |
| 443 | 1999 | 3 | 222 | 大木町総合福祉センター健康 福祉棟 | クニオ・グドール・アソシエイツ | ふわっ | 【質量(軽)】 | 雲 (屋根) | 【屋根】 | 浮かせる | 〈浮遊〉 |
| 444 | 1999 | 6 | 169 | 音戯の郷 | 堀尾佳弘建築研究所 | そっ | 【衝撃(小)】 | 全体のデザイン | 【建築外觀】 | 行む | 〈存在〉 |
| 445 | 1999 | 6 | 169 | 音戯の郷 | 堀尾佳弘建築研究所 | むっくり | 【膨張性(小)】 | きのこ | 【建築全体】 | 顔を出す | 〈突出〉 |
| 446 | 1999 | 7 | 97 | 埼玉県立大学 | 山本理顕設計工場 | びったり | 【付着度(小)】 | 配置計画 | 【平面形】 | 重なった | 〈積層〉 |
| 447 | 1999 | 7 | 97 | 埼玉県立大学 | 山本理顕設計工場 | びったり | 【付着度(小)】 | 風景 | 【風景】 | 重なった | 〈積層〉 |
| 448 | 1999 | 8 | 126 | 白雨館 | 坂本昭・設計工房CASA 佐々 木葉二 | きらきら | 【明度(鋭)】 | しずく | 【水】 | 輝き | 〈発信〉 |
| 449 | 1999 | 8 | 137 | 萱島新町家 ネイキッドスクエ ア | ヘキサ | どんどん | 【加速度(大)】 | 風景 | 【風景】 | 変わる | 〈変容〉 |
| 450 | 2000 | 1 | 168 | 黒部堀切寮 | teonks | しっかり | 【固定度(小)】 | プレート | 【壁】 | 包み込 | 〈包容〉 |
| 451 | 2000 | 2 | 97 | 黒興の方庫 | 東孝光・東環境・建築研究所 ／東利恵 | そっ | 【衝撃(小)】 | 場所 | 【領域】 | 現れて | 〈出現〉 |
| 452 | 2000 | 3 | 155 | フリーメン | 石田敏明＋石田敏明建築設 計 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 風景 | 【風景】 | 混ざり | 〈溶込〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------------------------------|--|---------|-----------|--------|---------|----------|----------|
| 453 | 2000 | 5 | 126 | ICB Paris | 岸和郎十 KASSOCIATES/Architects | ほんのり | 【量(少)】 | 光 | [光] | 粒立つ | 〈出現〉 |
| 454 | 2000 | 6 | 157 | 節黒城キャンパスコテージC棟 | 石井大五／フューチャース ケープ建築設計 | くつきり | 【明瞭性(鋭)】 | 建物 | [建築全体] | 浮かび上がらせる | 〈上昇〉 |
| 455 | 2000 | 8 | 208 | 高エネルギー加速器研究機構研究棟4号館 | 文部省高エネルギー加速器 研究機構施設部 上野・藤井 建築研究所 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 研究室の振子 | [調度品] | 浮かび上がる | 〈上昇〉 |
| 456 | 2000 | 12 | 122 | むいはいち温泉「ゆ・ら・ら」 | 新居千秋都市建築設計 | ふわっ | 【質量(軽)】 | 様 | [建築外観] | 浮かび上がる | 〈上昇〉 |
| 457 | 2001 | 1 | 119 | 国見町生涯学習センター「み んなんかん」 | 塩塚隆生アトリエ | くつきり | 【明瞭性(鋭)】 | 輪郭 | [輪郭] | 出す | 〈出現〉 |
| 458 | 2001 | 3 | 164 | SHIBUYA-AX | みかんぐみ | ざらざら | 【明度(強力)】 | CD | [調度品] | 反射して | 〈対抗〉 |
| 459 | 2001 | 4 | 179 | 小倉・岩田建築設計 | 小倉基弘－岩田伸一郎 | やんわり | 【軟度(小)】 | 壁 | [壁] | 閉じる | 〈閉鎖〉 |
| 460 | 2001 | 5 | 199 | ポータブル・アーキテクチャー KH-2 | みかんぐみ | ごろごろ | 【質量(重)】 | 「KH-1」 | [建築全体] | 転がして | 〈回転〉 |
| 461 | 2001 | 7 | 127 | 桐居 | 有馬裕之＋Urban Fourth | ばらばら | 【散在性(大)】 | 材料 | [材料] | 選択し、配置する | 〈配置〉 |
| 462 | 2001 | 7 | 127 | 桐居 | 有馬裕之＋Urban Fourth | ばらばら | 【散在性(大)】 | 使用材料 | [材料] | 張られ | 〈配置〉 |
| 463 | 2001 | 9 | 88 | 東京ウェルズテクニカルセン ター | 山本理顕設計工場 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 人 | [人] | 座れる | 〈行動〉 |
| 464 | 2001 | 9 | 122 | 聖籬町立聖籬中学校 | 香山壽夫建築研究所 | しっかり | 【固定度(小)】 | 建物 | [建築全体] | 根を下ろし | 〈安定〉 |
| 465 | 2001 | 9 | 203 | 豊田スタジアム | 黒川紀章 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 座席が | [調度品] | せまっており | 〈接近〉 |
| 466 | 2001 | 10 | 92 | 直島・家プロジェクト「きんざ」 内藤礼「このことを」 | 秋元雄史 内藤礼 木村優十 アークステーション | すれすれ | 【臨界性(小)】 | 光 | [光] | 地面に差しこむ | 〈進入〉 |
| 467 | 2001 | 10 | 159 | 片岡代台幼稚園の改装 | 乾久美子建築設計 | すっかり | 【明瞭性(鋭)】 | 中にあるもの | [内部空間] | 見えている | 〈確認〉 |
| 468 | 2001 | 11 | 134 | 国立オリンピック記念青少年 総合センター 第二期、第三 期他 | 国土交通省関東地方整備局 営繕部 坂倉建築研究所 | くつきり | 【明瞭性(鋭)】 | 光 | [光] | 強調されて | 〈発信〉 |
| 469 | 2001 | 11 | 134 | 国立オリンピック記念青少年 総合センター 第二期、第三 期他 | 国土交通省関東地方整備局 営繕部 坂倉建築研究所 | くつきり | 【明瞭性(鋭)】 | 影 | [陰影] | 強調されて | 〈発信〉 |
| 470 | 2002 | 2 | 84 | 茨城県立図書館(旧茨城県 議会議事堂) | 茨城県土木部営繕課 日建 設計 | たっぷり | 【過剰性(小)】 | 天井高 | [寸法] | とりました | 〈確保〉 |
| 471 | 2002 | 2 | 188 | 春風館 | 二井清治建築研究所 | びたっ | 【付着度(小)】 | 床 | [床] | 吸いつき | 〈付着〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|---|--|---------|-----------|--------------------|----------|----------|----------|
| 472 | 2002 | 3 | 175 | BORZOI | 前田紀貞・アトリエ | きっちり | 【整然性(小)】 | 空気の輪郭 | [空気] | 切り取られた | 〈切取〉 |
| 473 | 2002 | 4 | 129 | 矢賀ストリート | 甲村健一／KEN一級建築士事務所 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 壁面 | [壁] | 建てた | 〈建設〉 |
| 474 | 2002 | 4 | 129 | 矢賀ストリート | 甲村健一／KEN一級建築士事務所 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 開口 | [開口部] | 設けられた | 〈配置〉 |
| 475 | 2002 | 5 | 158 | としまえんマンション | 森山善之／建築設計パケラッタ | しつかり | 【固定度(小)】 | 箱の中と外の境界(コンベヤーベルト) | [壁] | 区切られている | 〈分解〉 |
| 476 | 2002 | 5 | 174 | 県営住宅鳥見山団地 | スタジオ建築計画 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 集合住宅 | [建築全体] | し | 〈形成〉 |
| 477 | 2002 | 7 | 69 | 司馬遼太郎記念館 | 安藤忠雄 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 外の光 | [光] | 写し出す | 〈発信〉 |
| 478 | 2003 | 1 | 89 | 白雪の診療所 | 坂本昭・設計工房CASA | しんしん | 【衝撃(小)】 | 雪 | [水] | 降る | 〈降下〉 |
| 479 | 2003 | 1 | 151 | うおがし銘茶・銀座店「茶・銀座」 | 野沢正光建築工房 高取空間計画 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 外光 | [光] | 入り | 〈進入〉 |
| 480 | 2003 | 3 | 184 | TOD'S 表参道ビル | 伊東豊雄建築設計 | きっちり | 【整然性(小)】 | 敷地の仕切り板 | [壁] | 差し込まれている | 〈進入〉 |
| 481 | 2003 | 3 | 184 | TOD'S 表参道ビル | 伊東豊雄建築設計事務所 | しつかり | 【固定度(小)】 | 箱 | [ヴォリューム] | 安定している | 〈安定〉 |
| 482 | 2003 | 4 | 203 | SNハウス | 長谷川逸子 | グルグル | 【巻き方(大)】 | 戸建て住宅 | [建築全体] | 回して重ねた | 〈回転〉 |
| 483 | 2003 | 5 | 121 | ルイ・ヴィトン高知店 | 乾久美子建築設計 LOUIS VUITTON MALLETTIERエイチアンドエイ | がらり | 【量(多)】 | 外観 | [建築外観] | 変化し | 〈変容〉 |
| 484 | 2003 | 5 | 121 | ルイ・ヴィトン高知店 | 乾久美子建築設計事務所 LOUIS VUITTON MALLETTIERエイチアンドエイ | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | パターン | [輪郭] | 浮かび上がらせ | 〈上昇〉 |
| 485 | 2003 | 5 | 179 | コウヅキキャピタルイースト | 日建設計 | すっきり | 【整然性(小)】 | 建物コーナー部 | [ディテール] | 見せる | 〈視認〉 |
| 486 | 2003 | 7 | 109 | フォレスト益子 | 内藤廣 | すっきり | 【明瞭性(鋭)】 | 建物 | [建築全体] | 落ち着いて | 〈安息〉 |
| 487 | 2003 | 7 | 109 | フォレスト益子 | 内藤廣 | すっきり | 【明瞭性(鋭)】 | 周囲の環境 | [周辺環境] | 落ち着いて | 〈安息〉 |
| 488 | 2003 | 8 | 71 | 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2003 越後松之山「森の学校」キヨロロ | 手塚貴晴＋手塚由比 池田昌弘／手塚建築研究所＋武蔵野工業大学手塚研究室＋MIAS | くねくね | 【弛緩性(小)】 | 空間 | [内部空間] | 連続した | 〈連続〉 |
| 489 | 2003 | 9 | 63 | 福井県立図書館・文書館 | 横文彦 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 来館者 | [人] | 閲覧し | 〈視認〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--|---|---------|----------|----------|----------|-------------|----------|
| 490 | 2003 | 9 | 197 | 上中里の集合住宅―― S8ap. | 川辺直哉 | しっくり | 【固定度(小)】 | 耐力壁 | [構造] | 配置する | 〈配置〉 |
| 491 | 2003 | 10 | 138 | 汐留メディアタワー | KAJIMA DESIGN | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 全客室 | [室空間] | 配した | 〈配置〉 |
| 492 | 2003 | 10 | 138 | 汐留メディアタワー | KAJIMA DESIGN | しっくり | 【固定度(小)】 | 高層ビル | [建築全体] | 建つ | 〈建設〉 |
| 493 | 2003 | 12 | 104 | なんばパークス(1期) | 日建設計 大林組本店一級 建築士事務所 ジャーディ・ ハートナー・シブ・インターナ ショナル | どンドン | 【加速度(大)】 | 店舗 | [建築全体] | 変化する | 〈変容〉 |
| 494 | 2003 | 12 | 161 | 行燈旅館(内)と〈外〉の間ⅩⅢ +D. F. I | 早稲田大学入江正之研究室 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 光 | [光] | 伝わって | 〈連続〉 |
| 495 | 2004 | 1 | 105 | 馬車道駅 | 鉄道建設・運輸施設整備支援 機構鉄道建設本部東京支社 内藤廣 | どンドン | 【加速度(大)】 | 空間 | [内部空間] | 実体を失う | 〈消失〉 |
| 496 | 2004 | 2 | 89 | 日本基督教団 | 香山藩夫建築研究所+進藤 圭介建築研究所 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 座席配置 | [調度品] | 開む | 〈包容〉 |
| 497 | 2004 | 3 | 100 | 安養寺木造阿弥陀如来坐像 収蔵施設 | 隈研吾 | ドロドロ | 【粘性(強)】 | 材料 | [材料] | つながった | 〈結合〉 |
| 498 | 2004 | 3 | 171 | 調布の集合住宅B | 西沢大良 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | ライトルーム | [室空間] | 発光したり | 〈発信〉 |
| 499 | 2004 | 3 | 171 | 調布の集合住宅B | 西沢大良 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | ライトルーム | [室空間] | 明滅する | 〈流動〉 |
| 500 | 2004 | 4 | 177 | 大東文化大学 板橋キャンパ ス(第1期)中央棟・図書館ノ 3号館 | 中村勉、山本・堀アーキテクツ 設計共同体 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 空気 | [空気] | 放出され | 〈排出〉 |
| 501 | 2004 | 4 | 184 | 国営越後丘陵公園 花と緑 | 長建設計 | ゴロリ | 【質量(重)】 | 〈利用者〉 | [人] | 横になる | 〈回転〉 |
| 502 | 2004 | 6 | 192 | Office of Ryue Nishizawa | 西沢立衛 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 平面全体 | [平面形] | 分割し | 〈分解〉 |
| 503 | 2004 | 7 | 119 | Lichtbrücke | 山本理顕&ペーダ・フエス ラー+ミレー・ジャ・クバル | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 帯 | [調度品] | 巻き上げられる | 〈包容〉 |
| 504 | 2004 | 8 | 56 | ニュー・イースト・ピッコロトン ダ | 池原義郎 西武建設 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 屋根 | [屋根] | アーチ状で | 〈湾曲〉 |
| 505 | 2004 | 8 | 191 | 倉敷市宮中団地第2期 | スタジオ建築計画・倉敷建築 設計センター企業体 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 小さい単位の建物 | [ヴォリューム] | なるように置いていった | 〈配置〉 |
| 506 | 2004 | 10 | 118 | 立正大学総合学術情報セン ター | 石本建築事務所 | すっきり | 【整然性(小)】 | 天井 | [天井] | デザインとした | 〈計画〉 |
| 507 | 2004 | 11 | 103 | 第二吉本ビルディング | 竹中工務店 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 時間 | [時間] | 流れ | 〈流動〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-------------------------------------|---|---------|----------|--------|----------|---------|----------|
| 508 | 2004 | 11 | 107 | LOUIS VUITTON OSAKA HILTON PLAZA | 乾久美子建築設計 LOUIS VUITTON MALLERTIER エイ チアンドエイ | すっかり | 【明瞭性(鋭)】 | ディテール | [ディテール] | 覆い隠している | 〈隠蔽〉 |
| 509 | 2004 | 11 | 120 | 昭島のハウス | 西沢大良 | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | ワンルーム | [室空間] | 広がり | 〈拡張〉 |
| 510 | 2004 | 11 | 122 | 昭島のハウス | 西沢大良 | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | 山並み | [地形] | 見える | 〈視認〉 |
| 511 | 2004 | 11 | 122 | 昭島のハウス | 西沢大良 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 木材 | [材木] | 覆う | 〈包容〉 |
| 512 | 2004 | 11 | 131 | 黒犬荘 | 塚本由晴+貝島桃代/アトリ エ・ワン | びたり | 【付着度(小)】 | 空間 | [室空間] | 納まる | 〈包容〉 |
| 513 | 2004 | 12 | 171 | つくばエクスプレス「柏たなか 駅」 | 渡辺誠/アーキテクツオファイ ス | ふわり | 【質量(軽)】 | 一部 | [周辺環境] | 膨らんで | 〈拡張〉 |
| 514 | 2004 | 12 | 185 | 三菱未来館@earth | 三菱地所設計 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 壁 | [壁] | 巻き | 〈回転〉 |
| 515 | 2004 | 12 | 185 | 三菱未来館@earth | 三菱地所設計 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 壁 | [壁] | 登って行く | 〈上昇〉 |
| 516 | 2004 | 12 | 185 | 三菱未来館@earth | 三菱地所設計 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 壁 | [壁] | 巻き | 〈回転〉 |
| 517 | 2005 | 1 | 179 | 新八代駅前モニュメント | 乾久美子建築設計 | どんどん | 【加速度(大)】 | 穴 | [開口部] | 透けていく | 〈消失〉 |
| 518 | 2005 | 2 | 106 | LIF | 鈴木侑+AMS/内木博喜 高柳英明 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | F型 | [平面形] | めぐる | 〈包容〉 |
| 519 | 2005 | 2 | 134 | 藤本社介 | 藤本社介 | めちやくちや | 【散在性(小)】 | ボリ ューム | [ヴォリューム] | なっている | 〈形成〉 |
| 520 | 2005 | 2 | 153 | 眺望を内部に引き込んだリ ゾートマンジョンの改修 | フィズ SUPER-OS 吉村靖孝 | ずるずる | 【抵抗(大)】 | ワンルーム | [室空間] | つながる | 〈結合〉 |
| 521 | 2005 | 2 | 182 | n-HA1 フォレンジィ東麻布 | 國分昭子+池田靖史/IKDS | みっちり | 【密集度(小)】 | ボリ ューム | [ヴォリューム] | 詰まって | 〈充填〉 |
| 522 | 2005 | 2 | 212 | グランドメゾン白壁櫻明荘 | 坂倉建築研究所 | ちらっ | 【量(少)】 | 櫻明荘 | [建築全体] | 見える | 〈視認〉 |
| 523 | 2005 | 2 | 212 | グランドメゾン白壁櫻明荘 | 坂倉建築研究所 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 櫻明荘 | [建築全体] | 静まりかえった | 〈静寂〉 |
| 524 | 2005 | 3 | 91 | 青山ビル改修(エスコルテ青 山) | 隈研吾 | サクサク | 【抵抗(小)】 | 身体 | [人] | 小走り | 〈行動〉 |
| 525 | 2005 | 3 | 91 | 青山ビル改修(エスコルテ青 山) | 隈研吾建築都市設計事務所 | マッタリ | 【弛緩性(小)】 | 身体 | [人] | たたずむ | 〈存在〉 |
| 526 | 2005 | 3 | 152 | ルナ ディ エミール 表参道 ビル | 岸和郎 +K.ASSOCIATES/Architects | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 間接照明 | [光] | 変化してゆく | 〈変容〉 |
| 527 | 2005 | 4 | 165 | ISSEY MIYAKE | 棚瀬純建築設計 | ボンボン | 【衝撃(小)】 | ボリ ューム | [ヴォリューム] | 置かれる | 〈配置〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--|------------------------------|---------|-----------|--------|----------|----------|----------|
| 528 | 2005 | 4 | 188 | 亀や龍宮殿 | SUPER-OS 吉村靖孝 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 天井 | [天井] | 下げ | 〈降下〉 |
| 529 | 2005 | 5 | 76 | 鬼石多目的ホール | 妹島和世 | どんどん | 【加速度(大)】 | 棟 | [ヴォリューム] | ものになり | 〈変容〉 |
| 530 | 2005 | 5 | 77 | 鬼石多目的ホール | 妹島和世建築設計事務所 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 3つの固まり | [ヴォリューム] | にも見える | 〈視認〉 |
| 531 | 2005 | 5 | 169 | 2005年日本国際博覧会 企業パビリオンゾーンA 三菱未来館@earth | 三菱地所設計 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 壁 | [壁] | 巻かれた | 〈回転〉 |
| 532 | 2005 | 5 | 169 | 2006年日本国際博覧会 企業パビリオンゾーンA 三菱未来館@earth | 三菱地所設計 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 壁 | [壁] | 登って行く | 〈上昇〉 |
| 533 | 2005 | 6 | 89 | ミラノサローネのLEXUS会場 構成 | 石上純也 | すっかり | 【明瞭性(鋭)】 | 霧 | [水] | 晴れて | 〈変容〉 |
| 534 | 2005 | 8 | 199 | うつのみやアパートメント | 田口知子建築設計 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 壁 | [壁] | 立ち上げ | 〈建設〉 |
| 535 | 2005 | 9 | 113 | 公立はこだて未来大学研究棟 | 山本理顕設計工場・函館建築設計管理事業共同組合共同企業体 | ボヤッ | 【不明瞭性(大)】 | 外側 | [建築外観] | 見えたり | 〈視認〉 |
| 536 | 2005 | 9 | 148 | KRUG X KUMA = ∞(無限大) KKK | 隈研吾 | フニャフニャ | 【弛緩性(小)】 | 建築 | [建築全体] | 動く | 〈変容〉 |
| 537 | 2005 | 9 | 148 | KRUG X KUMA = ∞(無限大) KKK | 隈研吾 | フニャフニャ | 【弛緩性(小)】 | 建築 | [建築全体] | 変わる | 〈変容〉 |
| 538 | 2005 | 9 | 148 | KRUG X KUMA = ∞(無限大) KKK | 隈研吾 | フニャフニャ | 【弛緩性(小)】 | 全体 | [建築全体] | 動く | 〈流動〉 |
| 539 | 2005 | 12 | 113 | 八街の家 | 新聞謙一郎 | しっかり | 【固定度(小)】 | 建物 | [建築全体] | 根付く | 〈安定〉 |
| 540 | 2005 | 12 | 129 | 川崎のハウス | 西沢大良 | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | 緑地の桜 | [植物] | 映り込んでいる。 | 〈進入〉 |
| 541 | 2006 | 1 | 152 | t-room | 隈研吾 | ブヨブヨ | 【弛緩性(大)】 | 空気膜構造体 | [構造] | 変化する | 〈変容〉 |
| 542 | 2006 | 2 | 105 | 奈良県立図書館情報館 | 日本設計・樹谷設計設計共同 体 奈良県土木部営繕課 | しっかり | 【固定度(小)】 | 空間 | [室空間] | 位置付ける | 〈配置〉 |
| 543 | 2006 | 2 | 138 | 成城五丁目タウンハウス SEIJOYTOWN HOUSE PROJECT | 山本・堀アーキテクト | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 住環境 | [周辺環境] | 建ち並ぶ | 〈建設〉 |
| 544 | 2006 | 2 | 147 | B棟 | 石黒由紀建築設計 | ぶくっ | 【膨張性(小)】 | 階段室 | [動線空間] | 押し出された | 〈突出〉 |
| 545 | 2006 | 2 | 156 | panda(桜アパートメント) | スキーマ建築計画 | ほんのり | 【量(少)】 | 風景 | [風景] | 現れる | 〈出現〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------------------------|--|---------|-----------|-----------|----------|---------|----------|
| 546 | 2006 | 2 | 220 | カーサブリランテ代々木公園 | 内田デザイン研究所 ラアーキテクト | キラリ | 【緊張度(小)】 | 三角形の鋭角部 | 【輪郭】 | 建ち上がった | 〈存在〉 |
| 547 | 2006 | 6 | 131 | 茶室 徹 | 藤森照信＋大嶋信道(大嶋アトリエ) | しっかり | 【固定度(小)】 | 脚 | 【構造】 | 接合 | 〈結合〉 |
| 548 | 2006 | 6 | 131 | 茶室 徹 | 藤森照信＋大嶋信道(大嶋アトリエ) | しっかり | 【固定度(小)】 | 箱 | 【ヴォリューム】 | 接合 | 〈結合〉 |
| 549 | 2006 | 6 | 138 | ライカ銀座店 | 岸和郎＋KASSOCIATES/EX | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 展示 | 【調度品】 | 見える | 〈視認〉 |
| 550 | 2006 | 7 | 77 | ちよっ蔵広場 | 隈研吾建築都市設計事務所 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | メッシュ | 【構造】 | 覆われる | 〈包容〉 |
| 551 | 2006 | 7 | 81 | 宝積寺駅グリーンシエルトー | 隈研吾 | きらきら | 【明度(鋭)】 | この作品 | 【建築全体】 | 輝いて | 〈発信〉 |
| 552 | 2006 | 7 | 81 | 宝積寺駅グリーンシエルトー | 隈研吾建築都市設計事務所 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | システム | 【構造】 | 還る | 〈後退〉 |
| 553 | 2006 | 8 | 77 | KEM | aat＋ヨコモミマコト建築設計 | ガタガタ | 【凹凸(大)】 | ファサード(西面) | 【建築外観】 | なる | 〈形成〉 |
| 554 | 2006 | 9 | 113 | 県立ぐんま昆虫の森 昆虫観察館 | 安藤忠雄 | キラキラ | 【明度(鋭)】 | ドーム | 【屋根】 | 光る | 〈発信〉 |
| 555 | 2006 | 10 | 76 | トレド美術館ガラスパビリオン | 妹島和世＋西沢立衛／ SANNA KENDALL/HEATON ASSOCIATES | くるっ | 【巻き方(小)】 | (カーブライン) | 【平面形】 | くるむ | 〈包容〉 |
| 556 | 2006 | 10 | 76 | トレド美術館ガラスパビリオン | 妹島和世＋西沢立衛／ SANNA KENDALL/HEATON ASSOCIATES | くるり | 【巻き方(小)】 | (ライン) | 【壁】 | くるんで | 〈包容〉 |
| 557 | 2006 | 10 | 89 | 成増高等看護学校 | 富永護＋フォルムシステム設計研究所 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 佇まい | 【建築外観】 | はまって | 〈充填〉 |
| 558 | 2006 | 10 | 89 | 成増高等看護学校 | 富永護＋フォルムシステム設計研究所 | すっぼり | 【抵抗(小)】 | 教室(空間) | 【室空間】 | 包まれていて | 〈包容〉 |
| 559 | 2006 | 12 | 98 | 有元歯科医院 | 妹島和世 | ぼっん | 【衝撃(小)】 | 建物 | 【建築全体】 | 置かれている | 〈配置〉 |
| 560 | 2006 | 12 | 117 | LOUIS VUITTON HONG KONG LANDMARK | 青木淳 PETER MARINO & ASSOCIATES ARCHITECTS LOUIS VUITON MALLETIER | びったり | 【付着度(小)】 | 素材 | 【材料】 | くる | 〈形成〉 |
| 561 | 2006 | 12 | 119 | LOUIS VUITTON HONG KONG LANDMARK | 青木淳 PETER MARINO & ASSOCIATES ARCHITECTS LOUIS VUITON MALLETIER | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | ブレードの小口 | 【軒】 | カットして | 〈切取〉 |
| 562 | 2006 | 12 | 187 | 森のなかの住宅 | 長谷川豪建築設計 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 部屋 | 【室空間】 | 置かれた | 〈配置〉 |
| 563 | 2007 | 1 | 132 | 柳屋本店 | 平田晃久 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | ライン | 【輪郭】 | 動く | 〈流動〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------------------------------|--|---------|----------|-------------|----------|----------|----------|
| 564 | 2007 | 2 | 71 | フロイデ彦島 | 大野秀敏・吉田明弘/APLdw | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建物 | [建築全体] | 身を沈める | 〈潜込〉 |
| 565 | 2007 | 2 | 157 | 中延の集合住宅 | 甲村健一/KEN一級建築士事務所 | ひよっこり | 【量(少)】 | 箱 | [ヴォリューム] | 頭を出した | 〈突出〉 |
| 566 | 2007 | 2 | 98 | platform | 千葉学 | しっかり | 【固定度(小)】 | ユニットの空間の広がり | [領域] | 守られている | 〈対抗〉 |
| 567 | 2007 | 3 | 63 | HOUSE A | 西沢立衛 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 風 | [空気] | 流れる | 〈流動〉 |
| 568 | 2007 | 3 | 88 | 板橋のハウス | 西沢大良 | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | 窓 | [開口部] | レイアウトした | 〈配列〉 |
| 569 | 2007 | 3 | 89 | 板橋のハウス | 西沢大良 | ふわっ | 【質量(軽)】 | 風 | [空気] | 流れ | 〈流動〉 |
| 570 | 2007 | 4 | 126 | バラマウントベッド テクニカルセンター | 清水建設 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 熱 | [熱] | 排出される | 〈排出〉 |
| 571 | 2007 | 4 | 150 | 五反田の住宅 | 長谷川豪建築設計 | ふっ | 【質量(軽)】 | 住人 | [人] | 出る | 〈排出〉 |
| 572 | 2007 | 8 | 96 | NYORO Apartment | 大場聖子十矢部倫太郎 | くねくね | 【弛緩性(小)】 | 外壁 | [壁] | ぐるっと一周する | 〈周回〉 |
| 573 | 2007 | 8 | 133 | 落合の集合住宅 | 谷内田章夫 | すっきり | 【整然性(小)】 | 窓際 | [領域] | させた | 〈形成〉 |
| 574 | 2007 | 9 | 111 | 伊丹十三記念館 | 中村好文 | ズラリ | 【量(多)】 | 小部屋 | [室空間] | 並んでいる | 〈配列〉 |
| 575 | 2007 | 9 | 128 | サントリー研修センター「夢たまご」 | 大江匡／プランテック総合計画事務所 安井建築設計 | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 廊下 | [動線空間] | 囲む | 〈包容〉 |
| 576 | 2007 | 10 | 176 | 大阪芸術大学 芸術劇場 10号館 他 | 坂倉建築設計研究所 | しっかり | 【固定度(小)】 | キャンパスの骨格 | [動線空間] | と整った | 〈整理〉 |
| 577 | 2007 | 10 | 179 | 大阪芸術大学 芸術劇場 10号館 他 | 坂倉建築設計研究所 | しっかり | 【固定度(小)】 | 景観 | [風景] | 構成している | 〈構成〉 |
| 578 | 2007 | 10 | 188 | 東北公益文化大学酒田キャンパス 公益ホール | 池田靖史十國分昭子/IKDS | バラバラ | 【散在性(大)】 | 隙間 | [領域] | 配置された | 〈配置〉 |
| 579 | 2007 | 12 | 151 | N | 青木淳 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 星と夜 | [時間] | 入れ替わる | 〈流動〉 |
| 580 | 2008 | 1 | 119 | 日本バプテリスト仙台基督教会 | SOYsource建築設計事務所 | スボッ | 【抵抗(小)】 | 窓 | [開口部] | 穿った | 〈開放〉 |
| 581 | 2008 | 1 | 161 | クリスタルードーム&吉番街 高松丸亀町商店街A街区第一種市街地再開発事業 | 福川裕一・まちづくりカンパニー・シーブネットワーク(統括) まちづくりカンパニー・シーブネットワーク 坂倉建築研究所 設計・計画 高谷時彦事務所(設計) | しっかり | 【固定度(小)】 | ファサード | [建築外観] | つくり | 〈形成〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|---|---|---------|-----------|--------|---------|---------|----------|
| 582 | 2008 | 2 | 159 | TEO | at+ヨミゾマコト建築設計 | ふわり | 【質量(軽)】 | 住戸 | [室空間] | 重なった | 〈積層〉 |
| 583 | 2008 | 2 | 180 | AIRSPACE TOKYO | 増淵大／studio M THOM FAULDERS ARCHITECTURE, WITH PROCESS | たっぷり | 【過剰性(小)】 | 自然光 | [光] | 入る | 〈進入〉 |
| 584 | 2008 | 2 | 193 | rim | 下吹越武人／A.A.E. | びっしり | 【密集度(大)】 | 中低層の住宅 | [周辺環境] | 建ち | 〈存在〉 |
| 585 | 2008 | 4 | 141 | フラハウス | 吉松秀樹＋アーキプロ | ぐんぐん | 【加速度(大)】 | 建築の表層 | [建築外観] | 変えていく | 〈変容〉 |
| 586 | 2008 | 4 | 141 | フラハウス | 吉松秀樹＋アーキプロ | フラフラ | 【振幅(小)】 | 建築の表層 | [建築外観] | 揺れ動いて | 〈流動〉 |
| 587 | 2008 | 4 | 141 | フラハウス | 吉松秀樹＋アーキプロ | ぼやっ | 【不明瞭性(大)】 | 建築の表層 | [建築外観] | 見えて | 〈視認〉 |
| 588 | 2008 | 5 | 93 | BMWアート・カー展 | 青木淳 | すれすれ | 【臨界性(小)】 | パイプの下端 | [輪郭] | 下ろし | 〈降下〉 |
| 589 | 2008 | 5 | 164 | yoji yamamoto New York gansevoort street store | 石上純也 | ちょこん | 【衝撃(小)】 | 小さな路地 | [動線空間] | 接続され | 〈結合〉 |
| 590 | 2008 | 6 | 102 | 常川市民交流ブラザ | 三四五建築研究所 | フワッ | 【質量(軽)】 | ガラス箱 | [ガラス] | 浮いた | 〈浮遊〉 |
| 591 | 2008 | 7 | 117 | 名古屋大学 豊田講堂 改修 | 横文彦 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 人びと | [人] | 眺めながら | 〈視認〉 |
| 592 | 2008 | 7 | 155 | 高台の家 | 城戸崎博孝 | だんだん | 【加速度(大)】 | 建築 | [建築全体] | よさを増して | 〈変容〉 |
| 593 | 2008 | 7 | 155 | 高台の家 | 城戸崎博孝 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 時 | [時間] | 流れ | 〈流動〉 |
| 594 | 2008 | 8 | 124 | サッポロアパートメント | 納谷学・納谷新 | グルリ | 【巻き方(大)】 | 空気層 | [空気] | 回し | 〈包容〉 |
| 595 | 2008 | 9 | 47 | いしかわ総合スポーツセンター | 池原義郎 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 大屋根 | [屋根] | うねる | 〈流動〉 |
| 596 | 2008 | 9 | 97 | NYORO Apartment | 大場聖子・矢部倫太郎 | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | 外壁 | [壁] | 一周する | 〈周回〉 |
| 597 | 2008 | 9 | 98 | とらや工房 | 内藤廣 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 訪れた人 | [人] | 時間を過ごし | 〈滞在〉 |
| 598 | 2008 | 9 | 122 | house N | 藤本壮介 | じんわり | 【浸透性(大)】 | はるか遠い方 | [周辺環境] | なる | 〈形成〉 |
| 599 | 2008 | 9 | 122 | house N | 藤本壮介 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 領域 | [領域] | 広がっていく | 〈拡張〉 |
| 600 | 2008 | 9 | 123 | final wooden house | 藤本壮介 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 何人かの人間 | [人] | 浮かんではいる | 〈浮遊〉 |
| 601 | 2008 | 9 | 123 | final wooden house | 藤本壮介 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 屋外の緑 | [色彩] | 浮かんではいる | 〈浮遊〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--|---|---------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|
| 602 | 2008 | 10 | 65 | 千本松沼津倶楽部 | 渡辺明設計 | びっしり | 【密集度(大)】 | スギ材 | [材木] | 並べ | 〈配列〉 |
| 603 | 2008 | 10 | 65 | 千本松沼津倶楽部 | 渡辺明設計 | びっしり | 【密集度(大)】 | スギ材 | [材木] | 見せている | 〈複認〉 |
| 604 | 2008 | 10 | 65 | 千本松沼津倶楽部 | 渡辺明設計 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 茶亭建築 | [建築全体] | 佇み | 〈存在〉 |
| 605 | 2008 | 11 | 63 | マンハッタン・のベントハウスⅡ | 安藤忠雄 Goefrey Freeman Architects | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 住空間 | [領域] | 佇みながら | 〈存在〉 |
| 606 | 2008 | 11 | 99 | カタガラスの家 | 武井誠＋鍋島千恵／TNA | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 周囲の建物 | [周辺環境] | 建っており | 〈存在〉 |
| 607 | 2008 | 11 | 107 | 鎌倉の杜 | 室伏次郎／スタジオアルテック | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 空間 | [内部空間] | うかがえて | 〈複認〉 |
| 608 | 2008 | 11 | 115 | 第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展 日本館展示 | 石上純也 | きらきら | 【明度(鋭)】 | 光 | [光] | 輝く | 〈発信〉 |
| 609 | 2008 | 12 | 82 | 青山OM-SQUARE | 三井不動産 清水建設 佐藤尚巳建築研究所 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 通路 | [動線空間] | カーブして | 〈湾曲〉 |
| 610 | 2009 | 1 | 133 | コールハウス | 藤森照信＋速水清孝 | グルリ | 【巻き方(大)】 | 床から天井 | [床] | 続く | 〈連続〉 |
| 611 | 2009 | 1 | 133 | コールハウス | 藤森照信＋速水清孝 | グルリ | 【巻き方(大)】 | 床から天井 | [天井] | 続く | 〈連続〉 |
| 612 | 2009 | 1 | 138 | 宇都宮のハウス | 西沢大良 | キラキラ | 【明度(鋭)】 | キッチンカウンタ― | [調度品] | 輝き | 〈発信〉 |
| 613 | 2009 | 1 | 138 | 宇都宮のハウス | 西沢大良 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 床 | [床] | 仕上げ | 〈加工〉 |
| 614 | 2009 | 1 | 168 | YKK黒部事業所ランドスケーププロジェクト 丸屋根展示館 健康管理センター 古御堂守衛所 | 大野秀敏・吉田明弘／APLdw ランドスケープデザイン オンサイト画設計 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 建築 | [建築全体] | 身を沈めて | 〈溶込〉 |
| 615 | 2009 | 3 | 89 | 西町インターナショナルスクー ル ハ城メディアセンター | 戸室令子＋中村研一 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 外壁 | [壁] | 建てないと | 〈建設〉 |
| 616 | 2009 | 3 | 117 | オボジットハウス | 隈研吾 | びっし | 【緊張度(小)】 | 膜 | [壁] | 張ったり | 〈引張〉 |
| 617 | 2009 | 3 | 126 | オボジットハウス | 隈研吾 | ガチガチ | 【硬度(大)】 | 建築の皮膚 | [建築外観] | 角質化してしまった | 〈変容〉 |
| 618 | 2009 | 3 | 127 | オボジットハウス | 隈研吾 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | 各自が | [ヴォリューム] | させ | 〈形成〉 |
| 619 | 2009 | 4 | 140 | こどもの城 | 池田設計＋千葉学 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 子どもたちは | [人] | 走り回り | 〈行動〉 |
| 620 | 2009 | 4 | 171 | アトモスフィア 東京室内歌劇 場公演オペラ「ル・グラン・マ カール」舞台美術 | 中村竜治建築設計 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 10本のバトン | [調度品] | 動かす | 〈流動〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--|---|---------|-----------|-------------|---------|---------|----------|
| 621 | 2009 | 4 | 171 | アトモスフィア 東京室内歌劇 場公演オペラル・グラン・マ カブール舞台美術 | 中村竜治建築設計 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | リボン全体のポリューム | 【調度品】 | 移動したり | 〈行動〉 |
| 622 | 2009 | 4 | 171 | アトモスフィア 東京室内歌劇 場公演オペラル・グラン・マ カブール舞台美術 | 中村竜治建築設計 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | リボン全体のポリューム | 【調度品】 | 変形させる | 〈変容〉 |
| 623 | 2009 | 5 | 70 | RIBBONS/台中野外劇場 | 渡辺誠／アーキテクツオフィ ス J.C.Yang Architect and Associates | ひらひら | 【捲れ方(弱)】 | リボン (壁/天蓋) | 【天井】 | 連続しながら | 〈連続〉 |
| 624 | 2009 | 5 | 70 | RIBBONS/台中野外劇場 | 渡辺誠／アーキテクツオフィ ス J.C.Yang Architect and Associates | ひらひら | 【捲れ方(弱)】 | リボン (壁/天蓋) | 【壁】 | 連続しながら | 〈連続〉 |
| 625 | 2009 | 5 | 107 | IDIC岩手暖房インフォメーショ ンセンター | 彦根アンドレア 彦根建築設 計 | たぷり | 【過剰性(小)】 | 太陽熱 | 【熱】 | 採り込み | 〈包容〉 |
| 626 | 2009 | 5 | 158 | F-SPACE | 石黒由紀 | ぼん | 【衝撃(小)】 | 建物 | 【建築全体】 | 差し出された | 〈突出〉 |
| 627 | 2009 | 5 | 160 | OYM | 新関謙一郎／NIIZEKI STUDIO | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 歩行者 | 【人】 | 視線を持つ | 〈視認〉 |
| 628 | 2009 | 7 | 94 | 幕張インターナショナルスクー ル | 宇野享＋赤松佳珠子＋小嶋 一浩＋伊藤恭行／CAN＋Cat | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 高学年の子どもたち | 【人】 | スポーツできる | 〈娛樂〉 |
| 629 | 2009 | 7 | 129 | 四天王寺学園小学校・四天王 寺大学藤井寺駅前キャンパス | 高松伸＋高松伸 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 子ども | 【人】 | 学習できる | 〈行動〉 |
| 630 | 2009 | 7 | 180 | てくてく長岡市子育ての駅千 秋 | 木村博幸＋山下秀之／長岡 市建築設計協同組合(担当: 長建築設計)・長岡造形大学 山下研究室 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 子どもたち | 【人】 | 遊べる | 〈娛樂〉 |
| 631 | 2009 | 8 | 84 | neri bldg.2 | 若松均 | ぼっかり | 【裂け方(弱)】 | 外部の景色 | 【風景】 | 見える | 〈視認〉 |
| 632 | 2009 | 9 | 129 | 岩見沢複合駅舎(岩見沢駅・ 岩見沢市有明交流プラザ・岩 見沢市有明連絡歩道) | 西村浩／ワークヴィジョンズ | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | カーテンウォール | 【壁】 | 包み込む | 〈包容〉 |
| 633 | 2009 | 9 | 151 | 高知駅 | 篠原修 内藤廣 内藤廣 四 国旅客鉄道 四国開発建設 | パツクリ | 【裂け方(弱)】 | 口 | 【開口部】 | 開けている | 〈開放〉 |
| 634 | 2009 | 9 | 185 | くもとアートポリス「モクハ ンR2」球磨のバンガロー | 渡瀬正記＋永吉歩／設計室 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 空の青 | 【色彩】 | 映り込む | 〈進入〉 |
| 635 | 2009 | 9 | 185 | くもとアートポリス「モクハ ンR2」球磨のバンガロー | 渡瀬正記＋永吉歩／設計室 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 樹々の緑 | 【色彩】 | 映り込む | 〈進入〉 |
| 636 | 2009 | 9 | 185 | くもとアートポリス「モクハ ンR2」球磨のバンガロー | 渡瀬正記＋永吉歩／設計室 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 岩壁の黒 | 【色彩】 | 映り込む | 〈進入〉 |
| 637 | 2009 | 10 | 116 | ROOF HOUSE | 藤森照信＋中谷弘志 | すっぱり | 【抵抗(小)】 | 焼杉 | 【材木】 | くるんだ | 〈包容〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 概念語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|---|--|---------|----------|-----------------------|---------|----------|----------|
| 638 | 2009 | 10 | 116 | ROOF HOUSE | 藤森照信+中谷弘志 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | 焼杉 | 【材木】 | くるんだ | 〈包容〉 |
| 639 | 2009 | 10 | 116 | ROOF HOUSE | 藤森照信+中谷弘志 | すっぽり | 【抵抗(小)】 | 手曲げ銅板 | 【金属】 | くるんだ | 〈包容〉 |
| 640 | 2009 | 10 | 146 | NOWHERE BUT SAJIMA | 吉村靖孝建築設計 | しっかり | 【固定度(小)】 | 開口部 | 【開口部】 | トリミングして | 〈切取〉 |
| 641 | 2009 | 10 | 174 | 水都大阪 水辺の文化座 BAMBOO FOREST & HUTS WITH WATER | 芦澤竜一建築設計+滋賀県 立大学陶器造一研究室 +tmsd萬田隆構造設計 | グッ | 【衝撃(大)】 | 真竹 | 【材木】 | かたくなる | 〈変容〉 |
| 642 | 2009 | 11 | 98 | 世界遺産 熊野本宮館 | 香山壽夫建築研究所／協力 設計 阪相宏彦計画設計 | すっきり | 【整然性(小)】 | 柱が林立する姿 | 【柱】 | 見せる | 〈確認〉 |
| 643 | 2009 | 11 | 147 | DST | aat+ヨコミゾマコト建築設計 | ふらり | 【振幅(小)】 | 人々 | 【人】 | 入り込んでくる | 〈進入〉 |
| 644 | 2009 | 12 | 97 | DNP開発の杜 箱根研修セン ター第2 | 石原健也／デネフエス計画研 究所 清水建設一級建築士 事務所 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 研修者 | 【人】 | 歩き回り | 〈行動〉 |
| 645 | 2009 | 12 | 159 | O邸 | 中山英之建築設計 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 家具が | 【調度品】 | 並んでいます | 〈配列〉 |
| 646 | 2009 | 12 | 184 | 上大須賀の家 | 谷尻誠／suppose design office | ぐるり | 【巻き方(大)】 | 庭部屋 | 【室空間】 | 囲っている | 〈包容〉 |
| 647 | 2010 | 1 | 138 | Carina store | 妹島和世 | くっきり | 【明瞭性(鋭)】 | 建物 | 【建築全体】 | そびえ立っている | 〈存在〉 |
| 648 | 2010 | 2 | 89 | ヨコハマアパートメント | 西田司+中川エリカ／オンデ ザイン | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | 階段 | 【動線空間】 | 取り巻く | 〈包容〉 |
| 649 | 2010 | 2 | 89 | ヨコハマアパートメント | 西田司+中川エリカ／オンデ ザイン | ぐるっ | 【巻き方(大)】 | 踊場 | 【動線空間】 | 取り巻く | 〈包容〉 |
| 650 | 2010 | 2 | 188 | 石双居 | 浅利幸男／ラプアーキテク チャー | しっくり | 【沈着性(小)】 | 建物 | 【建築全体】 | 馴染む | 〈溶込〉 |
| 651 | 2010 | 3 | 158 | 宇都宮大学オブティクス教育 研究センター | 山本理顕設計工場 | きらきら | 【明度(鋭)】 | ステンレスプレート | 【金属】 | 輝き | 〈発信〉 |
| 652 | 2010 | 3 | 158 | 宇都宮大学オブティクス教育 研究センター | 山本理顕設計工場 | ゆらゆら | 【振幅(小)】 | ファサード (ステンレス プレート) | 【建築外観】 | 揺れる | 〈流動〉 |
| 653 | 2010 | 3 | 158 | 宇都宮大学オブティクス教育 研究センター | 山本理顕設計工場 | ゆらゆら | 【振幅(小)】 | ファサード | 【建築外観】 | 揺らぐ | 〈流動〉 |
| 654 | 2010 | 4 | 128 | 小野路霊園管理棟 泰鳳閣 | 谷口大造／スタジオポスト+ 田中絵里建築設計 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 訪れた人びと | 【人】 | 歩く | 〈行動〉 |
| 655 | 2010 | 5 | 162 | "O" dome | 芝浦工業大学建築学科原田 真宏研究室 | ノックリ | 【変化量(小)】 | ドーム | 【屋根】 | 変形させて | 〈変容〉 |
| 656 | 2010 | 5 | 162 | "O" dome | 芝浦工業大学建築学科原田 真宏研究室 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | ドーム | 【屋根】 | ゆれている | 〈流動〉 |

資料編 第3章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の即物の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 規定語の記述例 | 〈規定語の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-------------------|---------|---------|----------|--------|---------|---------|----------|
| 657 | 2010 | 7 | 76 | 武蔵野美術大学 美術館・図書館 | 藤本壮介 | ぐるぐる | 【巻き方(大)】 | 場所 | 〔領域〕 | 奥まっっていく | 〈進入〉 |
| 658 | 2010 | 10 | 165 | I Find Everything | 山口誠デザイン | ちゃん | 【衝撃(小)】 | サイン | 【調度品】 | 置かれた | 〈配置〉 |
| 659 | 2010 | 12 | 142 | House OM | 藤本壮介 | ゆっくり | 【変化量(小)】 | 光 | 〔光〕 | 流れていく | 〈流動〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-----------------|---------------------|------------------|---------|---------|----------|----------|-----------|
| 1 | 1950 | 9 | 255 | 久ヶ原教會 | 山口文象 | 會堂(41. 33坪) | 〔建築全体〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 凹凸をなくし | 〈平坦〉 |
| 2 | 1950 | 9 | 255 | 久ヶ原教會 | 山口文象 | 會堂(41. 33坪) | 〔建築全体〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 四角な面 | 〈曖昧〉 |
| 3 | 1950 | 9 | 255 | 久ヶ原教會 | 山口文象 | 會堂(41. 33坪) | 〔建築全体〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 明るい | 〈明るさ〉 |
| 4 | 1951 | 1 | 8 | 大阪銀行行員アパート | 佐藤秀三 石野治 | エレベーション | 〔建築外観〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | 調和 | 〈親和性〉 |
| 5 | 1951 | 2 | 23 | 木肌の美しい仕上 - H氏の家 | 鹿島建設株式會社設計部 | 住宅 | 〔建築全体〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | たっぶり | 〈豊穡〉 |
| 6 | 1951 | 7 | 12 | 志摩觀光ホテル | 近畿日本鐵道營繕課 村野・森建築事務所 | 食堂 | 〔室空間〕 | ゆつたり | 【弛緩性(小)】 | 和風 | 〈伝統性〉 |
| 7 | 1952 | 3 | 114 | 18坪の家 | 安田興佐 | 生活 | 〔活動〕 | しつとり | 【湿潤度(小)】 | 豊か | 〈豊穡〉 |
| 8 | 1952 | 3 | 114 | 18坪の家 | 安田興佐 | 生活 | 〔活動〕 | しつとり | 【湿潤度(小)】 | 好ましく | 〈印象(良)〉 |
| 9 | 1952 | 3 | 114 | 18坪の家 | 安田興佐 | 生活 | 〔活動〕 | しつとり | 【湿潤度(小)】 | 包容 | 〈包容〉 |
| 10 | 1952 | 9 | 445 | T氏邸 | 池崎敏郎 | 敷地 | 〔敷地〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | なかなかよい環境 | 〈印象(快適)〉 |
| 11 | 1953 | 3 | 27 | 電信電話公社上目黒職員宿舍 | 電電公社設計課 | 職員家族アパート | 〔建築全体〕 | こじんまり | 【量(少)】 | きれいに整理され | 〈整合〉 |
| 12 | 1953 | 7 | 12 | 土田さんの家 | 山口文象 | へり | 〔ディテール〕 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 片 | 〈単純性〉 |
| 13 | 1953 | 10 | 18 | 東山君の家 | 吉村順三 | 家 | 〔建築全体〕 | すつきり | 【整然性(小)】 | 白 | 〈清潔さ〉 |
| 14 | 1953 | 11 | 11 | SERVAITES邸 | 村田政真 小椋好四 | 化粧室 | 〔ディテール〕 | すつきり | 【整然性(小)】 | 近代感 | 〈明快〉 |
| 15 | 1955 | 9 | 73 | ローコストの小事務所 | 小椋建築設計 | 1 階は居住部分で2階は建築設計 | 〔建築全体〕 | こざつぱり | 【量(少)】 | ローコスト | 〈単純性〉 |
| 16 | 1955 | 9 | 73 | ローコストの小事務所 | 小椋建築設計 | 1 階は居住部分で2階は建築設計 | 〔建築全体〕 | こざつぱり | 【量(少)】 | 清潔な感じ | 〈印象(良)〉 |
| 17 | 1955 | 10 | 18 | 秋之宮村役場 | 白井晟一 | 建物 | 〔建築全体〕 | ほのぼの | 【温かさ(小)】 | 中心施設 | 〈親和性〉 |
| 18 | 1955 | 11 | 20 | 住宅No. 28 | 池辺研究室 | プランは | 〔建築全体〕 | ズングリ | 【太さ(太)】 | 考えた方がよい | 〈不適〉 |
| 19 | 1956 | 6 | 62 | 音羽の家 | 天野太郎 | 壁 | 〔壁〕 | がつしり | 【固定度(大)】 | シェルター | 〈強固〉 |
| 20 | 1956 | 6 | 62 | 音羽の家 | 天野太郎 | 住宅 | 〔建築全体〕 | がつしり | 【固定度(大)】 | 強く | 〈強固〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 〔基本義の分類〕 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------|--------------|---------------------|---------|---------|----------|-------------|-----------|
| 21 | 1956 | 6 | 62 | 音羽の家 | 天野太郎 | 住宅 | 〔特定建築〕 | がっしり | 【固定度(大)】 | 健康な | 〈生命感〉 |
| 22 | 1957 | 7 | 72 | 宮本さんの家 | 巖建築事務所 | 民芸品 | 〔調度品〕 | ごってり | 【量(多)】 | 持味 | 〈奥ゆかしさ〉 |
| 23 | 1957 | 12 | 28 | villa CouCou | 吉阪隆正 | 家 | 〔特定建築〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | こわれない | 〈強固〉 |
| 24 | 1958 | 4 | 19 | 坂出市庁舎 | 56t | 平面計画 | 〔建築全体〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 親しみを与える | 〈親近感〉 |
| 25 | 1958 | 5 | 53 | 松本幸四郎邸 | 坂倉準三 | (建築全体) | 〔建築全体〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 開放的 | 〈開放性〉 |
| 26 | 1958 | 5 | 53 | 松本幸四郎邸 | 坂倉準三 | 孟宗竹林 | 〔風景〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 調和して | 〈親和性〉 |
| 27 | 1958 | 5 | 53 | 松本幸四郎邸 | 坂倉準三 | (建築全体) | 〔建築全体〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | つながる | 〈親和性〉 |
| 28 | 1958 | 8 | 78 | 関東労災病院 | 建設省 | 病院 | 〔建築全体〕 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 何ものにも妨げられない | 〈自由〉 |
| 29 | 1958 | 8 | 78 | 関東労災病院 | 建設省 | 病院 | 〔特定建築〕 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 憩いの場所 | 〈安心感〉 |
| 30 | 1958 | 8 | 78 | 関東労災病院 | 建設省 | 病院 | 〔特定建築〕 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 快適な | 〈印象(快適)〉 |
| 31 | 1958 | 8 | 78 | 関東労災病院 | 建設省 | 病院 | 〔建築全体〕 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 静かな | 〈控目〉 |
| 32 | 1958 | 8 | 78 | 関東労災病院 | 建設省 | 病院 | 〔建築全体〕 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 明るい | 〈明るさ〉 |
| 33 | 1959 | 1 | 56 | コンクリートブロックの家 | 田中正美 | 居間 | 〔室空間〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | 人間的な親しみ | 〈親近感〉 |
| 34 | 1959 | 1 | 56 | コンクリートブロックの家 | 田中正美 | 居間 | 〔室空間〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | 落ち着き | 〈安心感〉 |
| 35 | 1959 | 1 | 101 | 香川県庁舎 | 丹下健三研究室 神谷宏治 | 明るさ | 〔環境要素〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 息吹き | 〈生命感〉 |
| 36 | 1959 | 6 | 63 | 田村邸 | 森京介建築設計 | 古風な美しい邸宅とその周囲に広がる庭園 | 〔外部空間〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | ゆとり | 〈安心感〉 |
| 37 | 1959 | 6 | 63 | 田村邸 | 森京介建築設計 | 古風な美しい邸宅とその周囲に広がる庭園 | 〔外部空間〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 美しさ | 〈美しさ〉 |
| 38 | 1960 | 2 | 52 | 島根県立博物館 | 菊竹清訓 | 白壁のコンクリート | 〔材料〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 美しい | 〈美しさ〉 |
| 39 | 1960 | 3 | 30 | 新幹ビル | 彦谷建築設計 | 建物 | 〔建築全体〕 | ほのぼの | 【温かさ(小)】 | 平凡に/何気なく | 〈單純性〉 |
| 40 | 1960 | 3 | 30 | 新幹ビル | 彦谷建築設計 | 建物 | 〔建築全体〕 | ほのぼの | 【温かさ(小)】 | 不自然さを感じさせず | 〈落着〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------|---------------------------|----------------------|---------|---------|----------|-------------|-----------|
| 41 | 1960 | 10 | 18 | 柿生の家 | 森京介建築設計 | 寝室・浴室、厨房、食堂 | 【室空間】 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | ゆとりが取れた | 〈安心感〉 |
| 42 | 1960 | 12 | 17 | 山の家 | 清家清 | 家(住宅) | 【特定建築】 | シッカリ | 【固定度(小)】 | 丈夫すぎる | 〈強固〉 |
| 43 | 1961 | 1 | 76 | N氏の小別荘 | 山脇建築研究室 | 雑木林 | 【周辺環境】 | こんもり | 【膨張性(小)】 | 日ざしは完全に遮られる | 〈遮断〉 |
| 44 | 1961 | 1 | 94 | 中川邸 | 佐藤秀工務店 | 中央の広間 | 【室空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 豊かな | 〈豊穡〉 |
| 45 | 1961 | 6 | 68 | 紫カントリークラブ・ハウス | 都市建築研究所 吉川清作 窪田保彦 吉川晴夫 | 入口玄関からフロント、さらに階段、杜交室 | 【室空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 深い趣い | 〈安心感〉 |
| 46 | 1961 | 7 | 66 | デザイナーたちの週末住宅 | 高矢晋 | (書かれていない) | 【建築全体】 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | バタフライ | 〈開放性〉 |
| 47 | 1961 | 8 | 35 | 東京読売ゴルフ場クラブハウス | 大成建設 | 造形形態 | 【建築全体】 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 無理のない自然 | 〈単純性〉 |
| 48 | 1961 | 8 | 48 | 山荘-1 | 柳建築設計 | 敷地 | 【敷地】 | カラッ | 【量(少)】 | 吹き通る風 | 〈印象(快適)〉 |
| 49 | 1961 | 8 | 48 | 山荘-1 | 柳建築設計 | 敷地 | 【敷地】 | カラッ | 【量(少)】 | 気持ちがいよい | 〈印象(良)〉 |
| 50 | 1961 | 8 | 62 | 山荘-3 | 遠藤楽 | 玉石コンクリート | 【材料】 | ガッシリ | 【固定度(大)】 | 堅牢 | 〈強固〉 |
| 51 | 1961 | 8 | 62 | 山荘-3 | 遠藤楽 | 玉石コンクリート | 【材料】 | ガッシリ | 【固定度(大)】 | 安定 | 〈強固〉 |
| 52 | 1962 | 4 | 27 | 武蔵嵐山カントリークラブ | 天野太郎 | できあがり | 【建築全体】 | もっこり | 【膨張性(小)】 | ひとつの固まり | 〈一体〉 |
| 53 | 1962 | 7 | 132 | 東京天理教館 | 竹中工務店 | 壁面 | 【壁】 | シットリ | 【湿潤度(小)】 | 適度の豪華さ | 〈美しさ〉 |
| 54 | 1962 | 7 | 132 | 東京天理教館 | 竹中工務店 | 壁面 | 【壁】 | シットリ | 【湿潤度(小)】 | 堅実な | 〈整合〉 |
| 55 | 1962 | 7 | 132 | 東京天理教館 | 竹中工務店 | 壁面 | 【建築外観】 | シットリ | 【湿潤度(小)】 | 見ごたえがある | 〈重厚さ〉 |
| 56 | 1962 | 7 | 132 | 東京天理教館 | 竹中工務店 | 壁面 | 【壁】 | シットリ | 【湿潤度(小)】 | ケバケバしくない | 〈単純性〉 |
| 57 | 1962 | 8 | 139 | 九州管区警察学校 | 建設省九州建設局 | ガラスブロック | 【材料】 | キラキラ | 【明度(強力)】 | 偏光性のもの | 〈質感〉 |
| 58 | 1962 | 12 | 128 | 唐津市庁 | 岡田・的場設計 | ところ | 【内部空間】 | ノビノビ | 【弛緩性(小)】 | 喜んで受け入れられた | 〈印象(良)〉 |
| 59 | 1963 | 7 | 136 | 愛知産業貿易館 | 愛知県建築部営繕課 | 国際会議場 | 【室空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | フレキシビリティ | 〈柔軟性〉 |
| 60 | 1964 | 3 | 199 | 白レンガの家 | 橋本嘉夫設計 | レンガ | 【材料】 | デコデコ | 【凹凸(大)】 | 大勢に影響はない | 〈大雑把〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|---------------|-----------------------|---------|-----------|---------|-----------|----------------------|-----------|
| 61 | 1964 | 4 | 125 | 中隠さんの家 | 武藤研究室 | スペース | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | ひとつ | 〈一体〉 |
| 62 | 1964 | 9 | 86 | 裏磐梯国民休暇村宿舎 | 日建設計 | 岩盤 | 〔地形〕 | ごつごつ | 【硬度(大)】 | そのまま | 〈質感〉 |
| 63 | 1964 | 9 | 150 | 法政大学工科大学部校舎 | 法政大学工科大学部小金井校舎設計監理委員会 | 階段室 | 〔色彩〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 落ち着いた | 〈安心感〉 |
| 64 | 1964 | 9 | 150 | 法政大学工科大学部校舎 | 法政大学工科大学部小金井校舎設計監理委員会 | 教室 (空間) | 〔室空間〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 固い感じ 言い難い などで反転する | 〈柔和〉 |
| 65 | 1965 | 1 | 171 | S邸 | 清水一 | 生活 | 〔活動〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 伸びた部分 | 〈安心感〉 |
| 66 | 1965 | 6 | 188 | コープ・オリンピア | 清水建設 | (外面) | 〔建築外観〕 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | フェスティアー | 〈賑わい〉 |
| 67 | 1966 | 1 | 220 | N夫妻の家 | 建島喜門 | 居間 | 〔室空間〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 憩い | 〈安心感〉 |
| 68 | 1966 | 1 | 220 | N夫妻の家 | 建島喜門 | 居間 | 〔室空間〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 連続 | 〈親和性〉 |
| 69 | 1966 | 3 | 140 | 更埴市庁舎 | U研究室滝沢事務所 | 建物・もの | 〔建築全体〕 | どっしり | 【質量(重)】 | ひとつのブロック | 〈一体〉 |
| 70 | 1966 | 6 | 143 | 浪速芸術大学 | 第一工房 | マッス | 〔ヴォリュームム〕 | クッキリ | 【明瞭性(鋭)】 | 良い印象 | 〈印象(良)〉 |
| 71 | 1966 | 6 | 143 | 浪速芸術大学 | 第一工房 | マッス | 〔ヴォリュームム〕 | クッキリ | 【明瞭性(鋭)】 | 堂々とした | 〈重厚さ〉 |
| 72 | 1966 | 9 | 138 | 鎌倉近代美術館新館 | 坂倉準三 | 展示室 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 自由な展示の変化 | 〈柔軟性〉 |
| 73 | 1966 | 10 | 180 | Tさんの家 | 榛沢敏郎 | 家具 | 〔調度品〕 | がっちり | 【固定度(大)】 | 落ちついた | 〈安心感〉 |
| 74 | 1967 | 2 | 171 | 114ビル・百十四銀行本店 | 日建設計 | 壁 | 〔壁〕 | ずっしり | 【質量(重)】 | 金属壁 | 〈重厚さ〉 |
| 75 | 1968 | 7 | 190 | 小田邸 | 田中清 | 住まい | 〔特定建築〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 落ち着き | 〈安心感〉 |
| 76 | 1969 | 5 | 197 | N邸 | 池原義郎 | 人 | 〔人〕 | ほっ | 【不明瞭性(小)】 | 生活の | 〈生命感〉 |
| 77 | 1971 | 2 | 175 | 唐津市文化会館 | 山下寿郎 | 建物 | 〔建築全体〕 | どっしり | 【質量(重)】 | 単純な色彩と形態 | 〈単純性〉 |
| 78 | 1971 | 2 | 175 | 唐津市文化会館 | 山下寿郎 | 建物 | 〔建築全体〕 | どっしり | 【質量(重)】 | 天守閣 | 〈重厚さ〉 |
| 79 | 1971 | 2 | 175 | 唐津市文化会館 | 山下寿郎 | 建物 | 〔建築全体〕 | どっしり | 【質量(重)】 | 力強く | 〈重厚さ〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 〔基本義の分類〕 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-----------------------|-----------|--------------------|---------|---------|----------|--------------------|-----------|
| 80 | 1972 | 2 | 177 | M邸 | 吉田五十八 | 家 | 〔特定建築〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 好ましい | 〈印象(良)〉 |
| 81 | 1972 | 2 | 177 | M邸 | 吉田五十八 | 家 | 〔建築全体〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 高く感じさせないような 姿勢 | 〈控目〉 |
| 82 | 1972 | 2 | 177 | M邸 | 吉田五十八 | 家 | 〔特定建築〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 落ち着いた | 〈安心感〉 |
| 83 | 1972 | 3 | 169 | 有本 | 山本・西原建築設計 | 歩いてくる人びと | 〔人〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 奥行き | 〈開放性〉 |
| 84 | 1972 | 3 | 169 | 有本 | 山本・西原建築設計 | 歩いてくる人びと | 〔人〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 開放的 | 〈開放性〉 |
| 85 | 1972 | 3 | 169 | 有本 | 山本・西原建築設計 | 歩いてくる人びと | 〔人〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 見透しをよく | 〈開放性〉 |
| 86 | 1972 | 8 | 252 | 白い中庭の家 | 渡辺武信 | 表情 | 〔建築外観〕 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 閉鎖的 | 〈疎外〉 |
| 87 | 1973 | 9 | 299 | S26-13 | 木村誠之助 | 感じ | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 生活の中心 | 〈親和性〉 |
| 88 | 1973 | 9 | 299 | S26-14 | 木村誠之助 | 感じ | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 光 | 〈包容〉 |
| 89 | 1974 | 2 | 236 | K邸 | 川崎清 | 家 | 〔建築全体〕 | こぢんまり | 【量(少)】 | ワンルームシステム | 〈単純性〉 |
| 90 | 1974 | 5 | 223 | 阪急梅田ターミナル計画 | 竹中工務店 | 通路 | 〔動線空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 明快さ | 〈明快〉 |
| 91 | 1974 | 8 | 216 | 山道山荘 | 東孝光 | 壁 | 〔壁〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | コンクリートにし | 〈強固〉 |
| 92 | 1974 | 10 | 258 | ホテルニューオータニタワー (新館) | 大成建設 | ガーデンラウンジの/ス ペース | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | くつろぎ | 〈安心感〉 |
| 93 | 1974 | 10 | 258 | ホテルニューオータニタワー (新館) | 大成建設 | ガーデンラウンジの/ス ペース | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | オープンな空間 | 〈開放性〉 |
| 94 | 1974 | 10 | 258 | ホテルニューオータニタワー (新館) | 大成建設 | ガーデンラウンジの/ス ペース | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | コミュニケーションの場 | 〈賑わい〉 |
| 95 | 1975 | 2 | 256 | 王子硯堂 | 須賀徳光 | 直線 | 〔建築外観〕 | すっきり | 【整然性(小)】 | 抽象 | 〈曖昧〉 |
| 96 | 1975 | 3 | 253 | 新宿三井ビルディング | 日本設計 | 拓器質焼物 | 〔材料〕 | しっとり | 【湿潤度(小)】 | 香りを漂わせるような | 〈刺激〉 |
| 97 | 1975 | 5 | 210 | 資生堂ザ・ギンザ | 芦原義信 | 外壁 | 〔壁〕 | ざっくり | 【粗さ(粗)】 | 現場打ち | 〈大雑把〉 |
| 98 | 1975 | 10 | 209 | 萩市庁舎 | 菊竹清訓 | 市民ホール | 〔特定建築〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 多種多様な利用が、十分 できる | 〈柔軟性〉 |
| 99 | 1975 | 10 | 225 | 秋田県立博物館 | 安井建築設計 | 展示ホール | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 種々の用途に対応できる | 〈柔軟性〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 〔基本義の分類〕 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------------|-----------|-----------|---------|---------|----------|---------------------------------|-----------|
| 100 | 1976 | 4 | 234 | 泉ヶ丘カントリークラブ クラブハウス | 川崎清 | タイル | 〔材料〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | 安定感 | 〈落着〉 |
| 101 | 1976 | 10 | 238 | 今日庵東京道場 | 仙アートスタジオ | 木造 | 〔材料〕 | どっしり | 【質量(重)】 | 落ち着いた | 〈落着〉 |
| 102 | 1978 | 2 | 223 | 田園調布の家 | 吉村順三 | 壁構造 | 〔構造〕 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | コンパクト | 〈小ささ〉 |
| 103 | 1978 | 8 | 209 | 黒沢邸 | 大熊喜英 | 白漆喰の壁 | 〔材料〕 | しつとり | 【湿潤度(小)】 | 落ち着いたもの | 〈安心感〉 |
| 104 | 1978 | 8 | 209 | 黒沢邸 | 大熊喜英 | 白漆喰の壁 | 〔材料〕 | しつとり | 【湿潤度(小)】 | 伝統 | 〈伝統性〉 |
| 105 | 1978 | 8 | 209 | 黒沢邸 | 大熊喜英 | 切妻の鈍色の瓦屋根 | 〔材料〕 | しつとり | 【湿潤度(小)】 | 落ち着いたもの | 〈安心感〉 |
| 106 | 1978 | 8 | 209 | 黒沢邸 | 大熊喜英 | 切妻の鈍色の瓦屋根 | 〔材料〕 | しつとり | 【湿潤度(小)】 | 伝統 | 〈伝統性〉 |
| 107 | 1979 | 2 | 282 | 松田邸 | TRIAD建築設計 | 風土 | 〔地域〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 恵まれた | 〈豊穡〉 |
| 108 | 1979 | 2 | 282 | 松田邸 | TRIAD建築設計 | 風土 | 〔地域〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 大きく開け | 〈開放性〉 |
| 109 | 1979 | 6 | 184 | ペガサスビル | 山下和正 | モチーフ | 〔調度品〕 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 刺激を与えている | 〈刺激〉 |
| 110 | 1979 | 6 | 240 | ドムス淀川 | 美建・設計 | 住空間 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 自由度 | 〈柔軟性〉 |
| 111 | 1979 | 9 | 186 | 三重厚生年金休暇センター | 岡設計 | 壁 | 〔壁〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | 享受しつつ | 〈強固〉 |
| 112 | 1979 | 9 | 186 | 三重厚生年金休暇センター | 岡設計 | 壁 | 〔壁〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | 重厚 | 〈強固〉 |
| 113 | 1979 | 9 | 203 | セコムSDセンター | 松田平田坂本設計 | 外観 | 〔建築外観〕 | キツチリ | 【整然性(小)】 | 建物全体を純白にする | 〈整合〉 |
| 114 | 1979 | 9 | 203 | セコムSDセンター | 松田平田坂本設計 | グラフィックサイン | 〔調度品〕 | キツチリ | 【整然性(小)】 | 極く単純なカラースキーム | 〈単純性〉 |
| 115 | 1979 | 10 | 182 | 54の屋根(建部保育園) | 石井和敏 | 屋根 | 〔屋根〕 | チマチマ | 【量(少)】 | 可愛らしい | 〈印象(良)〉 |
| 116 | 1979 | 10 | 182 | 54の屋根(建部保育園) | 石井和敏 | 屋根 | 〔屋根〕 | チマチマ | 【量(少)】 | 街 | 〈複雑〉 |
| 117 | 1980 | 7 | 181 | 田部美術館 | 菊竹清訓 | 展示空間 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 茶道具の展示 | 〈伝統性〉 |
| 118 | 1980 | 7 | 181 | 田部美術館 | 菊竹清訓 | 展示空間 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 奥に路地庭を配したり、庭を見せたり、ホールを見下ろしたりできる | 〈一体〉 |
| 119 | 1980 | 7 | 259 | 武蔵野相愛幼稚園 | 吉岡設計 | 空間 | 〔内部空間〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 抵抗感のない | 〈親近感〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------|-----------------------|-------------|---------|---------|----------|------------------|-----------|
| 120 | 1980 | 7 | 259 | 武蔵野相愛幼稚園 | 吉岡設計 | 空間 | 〔内部空間〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 連続的 | 〈親和性〉 |
| 121 | 1980 | 7 | 259 | 武蔵野相愛幼稚園 | 吉岡設計 | 空間 | 〔内部空間〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 調和 | 〈親和性〉 |
| 122 | 1980 | 8 | 265 | 児玉邸 | 石井和敏 | 材料 | 〔材料〕 | ほのぼの | 【温かさ(小)】 | 自然 | 〈生命感〉 |
| 123 | 1980 | 8 | 265 | 児玉邸 | 石井和敏 | 雁行平面 | 〔平面〕 | ほのぼの | 【温かさ(小)】 | 昔なつかし | 〈奥ゆかしさ〉 |
| 124 | 1980 | 8 | 265 | 児玉邸 | 石井和敏 | (空間) | 〔内部空間〕 | ほのぼの | 【温かさ(小)】 | 余裕 | 〈安心感〉 |
| 125 | 1980 | 8 | 265 | 児玉邸 | 石井和敏 | 窓辺 | 〔内部空間〕 | ほのぼの | 【温かさ(小)】 | 田がやわらかくさして いる | 〈包容〉 |
| 126 | 1981 | 1 | 253 | 佐賀県立九州陶磁文化館 | 内田祥哉 | 素材 | 〔材料〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | 質感のある | 〈質感〉 |
| 127 | 1981 | 1 | 253 | 佐賀県立九州陶磁文化館 | 内田祥哉 | 素材 | 〔材料〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | 風土との一体性 | 〈伝統性〉 |
| 128 | 1981 | 1 | 253 | 佐賀県立九州陶磁文化館 | 内田祥哉 | 素材 | 〔材料〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | 温味のある | 〈生命感〉 |
| 129 | 1981 | 7 | 242 | 旅館 蓬葉 | 志水正弘・林公子(名城大学) | 真壁大壁 | 〔壁〕 | スツキリ | 【整然性(小)】 | 最小限にした | 〈充足〉 |
| 130 | 1982 | 3 | 206 | やむちんの里 | 匠設計 | (赤瓦の稜線) | 〔屋根〕 | くつきり | 【明瞭性(鋭)】 | 美しさ | 〈美しさ〉 |
| 131 | 1982 | 3 | 206 | やむちんの里 | 匠設計 | (赤瓦の稜線) | 〔屋根〕 | くつきり | 【明瞭性(鋭)】 | 映える | 〈重厚さ〉 |
| 132 | 1982 | 3 | 236 | 神宮前太田ビル | 竹内武弘 | 石垣 | 〔塙〕 | ドッシリ | 【質量(重)】 | 表情豊か | 〈豊穡〉 |
| 133 | 1982 | 3 | 236 | 神宮前太田ビル | 竹内武弘 | 石垣 | 〔塙〕 | ドッシリ | 【質量(重)】 | 自己を主張 | 〈刺激〉 |
| 134 | 1982 | 5 | 183 | 和風タウンハウス | 神戸市住宅供給公社+坂倉 建築研究所 | スペース (玄関回り) | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 奥ゆかしさ | 〈奥ゆかしさ〉 |
| 135 | 1982 | 5 | 208 | 衾の集合住宅 | 渡辺明設計 | 壁 | 〔壁〕 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 動き | 〈刺激〉 |
| 136 | 1982 | 5 | 233 | 新宮の外科医院 | 設計組織アモルフ | 枠組 | 〔構造〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | 明快さ | 〈明快〉 |
| 137 | 1982 | 7 | 213 | 第一生命千里教育センター | 松田平田坂本設計 | 収納や化粧コーナー | 〔領域〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 憩 | 〈安心感〉 |
| 138 | 1982 | 8 | 243 | 吉屋邸 | 板垣元彬 | 仕舞 | 〔ディテール〕 | きちっ | 【整然性(小)】 | 見せない | 〈単純性〉 |
| 139 | 1982 | 8 | 243 | 吉屋邸 | 板垣元彬 | 仕舞 | 〔ディテール〕 | きちっ | 【整然性(小)】 | すっきり | 〈印象(良)〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------|-------------|--------|---------|---------|----------|------------------------|-----------|
| 140 | 1982 | 8 | 243 | 吉屋邸 | 板垣元彬 | 枠回り | 【ディテール】 | すっきり | 【整然性(小)】 | 見せないように | 〈単純性〉 |
| 141 | 1982 | 8 | 243 | 吉屋邸 | 板垣元彬 | 枠回り | 【ディテール】 | すっきり | 【整然性(小)】 | きちっとします | 〈整合〉 |
| 142 | 1982 | 8 | 297 | 高橋邸 | 元倉真琴 飯田善彦 | 壁 | 【壁】 | すっきり | 【整然性(小)】 | ボジティブなものに感じられる | 〈印象(良)〉 |
| 143 | 1982 | 8 | 297 | 高橋邸 | 元倉真琴 飯田善彦 | 壁 | 【壁】 | すっきり | 【整然性(小)】 | 白っぽい | 〈清潔さ〉 |
| 144 | 1982 | 8 | 306 | 北川さんの家 | 早川建築設計 | 空間 | 【内部空間】 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 落ち着いた | 〈安心感〉 |
| 145 | 1982 | 8 | 306 | 北川さんの家 | 早川建築設計 | 空間 | 【内部空間】 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 奥行き | 〈スケール感〉 |
| 146 | 1982 | 10 | 204 | 金沢工業大学ライブラリーセンター | 大谷幸夫・大谷幸夫 | 空間 | 【内部空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 連続する | 〈親和性〉 |
| 147 | 1982 | 11 | 178 | 杉並区立中央図書館 | 黒川紀章 | 書架間隔 | 【領域】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 安心 | 〈安心感〉 |
| 148 | 1982 | 11 | 178 | 杉並区立中央図書館 | 黒川紀章 | 書架間隔 | 【領域】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 支障のない | 〈充足〉 |
| 149 | 1983 | 2 | 158 | 白影 | 近藤春司・mu造家工房 | 和室 | 【室空間】 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 暗く | 〈疎外〉 |
| 150 | 1983 | 2 | 158 | 白影 | 近藤春司・mu造家工房 | 和室 | 【室空間】 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 閉ざされた | 〈疎外〉 |
| 151 | 1983 | 2 | 158 | 白影 | 近藤春司・mu造家工房 | 和室 | 【室空間】 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | ここに逃げ込み待っている、そんなイメージの室 | 〈控目〉 |
| 152 | 1983 | 2 | 228 | 山下邸 民家型工法住宅 | 現代計画研究所 | 窓 | 【開口部】 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 引き込む | 〈単純性〉 |
| 153 | 1983 | 2 | 228 | 山下邸 民家型工法住宅 | 現代計画研究所 | 窓 | 【開口部】 | スッキリ | 【整然性(小)】 | 造作材の石数を減らすこと | 〈単純性〉 |
| 154 | 1983 | 2 | 253 | 山内邸 | 椎名英三 | 壁 | 【壁】 | ガラガラ | 【粗さ(粗)】 | 力強く確実な存在感のある | 〈重厚さ〉 |
| 155 | 1983 | 2 | 253 | 山内邸 | 椎名英三 | 壁 | 【壁】 | ガラガラ | 【粗さ(粗)】 | 力強く確実な存在感のある | 〈重厚さ〉 |
| 156 | 1983 | 2 | 253 | 山内邸 | 椎名英三 | 天井 | 【天井】 | ガラガラ | 【粗さ(粗)】 | 力強く確実な存在感のある | 〈重厚さ〉 |
| 157 | 1983 | 2 | 253 | 山内邸 | 椎名英三 | 天井 | 【天井】 | ガラガラ | 【粗さ(粗)】 | 力強く確実な存在感のある | 〈重厚さ〉 |
| 158 | 1983 | 3 | 243 | 如水会館 | 三菱地所 日本設計 | 色 | 【色彩】 | はんなり | 【明度(鮮)】 | 匂いたつ | 〈刺激〉 |
| 159 | 1983 | 3 | 243 | 如水会館 | 三菱地所 日本設計 | 色 | 【色彩】 | はんなり | 【明度(鮮)】 | 柔らか | 〈柔和〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------------|--------------------------|------------|---------|---------|-----------|---|-----------|
| 160 | 1983 | 3 | 246 | 大龍堂書店 | 吉村篤一 | 内部 | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 新しいサロン | 〈落着〉 |
| 161 | 1983 | 3 | 246 | 大龍堂書店 | 吉村篤一 | おもて | 〔建築外観〕 | しっとり | 【潤潤度(小)】 | 落ち着きのある | 〈安心感〉 |
| 162 | 1983 | 3 | 246 | 大龍堂書店 | 吉村篤一 | おもて | 〔建築外観〕 | しっとり | 【潤潤度(小)】 | 静かな | 〈控目〉 |
| 163 | 1983 | 5 | 256 | 板橋区立少年自然の家 八ヶ岳荘 | 村田政真建築設計 | たたずまい | 〔建築全体〕 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 溶けこむ | 〈親和性〉 |
| 164 | 1983 | 5 | 256 | 板橋区立少年自然の家 八ヶ岳荘 | 村田政真建築設計 | たたずまい | 〔建築全体〕 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 目立たせず | 〈控目〉 |
| 165 | 1983 | 8 | 168 | 梅宮邸 | 安藤忠雄 | コンクリートブロック | 〔材料〕 | ざらざら | 【粗さ(粗)】 | 時間の重みを確実に受けとめてゆく | 〈伝統性〉 |
| 166 | 1983 | 8 | 183 | 光香 | 近藤春司・mu造家工房 | 屋根 | 〔屋根〕 | ピク | 【衝撃(大)】 | 長さ1 m弱の石材をモルタルでつなぎ、その上に厚さ6 c mほどの単板が並べてある | 〈強固〉 |
| 167 | 1983 | 8 | 293 | 敷石屋根の家 | 高原生樹建築設計 | 内部(空間) | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 外部との区別をできるだけなくす | 〈一体〉 |
| 168 | 1983 | 9 | 149 | 赤坂プリンスホテル新館 | 丹下健三 | 外観 | 〔建築外観〕 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 2方向の眺望が得られ | 〈複雑〉 |
| 169 | 1983 | 9 | 149 | 赤坂プリンスホテル新館 | 丹下健三 | 外壁・壁 | 〔壁〕 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 部屋のユニットのスケール感が出てきた | 〈スケール感〉 |
| 170 | 1983 | 10 | 251 | アルファコート伏見 | 建築企画設計社 PALイン ターナショナル | (利用者) | 〔人〕 | ほっ | 【不明瞭性(小)】 | 安堵 | 〈安心感〉 |
| 171 | 1983 | 12 | 193 | 旧たくんち | 倉本たつひこ | 外壁 | 〔壁〕 | ほのぼの | 【温かさ(小)】 | 焦がした | 〈生命感〉 |
| 172 | 1983 | 12 | 200 | 早稲田ゼミナール学生会館 1982 | 富永譲 | 壁は | 〔壁〕 | ツルツル | 【円滑性(軽)】 | 純白 | 〈清潔さ〉 |
| 173 | 1983 | 12 | 200 | 早稲田ゼミナール学生会館 1982 | 富永譲 | 壁は | 〔壁〕 | ツルツル | 【円滑性(軽)】 | すぐ拭きとれる | 〈清潔さ〉 |
| 174 | 1984 | 1 | 160 | 能楽堂 | 大江宏 | 空間 | 〔内部空間〕 | たっぷり | 【過剰性(小)】 | 十分 | 〈安心感〉 |
| 175 | 1984 | 2 | 169 | 中山邸 | 宮脇檀 | 環境 | 〔周辺環境〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | ふんだん | 〈豊穡〉 |
| 176 | 1984 | 7 | 238 | 福山曉の星女子中学・高等学校 校体育館 | 長島孝一 | 建物 | 〔建築全体〕 | どっしり | 【質量(重)】 | ランドマーク | 〈重厚さ〉 |
| 177 | 1984 | 8 | 211 | 松原の家 | 森島清太 | 架構体 | 〔構造〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | 合掌造りの民家 | 〈強固〉 |
| 178 | 1984 | 8 | 211 | 松原の家 | 森島清太 | 架構体 | 〔構造〕 | しっかり | 【固定度(小)】 | 街並みとの調和 | 〈親和性〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-----------------------------|-----------------------|------------------------|---------|---------|----------|--------------------|-----------|
| 179 | 1984 | 8 | 211 | 松原の家 | 森島清太 | 広間 | 〔室空間〕 | ガラン | 【空疎度(大)】 | 単純に | 〈単純性〉 |
| 180 | 1984 | 8 | 288 | ドーモ・コンクレーラ | Team Zoo | 居間と寢室・子供室 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | さまざま | 〈多様性〉 |
| 181 | 1984 | 8 | 288 | ドーモ・コンクレーラ | Team Zoo | 居間と寢室・子供室 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | あけっぴろげ | 〈開放性〉 |
| 182 | 1984 | 8 | 294 | 光壁の家 | 丹羽建築設計 | 台所 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 木 | 〈生命感〉 |
| 183 | 1984 | 10 | 216 | アルファリゾート占冠 | ホテルアルファ事業企画室 | 景色 | 〔風景〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 美しく | 〈美しさ〉 |
| 184 | 1984 | 10 | 216 | アルファリゾート占冠 | ホテルアルファ事業企画室 | リゾート | 〔特定建築〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 大地を包み込む | 〈包容〉 |
| 185 | 1984 | 10 | 217 | アルファリゾート占冠 | ホテルアルファ事業企画室 | 部屋 | 〔内部空間〕 | すっきり | 【整然性(小)】 | 梁型の出ない | 〈単純性〉 |
| 186 | 1984 | 10 | 274 | 作家と画家の家 | 大林組 | 玄関ホール、リビング ルーム回りの空間 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 落ち着いた感じ | 〈安心感〉 |
| 187 | 1984 | 11 | 205 | フェスティバル | 安藤忠雄 | コンクリートブロック | 〔材料〕 | ざらざら | 【粗さ(粗)】 | 皮膚感覚に訴えて | 〈刺激〉 |
| 188 | 1984 | 11 | 215 | 滋賀県立近代美術館 | 日建設計 | 天井 | 〔天井〕 | スツキリ | 【整然性(小)】 | 見えず | 〈単純性〉 |
| 189 | 1985 | 1 | 154 | 大正海上本社ビル | 日建設計 | 展望 | 〔風景〕 | くつきり | 【明瞭性(鋭)】 | わずらわされることなく | 〈単純性〉 |
| 190 | 1985 | 4 | 260 | タグポート・ビルディング 東 京ガス江戸川営業所 | 鹿島建設 | 建築の外壁 | 〔壁〕 | ツルン | 【円滑性(軽)】 | 目地のない | 〈一体〉 |
| 191 | 1985 | 4 | 260 | タグポート・ビルディング 東 京ガス江戸川営業所 | 鹿島建設 | 建築の外壁 | 〔壁〕 | ツルン | 【円滑性(軽)】 | 素晴らしい精度 | 〈精巧〉 |
| 192 | 1985 | 4 | 260 | タグポート・ビルディング 東 京ガス江戸川営業所 | 鹿島建設 | 建築の外壁 | 〔壁〕 | ツルン | 【円滑性(軽)】 | 平滑 | 〈平坦〉 |
| 193 | 1985 | 7 | 176 | 有田 其泉工房 | アルセッド建築研究所 | 居間 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 開放的 | 〈開放性〉 |
| 194 | 1985 | 7 | 176 | 有田 其泉工房 | アルセッド建築研究所 | 居間 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 柔軟に対応 | 〈柔軟性〉 |
| 195 | 1985 | 7 | 176 | 有田 其泉工房 | アルセッド建築研究所 | 居間 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 連続 | 〈親和性〉 |
| 196 | 1985 | 7 | 176 | 有田 其泉工房 | アルセッド建築研究所 | 外観 | 〔建築外観〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 家庭的 | 〈生命感〉 |
| 197 | 1985 | 9 | 219 | 浦添市立図書館 | 内井昭蔵・東設計工房設計 共同企業体 | スペース（一般開架室） | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | あらゆる場所で本が閲覧 できる | 〈柔軟性〉 |
| 198 | 1985 | 10 | 150 | ザ・パラディアム | 磯崎新 | 内装 | 〔部材〕 | きちん | 【整然性(小)】 | ボロボロ（していない） | 〈整合〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|---------------------------|--------------|---------|---------|---------|----------|------------------|-----------|
| 199 | 1986 | 2 | 200 | オフィスマシ | 界工作舎 | ヴォールト天井 | 【天井】 | ざりざり | 【臨界性(大)】 | 薄型 | 〈小ささ〉 |
| 200 | 1986 | 2 | 224 | 上野学園――短期大学人文学科棟／研修棟 | 日本総合建築事務所 | 紙楽室 | 【室空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | いやす | 〈安心感〉 |
| 201 | 1986 | 3 | 164 | 笠間東洋ゴルフ倶楽部 | 村野・森建築事務所 | 景観 | 【風景】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | コンドルが翼を休めてい る | 〈生命感〉 |
| 202 | 1986 | 3 | 164 | 笠間東洋ゴルフ倶楽部 | 村野・森建築事務所 | 景観 | 【風景】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | アンデュレーション | 〈湾曲〉 |
| 203 | 1986 | 10 | 219 | 小瀬スポーツ公園中央広場 モニュメントプラザ | 曾田雄亮研究所＋SINF | 構造 | 【構造】 | ギリギリ | 【臨界性(大)】 | 凝縮した結晶体 | 〈充足〉 |
| 204 | 1986 | 11 | 229 | ホテルニューオータニ大阪 | 日建設計 | 屋上 | 【外部空間】 | そっくり | 【明瞭性(鋭)】 | 巨大なもの | 〈包容〉 |
| 205 | 1986 | 12 | 233 | 弘前市社会福祉センター | 菊竹清訓 | 構造 | 【構造】 | しつかり | 【固定度(小)】 | 支えて安定を保っている | 〈強固〉 |
| 206 | 1987 | 6 | 173 | 銀座テアトルビル | 菊竹清訓 | 楽屋 | 【室空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 気分よく | 〈印象(快適)〉 |
| 207 | 1987 | 11 | 209 | ホテル日航サンフランシスコ | 竹中工務店 | ホテル | 【建築全体】 | はんなり | 【明度(鮮)】 | 日本人の感性 | 〈伝統性〉 |
| 208 | 1987 | 11 | 209 | ホテル日航サンフランシスコ | 竹中工務店 | ホテル | 【特定建築】 | はんなり | 【明度(鮮)】 | ゆとり | 〈安心感〉 |
| 209 | 1987 | 11 | 209 | ホテル日航サンフランシスコ | 竹中工務店 | ホテル | 【特定建築】 | はんなり | 【明度(鮮)】 | 落ち着き | 〈安心感〉 |
| 210 | 1987 | 11 | 209 | ホテル日航サンフランシスコ | 竹中工務店 | ホテル | 【建築全体】 | はんなり | 【明度(鮮)】 | 匂いたつ | 〈美しさ〉 |
| 211 | 1987 | 11 | 253 | 武蔵野芝センター | RE設計 | コンクリート | 【材料】 | しつかり | 【固定度(小)】 | きめの細かい | 〈精巧〉 |
| 212 | 1987 | 11 | 253 | 武蔵野芝センター | RE設計 | コンクリート | 【材料】 | しつかり | 【固定度(小)】 | 気品のある空間 | 〈美しさ〉 |
| 213 | 1987 | 12 | 192 | 札幌豊平教会 | 北海道建築工房 | 窓 | 【開口部】 | がしり | 【固定度(大)】 | 豊か | 〈豊穡〉 |
| 214 | 1987 | 12 | 192 | 札幌豊平教会 | 北海道建築工房 | 窓 | 【開口部】 | がしり | 【固定度(大)】 | 歴史を刻み込んだ姿 | 〈伝統性〉 |
| 215 | 1988 | 3 | 202 | 精神薄弱者更生施設みだい 寮 | 湯澤正信 | スペース | 【内部空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | ひとつの身体化 | 〈包容〉 |
| 216 | 1988 | 8 | 242 | 那須友愛の森 | 長島孝一 | 空間 | 【内部空間】 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 開けて | 〈開放性〉 |
| 217 | 1988 | 8 | 242 | 那須友愛の森 | 長島孝一 | 空間 | 【内部空間】 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 人間的スケール | 〈スケール感〉 |
| 218 | 1989 | 2 | 302 | 住友不動産軽井沢山荘 | 日建設計 | 浴室 | 【室空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | のびやかで自然な | 〈生命感〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------------|--------------|---------------|----------|---------|-----------|---------------|-----------|
| 219 | 1989 | 3 | 267 | ベアシティ・サクラピア成城 | 竹中工務店 | 住戸 | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 快適 | 〈印象(快適)〉 |
| 220 | 1990 | 3 | 314 | 海の中道青少年海の家 | 匠建築研究所 | クロマツ林 | 〔(風景)〕 | ごつごつ | 【硬度(大)】 | 荒々しく | 〈質感〉 |
| 221 | 1990 | 5 | 310 | SYNTAX | 高松伸 | 建築 | 【建築全体】 | みっちり | 【密集度(小)】 | 喧しい | 〈賑わい〉 |
| 222 | 1990 | 7 | 233 | 水戸芸術館 | 磯崎新、三上建築事務所 | 聴衆 | 〔人〕 | こちんまり | 【量(少)】 | 分節している | 〈遮断〉 |
| 223 | 1990 | 7 | 233 | 水戸芸術館 | 磯崎新、三上建築事務所 | 聴衆 | 〔人〕 | こちんまり | 【量(少)】 | 居心地のよい | 〈印象(快適)〉 |
| 224 | 1990 | 7 | 277 | 海の博物館・文化財収蔵庫 | 内藤廣 | 物たち | 〔調度品〕 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 弾き出された | 〈疎外〉 |
| 225 | 1990 | 7 | 277 | 海の博物館・文化財収蔵庫 | 内藤廣 | 物たち | 〔調度品〕 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 断片 | 〈断片〉 |
| 226 | 1990 | 10 | 218 | 建部町国際交流館 | 石山修武 | 素材 | 〔材料〕 | バラバラ | 【散在性(大)】 | あるがままの姿 | 〈単純性〉 |
| 227 | 1990 | 10 | 218 | 建部町国際交流館 | 石山修武 | 素材 | 〔材料〕 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 自由な/勝手気ままな形 | 〈自由〉 |
| 228 | 1990 | 10 | 218 | 建部町国際交流館 | 石山修武 | 素材 | 〔材料〕 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 長さもそろえることをしない | 〈複雑〉 |
| 229 | 1991 | 4 | 308 | ニコニコのり九州工場 | 工藤国雄+L-HOUSE | 人びと | 〔人〕 | ほっ | 【不明瞭性(小)】 | 木製、木のプレーム、花形 | 〈生命感〉 |
| 230 | 1991 | 7 | 278 | ベイサイドブレイス博多埠頭 | 北山孝二郎+K計画事務所 | コリドー/半戸外のスペース | 〔外部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 開放感 | 〈開放性〉 |
| 231 | 1991 | 7 | 278 | ベイサイドブレイス博多埠頭 | 北山孝二郎+K計画事務所 | コリドー/半戸外のスペース | 〔外部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | つなげる | 〈親和性〉 |
| 232 | 1991 | 10 | 269 | 神慈秀明会黄島道場 | 栗生総合計画事務所 | 緑の島 | 〔地形〕 | こんもり | 【膨張性(小)】 | なだらかな2段の曲面をもつ | 〈湾曲〉 |
| 233 | 1991 | 10 | 315 | フィリピン共和国国土環境開発センター | 久米建築事務所 | シェルター | 【建築全体】 | どっしり | 【質量(重)】 | 量塊 | 〈一体〉 |
| 234 | 1991 | 10 | 315 | フィリピン共和国国土環境開発センター | 久米建築事務所 | シェルター | 【特定建築】 | どっしり | 【質量(重)】 | 安堵 | 〈安心感〉 |
| 235 | 1991 | 10 | 315 | フィリピン共和国国土環境開発センター | 久米建築事務所 | シェルター | 【特定建築】 | どっしり | 【質量(重)】 | 重量感 | 〈重厚さ〉 |
| 236 | 1991 | 10 | 346 | デイスター・ゴルフクラブ | 大林組+アトリエ'88 | 空 (天井) | 〔天井〕 | ぼやっ | 【不明瞭性(大)】 | 干渉 | 〈刺激〉 |
| 237 | 1991 | 12 | 333 | 風の卵 大川端リバーシティ21タウンゲートB | 伊東豊雄建築設計 | 立体 | 〔ヴォリューム〕 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 輪郭を失い | 〈複雑〉 |
| 238 | 1992 | 2 | 318 | 龍ヶ崎カントリー倶楽部クラブハウス | MHS松田平田 | エントランスロビー | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | つながっていく | 〈親和性〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------------------|---|--------|---------|---------|----------|--------------|-----------|
| 239 | 1993 | 1 | 287 | サンバーク明野レイクウッドゴルフクラブ | 山梨県明野村 計 武者英二 研究室 | 空間 | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | くつろげる | 〈安心感〉 |
| 240 | 1993 | 9 | 224 | 式年遷宮記念神宮美術館 | 大江宏 | 建築 | 〔建築全体〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 調和する | 〈親和性〉 |
| 241 | 1993 | 9 | 224 | 式年遷宮記念神宮美術館 | 大江宏 | 建築 | 〔建築全体〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 和 | 〈伝統性〉 |
| 242 | 1993 | 9 | 264 | グローバルドーム | 藤木材工業+KAJIMA DESIGN | 骨組み | 〔構造〕 | すっきり | 【整然性(小)】 | シンプル | 〈単純性〉 |
| 243 | 1993 | 10 | 243 | 龍の医院(安藤医院) | 多田善昭建築設計 | 建物 | 〔建築全体〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | やさしい | 〈生命感〉 |
| 244 | 1993 | 10 | 243 | 龍の医院(安藤医院) | 多田善昭建築設計 | 建物 | 〔建築全体〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | やわらかな | 〈柔和〉 |
| 245 | 1993 | 11 | 204 | 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館・管制塔(改修) | 芦原建築設計研究所 | 外部空間 | 〔外部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 過密都市では考えられない | 〈空虚感〉 |
| 246 | 1994 | 2 | 228 | きつかわホテルフレック | 宮崎浩ノプランツアソシエイツ | 生活 | 〔活動〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 非日常 | 〈自由〉 |
| 247 | 1994 | 6 | 274 | 国立横浜国際会議場 | 設 建設省 国立横浜国際会議場設計共同企業体(日建設計 マンシーニ・ダッファイ・アソシエーツ) | 空間で | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 十分に | 〈安心感〉 |
| 248 | 1994 | 6 | 274 | 国立横浜国際会議場 | 設 建設省 国立横浜国際会議場設計共同企業体(日建設計 マンシーニ・ダッファイ・アソシエーツ) | 空間で | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 温かく | 〈生命感〉 |
| 249 | 1994 | 6 | 274 | 国立横浜国際会議場 | 設 建設省 国立横浜国際会議場設計共同企業体(日建設計 マンシーニ・ダッファイ・アソシエーツ) | 空間で | 〔内部空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 柔らかな | 〈柔和〉 |
| 250 | 1994 | 7 | 225 | ユニ東武ゴルフクラブ | 黒川雅之建築設計 | 建物 | 〔建築全体〕 | ぼそつ | 【乾燥度(大)】 | 土 | 〈質感〉 |
| 251 | 1994 | 7 | 225 | ユニ東武ゴルフクラブ | 黒川雅之建築設計 | 建物 | 〔建築全体〕 | ぼそつ | 【乾燥度(大)】 | 小山 | 〈小ささ〉 |
| 252 | 1994 | 9 | 254 | 本牧の複合集合住宅 | 湯澤建築設計研究所 | ホール | 〔室空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | ヒューマンな | 〈生命感〉 |
| 253 | 1994 | 10 | 222 | 小国中学校屋内運動場 | 木島安史ノ計画・環境建築 | 立体トラス | 〔構造〕 | すっきり | 【整然性(小)】 | フィレンデール | 〈空虚感〉 |
| 254 | 1995 | 1 | 222 | 富山県総合運動公園陸上競技場 | 曾根幸一・環境設計研究所 | 芝生面 | 〔地形〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 自然の「地」 | 〈重厚さ〉 |
| 255 | 1995 | 1 | 222 | 富山県総合運動公園陸上競技場 | 曾根幸一・環境設計研究所 | 芝生面 | 〔地形〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 平坦な | 〈平坦〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 〔基本義の分類〕 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-------------------------|-------------------|---------|---------|---------|----------|-----------------------|-----------|
| 256 | 1995 | 3 | 265 | 鶴岡八幡宮齋館 | 匠設計 | 反射光 | 〔環境要素〕 | まったり | 【弛緩性(小)】 | 伝統の深み | 〈伝統性〉 |
| 257 | 1995 | 5 | 170 | 加茂町文化ホール「ラメール」 | 渡辺豊和 | シルエット | 〔建築外観〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 安息 | 〈安心感〉 |
| 258 | 1995 | 6 | 180 | 日本電通建設本社ビル | 永田・北野建築研究所 | 建築の外壁 | 〔建築外観〕 | しっとり | 【湿润度(小)】 | 威圧感を与えない | 〈控目〉 |
| 259 | 1995 | 9 | 231 | 三良坂町立灰塚小学校 | 西宮善幸建築設計 | 全体が | 〔建築全体〕 | のびのび | 【弛緩性(小)】 | 一体の場 | 〈一体〉 |
| 260 | 1995 | 12 | 173 | 厚岸味覚ターミナル「コンギリ工」 | URB建築研究所 | 空間 | 〔内部空間〕 | ふっくら | 【軟度(小)】 | 優しい | 〈親近感〉 |
| 261 | 1995 | 12 | 173 | 厚岸味覚ターミナル「コンギリ工」 | URB建築研究所 | 空間 | 〔内部空間〕 | ふっくら | 【軟度(小)】 | 温かく | 〈生命感〉 |
| 262 | 1996 | 2 | 150 | こんにちわセンター | 北山孝二郎+K計画事務所 | 生活 | 〔活動〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 民家 | 〈伝統性〉 |
| 263 | 1996 | 3 | 146 | 日光霧降カントリークラブ | 吉村順三設計 | (利用者) | 〔人〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | くつろぎの場 | 〈安心感〉 |
| 264 | 1996 | 9 | 221 | 山口県民文化ホールいわくに・山口県岩国総合庁舎 | 大谷幸夫・大谷幸夫 | 単色 | 〔色彩〕 | さっぱり | 【量(少)】 | 興行のない | 〈曖昧〉 |
| 265 | 1997 | 3 | 191 | あかりの交番PART2 | 平倉直子建築設計 | 壁面 | 〔壁〕 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | 子供たちの想像や遊びを誘発 | 〈刺激〉 |
| 266 | 1997 | 3 | 191 | あかりの交番PART2 | 平倉直子建築設計 | 壁面 | 〔壁〕 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | スケールを分割 | 〈スケール感〉 |
| 267 | 1997 | 5 | 134 | 遊水館 | 青木淳 | 日 | 〔周辺環境〕 | どんより | 【質量(重)】 | 一年365日のうち200日ほど降水日がある | 〈豊穡〉 |
| 268 | 1997 | 5 | 156 | 金沢市民芸術村 | 水野一郎+金沢計画研究所 | 6棟 | 〔建築全体〕 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 3棟がレンガ積み、残り3棟がRCである | 〈複雑〉 |
| 269 | 1997 | 5 | 156 | 金沢市民芸術村 | 水野一郎+金沢計画研究所 | 倉庫 | 〔室空間〕 | ガラン | 【空隙度(大)】 | 単純箱型 | 〈単純性〉 |
| 270 | 1997 | 10 | 175 | 名古屋能楽堂 | 名古屋市建築局営繕部営繕課 大江宏 | 空間構成 | 〔建築全体〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 十分な | 〈安心感〉 |
| 271 | 1998 | 1 | 158 | 芦屋市民センター | 坂倉建築研究所 | ロビー | 〔室空間〕 | たっぷり | 【過剰性(小)】 | 十分に活用可能 | 〈印象(快適)〉 |
| 272 | 1998 | 3 | 186 | ゆう杉並 | 六角鬼丈計画工房 | 住風景 | 〔風景〕 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 小刻み | 〈断片〉 |
| 273 | 1998 | 6 | 95 | 天童市秋野不矩美術館 | 藤森照信+内田祥士(習作舎) | 展示室 | 〔室空間〕 | ガラン | 【空隙度(大)】 | 素気ない | 〈単純性〉 |
| 274 | 1998 | 10 | 113 | 瀬高町立図書館・瀬高町歴史資料館 | 香山壽夫+環境造形研究所 | 壁 | 〔壁〕 | ギザギザ | 【鋭度(強力)】 | さまざまな角度 | 〈多様性〉 |
| 275 | 1998 | 11 | 150 | 石川県ふれあい昆虫館 | 光夫 | ミュージアムで | 〔特定建築〕 | きちん | 【整然性(小)】 | 全体をひとつの「展示館」となる | 〈整合〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------------------|-------------------------------|-----------|---------|---------|-----------|-------------|-----------|
| 276 | 1999 | 2 | 166 | 専修寺納骨堂 | 前川建築設計 | ディテール | 【ディテール】 | すっきり | 【整然性(小)】 | 最小限 | 〈充足〉 |
| 277 | 1999 | 2 | 166 | 専修寺納骨堂 | 前川建築設計 | ディテール | 【ディテール】 | すっきり | 【整然性(小)】 | 秩序 | 〈整合〉 |
| 278 | 1999 | 3 | 174 | アミュゼ柏 | 日本設計 | 空間 | 【内部空間】 | すっきり | 【整然性(小)】 | 防火区画のない | 〈一体〉 |
| 279 | 1999 | 4 | 86 | 椿原町雲の上のプール | 細木建築研究所 | 空間/室内プール | 【室空間】 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 自然素材を生かした | 〈生命感〉 |
| 280 | 1999 | 4 | 86 | 椿原町雲の上のプール | 細木建築研究所 | 室内プール | 【室空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 豊かさ | 〈豊穡〉 |
| 281 | 1999 | 4 | 208 | 熊本市総合屋内プールアクア ドームくまもと | 山下設計 | 丘 | 【地形】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 大地 | 〈重厚さ〉 |
| 282 | 1999 | 4 | 208 | 熊本市総合屋内プールアクア ドームくまもと | 山下設計 | 丘 | 【地形】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 周辺の平地に呼応した | 〈親和性〉 |
| 283 | 1999 | 7 | 197 | 北会津村役場庁舎 | 古市徹雄・都市建築研究所 | 空 | 【周辺環境】 | どんより | 【質量(重)】 | 厚い雲に覆われた | 〈重厚さ〉 |
| 284 | 1999 | 7 | 204 | 吉備高原幼稚園 | 小泉雅生/〇+A(シーラカンズ アンドアソシエイツ) | 立体格子 | 【構造】 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 間仕切っている | 〈断片〉 |
| 285 | 1999 | 7 | 204 | 吉備高原幼稚園 | 小泉雅生/〇+A(シーラカンズ アンドアソシエイツ) | 立体格子 | 【構造】 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 間仕切り | 〈遮断〉 |
| 286 | 1999 | 7 | 204 | 吉備高原幼稚園 | 小泉雅生/〇+A(シーラカンズ アンドアソシエイツ) | 立体格子 | 【構造】 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 遊具 | 〈刺激〉 |
| 287 | 1999 | 7 | 204 | 吉備高原幼稚園 | 小泉雅生/〇+A(シーラカンズ アンドアソシエイツ) | 格子 | 【構造】 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 微妙なグラデーション | 〈抑揚〉 |
| 288 | 1999 | 9 | 221 | 韓国ディックビル | 竹中工務店 | 「家族」や来訪者は | 【人】 | ほっ | 【不明瞭性(小)】 | 安息 | 〈安心感〉 |
| 289 | 1999 | 10 | 131 | 小倉競馬場 | 日本競馬施設 東畑建築事務所 | 背面空間が | 【内部空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 休憩スペース | 〈落着〉 |
| 290 | 1999 | 10 | 131 | 小倉競馬場 | 日本競馬施設 東畑建築事務所 | 背面空間が | 【内部空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 曲線 | 〈湾曲〉 |
| 291 | 1999 | 12 | 97 | ピビア庵 | 出江寛/出江建築事務所 | 空間 | 【内部空間】 | ぬくぬく | 【温かさ(小)】 | 人間的な | 〈生命感〉 |
| 292 | 1999 | 12 | 97 | ピビア庵 | 出江寛/出江建築事務所 | 空間 | 【内部空間】 | ふかふか | 【軟度(小)】 | 人間的 | 〈生命感〉 |
| 293 | 2000 | 2 | 103 | あざば旅館 | 志水正弘・林公子 横川正広 建築設計 | 空間の | 【内部空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 奥行き | 〈スケール感〉 |
| 294 | 2000 | 5 | 197 | 世田谷自動車学校 | 宮崎浩ノプランツアソシエイ ツ | 空間 | 【内部空間】 | しっかり | 【固定度(小)】 | 透明感の強い堅快な構成 | 〈單純性〉 |
| 295 | 2000 | 8 | 156 | アースワークセンター | 吉松秀樹+アーキプロ | 表層 | 【建築外観】 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 手が届くようで届かない | 〈曖昧〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 〔基本義の分類〕 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------------|-------------------------------|-----------|---------|---------|----------|----------------------|-----------|
| 296 | 2000 | 10 | 83 | VILLA FUJII | 宇野求＋フエイズアソシエイツ | ウォークウェイ | 〔動線空間〕 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 内外を貫く | 〈開放性〉 |
| 297 | 2000 | 10 | 133 | 東京大学工学部2号館 | 東京大学施設部 東京大学工学部建築計画室 | 前庭 | 〔外部空間〕 | たっぷり | 【通剰性(小)】 | 全景を示すため | 〈包容〉 |
| 298 | 2000 | 11 | 111 | 朝日町エコミュージアムコア センター 創造館 | スタジオ建築計画 | 環境 | 〔建築全体〕 | ざらっ | 【粗さ(粗)】 | 繊細にならないように | 〈大雑把〉 |
| 299 | 2000 | 11 | 111 | 朝日町エコミュージアムコア センター 創造館 | スタジオ建築計画 | 環境 | 〔建築全体〕 | ざらっ | 【粗さ(粗)】 | 素直に示すこと | 〈単純性〉 |
| 300 | 2000 | 11 | 111 | 朝日町エコミュージアムコア センター 創造館 | スタジオ建築計画 | 環境 | 〔建築全体〕 | ざらっ | 【粗さ(粗)】 | きれいすぎないように | 〈単純性〉 |
| 301 | 2001 | 2 | 102 | ヒ | 宮元佳明／アトリエ第5建築界＋池田昌弘／池田昌弘建築研究所 | (草木) | 〔周辺環境〕 | ボウボウ | 【散在性(大)】 | 旺盛に繁った | 〈賑わい〉 |
| 302 | 2001 | 2 | 142 | フローニンゲンハウス | 伊東豊雄建築設計 | アルミ | 〔材料〕 | ペラリ | 【薄さ(薄)】 | 極薄 | 〈小さ〉 |
| 303 | 2001 | 2 | 142 | フローニンゲンハウス | 伊東豊雄建築設計 | アルミ | 〔材料〕 | ペラリ | 【薄さ(薄)】 | 怪妙なも | 〈控目〉 |
| 304 | 2001 | 2 | 205 | 東京宝塚ビル | 竹中工務店 | ペリメーターゾーン | 〔領域〕 | すっきり | 【整然性(小)】 | キャンディレバー | 〈単純性〉 |
| 305 | 2001 | 3 | 134 | ZIG HOUSE/ZAG HOUSE | 古谷誠章／STUDIO NASCA | 主構造 | 〔構造〕 | ジグザグ | 【折れ方(強)】 | 曖昧な | 〈曖昧〉 |
| 306 | 2001 | 3 | 153 | ハウス・アサマ ハウス・サイコ | アトリエ・ワン＋東京工業大学建築学科塚本研究室 | 納屋 | 〔特定建築〕 | ざっくり | 【粗さ(粗)】 | むき出し | 〈単純性〉 |
| 307 | 2001 | 3 | 153 | ハウス・アサマ ハウス・サイコ | アトリエ・ワン＋東京工業大学建築学科塚本研究室 | 納屋 | 〔建築全体〕 | ざっくり | 【粗さ(粗)】 | メリハリ | 〈抑揚〉 |
| 308 | 2001 | 5 | 199 | ポータブル・アーキテクチャー KH-2 | みかんぐみ | タイヤ | 〔部材〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | 内部に客を入れたり、どこへでも運べる | 〈強固〉 |
| 309 | 2001 | 8 | 146 | 牛久のギャラリー | 堀部安嗣 | 街並み | 〔風景〕 | のっぺり | 【薄さ(薄)】 | 無機質 | 〈単純性〉 |
| 310 | 2001 | 8 | 163 | 日蓮宗法華堂教会江東メモリアル | 宮崎浩／プランツアソシエイツ | コンクリート | 〔材料〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | 厳肅性 | 〈控目〉 |
| 311 | 2001 | 8 | 163 | 日蓮宗法華堂教会江東メモリアル | 宮崎浩／プランツアソシエイツ | コンクリート | 〔材料〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | わかりやすい | 〈明快〉 |
| 312 | 2001 | 8 | 163 | 日蓮宗法華堂教会江東メモリアル | 宮崎浩／プランツアソシエイツ | 素材 | 〔材料〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | 落ち着いた付まいをつくり出そうとしている | 〈安心感〉 |
| 313 | 2001 | 8 | 163 | 日蓮宗法華堂教会江東メモリアル | 宮崎浩／プランツアソシエイツ | 素材 | 〔材料〕 | しつかり | 【固定度(小)】 | 存在感 | 〈重厚さ〉 |
| 314 | 2001 | 10 | 159 | 片岡代台幼稚園の改装 | 乾久美子建築設計 | 空間 | 〔内部空間〕 | のっぺり | 【薄さ(薄)】 | 奥行感がなくなったりして | 〈曖昧〉 |
| 315 | 2001 | 10 | 159 | 片岡代台幼稚園の改装 | 乾久美子建築設計 | 空間 | 〔内部空間〕 | のっぺり | 【薄さ(薄)】 | 次元がずれて | 〈異質〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 〔基本義の分類〕 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|----------------------|---------------------------|---------|---------|---------|----------|----------------------|-----------|
| 316 | 2001 | 11 | 92 | SAK | 石田敏明＋石田敏明建築設計 | 空間 | 〔内部空間〕 | ガラソ | 〔空疎度(大)〕 | ガラソのような | 〈空疎感〉 |
| 317 | 2001 | 11 | 92 | SAK | 石田敏明＋石田敏明建築設計 | 空間 | 〔内部空間〕 | ガラソ | 〔空疎度(大)〕 | 開放性 | 〈開放性〉 |
| 318 | 2002 | 2 | 95 | 茨城県立図書館 | 茨城県土木部営繕課 日建設計 | 元議場 | 〔室空間〕 | ゆったり | 〔弛緩性(小)〕 | 読書にふさわしく | 〈安心感〉 |
| 319 | 2002 | 2 | 188 | 春風館 | 二井清治建築研究所 | 馴染 | 〔材料〕 | しっとり | 〔湿潤度(小)〕 | 柔らかい | 〈柔和〉 |
| 320 | 2002 | 4 | 135 | 宮崎県木材利用技術センター | アルセツド建築研究所 | 接合 | 〔ディテール〕 | スツキリ | 〔整然性(小)〕 | 精巧な仕事 | 〈精巧〉 |
| 321 | 2002 | 5 | 151 | 下馬の連続住居 | 北山恒＋architecture WORKSHOP | 空間 | 〔内部空間〕 | ガラソ | 〔空疎度(大)〕 | 倉庫のような | 〈空疎感〉 |
| 322 | 2002 | 6 | 181 | 延岡ホテル増築 | 小澤丈夫＋小澤エリ子/TEO architects | 内部空間 | 〔内部空間〕 | ゆったり | 〔弛緩性(小)〕 | 静かに休む | 〈安心感〉 |
| 323 | 2002 | 7 | 111 | PLASTIC・HOUSE | 隈研吾 | 素材 | 〔材料〕 | ヌメヌメ | 〔粘性(小)〕 | 生き物のような物質性が立ち現れる | 〈生命感〉 |
| 324 | 2002 | 10 | 191 | 静岡エコバースタジアム・アリーナ | 佐藤総合計画・青藤公男設計共同企業体 | ロビー | 〔室空間〕 | ゆったり | 〔弛緩性(小)〕 | 憩 | 〈安心感〉 |
| 325 | 2002 | 10 | 191 | 静岡エコバースタジアム・アリーナ | 佐藤総合計画・青藤公男設計共同企業体 | ロビー | 〔室空間〕 | ゆったり | 〔弛緩性(小)〕 | 一体感 | 〈親和性〉 |
| 326 | 2003 | 1 | 144 | ADK松竹スクエア 三菱地所設計 | 隈研吾 | 段 | 〔動線空間〕 | ゆったり | 〔弛緩性(小)〕 | 開かれた | 〈開放性〉 |
| 327 | 2003 | 1 | 144 | ADK松竹スクエア 三菱地所設計 | 隈研吾 | 都市性 | 〔室空間〕 | まったり | 〔弛緩性(小)〕 | 誰もが自由に | 〈自由〉 |
| 328 | 2003 | 1 | 144 | ADK松竹スクエア 三菱地所設計 | 隈研吾 | 都市性 | 〔室空間〕 | まったり | 〔弛緩性(小)〕 | ゆったりと連続していく感じ | 〈親和性〉 |
| 329 | 2003 | 1 | 144 | ADK松竹スクエア 三菱地所設計 | 隈研吾 | 段 | 〔動線空間〕 | ゆったり | 〔弛緩性(小)〕 | 連続していく/都市性 | 〈親和性〉 |
| 330 | 2003 | 9 | 92 | 安曇野高橋節郎記念美術館 | 宮崎浩／プランツアソシエイツ | 建築全体 | 〔建築全体〕 | しっかり | 〔固定度(小)〕 | 存在感 | 〈重厚さ〉 |
| 331 | 2003 | 11 | 106 | ONE表参道 | 隈研吾建築設計 | 集材 | 〔部材〕 | ざらざら | 〔粗さ(粗)〕 | 木そのもの | 〈生命感〉 |
| 332 | 2003 | 11 | 169 | 代沢の家 街並みに配慮した小規模宅地開発 | タオ アーキテクト | 外部空間 | 〔外部空間〕 | のびのび | 〔弛緩性(小)〕 | 閉塞感のない/オープンスペース/開放的な | 〈開放性〉 |
| 333 | 2003 | 11 | 169 | 代沢の家 街並みに配慮した小規模宅地開発 | タオ アーキテクト | 外部空間 | 〔外部空間〕 | のびのび | 〔弛緩性(小)〕 | ヌケ | 〈開放性〉 |
| 334 | 2004 | 6 | 82 | 船橋アパートメント | 西沢立衛 | 寝室 | 〔室空間〕 | こじんまり | 〔量(少)〕 | 快適な | 〈印象(快適)〉 |
| 335 | 2004 | 6 | 89 | 船橋アパートメント | 西沢立衛 | ベッド室/空間 | 〔室空間〕 | こじんまり | 〔量(少)〕 | 快適さのある | 〈印象(快適)〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------------------|--|--------------|---------|---------|----------|---------------|-----------|
| 336 | 2004 | 6 | 89 | 船橋アパートメント | 西沢立衛 | ベッド室/空間 | 【室空間】 | こちんまり | 【量(少)】 | ベッドやその周辺のモノだけ | 〈単純性〉 |
| 337 | 2004 | 6 | 171 | ナチュラルシーム | 遠藤政樹＋池田昌弘／EDH 遠藤設計室＋池田昌弘建築研究所 | 道路 | 【外部空間】 | だらだら | 【弛緩性(大)】 | 曲がりくねった | 〈曖昧〉 |
| 338 | 2004 | 6 | 171 | ナチュラルシーム | 遠藤政樹＋池田昌弘／EDH 遠藤設計室＋池田昌弘建築研究所 | 道路 | 【外部空間】 | だらだら | 【弛緩性(大)】 | 豊か | 〈豊穡〉 |
| 339 | 2004 | 7 | 157 | 直方の海 | 椎名英三建築設計 | 内装材 | 【材料】 | ギザギザ | 【鋭度(強カ)】 | 慣れ親しんだ表現を放棄した | 〈異質〉 |
| 340 | 2004 | 10 | 103 | ルイ・ヴァイトン銀座並木通り店 | 青木淳 Louis Vuitton Malletier エイチアンドエイ 清水建設 | 空間 | 【内部空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | スケール感を感じさせない | 〈曖昧〉 |
| 341 | 2004 | 10 | 103 | ルイ・ヴァイトン銀座並木通り店 | 青木淳 Louis Vuitton Malletier エイチアンドエイ 清水建設 | 空間 | 【内部空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 呼吸している | 〈生命感〉 |
| 342 | 2004 | 10 | 103 | ルイ・ヴァイトン銀座並木通り店 | 青木淳 Louis Vuitton Malletier エイチアンドエイ 清水建設 | 空間 | 【内部空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 組み合わせさせた | 〈一体〉 |
| 343 | 2004 | 12 | 147 | ディオール銀座 | 乾久美子建築設計 | 銀座の晴海通り/質感や色 | 【周辺環境】 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 大きさの違う | 〈複雑〉 |
| 344 | 2004 | 12 | 147 | ディオール銀座 | 乾久美子建築設計 | 銀座の晴海通り/質感や色 | 【周辺環境】 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 秩序なく集積 | 〈複雑〉 |
| 345 | 2005 | 2 | 111 | 集合住宅20K | 北山恒＋architecture WORKSHOP | 空き地 | 【外部空間】 | ガラン | 【空隙度(大)】 | 空地 | 〈開放性〉 |
| 346 | 2005 | 3 | 91 | 青山ビル改修(エスコルテ青山) | 隈研吾建築都市設計事務所 | 内壁 | 【壁】 | ザワザワ | 【散在性(大)】 | ヒダのように | 〈質感〉 |
| 347 | 2005 | 3 | 91 | 青山ビル改修(エスコルテ青山) | 隈研吾建築都市設計事務所 | 内壁 | 【壁】 | ザワザワ | 【散在性(大)】 | 都市を眺差し | 〈刺激〉 |
| 348 | 2005 | 3 | 91 | 青山ビル改修(エスコルテ青山) | 隈研吾建築都市設計事務所 | 内壁 | 【壁】 | ザワザワ | 【散在性(大)】 | 誘惑すべく | 〈刺激〉 |
| 349 | 2005 | 8 | 180 | 「STI(松涛リノベーションプロジェクト)201/103 | 長岡勉＋土屋徹／point＋福津宣人 | 各壁面 | 【壁】 | バラバラ | 【散在性(大)】 | 個別 | 〈断片〉 |
| 350 | 2005 | 9 | 148 | KRUG X KUMA = ∞(無限大) KKK | 隈研吾 | プラスチック | 【材料】 | フニャフニャ | 【軟度(小)】 | 曖昧 | 〈曖昧〉 |
| 351 | 2005 | 9 | 151 | KRUG X KUMA = ∞(無限大) KKK | 隈研吾 | 構造 | 【構造】 | ふわふわ | 【質量(軽)】 | 変形しやすい | 〈柔軟性〉 |
| 352 | 2005 | 9 | 151 | KRUG X KUMA = ∞(無限大) KKK | 隈研吾 | 構造 | 【構造】 | ふわふわ | 【質量(軽)】 | 泡 | 〈空虚感〉 |
| 353 | 2005 | 9 | 151 | KRUG X KUMA = ∞(無限大) KKK | 隈研吾 | 構造 | 【構造】 | ふわふわ | 【質量(軽)】 | 柔らかな | 〈柔和〉 |

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|------------------|----------------------|--------|---------|---------|-----------|-------------|-----------|
| 354 | 2005 | 10 | 130 | 清流寺深沢分院 | 宮嶋浩ノブランツアソシエイ ツ | 床 | 【床】 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 変則的な | 〈複雑〉 |
| 355 | 2005 | 10 | 190 | きごころ橋 | 片山和俊+DIK設計室 | 鋼桁 | 【構造】 | のっぺり | 【薄さ(薄)】 | スケール感とは合わない | 〈曖昧〉 |
| 356 | 2006 | 2 | 162 | 井の頭の住宅(桜アパートメント) | トラフ建築設計ノ鈴野浩一+ 禿真哉 | 部屋 | 【室空間】 | ガラン | 【空隙度(大)】 | コンクリート躯体のみ | 〈空虚感〉 |
| 357 | 2006 | 2 | 175 | 松原ハウス | 菊池宏建築設計事務所 | 外壁 | 【壁】 | ゴツゴツ | 【硬度(大)】 | どの角度からでも | 〈複雑〉 |
| 358 | 2006 | 4 | 70 | 小倉百人一首殿堂 時雨殿 | 竹中工務店 | 表情 | 【建築外観】 | しっかり | 【固定度(小)】 | 調和 | 〈親和性〉 |
| 359 | 2006 | 4 | 70 | 小倉百人一首殿堂 時雨殿 | 竹中工務店 | 表情 | 【建築外観】 | しっかり | 【固定度(小)】 | シンプル | 〈単純性〉 |
| 360 | 2006 | 4 | 70 | 小倉百人一首殿堂 時雨殿 | 竹中工務店 | 表情 | 【建築外観】 | しっかり | 【固定度(小)】 | 明快な | 〈明快〉 |
| 361 | 2006 | 5 | 186 | 横須賀市健康安全科学センター | ワークステーション | インテリア | 【内部空間】 | すっさり | 【整然性(小)】 | 解放 | 〈自由〉 |
| 362 | 2006 | 7 | 76 | ちよっ蔵広場 | 隈研吾 | 大谷石 | 【材料】 | ボソボソ | 【乾燥度(大)】 | スポンジ | 〈質感〉 |
| 363 | 2006 | 8 | 77 | KEM | aat+ヨコミゾマコト建築設計 | 建物(面) | 【建築外観】 | ガタガタ | 【凹凸(大)】 | ごまかしのない | 〈大雑把〉 |
| 364 | 2006 | 8 | 77 | KEM | aat+ヨコミゾマコト建築設計 | 建物(面) | 【建築外観】 | ガタガタ | 【凹凸(大)】 | 痛々しい | 〈不適〉 |
| 365 | 2006 | 8 | 120 | switch | 千葉学 | 空間 | 【内部空間】 | がらん | 【空隙度(大)】 | 何もない | 〈開放性〉 |
| 366 | 2006 | 10 | 195 | NYH | at+ヨコミゾマコト建築設計 | 銅板 | 【材料】 | ペナペナ | 【薄さ(薄)】 | のんきな | 〈安心感〉 |
| 367 | 2006 | 10 | 195 | NYH | at+ヨコミゾマコト建築設計 | 銅板 | 【材料】 | ペナペナ | 【薄さ(薄)】 | いい加減さ | 〈大雑把〉 |
| 368 | 2006 | 10 | 195 | NYH | at+ヨコミゾマコト建築設計 | 銅板 | 【材料】 | ペナペナ | 【薄さ(薄)】 | 外皮 | 〈小ささ〉 |
| 369 | 2006 | 10 | 195 | NYH | at+ヨコミゾマコト建築設計 | 銅板 | 【材料】 | ペナペナ | 【薄さ(薄)】 | 紙のように | 〈小ささ〉 |
| 370 | 2006 | 10 | 195 | NYH | at+ヨコミゾマコト建築設計 | 銅板 | 【材料】 | ペナペナ | 【薄さ(薄)】 | 平らな | 〈平坦〉 |
| 371 | 2006 | 10 | 195 | NYH | at+ヨコミゾマコト建築設計 | 銅板 | 【材料】 | ペナペナ | 【薄さ(薄)】 | ゆがんだ | 〈湾曲〉 |
| 372 | 2006 | 12 | 99 | 有元歯科医院 | 妹島和世 | ところ | 【内部空間】 | こちんまり | 【量(少)】 | 狭まった | 〈小ささ〉 |
| 373 | 2007 | 8 | 87 | AOI apartment | 川辺直哉 | 風景 | 【風景】 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | どこまでも奥へと広がる | 〈スケール感〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|---------------------------|---|---------|---------|---------|-----------|--------------------|-----------|
| 374 | 2007 | 8 | 87 | AOI apartment | 川辺直哉 | 風景 | 【風景】 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 境界の曖昧 | 〈複雑〉 |
| 375 | 2007 | 8 | 186 | FUDOMAE APARTMEN JAPAN | ベラ・ジュン／ISSHO建築設計 計十犬野博史／オーノ JAPAN | 影 | 【環境要素】 | モヤモヤ | 【不明瞭性(小)】 | 遠近感を失う | 〈曖昧〉 |
| 376 | 2007 | 8 | 186 | FUDOMAE APARTMEN JAPAN | ベラ・ジュン／ISSHO建築設計 計十犬野博史／オーノ JAPAN | 影 | 【環境要素】 | モヤモヤ | 【不明瞭性(小)】 | 朦朧楼 | 〈曖昧〉 |
| 377 | 2007 | 8 | 205 | 上戸質のコートハウス | 若松均 | 屋根 | 【屋根】 | ばらばら | 【散在性(大)】 | 同じでない | 〈複雑〉 |
| 378 | 2007 | 11 | 111 | House o | 藤本壮介 | 枝分かれプラン | 【平面】 | しっかり | 【固定度(小)】 | 豊かさ | 〈豊穡〉 |
| 379 | 2007 | 11 | 111 | House o | 藤本壮介 | 枝分かれプラン | 【平面】 | しっかり | 【固定度(小)】 | 保障する | 〈強固〉 |
| 380 | 2007 | 11 | 130 | 沖縄県立博物館・美術館 | 石本建築事務所・二基建築 設計室設計共同企業体 | 柱 | 【柱】 | ざらっ | 【粗さ(粗)】 | 錆鉄的な | 〈質感〉 |
| 381 | 2008 | 1 | 147 | 日本バプテリスト仙台基督教会 | SOYsource建築設計事務所 | 外観 | 【建築外観】 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | 肌理 | 〈質感〉 |
| 382 | 2008 | 1 | 147 | 日本バプテリスト仙台基督教会 | SOYsource建築設計事務所 | コンクリート | 【材料】 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | 豊かに変化しつつ | 〈豊穡〉 |
| 383 | 2008 | 1 | 147 | 日本バプテリスト仙台基督教会 | SOYsource建築設計事務所 | コンクリート | 【材料】 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | 記憶に残る | 〈重厚さ〉 |
| 384 | 2008 | 1 | 147 | 日本バプテリスト仙台基督教会 | SOYsource建築設計事務所 | コンクリート | 【材料】 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | 不均質 | 〈複雑〉 |
| 385 | 2008 | 1 | 147 | 日本バプテリスト仙台基督教会 | SOYsource建築設計事務所 | 外壁 | 【壁】 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | 明確で力強い外形線は姿 を消し | 〈曖昧〉 |
| 386 | 2008 | 1 | 147 | 日本バプテリスト仙台基督教会 | SOYsource建築設計事務所 | 外壁 | 【壁】 | デコボコ | 【凹凸(大)】 | 不均質 | 〈複雑〉 |
| 387 | 2008 | 1 | 147 | 独りのためのパブリックス ベース | 榎文彦 | コンクリート | 【材料】 | ザラザラ | 【粗さ(粗)】 | 記憶に残る | 〈重厚さ〉 |
| 388 | 2008 | 1 | 147 | 独りのためのパブリックス ベース | 榎文彦 | コンクリート | 【材料】 | ザラザラ | 【粗さ(粗)】 | 不均質 | 〈複雑〉 |
| 389 | 2008 | 1 | 147 | 独りのためのパブリックス ベース | 榎文彦 | コンクリート | 【材料】 | ザラザラ | 【粗さ(粗)】 | 豊かに変化 | 〈豊穡〉 |
| 390 | 2008 | 1 | 147 | 独りのためのパブリックス ベース | 榎文彦 | 内壁 | 【壁】 | ザラザラ | 【粗さ(粗)】 | 安心感 | 〈安心感〉 |
| 391 | 2008 | 1 | 147 | 独りのためのパブリックス ベース | 榎文彦 | 天井 | 【天井】 | ザラザラ | 【粗さ(粗)】 | 安心感 | 〈安心感〉 |
| 392 | 2008 | 2 | 71 | 浮庵 | 隈研吾 | 建築 | 【建築全体】 | ぬるぬる | 【粘性(小)】 | 生々しい変動を持つ | 〈生命感〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 【主体の分類】 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|-------------------------------|---|--------|---------|---------|-----------|------------------------------|-----------|
| 393 | 2008 | 6 | 77 | SIA青山ビルディング | 青木淳 | 塔状の建物が | 【建築全体】 | つるん | 【円滑性(軽)】 | モノリシック | 〈一体〉 |
| 394 | 2008 | 6 | 77 | SIA青山ビルディング | 青木淳 | 塔状の建物が | 【建築全体】 | つるん | 【円滑性(軽)】 | オフィスにも集合住宅にも見えない | 〈曖昧〉 |
| 395 | 2008 | 6 | 77 | SIA青山ビルディング | 青木淳 | 塔状の建物が | 【建築全体】 | つるん | 【円滑性(軽)】 | 削り出された物体 | 〈単純性〉 |
| 396 | 2008 | 9 | 98 | とらや工房 | 内藤廣 | 建物 | 【建築全体】 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 俗世からの距離感 | 〈疎外〉 |
| 397 | 2008 | 9 | 98 | とらや工房 | 内藤廣 | 建物 | 【建築全体】 | ひっそり | 【衝撃(小)】 | 小屋 | 〈小ささ〉 |
| 398 | 2008 | 9 | 122 | house N | 藤本壮介 | 領域 | 【領域】 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 半ば | 〈曖昧〉 |
| 399 | 2008 | 10 | 96 | コンカード横浜 矢萩喜從郎 建築計画 | 体制建設一級建築士事務所 | 通路 | 【動線空間】 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 外国で散見する | 〈落着〉 |
| 400 | 2008 | 11 | 115 | 第11回ヴェネチア・ビエンナーレ 建築展 日本館展示 | 石上純也 | 人 | 【人】 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | 時間を忘れ | 〈落着〉 |
| 401 | 2009 | 1 | 78 | 東京スカイツリー | 日建設計 | 外観 | 【建築外観】 | すっきり | 【整然性(小)】 | 溶接 | 〈整合〉 |
| 402 | 2009 | 1 | 149 | House before House | 藤本壮介 | 外観 | 【建築外観】 | ぼんやり | 【不明瞭性(大)】 | 内部に在るのか外部に要するのかわという認識を越えてしまう | 〈曖昧〉 |
| 403 | 2009 | 2 | 75 | 相模女子大学マーガレット本館・体育館 | 日本設計 | ステンレス板 | 【材料】 | ペコペコ | 【凹凸(大)】 | 抽象化 | 〈曖昧〉 |
| 404 | 2009 | 2 | 82 | 沖縄小児保健センター | フナキサチコケンヂクセツケイ ジムシヨ・細矢仁建築設計 設計共同体 | もの | 【建築全体】 | がっしり | 【固定度(大)】 | この地に適し | 〈伝統性〉 |
| 405 | 2009 | 2 | 82 | 沖縄小児保健センター | フナキサチコケンヂクセツケイ ジムシヨ・細矢仁建築設計 設計共同体 | もの | 【建築全体】 | がっしり | 【固定度(大)】 | 気候的要因 | 〈強固〉 |
| 406 | 2009 | 2 | 126 | 綾瀬の集合住宅 | 駒田剛司+駒田由香 | 空間 | 【内部空間】 | ゴツゴツ | 【硬度(大)】 | 廃墟を思わせる | 〈不適〉 |
| 407 | 2009 | 2 | 157 | キャトル柿の木坂 | moriko kira architect エ・イ・マム | 木枠の窓 | 【開口部】 | どっしり | 【質量(重)】 | 抽象的～ではなく | 〈重厚さ〉 |
| 408 | 2009 | 2 | 169 | 神宮前メガビル | 古谷誠章+NASOA | 倉庫 | 【特定建築】 | ざっくり | 【粗さ(粗)】 | お構いなく | 〈大雑把〉 |
| 409 | 2009 | 3 | 117 | オボジットハウス | 隈研吾 | メッシュ | 【材料】 | ひらひら | 【捲れ方(弱)】 | 布 | 〈抑揚〉 |
| 410 | 2009 | 3 | 117 | オボジットハウス | 隈研吾 | 床 | 【床】 | ごっごつ | 【硬度(大)】 | はだしで歩き回りたくなる | 〈美しさ〉 |
| 411 | 2009 | 3 | 117 | オボジットハウス | 隈研吾 | 浴槽のオーク | 【材料】 | つるつる | 【円滑性(軽)】 | 背中を擦り付けたくなる | 〈美しさ〉 |

資料編 第4章 建築物の言語描写の擬態語表現における建築の具体の様相

| No. | 掲載年 | 掲載月 | 頁 | 建築物 | 設計者 | 主体の記述例 | 〔主体の分類〕 | 擬態語の記述例 | 【基本義の分類】 | 表出概念の記述例 | 〈表出概念の分類〉 |
|-----|------|-----|-----|--------------------------|-----------------------|--------|----------|---------|-----------|--------------|-----------|
| 412 | 2009 | 5 | 158 | F-SPACE | 石黒由紀 | 表面と輪郭 | 〔ヴォリューム〕 | もぞもぞ | 【不明瞭性(小)】 | 穏やかな親しみのある表情 | 〈親近感〉 |
| 413 | 2009 | 5 | 158 | F-SPACE | 石黒由紀 | 表面と輪郭 | 〔ヴォリューム〕 | もぞもぞ | 【不明瞭性(小)】 | 凹凸 | 〈質感〉 |
| 414 | 2009 | 5 | 158 | F-SPACE | 石黒由紀 | ボリューム | 〔ヴォリューム〕 | のっぺり | 【薄さ(薄)】 | かげろう | 〈曖昧〉 |
| 415 | 2009 | 6 | 126 | NSOC仙台北部整形外科 | 八重樫直人+ノルムナルオ フィス | 通路スペース | 〔動線空間〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 諸室群を繋ぐ | 〈親和性〉 |
| 416 | 2009 | 7 | 67 | sette | 佐藤光彦建築設計 | 開口 | 〔開口部〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 恵まれ | 〈豊穡〉 |
| 417 | 2009 | 8 | 143 | CASA BELL OHIRA | いずバスエステート+坂倉建築研 究所 | 田園風景 | 〔風景〕 | のんびり | 【弛緩性(小)】 | ヒューマナなスケール | 〈スケール感〉 |
| 418 | 2010 | 8 | 71 | one roof apartment | 平田晃久建築設計+吉原美比 子 | 景観 | 〔風景〕 | ざっくり | 【粗さ(粗)】 | 遠望 | 〈大雑把〉 |
| 419 | 2010 | 9 | 190 | 空飛ぶ泥船 | 藤森照信 | 建築 | 〔建築全体〕 | ちゃん | 【整然性(小)】 | 本格的 | 〈美しさ〉 |
| 420 | 2010 | 11 | 50 | 東京国際空港(羽田)国際線 旅客ターミナル | 羽田空港国際線PTB設計共 同企業体 | 大屋根 | 〔屋根〕 | ゆったり | 【弛緩性(小)】 | 雄大な | 〈重厚さ〉 |